

様式第 2 号の 1－②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 1－①を用いること。

学校名	北海道芸術デザイン専門学校
設置者名	学校法人 美専学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)	夜・通信	1470	160	
	産業デザイン学科 (イラストレーション専攻)	夜・通信	600	160	
	マルチメディアデザイン学科 (CG・Web デザイン専攻/Web・動画クリエイター専攻)	夜・通信	870	160	
	マルチメディアデザイン学科 (アニメ・ゲームクリエイター専攻/アニメ・ゲームクリエイター専攻)	夜・通信	960	160	
	建築デザイン学科 (建築士専攻)	夜・通信	1680	160	
	環境デザイン学科 (インテリアデザイン専攻)	夜・通信	1560	160	
	環境デザイン学科 (インテリアコーディネーション専攻)	夜・通信	1560	160	
	環境デザイン学科 (クラフトデザイン専攻)	夜・通信	1110	160	
	環境デザイン学科 (フラワーデザイン専攻)	夜・通信	1350	160	
(備考) ※マルチメディアデザイン学科の()内の専攻名については、今年度 2 年生専攻名/今年度 1 年生専攻名の順に記載					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.bisen-g.ac.jp/about/public_data/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道芸術デザイン専門学校
設置者名	学校法人 美専学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

URL = https://bisen-g.ac.jp/known/files/pdf_syugakushien_p_2020.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	私立学校法人前校長	2020.4.1～ 2024.3.31	各部会との調整
非常勤	民間企業職員	2020.4.1～ 2024.3.31	関連業界との調整
非常勤	弁護士事務所所長	2020.4.1～ 2024.3.31	専門的な助言
非常勤	司法書士事務所所長	2020.4.1～ 2024.3.31	専門的な助言
非常勤	私立学校法人理事	2020.4.1～ 2024.3.31	関連業界との調整
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道芸術デザイン専門学校
設置者名	学校法人 美専学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
■授業計画の作成 ・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 ・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 ・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。 3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。	
■授業計画の公表 ・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 ・各専攻シラバスを公式 HP で公開	
授業計画書の公表方法	https://www.bisen-g.ac.jp/about/public_data/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。	
■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。	
■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ■客観的な指標の設定・公表 ・履修科目の5段階の成績評価をつぎの配点でGP(ポイント)化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→1.0 GPAは次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=1.0とする。 ・公表…本申請時まで公表する。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中 ・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.bisen-g.ac.jp/about/public_data/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき可否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.bisen-g.ac.jp/about/public_data/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	北海道芸術デザイン専門学校
設置者名	学校法人 美専学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	URL= https://bisen-g.ac.jp/know/files/pdf_syugakushien_p_2020.pdf
収支計算書又は損益計算書	URL= https://bisen-g.ac.jp/know/files/pdf_syugakushien_p_2020.pdf
財産目録	URL= https://bisen-g.ac.jp/know/files/pdf_syugakushien_p_2020.pdf
事業報告書	URL= https://bisen-g.ac.jp/know/files/pdf_syugakushien_p_2020.pdf
監事による監査報告（書）	URL= https://bisen-g.ac.jp/know/files/pdf_syugakushien_p_2020.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		専門課程	産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	300 単位時間	2100 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2400 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
360 の内数		69 人	0 人	2 人	18 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下のPDCAサイクルに基づき策定。 1月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要PDFを公式HPで公開 - 各専攻シラバスを公式HPで公開
成績評価の基準・方法

■客観的な指標の設定・公表 ・履修科目の5段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPAは次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=0とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中 ・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
（各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別面談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31人 (100%)	0人 (0%)	25人 (80.6%)	6人 (19.4%)
（主な就職、業界等） 広告、印刷、web、看板製作、TVテロップ制作 等			
（就職指導内容） 就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			

(主な学修成果(資格・検定等)) Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、ビジネス能力検定 等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71 人	5 人	7.0%
(中途退学の主な理由) 健康及び経済的理由による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		専門課程	産業デザイン学科 (イラストレーション専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	300 単位時間	2100 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2 4 0 0 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
360 人の 内数		159 人	0 人	4 人	29 人	33 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法

■客観的な指標の設定・公表 ・履修科目の5段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPAは次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=0とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中 ・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
（各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき可否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
63人 (100%)	1人 (1.6%)	47人 (74.6%)	15人 (23.8%)
（主な就職、業界等） 広告、印刷、web制作、ゲーム、看板製作、TVテロップ制作、アニメーション等			
（就職指導内容） 就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			

(主な学修成果(資格・検定等)) Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、ビジネス能力検定 等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
144 人	8 人	5.6%
(中途退学の主な理由) 健康及び経済的理由による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	マルチメディアデザイン学 科 (CG・Web デザイン専攻 Web・動画クリエイター専 攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2400 単位時間	30 単位時間	2370 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2400 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		24 人	0 人	2 人	10 人	12 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法

■客観的な指標の設定・公表 ・履修科目の5段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPAは次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=0とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中 ・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
（各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき可否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
(主な就職、業界等) Web、CG、アニメーション、ゲーム 等			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			

(主な学修成果（資格・検定等）） CG クリエイター検定、Photoshop クリエイター能力認定試験、ビジネス能力検定 等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	2 人	8.3%
(中途退学の主な理由) 健康及び経済的理由による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	マルチメディアデザイン学 科 (アニメ・ゲームクリエイ ター専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2400 単位時間	30 単位時間	2370 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2400 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		17 人	0 人	3 人	9 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法

■客観的な指標の設定・公表 ・履修科目の5段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPAは次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=0とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中 ・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
（各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき可否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	5人 (71.4%)	2人 (28.6%)
(主な就職、業界等) CG、アニメーション、ゲーム 等			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			

(主な学修成果（資格・検定等） CG クリエイター検定、Photoshop クリエイター能力認定試験、ビジネス能力検定 等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	5 人	22.7%
(中途退学の主な理由) 健康及び経済的理由による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	建築デザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	1050 単位時間	1350 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2 4 0 0 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		39 人	0 人	3 人	10 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法
■客観的な指標の設定・公表 履修科目の 5 段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPA は次の計算式に従い算出する。

GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計 ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP＝0とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中 ・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準 (各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき可否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および可否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等 クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	6 人 (26.1%)	14 人 (60.9%)	3 人 (13%)
(主な就職、業界等) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、建築積算事務所、設備設計 等			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、建築CAD検定 等			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	1 人	2.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化教養		専門課程	環境デザイン学科 (インテリアデザイン専攻)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	480 単位時間	1920 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			2 4 0 0 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
120 人の内数		32 人	0 人	3 人の内 1 人	9 人		10 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法
■客観的な指標の設定・公表 履修科目の 5 段階の成績評価をつぎの配点で GP (ポイント) 化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPA は次の計算式に従い算出する。 GPA = (GP × 科目の単位数) / 履修科目の単位数の合計

※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=0とする。
■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中 ・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
(各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
インテリアデザイナー、建築設計、商業施設施工管理、店舗デザイン、住宅設計等			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、建築 C A D 検定 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	環境デザイン学科 (インテリアコーディネーション専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	540 単位時間	1860 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2 4 0 0 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		17 人	0 人	3 人の内 1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法
■客観的な指標の設定・公表 履修科目の 5 段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPA は次の計算式に従い算出する。 GPA = (GP × 科目の単位数) / 履修科目の単位数の合計 ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP=0 とする。

■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中 ・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
(各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
インテリアコーディネーター、ハウスメーカー、店舗設計、住宅設計等			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、建築 C A D 検定 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	環境デザイン学科 (クラフトデザイン専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	30 単位時間	2370 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2 4 0 0 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		35 人	0 人	3 人の内 1 人	16 人	17 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法
■客観的な指標の設定・公表 - 履修科目の 5 段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPA は次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP=0 とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 - 成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中

・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
(各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (80%)	2 人 (20%)
(主な就職、業界等) 家具製造、店舗内装品・ディスプレイ特注品製造、CAD オペレーター 等			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、建築CAD検定 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	3 人	9.4%
(中途退学の主な理由) 病気治療 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	環境デザイン学科 (フラワーデザイン専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2 4 0 0 単位時間	150 単位時間	2250 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2 4 0 0 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		23 人	0 人	3 人の内 1 人	12 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
■授業計画の作成 - 各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 - シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 - シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 1 月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。3 月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。8 月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 - 各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開 - 各専攻シラバスを公式 HP で公開
成績評価の基準・方法
■客観的な指標の設定・公表 - 履修科目の 5 段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。 秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 GPA は次の計算式に従い算出する。 $GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$ ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP=0 とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 - 成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中

・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備
卒業・進級の認定基準
(各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ■卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。
学修支援等
クラス担任制 個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
生花販売、花卉市場、製造 等			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会 等			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
フラワー装飾技能士検定、色彩士検定、ビジネス能力検定 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
全学科1年	150,000 円	780,000 円	135,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				
美専学園特待制度 在籍高校または出身校での出席や成績などが良好で意欲的な方を応援する制度 ・作品選抜特待 ・A0 特待 ・学校推薦特待 ・適性証明特待 ・大学・短大・社会人特待 親または兄弟姉妹が本校または北海道医薬専門学校の在校生または卒業生 ・ファミリー特待 美専学園奨学制度 入学後、頑張る学生を応援する制度 ・パブリック奨学制度 ・スカラシップ奨学制度 ・交換留学奨学制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.bisen-g.ac.jp/know/files/pdf_public_data_2019.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
教職員一人一人が自己評価ガイドラインに則って自校の教育活動に対し自己評価を実施して、外部委員の意見や評価を受けて学校の教育力向上を目指すことを基本方針とする。具体的には、教職員が実施した自己評価項目に対して、卒業生を含む外部委嘱委員（4名）と学校運営に携わる教職員で委員会を設置、年一回開催して項目（教育理念・目的・育成人材、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令遵守等）ごとに評価してもらい、学校運営の改善等の指針に役立てている。結果については、議事録をホームページで公表している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社アトリエ・K 一級建築士事務所	令和2年4月1日～令和3年3月31日	企業関係者
有限会社 I. B. DESIGN	同上	卒業生・企業関係者
司法書士事務所 元所長	同上	企業有識者

株式会社 asclair	同上	卒業生・企業関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.bisen-g.ac.jp/about/files/evaluation_R01.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.bisen-g.ac.jp
--

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 産業デザイン学科 グラフィックデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・ 学期	授業時数
	必修	選択		
デザイン概論	○		1年・前期	30
基礎造形Ⅰ	○		1年・前期	30
基礎造形Ⅱ	○		1年・後期	30
コンセプトメイキング	○		1年・前期	60
デッサン	○		1年・前期	60
グラフィック基礎Ⅰ	○		1年・前期	60
グラフィック基礎Ⅱ	○		1年・前期	60
印刷・レイアウト基礎	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・前期	60
基礎デザインⅠ	○		1年・前期	60
ビジュアル表現	○		1年・前期	60
グラフィック演習	○		1年・後期	60
基礎デザインⅡ	○		1年・後期	30
広告デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	60
印刷・レイアウト演習	○		1年・後期	60
DTP演習Ⅱ	○		1年・後期	30
WebデザインⅠ	○		1年・後期	30
撮影基礎	○		1年・後期	30
パッケージデザインⅠ	○		1年・後期	30
グラフィック表現テクニック	○		2年・前期	60
インフォメーションデザイン	○		2年・前期	60
コミュニケーションデザイン	○		2年・前期	60
広告デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅲ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅳ	○		2年・前期	60
WebデザインⅡ	○		2年・前期	60
専門技術演習A				
ブランディングデザイン		○	2年・前期	60
アートディレクション				
撮影テクニック				
専門技術演習B				
パッケージデザインⅡ		○	2年・前期	60
広告プランニング				
シルクスクリーン				
英語	○		1年・前期	30
合 計				1470

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 産業デザイン学科 イラストレーション専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
デザイン演習Ⅰ	○		1年・前期	60
デザイン演習Ⅱ	○		1年・後期	60
デザイン演習Ⅲ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅱ	○		1年・後期	60
DTP演習Ⅲ	○		2年・前期	60
デジタルイラストⅠ	○		1年・前期	60
デジタルイラストⅡ	○		1年・後期	30
イラストレーション演習	○		1年・前期	60
キャラクターデザイン	○		2年・前期	60
英語	○		1年・前期	30
合計				600

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 マルチメディアデザイン学科
CG・Webデザイン専攻 / Web・動画クリエイター専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
ベーシックデザイン	○		1年・前期	60
Photoshop基礎	○		1年・前期	60
デザイン概論 I	○		1年・前期	60
Webコーディング基礎 I	○		1年・前期	30
Webコーディング基礎 II	○		1年・前期	60
映像制作基礎	○		1年・前期	60
Photoshop応用	○		1年・後期	30
UIデザイン	○		1年・後期	30
デザイン概論 II	○		1年・後期	60
Webコーディング応用 I	○		1年・後期	60
Webコーディング応用 II	○		1年・後期	30
映像制作応用	○		1年・後期	60
専門技術演習 I				
モーショングラフィックス		○	2年・前期	60
デジタルエフェクト				
専門技術演習 II				
CMS演習		○	2年・前期	60
ゲームエンジン演習				
専門技術演習 III				
Webインタラクティブ I		○	2年・前期	60
3DCGビジュアライゼーション I				
専門技術演習 IV				
Webインタラクティブ II		○	2年・前期	60
3DCGビジュアライゼーション II				
英会話	○		1年・前期	30
合 計				870

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 マルチメディアデザイン学科 アニメ・ゲームクリエイター専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
ベーシックデザイン	○		1年・前期	60
Photoshop基礎	○		1年・前期	60
人物作画	○		1年・前期	60
作画技法基礎	○		1年・前期	60
blender基礎	○		1年・前期	60
映像制作基礎	○		1年・前期	60
Photoshop応用	○		1年・後期	30
動画制作	○		1年・後期	30
作画技法応用	○		1年・後期	30
blender応用 I	○		1年・後期	60
blender応用 II	○		1年・後期	30
映像制作応用	○		1年・後期	60
Live2D基礎	○		1年・後期	30
映像制作 II	○		2年・前期	60
デジタルエフェクト	○		2年・前期	60
ゲームエンジン演習	○		2年・前期	60
3Dビジュアライゼーション I	○		2年・前期	60
3Dビジュアライゼーション II	○		2年・前期	60
英会話	○		1年・前期	30
合 計				960

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 建築デザイン学科 建築士専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
設計製図Ⅰ	○		1年・前期	60
設計製図Ⅱ	○		2年・前期	60
建築設計デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	60
建築設計デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
建築CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	60
建築CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
住宅・店舗設計演習	○		2年・前期	60
建築計画Ⅰ	○		1年・前期	60
建築計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住空間計画	○		1年・後期	60
建築設備計画	○		1年・後期	60
建築構造力学Ⅰ	○		1年・後期	60
建築構造力学Ⅱ	○		2年・前期	60
建築構法	○		1年・後期	30
木構造	○		1年・前期	60
鉄筋コンクリート構造	○		1年・後期	60
鋼構造	○		2年・後期	60
建築生産	○		1年・前期	60
建築施工	○		2年・前期	60
建築法規Ⅰ	○		1年・後期	60
建築法規Ⅱ	○		2年・前期	60
建築概論	○		1年・前期	60
造形演習Ⅰ	○		1年・後期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
建築プレゼンテーションⅠ	○		1年・前期	30
建築プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
パースペクティブ演習	○		1年・前期	30
都市デザイン	○		2年・後期	60
英語	○		1年・前期	30
合 計				1680

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 インテリアデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
住宅設計演習	○		2年・前期	60
CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	30
CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
インテリア計画Ⅰ	○		1年・前期	60
インテリア計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住まいと環境	○		1年・前期	30
設備計画	○		2年・前期	60
基礎力学	○		1年・後期	30
建築一般	○		2年・前期	30
インテリア構法	○		1年・後期	60
インテリアエレメント	○		1年・前期	60
インテリア施工	○		1年・後期	30
インテリア法規	○		2年・前期	30
造形演習Ⅰ	○		1年・前期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
パースペクティブ基礎演習	○		1年・前期	60
インテリア概論	○		1年・前期	30
インテリア設計演習	○		1年・後期	30
住空間計画	○		1年・後期	30
インテリアデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
インテリアデザイン応用演習	○		2年・前期	60
プレゼンテーションⅠ	○		1年・後期	60
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
3Dデザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
3Dデザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
商業施設デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
商業施設デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP応用演習	○		2年・後期	30
インテリアディテール	○		1年・後期	30
インテリア装備	○		2年・前期	30
インテリア模型	○		1年・後期	30
英語	○		1年・前期	30
合 計				1560

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 インテリアコーディネーション専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
住宅設計演習	○		2年・前期	60
CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	30
CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
インテリア計画Ⅰ	○		1年・前期	60
インテリア計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住まいと環境	○		1年・前期	30
設備計画	○		2年・前期	60
基礎力学	○		1年・後期	30
建築一般	○		2年・前期	30
インテリア構法	○		1年・後期	60
インテリアエレメント	○		1年・前期	60
インテリア施工	○		1年・後期	30
インテリア法規	○		2年・前期	30
造形演習Ⅰ	○		1年・前期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
パースペクティブ基礎演習	○		1年・前期	60
インテリア概論	○		1年・前期	30
インテリア設計演習	○		1年・後期	30
住空間計画	○		1年・後期	30
インテリアデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
インテリアデザイン応用演習	○		2年・前期	60
プレゼンテーションⅠ	○		1年・後期	60
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
インテリアコーディネーション演習	○		1年・後期	30
インテリアコーディネーター資格試験講座	○		2年・前期	60
商業施設デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
パースペクティブ応用演習	○		2年・前期	60
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP応用演習	○		2年・後期	30
インテリアディテール	○		1年・後期	30
インテリア装備	○		2年・前期	30
インテリア模型	○		1年・後期	30
英語	○		1年・前期	30
合 計				1560

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 クラフトデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・ 学期	授業時数
	必修	選択		
工芸概論	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・後期	30
DTP演習Ⅱ	○		2年・前期	30
CAD演習	○		2年・前期	60
木工基礎演習	○		1年・前期	60
陶芸基礎演習	○		1年・前期	60
鋳造基礎演習	○		1年・前期	60
金属加工基礎演習	○		1年・前期	60
木工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅰ	○		1年・後期	30
鋳造演習Ⅰ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅱ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅱ	○		1年・後期	30
工芸研究				
木工演習Ⅱ		○	1年・後期	30
貴金属加工演習				
プランニング	○		1年・前期	60
環境デザイン	○		1年・後期	30
専門技術演習(6科目選択)				
木工演習Ⅲ		○	2年・前期	360
陶芸演習Ⅲ				
鋳造演習Ⅲ				
金工演習Ⅲ				
木工演習Ⅳ				
陶芸演習Ⅳ				
鋳造演習Ⅳ				
金工演習Ⅳ				
木工演習Ⅴ				
鋳造演習Ⅴ				
金工演習Ⅴ				
造形演習Ⅰ				
造形演習Ⅱ				
素材研究Ⅰ				
素材研究Ⅱ				
英語	○		1年・前期	30
合 計				1110

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 フラワーデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
フラワーデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
フラワーデザイン演習	○		1年・後期	30
フラワーデザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
コーディネート基礎	○		1年・前期	60
コーディネートⅠ	○		1年・後期	30
コーディネートⅡ	○		2年・前期	60
グリーンコーディネート	○		1年・前期	60
フローラルアートⅠ	○		1年・後期	30
フローラルアートⅡ	○		2年・前期	60
ディスプレイ演習Ⅰ	○		1年・前期	60
ディスプレイ演習Ⅱ	○		1年・後期	30
スペースデザイン演習	○		2年・前期	60
いけばな基礎演習	○		1年・後期	60
いけばな演習	○		2年・前期	60
クリエイティブワークⅠ	○		1年・後期	30
クリエイティブワークⅡ	○		2年・前期	60
植物学	○		1年・前期	60
ブライダルフラワー	○		2年・前期	60
フラワービジネス	○		2年・前期	60
キャリアプランニング	○		1年・後期	30
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP演習	○		1年・後期	30
プレゼンテーションⅠ	○		2年・前期	30
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
デザイン基礎Ⅱ	○		1年・後期	30
販売実務	○		1年・前期	30
造形演習	○		2年・前期	60
英語	○		1年・前期	30
合 計				1350

実務経験のある教員等による授業科目の一覧とシラバス

産業デザイン学科

グラフィックデザイン専攻

イラストレーション専攻

マルチメディアデザイン学科

CG・Webデザイン専攻 / Web・動画クリエイター専攻

アニメ・ゲームクリエイター専攻

建築デザイン学科

建築士専攻

環境デザイン学科

インテリアデザイン専攻

インテリアコーディネーション専攻

クラフトデザイン専攻

フラワーデザイン専攻

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 産業デザイン学科 グラフィックデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・ 学期	授業時数
	必修	選択		
デザイン概論	○		1年・前期	30
基礎造形Ⅰ	○		1年・前期	30
基礎造形Ⅱ	○		1年・後期	30
コンセプトメイキング	○		1年・前期	60
デッサン	○		1年・前期	60
グラフィック基礎Ⅰ	○		1年・前期	60
グラフィック基礎Ⅱ	○		1年・前期	60
印刷・レイアウト基礎	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・前期	60
基礎デザインⅠ	○		1年・前期	60
ビジュアル表現	○		1年・前期	60
グラフィック演習	○		1年・後期	60
基礎デザインⅡ	○		1年・後期	30
広告デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	60
印刷・レイアウト演習	○		1年・後期	60
DTP演習Ⅱ	○		1年・後期	30
WebデザインⅠ	○		1年・後期	30
撮影基礎	○		1年・後期	30
パッケージデザインⅠ	○		1年・後期	30
グラフィック表現テクニック	○		2年・前期	60
インフォメーションデザイン	○		2年・前期	60
コミュニケーションデザイン	○		2年・前期	60
広告デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅲ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅳ	○		2年・前期	60
WebデザインⅡ	○		2年・前期	60
専門技術演習A				
ブランディングデザイン		○	2年・前期	60
アートディレクション				
撮影テクニック				
専門技術演習B				
パッケージデザインⅡ		○	2年・前期	60
広告プランニング				
シルクスクリーン				
英語	○		1年・前期	30
合 計				1470

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：	デザイン概論
------	--------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているのか、各種事例研究を通じて理解するとともに、アートとデザインの違い、広告制作をはじめとした何らかの情報伝達を行う際に、クリエイターとして留意すべき点等について学ぶ。

■到達目標：1: 社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているか理解している。
2: 課題制作において「誰に」「何を」「どう伝えるか」を意識して取り組むことができる。
3: リサーチやブレインストーミング・プレゼンテーションなど、他者との協働による作業ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、デザインの代表的な分野・領域 |
| 第2回 | デザインとアート、情報の伝達 |
| 第3回 | 広告とは（新聞広告等を用いた事例研究） |
| 第4回 | 企画とは（アイデアを出すための視点） |
| 第5回 | グループワーク①（第三者へモノ・コトの魅力を伝える） |
| 第6回 | グループワーク①（第三者へモノ・コトの魅力を伝える） |
| 第7回 | グループワーク①（プレゼンテーション・講評） |
| 第8回 | 関係性の可視化②（視点の動かし方、他者の視点を知る） |
| 第9回 | 関係性の可視化②（視点の動かし方、他者の視点を知る） |
| 第10回 | 関係性の可視化②（プレゼンテーション・講評） |
| 第11回 | グループワーク③（作業マニュアル作り） |
| 第12回 | グループワーク③（作業マニュアル作り） |
| 第13回 | グループワーク③（プレゼンテーション・講評） |
| 第14回 | グループワーク④（フラッシュアップ） |
| 第15回 | グループワーク④（フラッシュアップ） |

■教科書：

■参考書：現代デザイン事典、図とイラストで伝わるデザイン

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：新明 史子（非常勤講師）
実務経験：オリジナル絵本の制作ユニットを主催し、本の企画提案・グラフィックデザイン・テキスト制作・製本等に携わっている。

科目名：基礎造形Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：前半は検定試験公式テキストを使用し色彩理論の基礎を学ぶ。後半は基礎的な平面構成課題を通して構成力・イメージの抽象表現力・実用的な色彩感覚等を養う。

■到達目標：1: 色彩士検定取得に向けて、演習を通して色彩理論の基礎が身に付いている。
2: 色彩及び構成の基礎を学び、用途やデザインに適した配色が出来る。
3: 積極的に課題に取り組み、より完成度の高い作品を目指す向上心を発揮できる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション・色彩の基礎①（色の成り立ち・混色）
- 第2回 色彩の基礎②（色の三属性・色相環）
- 第3回 色彩の基礎②（色の三属性・色相環）
- 第4回 色彩の基礎③（PCCSトーン）
- 第5回 色彩の基礎④（明度・彩度とPCCSトーン）
- 第6回 色彩の基礎⑤（対比効果）
- 第7回 色彩の基礎⑥（視認性・色の連想とイメージ）
- 第8回 配色の研究（実例リサーチ）
- 第9回 色彩と表現⑦（感情・季節感の表現）
- 第10回 色彩と表現⑦（感情・季節感の表現）
- 第11回 色彩と構成⑧（パターンデザイン）
- 第12回 色彩と構成⑧（パターンデザイン）
- 第13回 色彩と構成⑨（パターンを用いた糸綴じノートブックのデザイン）
- 第14回 色彩と構成⑨（パターンを用いた糸綴じノートブックのデザイン）
- 第15回 色彩と構成⑨（パターンを用いた糸綴じノートブックのデザイン）

■教科書：カラーマスターBASIC 配色カード158b

■参考書：配色デザイン見本帳

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
 対象専攻：グラフィックデザイン専攻
 担当教員：新明 史子（非常勤講師）
 実務経験：オリジナル絵本の制作ユニットを主催し、本の企画提案・グラフィックデザイン・テキスト制作・製本等に携わっている。

科目名：基礎造形Ⅱ

履修形態：必修
 授業形態：講義＋演習
 履修学年：1年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要：平面から立体へ展開しながら、紙という材料の基本的な加工方法や、その特性、紙を使った造形の可能性を学ぶ。素材や資料の研究、アイデアを形にするための積極的な実行力や企画力、的確な計画性などの重要性を理解する。

■到達目標：1: 紙の基本的な加工方法・紙の目・厚さ・種類等の特性を知り適切な紙を選べる。
 2: オリジナルの本作りを通して企画力・表現力を高め、基本的な製本技術を理解している。
 3: もの作りの本質を考え、表現の幅を広げながら丁寧な手作業が出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 紙の造形①(モビール) |
| 第2回 | 紙の造形①(モビール) |
| 第3回 | 紙の造形②(カードデザイン) |
| 第4回 | 紙の造形②(カードデザイン) |
| 第5回 | 紙の造形②(カードデザイン) |
| 第6回 | 造本③-1(文庫本のハードカバー製本) |
| 第7回 | 造本③-2(和綴じ・折帖) |
| 第8回 | ブックデザイン④-1(紙を活かした視覚的に美しいデザインの本を考える) |
| 第9回 | ブックデザイン④-2(ページ数・大きさ・製本方法等を考え試作を作る) |
| 第10回 | ブックデザイン④-3(試作をもとに本文を制作) |
| 第11回 | ブックデザイン④-3(試作をもとに本文を制作) |
| 第12回 | ブックデザイン④-3(試作をもとに本文を制作) |
| 第13回 | ブックデザイン④-4(美しさと強度を両立させた製本) |
| 第14回 | ブックデザイン④-4(美しさと強度を両立させた製本) |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：デザイナーズハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：後藤 精二（非常勤講師）
実務経験：広告代理店で、広告のデザイン・アートディレクション・TVCMプロデュース等を担当したのち、
広告制作会社を経営。

科目名：	コンセプトメイキング
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：モノ・コト作りの根源であるコンセプトの概念とその作り方を体験的な学習で理解し、グループ学習でコンセプトの共有とチームワークの大切さを学ぶ。後半は企画立案から実制作まで実践課題を通じて2年間課題をやり抜くための基礎を身に付ける。

■到達目標：1: デザインとは何か？を理解している。
2: デザインに不可欠な論理的思考とコンセプトメイキングを理解している。
3: 論理の見える化と表現のアイディア化(5W1H)ができる。
4: グループ討論の中で結論に至る合意形成や協調性を身に付けている。
5: プレゼンテーションを通じて、発表・自己表現・コミュニケーションができる。

■授業計画：

第1回	概念の理解(デザインとは何か？コンセプトメイキングとは何か？)
第2回	広告コンセプトの発見と理解①
第3回	コンセプトの発見と理解(フィールドワーク)
第4回	コンセプトの発見と理解(コンセプトチャートの作成)
第5回	コンセプトの発見と理解(プレゼンテーション)
第6回	広告コンセプトの発見と理解②
第7回	広告コンセプトの発見と理解③
第8回	広告表現の基礎知識
第9回	広告表現の基礎知識と応用
第10回	レイアウトの応用
第11回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第12回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第13回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第14回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第15回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：中原 宣孝（非常勤講師）
実務経験：美術研究所を主催し、各種画材の研究開発および大学・高校・各種スクール等で美術の実技指導に携わっている。日本美術科連盟会員・大学美術教育学会会員。

科目名：デッサン

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：過去から今日までの絵画理論から得られた空間認識や稜線と面による構築の意識等の理論を総合的に理解しながら制作することで、構造化された理論と技術との連関が生む相乗効果を最大限に描き出しながら、基本的・本質的なデッサン力を習得する。

■到達目標：1: 量感、質感、空間感、プロポーションなどによる自然で的確な表現がどのようにしたら可能であるかの理論的な裏付けを認識して製作できる。
2: 表現力の幅を広げ各自が追求したい表現スタイルを深めていくことができる。
3: グラフィックデザイナーとして求められるカンパ作成能力が身に付いている。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 絵画理論（線遠近法・透視図法・重畳法・空気遠近法、稜線と面による構築、空間感） |
| 第2回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第3回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第4回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第5回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第6回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第7回 | 人体解剖学（人体構造の基礎知識・表現法、構図・プロポーション・ムーヴマン） |
| 第8回 | 静物クロッキー②（モチーフの構成力・構図・プロポーション・量感・コントラスト） |
| 第9回 | 基本構造の静物③（構図・プロポーション・透視図法・楕円・面と量感・コントラスト） |
| 第10回 | 基本構造の静物③（構図・プロポーション・透視図法・楕円・面と量感・コントラスト） |
| 第11回 | 基本構造の静物③（構図・プロポーション・透視図法・楕円・面と量感・コントラスト） |
| 第12回 | 室内空間デザイン（空間理論と表現・技法） |
| 第13回 | 静物クロッキー④（モチーフの構成力・構図・プロポーション・量感・コントラスト） |
| 第14回 | 裸婦クロッキー⑤（人体構造の理解と表現法） |
| 第15回 | 人物クロッキー⑥（人体構造の基礎知識と表現法） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：山本 睦子（非常勤講師）
実務経験：広告制作プロダクションでアートディレクター・グラフィックデザイナーとして全国展開のファッションビル・企業・高等教育機関等のアドバタイジングデザインを担当。

科目名：	グラフィック基礎Ⅰ
------	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：各種トレーニング課題を行いながら、様々なデザイン用具の基本的な使い方・デザインの基礎知識を習得し、デザインの魅力や表現する楽しさを体験するとともに、文字情報の扱い方のスキルを身に付ける。

■到達目標：1: 情報やメッセージを伝える方法を3点以上発想することができ、アイデアを可視化することができる。
2: デザインを表現、定着させるための基礎的手作業を行うことができる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | デザイン道具を使ってみる①(ペーパークラフトによるアドカーの制作) |
| 第3回 | デザイン道具を使ってみる②(コラージュによる平面構成) |
| 第4回 | デザインの基礎知識にふれる③(コラージュによる平面構成) |
| 第5回 | デザインの基礎知識にふれる③(コラージュによる平面構成) |
| 第6回 | 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作) |
| 第7回 | 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作) |
| 第8回 | 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作) |
| 第9回 | 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作) |
| 第10回 | プレゼンテーション、講評 |
| 第11回 | 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作) |
| 第12回 | 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作) |
| 第13回 | 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作) |
| 第14回 | 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作) |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：デザイナーズハンドブック、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：堀 じゅん子（非常勤講師）
実務経験：グラフィックデザイナー・イラストレーターとして広告代理店に勤務後独立し、デザイン制作会社経営

科目名：グラフィック基礎Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：造形要素の特性を把握し、プロポーションやコンポジション、シンメトリー等造形要素がもたらす秩序と配色調和について学ぶ。後半では制作物の目的やターゲット層を意識しながら、前半の学びを応用した課題制作に取り組む。

■到達目標：1: 点・線・面など造形の基本的な構成要素について理解している。
2: 黄金比を活用した面分割による画面構成の効果について理解している。
3: 与えられたテーマについて目的や伝える相手を意識しながらイメージを可視化する方法を工夫出来る。
4: 制作物と提案内容についてわかりやすくまとめ、第三者へプレゼンテーションできる。

■授業計画：

第1回	構成の要素①(点・線による構成)
第2回	構成の要素①(点・線による構成)
第3回	構成の要素②(面による構成)
第4回	構成の要素②(面による構成)
第5回	構成の秩序③(リズムとルール)
第6回	構成の秩序③(リズムとルール)
第7回	イメージの可視化④(ポスター制作)
第8回	イメージの可視化④(ポスター制作)
第9回	イメージの可視化④(ポスター制作)
第10回	クライアントワーク⑤(コンペ課題A)
第11回	クライアントワーク⑤(コンペ課題A)
第12回	PRポスター⑥(コンペ課題B)
第13回	PRポスター⑥(コンペ課題B)
第14回	PRポスター⑥(コンペ課題B)
第15回	PRポスター⑥(コンペ課題B)

■教科書：

■参考書：構成学のデザイントレーニング、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：佐々木 律子（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社でグラフィックデザイナーとして広告や雑誌制作に従事したのち独立。主に雑誌媒体のエディトリアルデザインに携わっている。

科目名：	印刷・レイアウト基礎
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：単色印刷からフルカラー印刷まで、演習課題を通じて文字組とレイアウトの基礎テクニックを習得しながら、ひとつの印刷物が出来上がるまでのワークフローを理解する。

■到達目標：
1: ビジュアルと文字を組み合わせながら、全体をバランス良く配置できる。
2: 印刷の基礎知識を身に付けると共に、印刷物制作のワークフローに係るスタッフの関係性を理解している。
3: 必要に応じてアプリケーションを選択し、アナログ作業も活かしたデザインができる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション、自己紹介・イメージトレーニング |
| 第2回 | 印刷概論 レイアウト基礎①(1C印刷による名刺制作) |
| 第3回 | 印刷概論 レイアウト基礎①(1C印刷による名刺制作) |
| 第4回 | 印刷概論 レイアウト基礎②(多色特殊印刷によるブックカバー制作) |
| 第5回 | 印刷概論 レイアウト基礎②(多色特殊印刷によるブックカバー制作) |
| 第6回 | 印刷概論 レイアウト基礎②(多色特殊印刷によるブックカバー制作) |
| 第7回 | 印刷概論 プリンターの機能実習(手差し両面印刷) |
| 第8回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面) |
| 第9回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面) |
| 第10回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作) |
| 第11回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作) |
| 第12回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作) |
| 第13回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作) |
| 第14回 | レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作) |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：デザイナーズハンドブック、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：DTP演習 I

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：パソコンに慣れ親しみながら、OSやアプリケーション（Illustrator/Photoshop）の操作法・データ管理等の基礎知識を学ぶ。課題制作を通して検定試験合格に必要な知識と技術の習得を目指す。

■到達目標：1：印刷を前提としたデジタルデータを制作できる。
2：作業手順を段取良く組み立てることができる。
3：第三者が閲覧・操作しても分かりやすいデータ制作・データ管理ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション・DTP概論
システム・MacOS・アプリケーション、教室内設備の確認とルール、ネットワーク環境 |
| 第2回 | DTP概論・Illustrator
新規ドキュメント作成・主要ツールの操作レッスン |
| 第3回 | Illustrator/Photoshop
Illustrator基本操作の復習・スキャナ練習・Photoshopでの画像補正・トレース練習 |
| 第4回 | Illustrator
レイヤー・色設定・各種ツール練習 |
| 第5回 | Illustrator
グラデーション・パターン設定・オブジェクト合成・クリッピングマスク・線設定・文字設定 |
| 第6回 | Illustrator
プリントアウトについて（レーザーとインクジェットの違い等）・PDFデータへの変換・出力実習 |
| 第7回 | Illustrator
文字の扱い（入力・編集・特殊文字・レイアウト・段落スタイル等）と演習 |
| 第8回 | Illustrator
オブジェクトの効果、印刷・出力用データ作成、トリムマーク、裁ち落とし他 |
| 第9回 | Illustrator/Photoshop
画像配置（ルール・リンク・埋め込み・トリミング他）、Illustrator機能・操作の復習 |
| 第10回 | Photoshop
基礎知識・画像解像度・主要ツールの操作レッスン・各機能の演習 |
| 第11回 | Photoshop
各機能の演習（画像マスク・切り抜き・レタッチ・色補正・調整レイヤー等） |
| 第12回 | Photoshop
フィルター機能・作画技法・スキャニング・画像補正・合成・保存 |
| 第13回 | Photoshop
背景と切り抜き画像との合成演習 |
| 第14回 | Photoshop/Illustrator
入稿用データ作成（合成画像の配置・レイアウト・文字情報等） |
| 第15回 | Photoshop/Illustrator
入稿用データ作成（合成画像の配置・レイアウト・文字情報等） |

■教科書：『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』
『入稿データのつくりかた』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 里菜（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にポスター・パンフレット・雑誌等の紙媒体を中心に制作業務を担当。

科目名：基礎デザインⅠ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：グラフィックデザインの重要な構成要素である「文字」について演習を通して基礎知識から実践まで理解する。文字の歴史やレタリング、タイポグラフィの基礎知識や技術、書体の種類とイメージについて広く学び、フィールドワークでリサーチ力と応用力を身に付ける。
- 到達目標：1:グラフィックデザインによる「文字」の重要性や多様性について理解している。
2:基本的な造形力や書体の選択力を身に付け、タイポグラフィを活かした紙面構成ができる。
3:プレゼンテーションを通じて相手に制作意図を的確に伝えることができる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション・自己表現
- 第2回 文字・レタリング基礎、レタリング（和文書体）
- 第3回 レタリング（和文書体）、書体イメージの分類と分析
- 第4回 レタリング（欧文書体）
- 第5回 レタリング（欧文書体）
- 第6回 タイポグラフィ基礎、タイポグラフィ（文字あそび）
- 第7回 タイポグラフィ（文字あそび）
- 第8回 タイポグラフィ（文字あそび）
- 第9回 タイポグラフィ（文字あそび）
- 第10回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第11回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第12回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第13回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第14回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第15回 タイポグラフィ（オリジナル書体）

- 教科書：
- 参考書：
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 ルリ子（非常勤講師）
実務経験：フリーランスイラストレーターとして、パンフレット・ポスター・装丁等広告物のイラストレーション制作を手掛ける。

科目名：	ビジュアル表現
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：各種画材（水性色鉛筆、パステル、ガッシュ、マーカー）の基礎的な知識と使い方を学び、その中からそれぞれの画材の持つ印象を理解し、イメージに合わせた画材選びを工夫する。デジタルとは異なる表現方法を研究し、様々な課題制作に応用できる自由な発想力を身に付ける。

■到達目標：1: 画材の基本的な使い方とそれぞれの画材が与える印象を理解している。
2: 手作業の持つ面白さや表現の強さを感じ取り、デジタルとは違う魅力を理解している。
3: 道具の扱い方や後始末など、丁寧な作業が習慣的にできる。

■授業計画：

第1回	課題①（水彩色鉛筆による表現）
第2回	課題①（水彩色鉛筆による表現）
第3回	課題②（パステルによる表現）
第4回	課題②（パステルによる表現）
第5回	課題②（パステルによる表現）
第6回	課題③（アクリルガッシュによる表現と絵本制作）
第7回	課題③（アクリルガッシュによる表現と絵本制作）
第8回	課題③（アクリルガッシュによる表現と絵本制作）
第9回	課題④（マーカーを用いたキャラクターデザイン）
第10回	課題④（マーカーを用いたキャラクターデザイン）
第11回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第12回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第13回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第14回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第15回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：山本 睦子（非常勤講師）
実務経験：広告制作プロダクションでアートディレクター・グラフィックデザイナーとして全国展開のファッションビル・企業・高等教育機関等のアドパタイジングデザインを担当。

科目名：グラフィック演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：前期で身に付けた基礎的表現力や技術力を更に高め、文字情報の扱い方のスキルアップと制作プロセスの自己管理能力向上を目指す。

■到達目標：1: 情報やメッセージを伝達するための工夫ができる。
2: ビジュアル・文字・色彩・レイアウト等を考えデジタル・アナログ両面で定着できる。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第2回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第3回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第4回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第5回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第6回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第7回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第8回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第9回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第10回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第11回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第12回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第13回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第14回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第15回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |

■教科書：デザイナーズハンドブック、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 里菜（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にポスター・パンフレット・雑誌等の紙媒体を中心に制作業務を担当。

科目名：	基礎デザインⅡ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：前期で習得した「文字」の基礎知識と技術を踏まえ、基本エレメントを意識したデザインへ展開する。グラフィックデザインにおける記号（単化形成、ピクトグラム、シンボルマーク等）の社会的な役割・必要性や制作プロセスを理解し、演習課題を通じて表現力を強化する。
- 到達目標：1:「文字」の基礎知識や柔軟な発想力を発揮し、完成度の高い作品を仕上げられる。
2:プレゼンテーションで相手に制作意図を的確に伝えることが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | グラフィックデザインにおける記号（単化形成） |
| 第2回 | グラフィックデザインにおける記号（単化形成） |
| 第3回 | グラフィックデザインにおける記号（単化形成） |
| 第4回 | グラフィックデザインにおける記号（アイコン化） |
| 第5回 | グラフィックデザインにおける記号（アイコン化） |
| 第6回 | グラフィックデザインにおける記号（アイコン化） |
| 第7回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第8回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第9回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第10回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第11回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第12回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第13回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第14回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第15回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：木野村 博人（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社、印刷会社デザイン部にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にグラフィックデザイン・ブックエディトリアル・パッケージ・CI・サイン等を手掛けている。

科目名	広告デザイン演習Ⅰ
-----	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：感覚的なものも大事にしつつ、基本的なルールを踏まえつつ、情報の整理やレイアウトの効果を意識して、見る人に働きかける広告物について考察する。また企業連携によるクライアントワークに取り組み、入稿用データの作り方等、実践的なスキルを高める。

■到達目標：1: コピー・文字情報・色・書体等の細かな作業を丁寧に行うことができる。
2: パターンやルールを覚え、どのような環境でも素早く作業を進められる。
3: 入稿用データの基本的なルールを理解してDTP作業ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（クライアントによるオリエンテーション） |
| 第2回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（アイデア出しと打合せ） |
| 第3回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（実制作） |
| 第4回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（実制作） |
| 第5回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（デザインチェック） |
| 第6回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（デザイン最終チェック） |
| 第7回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（デザイン最終修正、仕上げ） |
| 第8回 | 企業連携課題：イベント告知ポスター（プレゼンテーション） |
| 第9回 | 演習課題（新聞広告制作） |
| 第10回 | 演習課題（新聞広告制作） |
| 第11回 | 演習課題（新聞広告制作） |
| 第12回 | 演習課題（新聞広告制作） |
| 第13回 | 演習課題（新聞広告制作） |
| 第14回 | 演習課題（新聞広告制作） |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：『デザイナーズハンドブック』
『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：佐々木 律子（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社でグラフィックデザイナーとして広告や雑誌制作に従事したのち独立。主に雑誌媒体のエディトリアルデザインに携わっている。

科目名：	印刷・レイアウト演習
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：デジタル入稿による小冊子制作演習を通じて、文字組とレイアウトの強化を図り、正しい情報の選択とリサーチや取材力を身に付ける。校正記号や入稿プロセスを学習し、適切な入稿用データを作れるようにする。広告ツール制作では、立体的な構図と効果的な表現を目指す。

■到達目標：1: 印刷物の制作プロセスを理解しデジタル入稿に必要なスキルが身に付いている。
2: チーム作業を通じて、最後まで責任をもって担当作業に臨むことができる。
3: ビジュアルや文字をバランス良くレイアウトできる。
4: クライアントやターゲットに沿った企画立案ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 演習①広告ツール制作
(前期「ビジュアル演習」で制作した立体物を撮影し、広告物のビジュアルに使用) |
| 第2回 | 演習①広告ツール制作 |
| 第3回 | 演習①広告ツール制作 |
| 第4回 | 演習①広告ツール制作 |
| 第5回 | 演習②小冊子制作(チームミーティング) |
| 第6回 | 演習②小冊子制作(ラフ制作・企画とレイアウトのチェック) |
| 第7回 | 演習②小冊子制作(情報収集・取材・撮影) |
| 第8回 | 演習②小冊子制作(情報収集・取材・撮影・データ制作) |
| 第9回 | 演習②小冊子制作(データ制作・デザインチェック) |
| 第10回 | 演習②小冊子制作(データ制作・デザインチェック・初校) |
| 第11回 | 演習②小冊子制作(初校戻し・データ修正) |
| 第12回 | 演習②小冊子制作(データ修正・チェック・再校) |
| 第13回 | 演習②小冊子制作(再校戻し・最終修正) |
| 第14回 | 演習②小冊子制作(最終修正・校正) |
| 第15回 | 演習②小冊子制作(入稿用データ完成・出力紙とデータを提出) |

■教科書：デザイナーズハンドブックレイアウト編、入稿データのつくりかた

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：DTP演習Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単位：1単位

■科目概要：前期に引き続きIllustratorとPhotoshopの操作とデザイン作業を意識したデータ制作を行う。検定試験合格に向けて基礎知識と技術のスキルアップを目指すとともに、習得したスキルを応用できるようにする。

■到達目標：1:進級制作に向けて使用アプリケーションの選択や表現に合わせた作業ができる。
2:セルフチェックしながら入稿データを作成できる。
3:12月の検定試験合格。

■授業計画：

- 第1回 Illustrator・Photoshopの復習。Photoshopの重要機能や弱点部分の強化
- 第2回 Illustrator・Photoshopの復習。Photoshopの重要機能や弱点部分の強化
- 第3回 Illustrator・Photoshopの復習。Photoshopの重要機能や弱点部分の強化
- 第4回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第5回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第6回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第7回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第8回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第9回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第10回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第11回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第12回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第13回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第14回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第15回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング

■教科書：『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』
『入稿データのつくりかた』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 朋代（非常勤講師）
実務経験：Web制作会社にWebデザイナー・ディレクターとして勤務したのち独立。主にUI設計・デザイン・WordPress構築に携わっている他、入門者向け書籍の執筆活動も行っている。

科目名：	Webデザイン I
------	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：HTML/CSSを使ったコーディングの基礎を習得する。また、様々なWebサイトに触れ、Webデザインならではの仕組みや特徴を理解し、目的に合ったWebサイトの構成を考える。PCやスマートフォン、タブレット等の様々なデバイスに対応したWebデザインの考え方も学ぶ。

■到達目標：1: 様々なWebサイトに触れ、その目的や仕組み・構成への理解を深める。
2: HTML/CSSコーディングの基礎を理解し、簡単なコーディングができる。
3: 様々なデバイスの画面サイズや解像度を理解し、PhotoshopでWeb用画像を作成できる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | インターネット・Webの仕組み、Webサイトの役割 |
| 第2回 | Webサイトの目的・HTMLの基本と枠組み |
| 第3回 | Webサイトでの画像の扱い |
| 第4回 | Webサイトの構成と制作の流れ |
| 第5回 | Webサイトの構成と制作の流れ |
| 第6回 | Webページの装飾とCSSの基本 |
| 第7回 | Webページの装飾とCSSの基本 |
| 第8回 | Webサイト用バナー画像作成 |
| 第9回 | class・id属性を利用したCSS装飾、ボックスモデル |
| 第10回 | class・id属性を利用したCSS装飾、ボックスモデル |
| 第11回 | 様々なCSSプロパティ・テクニック |
| 第12回 | 様々なCSSプロパティ・テクニック |
| 第13回 | マルチデバイス(スマートフォン・タブレット)対応 |
| 第14回 | マルチデバイス(スマートフォン・タブレット)対応 |
| 第15回 | Webサイトの公開 |

■教科書：スラスラわかるHTML & CSSのきほん

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：小森 学（非常勤講師）
実務経験：カメラマンとして商業写真撮影スタジオ勤務数社を経て独立。主に広告写真撮影、人物写真撮影等を手掛けている。

科目名：	撮影基礎
------	------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：一眼レフカメラの基本操作と撮影の基礎を学び、各自のクリエイティブワークへ活かす。写真をヴィジュアルとする場合の画面構成や人物の配置、表情の重要性を学びより実践的な表現力を習得する。

■到達目標：
1: 一眼レフカメラの基本操作と簡易的な照明を用いた撮影ができる
2: 自分の求めるクリエイティブワークに写真表現を取り入れ表現領域を広げる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 撮影基礎①(露出・シャッタースピード・絞り、自由撮影) |
| 第2回 | 撮影基礎②(人物撮影) |
| 第3回 | 撮影基礎③(応用操作) |
| 第4回 | 撮影基礎④(自然光・ストロボ・ランプ・レフ板) |
| 第5回 | 写真表現①(ディスカッション・自由撮影・Photoshopを用いたレタッチ) |
| 第6回 | 写真表現②(ライティング・構成・背景) |
| 第7回 | 写真表現③(商品撮影とPhotoshopを用いたレタッチ) |
| 第8回 | プレゼンテーション、ディスカッション |
| 第9回 | 写真表現①(人物撮影、スタイリング・背景) |
| 第10回 | 写真表現②(人物撮影とPhotoshopを用いたレタッチ) |
| 第11回 | プレゼンテーション、ディスカッション |
| 第12回 | 写真表現①(自由撮影) |
| 第13回 | 写真表現②(自由撮影) |
| 第14回 | 写真表現③(自由撮影、キャッチコピー・レイアウト) |
| 第15回 | プレゼンテーション、ディスカッション |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 美絵（専任教員）
実務経験：大手印刷会社の包装開発部門で、ディレクターとして勤務。商品企画およびパッケージデザインのアートディレクションに携わる。JPDA（日本パッケージデザイン協会）会員。

科目名：	パッケージデザインⅠ
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：市場に出回っているパッケージにはどのような種類（構造・包装材料・印刷方式等）と機能（情報伝達・商品保護・可搬性等）があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について理解する。

■到達目標：1: 代表的なパッケージの種類について身の回りにある商品から事例を探すことが出来る。
2: パッケージデザインが果たす店頭広告効果、イメージ戦略的效果を理解している。
3: 既存商品・競合商品をリサーチし、消費者ニーズを踏まえた商品企画を提案できる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | パッケージの種類と機能（事例研究） |
| 第2回 | 商品企画とデザイン①（マーケットリサーチ） |
| 第3回 | 商品企画とデザイン②（企画立案） |
| 第4回 | 商品企画とデザイン③（実制作） |
| 第5回 | 商品企画とデザイン④（プレゼンテーション） |
| 第6回 | 地域の商品とデザイン①（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第7回 | 地域の商品とデザイン②（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第8回 | 地域の商品とデザイン③（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第9回 | 地域の商品とデザイン④（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第10回 | 地域の商品とデザイン⑤（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第11回 | 地域の商品とデザイン⑥（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第12回 | 地域の商品とデザイン⑦（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第13回 | 季節感とデザイン①（企画立案：パターンを用いた店舗用パッケージ） |
| 第14回 | 季節感とデザイン②（実制作：パターンを用いた店舗用パッケージ） |
| 第15回 | 季節感とデザイン③（実制作、プレゼンテーション） |

■教科書：

■参考書：パッケージデザインの教科書、デザイン歳時記

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：菊地 和広（非常勤講師）
実務経験：大手印刷会社・広告代理店・デザインプロダクションでアートディレクター・グラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。グラフィックデザイン全般に携わっている。

科目名：	グラフィック表現テクニック
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：アートディレクター・グラフィックデザイナーにとって重要視される「独創性」「着眼点」に対し、「表現」というフィルターを通して感性を磨くと共に、各自が秘めている可能性を見つけ出す。

■到達目標：1: 様々な表現に見る・触れることで、作り手の着眼点を発見できる。
2: オリジナルの表現を作る・見せることで、新たな可能性を引き出すことが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | JAGDA学生グランプリ 応募作品制作①(B1ポスター) |
| 第2回 | JAGDA学生グランプリ 応募作品制作② |
| 第3回 | JAGDA学生グランプリ 応募作品制作③ |
| 第4回 | JAGDA学生グランプリ 応募作品制作④ |
| 第5回 | JAGDA学生グランプリ プレゼンテーション |
| 第6回 | 学外展示用グラフィック制作(ガリ版作品①) |
| 第7回 | 学外展示用グラフィック制作(ガリ版作品②) |
| 第8回 | 学外展示用グラフィック制作(ポスター①) |
| 第9回 | 学外展示用グラフィック制作(ポスター②) |
| 第10回 | 学外展示用グラフィック制作(ポスター③) |
| 第11回 | 学外展示用グラフィック制作(ZINE①) |
| 第12回 | 学外展示用グラフィック制作(ZINE②) |
| 第13回 | 学外展示 会場搬入・展示作業 |
| 第14回 | マイ・ノベルティ制作①(自己を宣伝・アピールする販促ツール) |
| 第15回 | マイ・ノベルティ制作② |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 里菜（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にポスター・パンフレット・雑誌等の紙媒体を中心に制作業務を担当。

科目名：	インフォメーションデザイン
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：コトバだけでは伝わりにくい情報を視覚化することで、より分かりやすく伝えるのがインフォメーションデザインである。この科目では実在する公共の場所を題材とし、情報を視覚化する方法と、情報を整理・編集・レイアウトすることによって効果的に伝達する方法を総合的に学ぶ。

■到達目標：1: ダイアグラム、表、グラフ、ピクトグラム、マップ等の制作を通じて、インフォグラフィックスの手法を習得する。
2: それらの要素を用いた広報物を制作することにより、情報を整理・編集する工夫と方法を理解している。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | グラフ・ダイアグラム・ピクトグラム①
インフォグラフィックスとは何か。グラフの作成(カテゴリによってどのグラフが適しているかを考える) |
| 第2回 | グラフ・ダイアグラム・ピクトグラム②
ピクトグラムを使った4コマの作成(ストーリーに適した表現を考え、全体のデザイントーンの統一を学ぶ) |
| 第3回 | グラフ・ダイアグラム・ピクトグラム③
ピクトグラムを使った4コマの作成(ストーリーに適した表現を考え、全体のデザイントーンの統一を学ぶ) |
| 第4回 | 企画と情報収集①
イラストマップのコンセプトメイキング(情報の収集・構成の方法を学び、取材の方針を立てる) |
| 第5回 | 企画と情報収集②
現地取材と撮影 |
| 第6回 | 企画と情報収集③ |
| 第7回 | ピクトグラムとイラストマップ①
施設全体のイメージ統一を考慮したピクトグラムの制作 |
| 第8回 | ピクトグラムとイラストマップ②
施設全体のイメージ統一を考慮したピクトグラムの制作 |
| 第9回 | ピクトグラムとイラストマップ③
施設全体のイメージ統一を考慮したピクトグラムの制作 |
| 第10回 | ピクトグラムとイラストマップ④
イラストマップの制作 |
| 第11回 | ピクトグラムとイラストマップ⑤
イラストマップの制作 |
| 第12回 | 情報の整理と編集①
パンフレットの編集とレイアウト |
| 第13回 | 情報の整理と編集②
パンフレットの編集とレイアウト |
| 第14回 | 情報の整理と編集③
パンフレットの編集とレイアウト |
| 第15回 | プレゼンテーション |

■教科書：『たのしいインフォグラフィックス入門』
『わかりやすく情報を伝えるための図とデザイン』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：碓井 雅博（非常勤講師）
実務経験：広告代理店でクリエイティブ・ディレクターとして勤務。多くの企業、自治体等のTVCM、CI、広告キャンペーンを手掛ける。

科目名：	コミュニケーションデザイン
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：企業からのオリエンテーションを受け、課題を解決するための最適なソリューションを提案する。企業と消費者、企業と社会とのコミュニケーションはどうあるべきかを根本的かつ総合的に考え、形にしていけるプロセスを学ぶ。

■到達目標：1: 今、この時代にデザインを学ぶことの意味を再認識することが出来る。
2: グラフィックのみならず、デザインという仕事の広範性を理解し、社会における価値を見出すことができるような視点とマインドを持てるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 課題1：自己紹介ツール（名刺） |
| 第3回 | 課題2：ピンクリボンデザイン大賞 応募作品制作 |
| 第4回 | 課題2：ピンクリボンデザイン大賞 応募作品制作 |
| 第5回 | 課題2：ピンクリボンデザイン大賞 応募作品制作 |
| 第6回 | 企業連携課題へ向けての準備（オリエンテーション、課題解決の考え方など） |
| 第7回 | 企業連携課題（クライアントによるオリエンテーション） |
| 第8回 | 企業連携課題（コンセプトの構築） |
| 第9回 | 企業連携課題（発想と表現） |
| 第10回 | 企業連携課題（表現の展開） |
| 第11回 | 企業連携課題（展開の集成・仕上げ） |
| 第12回 | 企業連携課題（クライアントへのプレゼンテーション） |
| 第13回 | 課題3：グラフィックデザインからコミュニケーションデザインへ（情報収集・制作） |
| 第14回 | 課題3：グラフィックデザインからコミュニケーションデザインへ（制作・ブラッシュアップ） |
| 第15回 | 課題3：グラフィックデザインからコミュニケーションデザインへ（プレゼンテーション） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：曾澤 浩一（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社を経営し、自身もグラフィックデザイナーとして広告制作を手掛けている。

科目名：

広告デザイン演習Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：課題制作を通じて、広告制作の現場が今必要としている人材を育成していく。広告とは何か？ということを改めてしっかりと理解し、実際の仕事におけるデザイナー・アートディレクターとして制作プロセスを学ぶ。
- 到達目標：1:コピーライティング・タイポグラフィ・撮影等、総合的な広告制作のノウハウやスキルが身に付いている。
2:1つの着地点に対して多面的なアプローチが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト①(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第2回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト②(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第3回 | 特別授業:ラジオCMコンテスト応募にむけて |
| 第4回 | 特別授業:ラジオCMコンテスト応募にむけて |
| 第5回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト③(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第6回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト④(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第7回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト①(クライアントによるオリエンテーション) |
| 第8回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト①(クライアントによるオリエンテーション) |
| 第9回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト②(イベントPRポスターの制作) |
| 第10回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト③(イベントPRポスターの制作) |
| 第11回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト④(イベントPRポスターの制作) |
| 第12回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト⑤「(クライアントへのプレゼンテーション) |
| 第13回 | 課題3:nepiaコラボプロジェクト①(パッケージを用いたB1ポスターへの展開) |
| 第14回 | 課題3:nepiaコラボプロジェクト②(パッケージを用いたB1ポスターへの展開) |
| 第15回 | 課題3:nepiaコラボプロジェクト③(パッケージを用いたB1ポスターへの展開) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：佐々木 律子（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社でグラフィックデザイナーとして広告や雑誌制作に従事したのち独立。主に雑誌媒体のエディトリアルデザインに携わっている。

科目名	DTP演習Ⅲ
-----	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：制作演習を通じてInDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。小冊子制作では企画力の向上も図り、現場に即した制作のワークフローを学びながら、InDesignによる入稿を行う。

■到達目標：1: 各アプリケーションの応用技術を身に付け、制作物に応じたソフトの選択ができる。
2: InDesignの基本操作と実践的なフィニッシュワークを理解し、オペレーション出来る。
3: 冊子制作の企画立案・取材・協働作業・校正の技術を身に付けている。
4: これまで身に付けた知識と技術を活かし、制作物の完成度を高めることが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | アプリケーション基礎①
(InDesignの基本操作・他のアプリケーションとの相違点・DTPのワークフロー) |
| 第2回 | アプリケーション基礎②(ドキュメント設定と文字入力) |
| 第3回 | アプリケーション基礎③(書式設定とスタイル設定) |
| 第4回 | アプリケーション基礎④(画像配置と編集) |
| 第5回 | アプリケーション基礎⑤(カラーと効果・オブジェクトの操作) |
| 第6回 | アプリケーション基礎⑥(表の制作と応用) |
| 第7回 | アプリケーション基礎⑦(復習と入稿時の諸注意点) |
| 第8回 | ブックレット制作①(チームミーティング) |
| 第9回 | ブックレット制作②(チーム企画立案・ページネーションとタイトル決定) |
| 第10回 | ブックレット制作③(実制作作業) |
| 第11回 | ブックレット制作④(実制作作業) |
| 第12回 | ブックレット制作⑤(データ仕上げ・初校) |
| 第13回 | ブックレット制作⑥(校正・データ修正) |
| 第14回 | ブックレット制作⑦(再校・データ修正) |
| 第15回 | ブックレット制作⑧(アウトライン化・データ確認・入稿データ提出) |

■教科書：世界一わかりやすいInDesign操作とデザインの教科書

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：DTP演習Ⅳ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：1年次で習得した各種デジタルアプリケーションの応用的使い方、卒業制作等大型作品の入稿用データ制作方法、就職活動に用いる作品ファイルの制作等について学ぶ。オフセット方式を主とした印刷に関する知識を深めるとともに、検定試験受験に対応した学習を通じてスキルの定着を目指す。

■到達目標：1：最終形態が印刷物となるデジタルデータについて制作上の注意点をセルフチェックできる。
2：制作物に応じて各種アプリケーションを組み合わせる使用ができる。
3：卒業制作や就職後の業務に対応できる技術力・デザイン力・表現力が身に付いている。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション、コンペ課題（アイデアチェック） |
| 第2回 | コンペ課題①（データ制作）、就職活動用ツール制作 |
| 第3回 | コンペ課題①（データ制作）、就職活動用ツール制作 |
| 第4回 | コンペ課題①（データ制作）、就職活動用ツール制作 |
| 第5回 | コンペ課題①（データ仕上げ）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第6回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第7回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第8回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第9回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第10回 | コンペ課題②（データ仕上げ）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第11回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第12回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第13回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第14回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第15回 | コンペ課題③（データ仕上げ）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |

■教科書：

■参考書：『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』
『入稿データのつくりかた』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 朋代（非常勤講師）
実務経験：Web制作会社にWebデザイナー・ディレクターとして勤務したのち独立。主にUI設計・デザイン・WordPress構築に携わっている他、入門者向け書籍の執筆活動も行っている。

科目名：	WebデザインⅡ
------	----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

■科目概要：・PC・スマートフォンの画面サイズを意識したバナーを作成する
・IllustratorおよびPhotoshopを使って、PC向け・スマートフォン向けのデザインカンパを作成する
・DTPデザインとWebデザインの違いを知る

■到達目標：1：IllustratorおよびPhotoshopでHTML/CSSコーディングに配慮したデザインデータを制作出来る。
2：Webサイトの制作ワークフローを理解し、目的に合わせたデザイン提案ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | IllustratorによるWebデザインカンパ作成基礎 |
| 第2回 | Webサイトの画面サイズとグリッドシステム、色表現 |
| 第3回 | Webデザインフォントの扱いと見出しの作り方 |
| 第4回 | バナー制作 |
| 第5回 | ガイドの利用方法とシェイプ作成のコツ |
| 第6回 | HTMLの文書構造とCSSの特徴、レスポンシブデザイン |
| 第7回 | スマートフォン用デザインカンパ作成 |
| 第8回 | Webデザインのレイヤー構造 |
| 第9回 | 画像の書き出し |
| 第10回 | Webサイトの背景画像、ベクター形式の画像 |
| 第11回 | デザインカンパ課題作成実習① |
| 第12回 | デザインカンパ課題作成実習② |
| 第13回 | デザインカンパ課題作成実習③ |
| 第14回 | デザインカンパ課題作成実習④ |
| 第15回 | 課題提出と講評 |

■教科書：いちばんよくわかるWebデザインの基本きちんと入門

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：引地 幸生（非常勤講師）
実務経験：広告代理店クリエイティブディレクターとして勤務後独立。現在Design Administrator（デザイン管理者）として企業ブランドに関わる商品開発やパッケージデザイン、コミュニケーションデザインなどを手掛ける。

科目名：専門技術演習A(ブランディングデザイン)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：ブランドという概念やデザインがブランドに果たす重要な役割について理解してもらうと同時に、ブランディングデザインの考え方や手順、発信方法について課題を通して学習する。
- 到達目標：1: 商品やサービスの価値や目的を理解し、魅力的に見せるための企画立案が出来る。
2: ブランディングの手法を通して幅広い発想力や表現力、企画力、プレゼンテーション力を養う。

■授業計画：

- 第1回 ブランディングデザインとは？
- 第2回 ブランディングの手法を学ぶ①
 (ブランド・ファウンデーションとROISプリングボードを活用した方法)
- 第3回 ブランディングの手法を学ぶ②
 (ブランド・ファウンデーション(リサーチと分析)ブランド・アイデンティティの策定)
- 第4回 ブランディングの手法を学ぶ③
 (ROISプリングボード(コンセプトづくり)ブランド・ビジョンの策定)
- 第5回 ブランディングの手法を学ぶ④
 (提出・プレゼンテーション・講評)
- 第6回 商品ブランディング①(Reデザイン)
- 第7回 商品ブランディング②(Reデザイン)
- 第8回 商品ブランディング③(Reデザイン)
- 第9回 商品ブランディング④(Reデザイン)
- 第10回 商品ブランディング⑤(プレゼンテーション・講評・提出)
- 第11回 トータルブランディング①(企画書提出・プレゼンテーション)
- 第12回 トータルブランディング②(実制作)
- 第13回 トータルブランディング③(実制作)
- 第14回 トータルブランディング④(実制作)
- 第15回 トータルブランディング⑤(企画書提出・プレゼンテーション)

- 教科書：
- 参考書：
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 幸子（非常勤講師）
実務経験：フリーランスのアートディレクター・グラフィックデザイナー。主にアーティストやバンドのツアーグッズ等の商品企画およびアートディレクション・グラフィックデザインを担当。

科目名：	専門技術演習A(アートディレクション)
------	---------------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：トーン＆マナーの分析・考察・表現を経て、実践課題では任意の企業・商品等を設定して効果的な広告媒体やツールを考察・選定・制作するセールスプロモーション課題、応用課題ではグループワークを交えてイベントの企画立案・ビジュアル制作等、アートディレクターとして必要な考え方を段階的に学ぶ。

■到達目標：1：属性や世界観を伝える際に重要な、トーン＆マナーを言語化・可視化することが出来る。
2：クライアントのニーズと多様な広告媒体の特性を理解し、コンセプト・ターゲットに沿ったビジュアルで表現することが出来る。
3：プロジェクトを多面的に捉え、他者に伝えるコミュニケーション力が身に付いている。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、課題1：自己紹介コラージュ① |
| 第2回 | 課題1：自己紹介コラージュ②(プレゼンテーション) |
| 第3回 | 課題2：トーン＆マナーの分析・考察・表現(雑誌媒体の表2対向見開き制作①) |
| 第4回 | 課題2：トーン＆マナーの分析・考察・表現(雑誌媒体の表2対向見開き制作②) |
| 第5回 | 課題2：トーン＆マナーの分析・考察・表現(雑誌媒体の表2対向見開き制作③) |
| 第6回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション①) |
| 第7回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション②) |
| 第8回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション③) |
| 第9回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション④) |
| 第10回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション⑤) |
| 第11回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション①) |
| 第12回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション②) |
| 第13回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション③) |
| 第14回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション④) |
| 第15回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション⑤) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：小森 学（非常勤講師）
実務経験：カメラマンとして商業写真撮影スタジオ勤務数社を経て独立。主に広告写真撮影、人物写真撮影等を手掛けている。

科目名：専門技術演習A(撮影テクニック)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：一眼レフカメラの基本操作・撮影方法(シャッタースピード・絞りの設定・操作等)の基礎を習得し、簡易的なライティング・レフ板・自然光の使い方などの撮影技法の応用を学び、広告制作へ使用する写真撮影の実践と写真表現への理解を深める。
- 到達目標：1: 基本技術を体得し各自のクリエイティブワークへ活かすことができる。
2: 写真をビジュアルとする場合のシチュエーション・画面構成・人物や商品の配置・表情の重要性を理解し、それらを意識した表現ができる。

■授業計画：

- 第1回 撮影基礎(カメラの基本操作・フレーミング)
- 第2回 写真表現実習(基本操作を踏まえた表現およびスローシャッター・流し撮り等の実践)
- 第3回 ライティング基礎①(ストロボ1灯と各種ディフューザーを使用した効果的なライティング)
- 第4回 ライティング基礎②(撮影データの適切な作成とPhotoshopでのレタッチ実習)
- 第5回 ライティング基礎③(多灯ライティングによるライトの役割とその効果、レタッチ実習)
- 第6回 料理写真撮影(見せ方・シズル感・構成)
- 第7回 写真表現実習(ストロボ・各種ディフューザーを使用した商品撮影)
- 第8回 人物撮影基礎(屋外でのレフやストロボを使用したロケーション撮影、背景の選び方)
- 第9回 人物撮影応用(屋外ロケーションでの人物撮影)
- 第10回 人物撮影基礎
(スタジオライティングでの人物撮影とモデルとのコミュニケーションの取り方・気遣い)
- 第11回 人物撮影基礎(撮影データの適切な作成とPhotoshopでのレタッチ実習)
- 第12回 人物撮影応用(各自のテーマによるスタジオライティングでの人物撮影)
- 第13回 広告物制作(写真をメインビジュアルとした広告物の制作①)
- 第14回 広告物制作(写真をメインビジュアルとした広告物の制作②)
- 第15回 広告物制作(プレゼンテーション・講評)

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 美絵（専任教員）
実務経験：大手印刷会社包装開発部門で、ディレクターとして商品企画提案およびパッケージデザインの
アートディレクション等を担当

科目名：	専門技術演習B(パッケージデザインⅡ)
------	---------------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：市場に出回っているパッケージにはどのような種類（構造・材料・印刷方式・表面加工等）があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について、情報伝達・商品保護・販売促進等の観点から考察する。演習課題ではマーケットリサーチ・企画立案・実制作・プレゼンテーションまで行う。

■到達目標：
1: パッケージの代表的種類とその名称・構造・材料・用途を理解している。
2: パッケージが果たしている情報伝達機能について考察し実際の商品デザインに応用できる。
3: 与えられたテーマについて消費者ニーズを踏まえた企画アイデアを立案できる。
4: 制作物と提案内容についてわかりやすくまとめ、第三者へプレゼンテーションできる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・概論①(パッケージの代表的種類) |
| 第2回 | 軟包装のデザイン①(情報収集と分析) |
| 第3回 | 軟包装のデザイン②(企画立案、ラフ案制作) |
| 第4回 | 軟包装のデザイン③(データおよびダミー制作) |
| 第5回 | 軟包装のデザイン④(仕上げとプレゼンテーション) |
| 第6回 | リニューアルデザイン①(テーマ商品と競合他社についてリサーチ・分析) |
| 第7回 | リニューアルデザイン②(デザインコンセプト、ラフ案制作) |
| 第8回 | リニューアルデザイン③(データおよびダミー制作) |
| 第9回 | リニューアルデザイン④(データおよびダミー制作) |
| 第10回 | リニューアルデザイン⑤(仕上げとプレゼンテーション) |
| 第11回 | 概論②(紙器の構造・用紙・展開図・組立・表面加工) |
| 第12回 | 紙器のギフト商品企画①(地元商材を活用したギフト商品の企画立案) |
| 第13回 | 紙器のギフト商品企画②(図面と試作) |
| 第14回 | 紙器のギフト商品企画③(データおよびダミー制作) |
| 第15回 | 紙器のギフト商品企画④(仕上げとプレゼンテーション) |

■教科書：

■参考書：パッケージデザインマーケティング、箱の設計

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：どこで、誰が、どんな商品を買っているのか、作り手と消費者をつなぐために必要な情報は何か、売り場へ積極的に足を運び、多くの事例を通して探求し、試行錯誤することを求めます。

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：木野村 博人（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社、印刷会社デザイン部にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にグラフィックデザイン・ブックエディトリアル・パッケージ・CI・サイン等を手掛けている。

科目名	専門技術演習B(広告プランニング)
-----	-------------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

■科目概要：コピーライティング・セールスプロモーション・キャンペーンプランニング等、広告プランニングの基本的な考え方と総合的なノウハウとテクニックを身に付け、成功へ導くためには誰にどのようなものを届けるのがベストなのか、リーダーシップが取れる人材を育成する。

■到達目標：1: アートとデザインの違いを理解し、人に喜んでもらうことの重要性を理解している。
2: 一人で作ること、チームで作ることの意味を理解し、話し合いをまとめる力が身に付いている。
3: 説得力のある企画書とプレゼン力が身に付いている。
4: 従来の物事に捉われない自由な発想ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション、グループワーク(様々な広告媒体の特性を考える) |
| 第2回 | 課題1: 商品開発とパッケージ①(チーム会議とアイデア出し) |
| 第3回 | 課題1: 商品開発とパッケージ②(コピーとネーミング) |
| 第4回 | 課題2: ワンコピー・ワンビジュアル広告①(コピーワーク・アイデア出し) |
| 第5回 | 課題2: ワンコピー・ワンビジュアル広告②(発想・表現・制作) |
| 第6回 | 課題2: ワンコピー・ワンビジュアル広告③(仕上げ・提出) |
| 第7回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備①(アイデア出し・企画書作成) |
| 第8回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備②(発想・表現・制作) |
| 第9回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備③(発想・表現・制作) |
| 第10回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備④(発想・表現・制作) |
| 第11回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備⑤(仕上げ・提出・プレゼンテーション) |
| 第12回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング①(アイデア出し・企画書作成) |
| 第13回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング②(発想・表現・制作) |
| 第14回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング③(発想・表現・制作) |
| 第15回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング④(仕上げ・提出・プレゼンテーション) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：種村 美穂（非常勤講師）
実務経験：デザイン工房を主催し、デザイナーおよび職人として主にサインデザイン・シルクスクリーン印刷等を手掛ける。北海道美術協会・北海道版画協会会員。

科目名：専門技術演習B(シルクスクリーン)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：水性インクを用いて布にパターンデザインを展開する・油性インクを用いて紙に多色刷りを展開する等、シルクスクリーンの基本技術の習得および印刷特性を踏まえた効果的表現について考察する。また多色刷り中型作品は公募展への出品を想定。
- 到達目標：1:リピータ性を活かしたオリジナリティーのあるパターンデザインと配色の工夫ができる。
2:グラデーションや版の位置合わせができ、構図や配色のバランスを考えた表現ができる。
3:公募展出品に向け、伸びやかさとオリジナリティーのある表現を工夫できる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題1：布にパターンを刷る①(手ぬぐいのデザイン・製版準備)
- 第3回 課題1：布にパターンを刷る②(製版・調色)
- 第4回 課題1：布にパターンを刷る③(刷り・落版・提出)
- 第5回 課題2：紙に多色で刷る①(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第6回 課題2：紙に多色で刷る②(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第7回 課題2：紙に多色で刷る③(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第8回 課題2：紙に多色で刷る④(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第9回 課題2：紙に多色で刷る⑤(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第10回 課題2：紙に多色で刷る⑥(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第11回 課題2：紙に多色で刷る⑦(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第12回 課題2：紙に多色で刷る⑧(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第13回 課題2：紙に多色で刷る⑨(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第14回 課題2：紙に多色で刷る⑩(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第15回 課題2：紙に多色で刷る⑪(作品仕上げ・提出)

- 教科書：
- 参考書：
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 産業デザイン学科 イラストレーション専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
デザイン演習Ⅰ	○		1年・前期	60
デザイン演習Ⅱ	○		1年・後期	60
デザイン演習Ⅲ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅱ	○		1年・後期	60
DTP演習Ⅲ	○		2年・前期	60
デジタルイラストⅠ	○		1年・前期	60
デジタルイラストⅡ	○		1年・後期	30
イラストレーション演習	○		1年・前期	60
キャラクターデザイン	○		2年・前期	60
英語	○		1年・前期	30
合計				600

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：後藤 精二、渡邊 智美（非常勤講師）
実務経験：後藤：デザイナー・アートディレクターとして広告代理店勤務後、広告制作会社を経営。
渡邊：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとして広告制作を担当

科目名：	デザイン演習Ⅰ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：大別すると、デザインとは他者支援（誰かのためにモノ・コトを丁寧に作り上げること）、芸術とは自己表現（自分の満足のためにモノ・コトを丁寧に作り上げること）を理解しイラストレーションを基礎造形的な観点から考え、その後コンセプトからアイデアへの転換。構成学的な論理性を基本に、さまざまなイラストレーションを描くことの基本を学修する。

■到達目標：①誰に、何を、どう伝えるかなど論理的に考えること、デザイン及びイラストレーションコンセプトの理解
②グリット・比例分割などを使ったイラストレーションの構成を考える力の醸成。
③平面構成から立体構成への論理的な理解。
④完成作品発表によるプレゼンテーション能力の醸成。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 概念の理解 |
| 第2回 | 伝える＜文例を図解する＞ |
| 第3回 | 点・線・面の表現Ⅰ-1＜奥行き・リズム・整列・集中・流れ・空間＞ |
| 第4回 | 点・線・面の表現Ⅰ-2＜奥行き・リズム・整列・集中・流れ・空間＞ |
| 第5回 | 点・線・面の表現Ⅱ-1＜面により立体を感じさせる表現＞ |
| 第6回 | 点・線・面の表現Ⅱ-2＜面により立体を感じさせる表現＞ |
| 第7回 | 単化形成＜ピクトグラムの作成＞ |
| 第8回 | 単化形成＜ピクトグラムの作成＞ |
| 第9回 | グリット構成(1)＜プロポーショングリットを使ったイラスト構成＞ |
| 第10回 | グリット構成(2)＜プロポーショングリットを使ったイラスト構成＞ |
| 第11回 | グリット構成(3)＜プロポーショングリットを使ったイラスト構成＞ |
| 第12回 | 図解Ⅰ-2＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |
| 第13回 | 図解Ⅰ-2＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |
| 第14回 | 図解Ⅰ-3＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |
| 第15回 | 図解Ⅰ-4＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |

■教科書：2020授業資料：How to Graphic design & Illustration

■参考書：Illustrator操作とデザインの教科書Photoshop操作とデザインの教科書、配色アイデア手帳、あるあるデザイン

■成績評価：出席状況・取り組み姿勢・提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP演習Ⅰ・色彩演習

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：後藤 精二、渡邊 智美（非常勤講師）
実務経験：後藤：デザイナー・アートディレクターとして広告代理店勤務後、広告制作会社を経営。
渡邊：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとして広告制作を担当

科目名：	デザイン演習Ⅱ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：広告制作の基本を実践に即した形で行う。頭脳でイメージする事に見える化・PC作業による具現化をするための資料集め・アイディア出し・コンセプトメイキング・ラフレイアウト・PCによるレイアウト・効果的なフォント選びなど、基本的な技術を学修。
同時に進級制作に必要なプレゼンテーション能力も醸成。

■到達目標：①PC環境に慣れ現場に近い技術の習得。
②広告作りに必要な、論理的にイラストレーションとタイポグラフィの構成を考える力の醸成。
③タイポグラフィの感性的理解・論理的理解。
④課題完成作品発表によるプレゼンテーション能力の醸成。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 広告・コンセプトについてⅠ（グループ学習） |
| 第2回 | タイポグラフィⅠ（グループ学習） |
| 第3回 | タイポグラフィⅡ＜テキストツールの使い方＞ |
| 第4回 | グリット構成(4)＜プロポーショングリットを使った写真と文字の構成＞ |
| 第5回 | グリット構成(5)＜プロポーショングリットを使った写真と文字の構成＞ |
| 第6回 | 雑誌広告A4全頁(1) |
| 第7回 | 雑誌広告A4全頁(2) |
| 第8回 | 雑誌広告A4全頁(3) |
| 第9回 | 雑誌広告A4全頁(4) |
| 第10回 | 進級制作課題(1) |
| 第11回 | 進級制作課題(2) |
| 第12回 | 進級制作課題(3) |
| 第13回 | 進級制作課題(4) |
| 第14回 | 進級制作課題(5) |
| 第15回 | 進級制作課題(6) |

■教科書：2020授業資料:How to Graphic design & Illustration

■参考書：Illustrator操作とデザインの教科書 Photoshop操作とデザインの教科書、配色アイディア手帳、あるあるデザイン

■成績評価：出席状況・取り組み姿勢・提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：重泉 正紀、渡邊 智美（非常勤講師）
実務経験：重泉：大手ゲーム開発企業、デザイン事務所等に所属。現在はWeb制作企業代表取締役。
渡邊：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとして広告制作を担当

科目名	デザイン演習Ⅲ
-----	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：
- ・アイデアの出し方、さまざまな連想法を学び、ラフスケッチからPC作業で具現化できるよう指導する。
 - ・「何のために、何を、誰に、どう伝えたいか」を考えながら制作に向き合えるよう訓練する。
 - ・コンセプト、レイアウト、ビジュアルの考え方や作り方、適したフォント選びなど、PC作業（主にIllustrator）のスキルが上がるよう促す。
 - ・提出する際にはプレゼンを行い、物怖じせずにコンセプトやデザインの考え方をしっかりと伝えるよう訓練する。
- 到達目標：
- ・どのような条件でもアイデアを出せる柔軟な発想を身につける。
 - ・何を伝えるのが一番大切なのかを的確にとらえ、自由な発想でデザインすることができる。
 - ・アイデアだけに満足せず、文字組みなど細部まで気を使えるようになる。即戦力として現場でも役立つスキルを身につける。
 - ・プレゼンに慣れ、どう話せば伝わりやすいのかを考えられるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・課題1 雑誌広告(1) |
| 第2回 | 課題1 雑誌広告(2) |
| 第3回 | 課題1 雑誌広告(3) |
| 第4回 | 課題2 ロゴマーク(1) |
| 第5回 | 課題2 ロゴマーク(2) |
| 第6回 | 課題2 ロゴマーク(3) |
| 第7回 | 課題2 ロゴマーク(4) |
| 第8回 | 課題3 新生活応援マップ(1) |
| 第9回 | 課題3 新生活応援マップ(2) |
| 第10回 | 課題3 新生活応援マップ(3) |
| 第11回 | 課題4 新生活のキャンペーンチラシ(1) |
| 第12回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(2) |
| 第13回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(3) |
| 第14回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(4) |
| 第15回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：吉岡 彰、小守 芹奈、成田 千尋（非常勤講師）
実務経験：吉岡：大手印刷会社にてデザイン・イラストの仕事に携わった後、デザイン事務所で広告や官公庁・教育機関向けの漫画などを制作。退職後はフリーランスとして学習漫画の制作も手がける。日本漫画家協会会員。
小守：アニメーション会社にてアニメーション・イラストの仕事に携わった後、ゲーム会社でUIデザインなどのデザイン制作を担当、退職後フリーランスとして活躍。
成田：大手ゲーム会社でデザイナーとしてキャラクター制作を担当、退職後フリーランスとしてwebコミック制作を担当。

科目名	デジタルイラストⅠ
-----	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：イラストレーション制作において現場での利用率が高まっているPC、ペンタブレットを用いたデジタルイラストについて基礎から応用まで実際に制作しながら習得を図る。ゲームキャラクター、背景イラスト、電子コミック、コミックキャラクターなど幅広い課題に取り組む。

■到達目標：ペンタブレット・クリップスタジオの基本操作。
人物の描き分け、基本的なパースを理解した作画。
専門課題A（吉岡） デフォルメを生かした擬人化キャラクターの作画

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | CLIP STUDIO PAINT チュートリアル① / ペンタブレット チュートリアル |
| 第2回 | CLIP STUDIO PAINT チュートリアル② |
| 第3回 | CLIP STUDIO PAINT チュートリアル③ /プレゼンテーション |
| 第4回 | 人物描き分け①:年齢差、体格の異なる4～5名を配置し描き分ける |
| 第5回 | 人物描き分け② |
| 第6回 | 人物描き分け③ |
| 第7回 | 人物描き分け④ |
| 第8回 | 風景とパース①:クリスタのパース定規の訓練 建物を描き、前景に人物を配置 |
| 第9回 | 風景とパース② |
| 第10回 | 風景とパース③ |
| 第11回 | 風景とパース④ |
| 第12回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)①: |
| 第13回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)② |
| 第14回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)③ |
| 第15回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)④ |

■教科書：360度どんな角度もカンペキマスター! マンガキャラデッサン入門(西東社)

■参考書：必修CLIPSTUDIOPAINTマスター(株式会社オブラゴン)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 産業デザイン学科
対象専攻: イラストレーション専攻
担当教員: 吉岡 彰、小守 芹奈、成田 千尋 （非常勤講師）
実務経験: 吉岡：大手印刷会社にてデザイン・イラストの仕事に携わった後、デザイン事務所で広告や官公庁・教育機関向けの漫画などを制作。退職後はフリーランスとして学習漫画の制作も手がける。日本漫画家協会会員。
 小守：アニメーション会社にてアニメーション・イラストの仕事に携わった後、ゲーム会社でUIデザインなどのデザイン制作を担当、退職後フリーランスとして活躍。
 成田：大手ゲーム会社でデザイナーとしてキャラクター制作を担当、退職後フリーランスとしてwebコミック制作を担当。

科目名：

デジタルイラストⅡ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 後期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

■科目概要： デジタルイラスト専門課題に取り組み、デジタル描画力をつける。

■到達目標： 専門課題B（高橋） パース定規を用いた建物を作画し風景描画力をつける。または、カードゲームキャラクターをデザインし描画する。
 専門課題C（成田） webマンガcomicoと企業連携し、ストーリーまで含めた「ネーム賞」またはデジタル作画のみ行う「作画賞」いずれかにエントリーし学内コンペとして競う。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター①: |
| 第2回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター② |
| 第3回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター③ |
| 第4回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター④ |
| 第5回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター⑤ |
| 第6回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター⑥ |
| 第7回 | 専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター⑦ |
| 第8回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞① |
| 第9回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞② |
| 第10回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞③ |
| 第11回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞④ |
| 第12回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑤ |
| 第13回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑥ |
| 第14回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑦ |
| 第15回 | 専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑧ |

■教科書： 360度どんな角度もカンペキマスター! マンガキャラデッサン入門(西東社)

■参考書： comico デジタル漫画のテクニック 2nd (comico編集部)

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：ゴトウ マキエ（非常勤講師）
実務経験：印刷会社にてイラストレーター、編集デザインを担当。退社後はフリーイラストレーターとして活動。

科目名	DTP演習 I
-----	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：デザイン制作で必要不可欠となったデジタル技術をDTPの知識やアプリケーションとともに学習する。前半はillustratorを使用してグラフィック技術を学びながらデジタルの操作感に慣れていくことを基本とし、後半はDTPの知識やルール、Photoshopによる画像生成の基本を学ぶことや印刷物制作を通して実務的なDTPワークフローを実習する。その他にPC以外のDTP関連の周辺機器の正しい取り扱いと操作を実習し制作に活用できるようにする。

■到達目標：

- ・DTP、印刷工程の知識の習得
- ・DTPアプリケーション（illustratorおよびPhotoshop）の基本操作の習得
- ・アプリケーションとデジタル機器類の連携操作を理解したデザイン制作ができる

■授業計画：

第1回	DTP概要・デジタル基礎
第2回	illustrator基礎(1)
第3回	illustrator基礎(2)
第4回	illustrator基礎(3)
第5回	illustrator基礎(4)
第6回	illustrator基礎(5)
第7回	illustrator基礎(6)
第8回	illustrator基礎(7)
第9回	illustrator基礎(8)
第10回	illustrator基礎(9)
第11回	illustrator基礎(10)
第12回	illustrator基礎(11)
第13回	文字デザイン課題(1)
第14回	文字デザイン課題(2)
第15回	文字デザイン課題(3)

■教科書：Illustrator操作とデザインの教科書 Photoshop操作とデザインの教科書

■参考書：配色アイデア手帳、あるあるデザイン

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：五十嵐 志保子（非常勤講師）
実務経験：企業にてCGソフトのテクニカルサポートやオペレーターを経てフリーのCGオペレーターとして活動。

科目名：	DTP演習Ⅱ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：前期で習得したDTP知識、Illustrator基礎操作を踏まえた上でPhotoshopの基礎を学ぶことでDTPワークフローでのそれぞれの役割を把握し円滑な印刷媒体制作ができるようになる。印刷セミナーを通して印刷行程の理解を深めたり、カメラ撮影実習を通しデジタル画像の作成操作などをDTP制作に活用できるようにする。

■到達目標：
・Photoshopの基礎の習得
・IllustratorとPhotoshopの連携や他の機器類の操作を通じてDTPワークフローの理解を深めスキルアップする
・媒体制作やポートフォリオ素材用の画像撮影方法や補正などの画像制作ワークフローの理解と習得

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 印刷・入稿 |
| 第2回 | Photoshop基礎1 |
| 第3回 | Photoshop基礎2 |
| 第4回 | Photoshop基礎3 |
| 第5回 | 撮影実習(2-1) |
| 第6回 | 撮影実習(2-2) |
| 第7回 | Photoshop基礎4(2-1) |
| 第8回 | Photoshop基礎4(2-2) |
| 第9回 | 印刷物実践(4-1) |
| 第10回 | 印刷物実践(4-2) |
| 第11回 | 印刷物実践(4-3) |
| 第12回 | 印刷物実践(4-4) |
| 第13回 | 印刷実習(2-1) |
| 第14回 | 印刷実習(2-2) |
| 第15回 | 課題講評 |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書、デザイン。知らないと困る現場の新100のルール、あるあるデザイン 他

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：五十嵐 志保子（非常勤講師）
実務経験：企業にてCGソフトのテクニカルサポートやオペレーターを経てフリーのCGオペレーターとして活動。

科目名：DTP演習Ⅲ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：1年時で得たスキルをベースに課題制作で実践的に使用して自己スキルの確認をしながら、実務で求められる知識やスキルの充足を計る。媒体制作に使用できるクオリティのあるモチーフ画像の撮影や補正など画像作成ワークフローの実践。InDesignの基礎を学び、ページレイアウトの概念及びDTPの制作環境の理解を深める。

■到達目標：・正確な印刷媒体のデータ作成の知識と各アプリケーション操作の確実な定着
・印刷媒体ごとの規格の違いやポイントを掴み、進路につながる自己表現、技術を追求した制作ができる

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | InDesign基礎1 |
| 第2回 | InDesign基礎2 |
| 第3回 | InDesign基礎3 |
| 第4回 | InDesign基礎4 |
| 第5回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-1) |
| 第6回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-2) |
| 第7回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-3) |
| 第8回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-4) |
| 第9回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-5) |
| 第10回 | デジタルワーク2 プロモーションツール②(2-1) |
| 第11回 | デジタルワーク2 プロモーションツール②(2-2) |
| 第12回 | デジタルワーク3 カタログ(4-1) |
| 第13回 | デジタルワーク3 カタログ(4-2) |
| 第14回 | デジタルワーク3 カタログ(4-3) |
| 第15回 | デジタルワーク3 カタログ(4-4) |

■教科書：世界一わかりやすい操作とデザインの教科書
デザイン。知らないと困る現場の新・100のルール 他

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：池田 蔵人（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとしてキャラクター・イラストレーションの作画を担当、現在はフリーランスとして雑誌カット、絵本、広告イラスト、グッズ制作を行う。

科目名：イラストレーション演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：
- ・新聞、雑誌、ポスター、パンフレット等の広告媒体で使用するイラストレーションの役割を理解し、表現方法や技術を習得。
 - ・独りよがりではない、受け手にメッセージがしっかりと届くイラスト表現を身につける。
 - ・アイデア出しやイメージの膨らませ方をトレーニングする。
 - ・クライアントや読み手を意識したイラストを制作。

- 到達目標：
- ・Illustratorを使用したデジタルイラストの技術を習得。
 - ・クライアントが求める様々な要望を理解し、オリジナリティのあるイラストを制作できるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(1) |
| 第3回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(2) |
| 第4回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(3) |
| 第5回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(4) |
| 第6回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(5) |
| 第7回 | 円山動物園ポストカードデザイン(1) |
| 第8回 | 円山動物園ポストカードデザイン(2) |
| 第9回 | 円山動物園ポストカードデザイン(3) |
| 第10回 | 円山動物園ポストカードデザイン(4) |
| 第11回 | 円山動物園ポストカードデザイン(5) |
| 第12回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(1) |
| 第13回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(2) |
| 第14回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(3) |
| 第15回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(4) |

■教科書：

■参考書：心おどるイラスト×伝わるデザイン(PIE)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：藤岡 照也、ゴトウ マキエ（非常勤講師）
実務経験：藤 岡：広告代理店でアート ディレクターとして印刷物全般のデザインの他 市町村要覧やご当地キャラクターを担当
ゴトウ：印刷会社にてイラストレーター、編集デザインを担当。退社後はフリーイラストレーターとして活動。

科目名：キャラクターデザイン

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：キャラクターの基本的な概要を理解し、個性的で広く一般に受け入れられるバランスの良いキャラクターを追求し、多数のアイディアの中から作成する。さらに、商品化、広告やグッズ展開など、お客様のニーズに合わせたバリエーションゆたかなキャラクターを最終的に企画書レベルで設定、制作し、コンペなどにも積極的に参加する。

■到達目標：クライアントが何を望んでいるかを理解でき、それをスピーディーに形に出来る。
キャラクターをどのような手順で展開して媒体化するか、理解する。
キャラクターをさらに効果的に見せるポーズやアクション、紙面での見せ方を理解できる。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 基礎知識と授業の最終目標 |
| 第2回 | 取材→テーマパークキャラクター制作(1) |
| 第3回 | 制作(2) |
| 第4回 | 制作(3) |
| 第5回 | 制作(4)・提出 |
| 第6回 | プレゼンテーション |
| 第7回 | 上川町キャラクター制作(1) |
| 第8回 | 上川町市町村キャラクター制作(2) |
| 第9回 | 上川町市町村キャラクター制作(3) |
| 第10回 | 上川町市町村キャラクター制作(4) |
| 第11回 | 取材→企画→制作 |
| 第12回 | プレゼンテーション |
| 第13回 | キャラクターコンペ課題制作(1)リサーチ→市場把握 |
| 第14回 | 取材→企画→制作(2) |
| 第15回 | 商品化 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：宮崎 昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：英語

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。

■到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む。

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書：プリント配布

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 マルチメディアデザイン学科
CG・Webデザイン専攻 / Web・動画クリエイター専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
ベーシックデザイン	○		1年・前期	60
Photoshop基礎	○		1年・前期	60
デザイン概論 I	○		1年・前期	60
Webコーディング基礎 I	○		1年・前期	30
Webコーディング基礎 II	○		1年・前期	60
映像制作基礎	○		1年・前期	60
Photoshop応用	○		1年・後期	30
UIデザイン	○		1年・後期	30
デザイン概論 II	○		1年・後期	60
Webコーディング応用 I	○		1年・後期	60
Webコーディング応用 II	○		1年・後期	30
映像制作応用	○		1年・後期	60
専門技術演習 I				
モーショングラフィックス		○	2年・前期	60
デジタルエフェクト				
専門技術演習 II				
CMS演習		○	2年・前期	60
ゲームエンジン演習				
専門技術演習 III				
Webインタラクティブ I		○	2年・前期	60
3DCGビジュアライゼーション I				
専門技術演習 IV				
Webインタラクティブ II		○	2年・前期	60
3DCGビジュアライゼーション II				
英会話	○		1年・前期	30
合 計				870

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 山本 睦子 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作プロダクション勤務を経て、現在はアートディレクター。
企業、高等教育機関等のアドバタイジングデザイン等を担当。

科目名： **ベーシックデザイン**

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： 鉛筆や定規など、デザイン道具の正しい使い方の学習
平面構成の演習を通じ情報やメッセージを伝達する基礎的手段を身につける
- 到達目標： 伝達したい事柄に対し、その手段について考えを巡らせることができる
デザインの道具を正しく使い、思考を目に見える形に表すことができる

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション／授業内容 日程 進め方 自己紹介 |
| 第2回 | 道具紹介／道具について |
| 第3回 | デザイン道具を使ってみる ペーパークラフトの組み立て |
| 第4回 | デザイン基礎知識① コラージュ技法を使い平面構成を体験 |
| 第5回 | デザイン基礎知識② ビジュアル表現方法とレイアウトを学ぶ |
| 第6回 | デザイン基礎技術力① 作品制作 |
| 第7回 | デザイン基礎技術力② カラーコピーを理解 |
| 第8回 | デザイン基礎技術力③ 文字をレイアウトするスキルの必要性和理解 |
| 第9回 | デザイン基礎技術力④ 円山動物園オリジナルグッズトートバッグをつくる |
| 第10回 | デザイン基礎技術力⑤ 作品制作 |
| 第11回 | デザイン基礎技術力⑥ 講評会 |
| 第12回 | デザイン基礎技術力① 校外学習 クロッキー |
| 第13回 | デザイン基礎技術力② 水彩色えんぴつを使ったモダンアート技法を学ぶ |
| 第14回 | デザイン基礎技術力③ 講評会 |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名：	Photoshop基礎
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： Photoshop操作の基本を学習
ワークフローの構築、必要な作業時間の見積、スケジュール立ての習得
- 到達目標： 基本操作の理解・習得
ワークフロー・スケジュールを意識した制作ができるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション／本講義の概要と今後の課題と提出方法などの説明 |
| 第2回 | レイヤー操作・編集・仕上げ① 概念、操作法 |
| 第3回 | レイヤー操作・編集・仕上げ② 作品完成までの流れを実践 |
| 第4回 | 写真合成・加工 基本 ①写真合成の基本操作 |
| 第5回 | 写真合成・加工 基本 ②各種選択範囲コマンドとマスクの概念 |
| 第6回 | 写真合成・加工 応用①各自解釈でファンタジー世界のリアルな風景を作る |
| 第7回 | 写真合成・加工 応用②マスク・調整レイヤー・フィルターの理解 |
| 第8回 | 写真合成・加工 応用③レンズやライティングなどの仕上げ作業を掘り下げ |
| 第9回 | 写真合成・加工 応用④仕上げ プレゼン・講評 |
| 第10回 | 広告ビジュアル①レイヤースタイル・テキストの使い分け |
| 第11回 | 広告ビジュアル②フィルタ・アピアランスの使い分け |
| 第12回 | 広告ビジュアル③ビジュアル＋テキストで広告を製作する |
| 第13回 | 広告ビジュアル④アイコン・テキスト制作 |
| 第14回 | 広告ビジュアル⑤ゲーム画面(ビジュアル)も制作 |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名：	デザイン概論 I
------	----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Webデザインの基本的なレイアウト、様々な表現方法を学習

■到達目標： Webデザインにおける基本的な知識と技術を習得

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／デザインの目的について解説。
- 第2回 Webデザイン基礎①バナー広告の研究
- 第3回 Webデザイン基礎②WEBデザインの研究
- 第4回 Webデザイン基礎③サイト制作フロー
- 第5回 Webデザイン基礎④文字で変わるデザインの印象
- 第6回 練習課題① 既存PCサイトのスマホ版レイアウトを計画
- 第7回 練習課題② ワイヤフレーム作成
- 第8回 練習課題③ 実データ作成
- 第9回 練習課題④ バリエーション作成
- 第10回 広告制作① テーマ、ターゲットの設定
- 第11回 広告制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作
- 第12回 広告制作③ デザイン性とユーザビリティを兼ね備えたレイアウトを検討
- 第13回 広告制作④ 仕上げ
- 第14回 広告制作⑤ プレゼンテーション 講評
- 第15回 授業のまとめ

■教科書： いちばんよくわかるWebデザインの基本(SBCreative)

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング基礎 I
------	----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： テーマに沿ったWebサイトを自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する

■到達目標： HTMLとCSSで構成されたWebサイトデータ制作
「Webクリエイター能力認定試験」(9月予定)の合格

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／インターネットとWebサイトの理解
- 第2回 HTML・CSSコーディングの基礎① HTMLのタグ、CSSのプロパティを学習
- 第3回 HTML・CSSコーディングの基礎② カラーコードについての解説
- 第4回 HTML・CSSコーディングの基礎③ 簡単な装飾画像を制作
- 第5回 Webサイトのデザイン制作① 装飾用画像の制作・取り込みなどを体験
- 第6回 Webサイトのデザイン制作② HTMLとCSSの関係を理解
- 第7回 Webサイトのデザイン制作③ ファイルのディレクトリ構造を正しく認識
- 第8回 Webサイトのデザイン制作④ Webサイトに最適な画像データの取得を理解
- 第9回 サイトデザイン評価① 良質なWebデザインを調査・分析
- 第10回 サイトデザイン評価② 評価レポート作成
- 第11回 サイトデザイン評価③ プレゼンテーション
- 第12回 Webクリエイター能力認定試験①
- 第13回 Webクリエイター能力認定試験②
- 第14回 Webクリエイター能力認定試験③
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書： Webクリエイター能力認定試験HTML5対応 スタンダード公式テキスト

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング基礎 II
------	-----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： テーマに沿ったWebサイトを自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する

■到達目標： HTMLとCSSで構成されたWebサイトデータ制作
「Webクリエイター能力認定試験」(9月予定)の合格

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／インターネットとWebサイトの理解
- 第2回 HTML・CSSコーディングの基礎① HTMLのタグ、CSSのプロパティを学習
- 第3回 HTML・CSSコーディングの基礎② カラーコードについての解説
- 第4回 HTML・CSSコーディングの基礎③ 簡単な装飾画像を制作
- 第5回 Webサイトのデザイン制作① 装飾用画像の制作・取り込みなどを体験
- 第6回 Webサイトのデザイン制作② HTMLとCSSの関係を理解
- 第7回 Webサイトのデザイン制作③ ファイルのディレクトリ構造を正しく認識
- 第8回 Webサイトのデザイン制作④ Webサイトに最適な画像データの取得を理解
- 第9回 サイトデザイン評価① 良質なWebデザインを調査・分析
- 第10回 サイトデザイン評価② 評価レポート作成
- 第11回 サイトデザイン評価③ プレゼンテーション
- 第12回 Webクリエイター能力認定試験①
- 第13回 Webクリエイター能力認定試験②
- 第14回 Webクリエイター能力認定試験③
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書： Webクリエイター能力認定試験HTML5対応 スタンダード公式テキスト

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作基礎
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： AfterEffectsの基本操作を学ぶ

■到達目標： キーフレームアニメーションの基本を理解する
エフェクトを効果的に使用した映像を作成できるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | AfterEffectsの基礎 AfterEffectsについての解説。各パネルの役割について。 |
| 第2回 | トランスフォーム(1) トランスフォームの把握。 |
| 第3回 | トランスフォーム(2) アンカーポイントを用いたモーション。 |
| 第4回 | トランジション |
| 第5回 | マスク・パスアニメーション |
| 第6回 | パスのトリミング |
| 第7回 | 音楽にあわせた編集 |
| 第8回 | 文字のオフセット |
| 第9回 | 文字アニメーション編集 |
| 第10回 | エフェクトの解説 |
| 第11回 | 手書き風アニメーション |
| 第12回 | 3Dレイヤー(1) |
| 第13回 | 3Dレイヤー(2) |
| 第14回 | アイキャッチ(1) |
| 第15回 | アイキャッチ(2) |

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名：	Photoshop応用
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： レイアウト・見せ方・伝えることの意識を知る
様々なデザイン・イラストの構成や加工を学ぶ
- 到達目標： 自ら考え学び、それを作品に落とし込むことができるようになる
Photoshopクリエイター能力認定試験合格相当の知識と技術を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 写真合成・加工 発展① |
| 第2回 | 写真合成・加工 発展② |
| 第3回 | 写真合成・加工 発展③ |
| 第4回 | 写真合成・加工 発展④ |
| 第5回 | 写真合成・加工 発展⑤ |
| 第6回 | 広告ビジュアル2① |
| 第7回 | 広告ビジュアル2② |
| 第8回 | 広告ビジュアル2③ |
| 第9回 | 広告ビジュアル2④ |
| 第10回 | 広告ビジュアル2⑤ |
| 第11回 | 広告ビジュアル2⑥ |
| 第12回 | 検定対策① Photoshopクリエイター能力認定試験対策授業 |
| 第13回 | 検定対策② サンプル問題を活用し実技・実践問題の練習 |
| 第14回 | 検定対策③ 作業を効率的に進めることができる実践的なスキルを習得する |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書： Photoshopクリエイター能力認定試験問題集

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 重泉 正紀 (非常勤講師)
実務経験： 大手ゲーム開発企業、デザイン事務所等に所属。現在はWeb制作企業代表取締役。
雑誌広告制作、ゲームグラフィックデザイン、Webサイト企画・制作・運用等を担当。

科目名： UIデザイン

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： UIデザインの理解と活用について知る
ユーザビリティとは何かを学ぶ
- 到達目標： UIデザインおよびユーザビリティを正しく理解する

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムの理解
- 第3回 タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムの理解
- 第4回 CI、VIの理解
- 第5回 アイコン表示によるUI作成(1)
- 第6回 アイコン表示によるUI作成(2)
- 第7回 アイコン表示によるUI作成(3)
- 第8回 インターフェイスの理解
- 第9回 UIによる情報表示(1)
- 第10回 UIによる情報表示(2)
- 第11回 UIによる情報表示(3)
- 第12回 UIによる情報表示(4)
- 第13回 動的画面の作成(1)
- 第14回 動的画面の作成(2)
- 第15回 動的画面の作成(3)

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名： デザイン概論 II

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Webデザインの理解 ユーザビリティを考慮したデザイン制作

■到達目標： Webデザインおよびユーザビリティへの応用力習得

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／デザイン応用概論
- 第2回 ティザーサイト化① 企画、ターゲット設定
- 第3回 ティザーサイト化② ワイヤーフレーム制作
- 第4回 ティザーサイト化③ 実制作
- 第5回 ティザーサイト化④ ブラッシュアップ
- 第6回 ティザーサイト化⑤ プレゼンテーション 講評
- 第7回 デザインリニューアル① 情報収集
- 第8回 デザインリニューアル② コンセプトの決定
- 第9回 デザインリニューアル③ ワイヤーフレーム作成
- 第10回 デザインリニューアル④ 実データ作成
- 第11回 デザインリニューアル⑤ 実データ作成
- 第12回 デザインリニューアル⑥ 実データ作成
- 第13回 デザインリニューアル⑦ ブラッシュアップ
- 第14回 デザインリニューアル⑧ プレゼンテーション 講評
- 第15回 授業のまとめ

■教科書： いちばんよくわかるWebデザインの基本(SBCreative)

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。
現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング応用 I
------	----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： テーマに沿ったWebサイトを生徒自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する

■到達目標： CSS(スタイルシート)を駆使した効果的なWebサイト制作の手法を身につける
HTMLとCSSの適切なコーディング技術を身につける
演出として効果的なjQuery (JavaScript) の活用方法とデータ制作を行う

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | HTML・CSSコーディングの応用① HTML・CSSの復習 |
| 第2回 | HTML・CSSコーディングの応用② HTML・CSSの応用 |
| 第3回 | jQueryの活用① 効果的な演出 |
| 第4回 | jQueryの活用② いくつかの機能 |
| 第5回 | Webサイトのデザイン制作① リニューアルデザインを企画 |
| 第6回 | Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作 |
| 第7回 | Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作 |
| 第8回 | Webサイトのデザイン制作④ 完成 |
| 第9回 | Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション |
| 第10回 | Webサイトのデザイン制作① 特設サイトデザインを企画 |
| 第11回 | Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作 |
| 第12回 | Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作 |
| 第13回 | Webサイトのデザイン制作④ 完成 |
| 第14回 | Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。
現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング応用 II
------	-----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： テーマに沿ったWebサイトを生徒自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する
- 到達目標： CSS(スタイルシート)を駆使した効果的なWebサイト制作の手法を身につける
HTMLとCSSの適切なコーディング技術を身につける
演出として効果的なjQuery(JavaScript)の活用方法とデータ制作を行う

■授業計画：

- 第1回 HTML・CSSコーディングの応用① HTML・CSSの復習
- 第2回 HTML・CSSコーディングの応用② HTML・CSSの応用
- 第3回 jQueryの活用① 効果的な演出
- 第4回 jQueryの活用② いくつかの機能
- 第5回 Webサイトのデザイン制作① リニューアルデザインを企画
- 第6回 Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作
- 第7回 Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作
- 第8回 Webサイトのデザイン制作④ 完成
- 第9回 Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション
- 第10回 Webサイトのデザイン制作① 特設サイトデザインを企画
- 第11回 Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作
- 第12回 Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作
- 第13回 Webサイトのデザイン制作④ 完成
- 第14回 Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作応用
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Adobe Aftereffectsのより広い映像分野での活用について学ぶ。

■到達目標： Adobe Aftereffectsの応用的な使い方。
3Dレイヤーの論理的・感覚的把握。
主要エフェクトの把握。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 3Dレイヤーの応用 |
| 第2回 | アクションエフェクトの作成(1) 斬撃などのエフェクト |
| 第3回 | アクションエフェクトの作成(2) 炎などのエフェクト |
| 第4回 | アクションエフェクトの作成(3) 独自のエフェクトのデザインと作成 |
| 第5回 | アクションエフェクトの作成(4) |
| 第6回 | アクションエフェクトの作成(5) |
| 第7回 | アクションエフェクトの作成(6) |
| 第8回 | 音響効果(1) 音響効果について |
| 第9回 | 音響効果(2) アクションエフェクト動画に効果音を追加する |
| 第10回 | 音響効果(3) |
| 第11回 | 音響効果(4) |
| 第12回 | 音響効果(5) |
| 第13回 | 音響効果(6) |
| 第14回 | 実写合成(1) Live2Dアニメーションに実写背景を合成する |
| 第15回 | 実写合成(2) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	モーショングラフィックス
------	--------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Adobe AfterEffectsの高度な操作について学ぶ。
映像演出をもとに映像石器の方法の理解と作品制作を行う。

■到達目標： 映像演出および表現力を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | モーショングラフィックスについて |
| 第2回 | 親子コンポジションとカメラ—レイヤー パペットピンツール |
| 第3回 | 照明と色調補正 |
| 第4回 | オーディオスペクトラム(1) |
| 第5回 | オーディオスペクトラム(2) |
| 第6回 | アルファマット系 |
| 第7回 | 実写合成によるモーショングラフィックス(1) |
| 第8回 | 実写合成によるモーショングラフィックス(2) |
| 第9回 | 実写合成によるモーショングラフィックス(3) |
| 第10回 | グラフ・アニメーション(1) |
| 第11回 | グラフ・アニメーション(2) |
| 第12回 | モニターグラフィックス |
| 第13回 | 交通安全動画の制作(1) |
| 第14回 | 交通安全動画の制作(2) |
| 第15回 | 交通安全動画の制作(3) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	デジタルエフェクト
------	-----------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 映像作品をもとに映像の基本的な組み立て方と演出について学ぶ

■到達目標： 映像制作の把握と映像演出の習得

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | ショットサイズとアングルについて(1) ショットの種類と印象の違い |
| 第2回 | ショットサイズとアングルについて(2) AEでのレンズ再現 |
| 第3回 | カメラワーク |
| 第4回 | 映像加工 |
| 第5回 | モーショントラッキング |
| 第6回 | ショートムービー制作(1) アニメ、CG、実写等、得意な方法で制作 |
| 第7回 | ショートムービー制作(2) |
| 第8回 | ショートムービー制作(3) |
| 第9回 | ショートムービー制作(4) |
| 第10回 | ショートムービー制作(5) |
| 第11回 | 絵コンテを描く(1) ラフの作成 |
| 第12回 | 絵コンテを描く(2) カメラ配置図の作成 |
| 第13回 | 絵コンテを描く(3) 絵コンテのスキャン |
| 第14回 | 絵コンテを描く(4) 動画コンテの作成 |
| 第15回 | 絵コンテを描く(5) 仕上げ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。
現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	CMS演習
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： CMS(コンテンツ管理システム)を活用しWebサイトを総合的・動的に構築することを学習する。

■到達目標： WordpressによるWebサイト構築をして自ら運用できるようになることを目指す。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | CMSの概要 |
| 第2回 | Wordpressの構成ファイルとインストール |
| 第3回 | 固定ページによるサイト構築 |
| 第4回 | 記事の投稿・カテゴリ設定 |
| 第5回 | ダッシュボード(管理画面)の活用 |
| 第6回 | テーマのカスタマイズ(1) |
| 第7回 | テーマのカスタマイズ(2) |
| 第8回 | テーマのカスタマイズ(3) |
| 第9回 | functionのカスタマイズ(1) |
| 第10回 | functionのカスタマイズ(2) |
| 第11回 | プラグインの活用 |
| 第12回 | オリジナルテーマ構築(1) |
| 第13回 | オリジナルテーマ構築(2) |
| 第14回 | オリジナルテーマ構築(3) |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	ゲームエンジン演習
------	------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： ゲームエンジンを用いたリアルタイムグラフィックの学習

■到達目標： ゲームエンジンへモデルデータを送り適切な設定をできるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Unity、UE4、Clusterの基本操作について |
| 第2回 | Unityの基本操作とVRMファイルについて |
| 第3回 | アバターデザインとモデル制作(1) |
| 第4回 | アバターデザインとモデル制作(2) |
| 第5回 | アバターデザインとモデル制作(3) |
| 第6回 | アバターデザインとモデル制作(4) |
| 第7回 | アバターデザインとモデル制作(5) |
| 第8回 | アバターデザインとモデル制作(6) |
| 第9回 | ワールドのデザインと制作(1) |
| 第10回 | ワールドのデザインと制作(2) |
| 第11回 | ワールドのデザインと制作(3) |
| 第12回 | ワールドのデザインと制作(4) |
| 第13回 | UnrealEngine4について(1) 基本操作について |
| 第14回 | UnrealEngine4について(2) モデルの読み込みとマテリアルノード |
| 第15回 | UnrealEngine4について(3) カメラの設定とレンダリング |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名：	Webインタラクティブ I
------	---------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： インタラクティブコンテンツ制作の基本を学び、幅広いWEBサイトの表現方法に触れる。
- 到達目標： javascript, jQueryの基本的な知識の習得。
様々なインタラクティブコンテンツの表現を学ぶ。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／WEB基礎概論
- 第2回 javascript基礎①
- 第3回 javascript基礎②
- 第4回 javascript基礎③
- 第5回 jQuery基礎
- 第6回 練習問題①
- 第7回 練習問題②
- 第8回 ランディングページ①
- 第9回 ランディングページ②
- 第10回 ランディングページ③
- 第11回 デジタルポートフォリオ①
- 第12回 デジタルポートフォリオ②
- 第13回 デジタルポートフォリオ③
- 第14回 デジタルポートフォリオ④
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名：	Webインタラクティブ II
------	-----------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： インタラクティブコンテンツ制作の基本を学び、幅広いWEBサイトの表現方法に触れる。
- 到達目標： javascript, jQueryの基本的な知識の習得。
様々なインタラクティブコンテンツの表現を学ぶ。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／WEB基礎概論
- 第2回 javascript基礎①
- 第3回 javascript基礎②
- 第4回 javascript基礎③
- 第5回 jQuery基礎
- 第6回 練習問題①
- 第7回 練習問題②
- 第8回 ランディングページ①
- 第9回 ランディングページ②
- 第10回 ランディングページ③
- 第11回 デジタルポートフォリオ①
- 第12回 デジタルポートフォリオ②
- 第13回 デジタルポートフォリオ③
- 第14回 デジタルポートフォリオ④
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション I
------	-----------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション I
------	-----------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 宮崎 昭人 (非常勤講師)
実務経験： Just English Press Ltd.代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名： 英会話

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する
- 到達目標： 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書： プリント配布

■参考書： 辞書があれば望ましい

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 マルチメディアデザイン学科 アニメ・ゲームクリエイター専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
ベーシックデザイン	○		1年・前期	60
Photoshop基礎	○		1年・前期	60
人物作画	○		1年・前期	60
作画技法基礎	○		1年・前期	60
blender基礎	○		1年・前期	60
映像制作基礎	○		1年・前期	60
Photoshop応用	○		1年・後期	30
動画制作	○		1年・後期	30
作画技法応用	○		1年・後期	30
blender応用 I	○		1年・後期	60
blender応用 II	○		1年・後期	30
映像制作応用	○		1年・後期	60
Live2D基礎	○		1年・後期	30
映像制作 II	○		2年・前期	60
デジタルエフェクト	○		2年・前期	60
ゲームエンジン演習	○		2年・前期	60
3Dビジュアライゼーション I	○		2年・前期	60
3Dビジュアライゼーション II	○		2年・前期	60
英会話	○		1年・前期	30
合 計				960

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 山本 睦子 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作プロダクション勤務を経て、現在はアートディレクター。
企業、高等教育機関等のアドバタイジングデザイン等を担当。

科目名：	ベーシックデザイン
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 鉛筆や定規など、デザイン道具の正しい使い方の学習
表現の楽しさを知りデザインの魅力を実感する

■到達目標： 伝達したい事柄に対し、その手段について考えを巡らせることができる
デザインの道具を正しく使い、思考を目に見える形に表すことができる

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション／授業内容 日程 進め方 自己紹介 |
| 第2回 | 道具紹介／道具について |
| 第3回 | デザイン制作① ペーパークラフトの組み立て |
| 第4回 | デザイン制作② コラージュ技法を使い平面構成を体験 |
| 第5回 | デザイン基礎知識① ビジュアル表現方法とレイアウトを学ぶ |
| 第6回 | デザイン基礎知識② 作品制作 |
| 第7回 | デザイン基礎知識③ カラーコピーを理解 |
| 第8回 | デザイン基礎技術① 文字をレイアウトするスキルの必要性和理解 |
| 第9回 | デザイン基礎技術② オリジナル名刺制作 |
| 第10回 | デザイン基礎技術③ 文字詰め、レイアウト技術の習得 |
| 第11回 | デザイン基礎技術④ 名刺交換会実施 ビジネスマナーレクチャー |
| 第12回 | デザイン基礎技術⑤ 校外学習 クロッキー |
| 第13回 | デザイン基礎技術⑥ スケッチをもとにキャラクターデザイン |
| 第14回 | デザイン基礎技術⑦ オリジナル雑貨制作 |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名： Photoshop基礎

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Photoshop操作の基本を学習
ワークフローの構築、必要な作業時間の見積、スケジュール立ての習得

■到達目標： 基本操作の理解・習得
ワークフロー・スケジュールを意識した制作ができるようになる

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／本講義の概要と今後の課題と提出方法などの説明
- 第2回 レイヤー操作・編集・仕上げ① 概念、操作法
- 第3回 レイヤー操作・編集・仕上げ② 作品完成までの流れを実践
- 第4回 写真合成・加工① 写真合成の基本操作
- 第5回 写真合成・加工② 写真合成の応用
- 第6回 写真合成・加工③ マスク・調整レイヤー・フィルターの理解
- 第7回 選択範囲・マスク① 各種選択範囲コマンドとマスクの概念
- 第8回 選択範囲・マスク② 画像による選択範囲の選び方・操作方法
- 第9回 レイヤースタイル・エフェクト① 類似手法との使い分け
- 第10回 カードイラスト① 差分含めたカードイラストを制作
- 第11回 カードイラスト② エフェクトの使用
- 第12回 ゲーム画面・インターフェース① テーマ・コンセプトの思案
- 第13回 ゲーム画面・インターフェース② 世界観・ジャンルの設定
- 第14回 ゲーム画面・インターフェース③ 画面制作
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 菊池 有騎 (非常勤講師)
実務経験： アニメーション制作会社所属。アニメーション作品の動画、原画、プロップデザイン等を担当。

科目名： 人物作画

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 人体の構造とバランスを学ぶ
透視図法について学習する

■到達目標： 奥行のある立体的な空間を想定し、そこに人物を配置した作画ができる
人体の正確なプロポーション、骨格および筋肉の構造を理解する

■授業計画：

- 第1回 考えて描くこと(1)感性まかせではなく理詰めの作画を行う
- 第2回 考えて描くこと(2)観察すること
- 第3回 考えて描くこと(3)余白、完成のバランス、対比について
- 第4回 人体構造基礎(1)頭部を中心に筋骨についての解説
- 第5回 人体構造基礎(2)身体を中心に筋骨についての解説
- 第6回 三面図の作成(1)人体基礎構造の応用
- 第7回 三面図の作成(2)
- 第8回 表情集作成 頭部を中心に様々な角度と表情で描く
- 第9回 ポーズと構図(1) より動きのあるポーズと魅力的な構図を考える
- 第10回 ポーズと構図(2)
- 第11回 ポーズと構図(3)
- 第12回 空間想像と対比(1) パースと対比、背景・空間の描き方
- 第13回 空間想像と対比(2) アイレベルと透視図法について
- 第14回 空間想像と対比(3)
- 第15回 空間想像と対比(4)

■教科書： ソッカの美術解剖学ノート

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 中島 敏文 (非常勤講師)
実務経験： 広告代理店、印刷会社勤務等を経て、現在はフリーのイラストレーター。
広告、パッケージ等のイラストレーション、企業カレンダー等を手掛ける。

科目名：	作画技法基礎
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 人物クロッキーなどの基礎的なトレーニングを通してデッサン力の向上を図る
コピック、色鉛筆の使い方を学び表現力を身に付ける

■到達目標： 人物のプロポーションを理解し様々なポーズを描けるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 人体のプロポーション(1) 手のひらと顔 |
| 第2回 | 人体のプロポーション(2) 男性、女性、子供 |
| 第3回 | 人体のプロポーション(3) 6～7頭身の全身 |
| 第4回 | 人体のプロポーション(4) 中心線と重心 |
| 第5回 | 人体のプロポーション(5) 人形で見る単純化した人体 |
| 第6回 | 人体のプロポーション(6) 人形で見る単純化した人体 |
| 第7回 | 人体のプロポーション(7) 身体の正中線と傾き |
| 第8回 | 人体のプロポーション(8) 輪郭線と筋肉 |
| 第9回 | 上半身を描く(1) 写真を基に作画、コピック着彩 |
| 第10回 | 上半身を描く(2) 写真を基に作画、コピック着彩 |
| 第11回 | 上半身を描く(3) 写真を基に作画、コピック着彩 |
| 第12回 | 人物を描く(1) クラスメートを描く |
| 第13回 | 人物を描く(2) クラスメートを描く |
| 第14回 | 人物を描く(3) クラスメートを描く |
| 第15回 | 人物を描く(4) クラスメートを描く |

■教科書： ソッカの美術解剖学ノート

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名： blender基礎

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 3Dモデリングの習得、静止画の撮影

■到達目標： Blenderを用いて、3DCGの制作工程を学び、扱えるようになる。

■授業計画：

- 第1回 blender基礎(1) ダウンロードとプリミティブモデリング
- 第2回 blender基礎(2) ペアレントと原点
- 第3回 blender基礎(3) ライトとカメラ
- 第4回 blender基礎(4) Cyclesについて
- 第5回 モデリング基礎(1) 編集モードで建物を作る
- 第6回 モデリング基礎(2) モディファイアを使う
- 第7回 モデリング基礎(3) UV展開とテクスチャペイント
- 第8回 モデリング基礎(4) マテリアルについて
- 第9回 モデリング練習(1) 再現モデリング
- 第10回 モデリング練習(2)
- 第11回 モデリング練習(3) マテリアル設定
- 第12回 モデリング練習(4)
- 第13回 モデリング練習(5) ライティングとレンダリング
- 第14回 スカルプトモデリング(1)
- 第15回 スカルプトモデリング(2) レンダリングして提出

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作基礎
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： AfterEffectsの基本操作を学ぶ
汎用性の高いものを中心にエフェクトの扱い方を知る。

■到達目標： Adobe AfterEffectsの基本的な操作の習得

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | AfterEffects基礎 基本的な操作方法と各パネルの役割について |
| 第2回 | トランスフォーム(1) トランスフォームの把握 |
| 第3回 | トランスフォーム本(2) アンカーポイントを用いたモーション |
| 第4回 | トランジション スライドショーの作成 |
| 第5回 | マスク・パスアニメーション |
| 第6回 | 音楽に合わせた編集 |
| 第7回 | 文字のオフセット |
| 第8回 | 文字アニメーション編集 |
| 第9回 | エフェクトの解説 |
| 第10回 | 手描き風アニメーション |
| 第11回 | 3Dレイヤー |
| 第12回 | アイキャッチ作成(1) |
| 第13回 | アイキャッチ作成(2) |
| 第14回 | 映像加工(1) |
| 第15回 | 映像加工(2) |

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名：	Photoshop応用
------	--------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： レイアウト・見せ方・伝えることの意識を知る
様々なデザイン・イラストの構成や加工を学ぶ

■到達目標： 自ら考え学び、それを作品に落とし込むことができるようになる
Photoshopクリエイター能力認定試験合格相当の知識と技術を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 写真合成・加工(1) マットペイントの作成 |
| 第2回 | 写真合成・加工(2) コンセプトアートの作成 |
| 第3回 | 写真合成・加工(3) |
| 第4回 | 写真合成・加工(4) |
| 第5回 | 写真合成・加工(5) プレゼンテーション 講評 |
| 第6回 | 広告ビジュアル(1) 写真素材をアニメ用背景画に加工 |
| 第7回 | 広告ビジュアル(2) フィルタによる色調補正 |
| 第8回 | 広告ビジュアル(3) ライティングとパースの調整 |
| 第9回 | 広告ビジュアル(4) 映画ポスターの作成 |
| 第10回 | 広告ビジュアル(5) |
| 第11回 | 広告ビジュアル(6) 仕上げ・プレゼン・講評 |
| 第12回 | 検定対策① Photoshopクリエイター能力認定試験対策授業 |
| 第13回 | 検定対策② サンプル問題を活用し実技・実践問題の練習 |
| 第14回 | 検定対策③ 作業を効率的に進めることができる実践的なスキルを習得する |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書： Photoshopクリエイター能力認定試験問題集

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 菊池 有騎 (非常勤講師)
実務経験： アニメーション制作会社所属。
アニメーション作品の動画、原画、プロップデザイン等を担当。

科目名：	動画制作
------	------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 2Dアニメーション制作を通して絵作りに関する考えを養う
平面内での奥行きを認識させる表現技術を養う

■到達目標： 作画技術の向上および動画制作において一瞬の印象を意識できる感性を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | アニメーション制作基礎 フレームレートについて |
| 第2回 | 振り向き動画(1) 清書作業 |
| 第3回 | 振り向き動画(2) 中割り |
| 第4回 | 振り向き動画(3) 回転起動と奥行き |
| 第5回 | 振り向き動画(4) 回転起動と奥行き |
| 第6回 | 回転動作(1) 回転、円軌道、奥行き移動 |
| 第7回 | 回転動作(2) 回転、円軌道、奥行き移動 |
| 第8回 | 回転動作(3) 回転、円軌道、奥行き移動 |
| 第9回 | 回転動作(4) 回転、円軌道、奥行き移動 |
| 第10回 | 2Dアニメーション制作(1) 原画制作 |
| 第11回 | 2Dアニメーション制作(2) 動画制作 |
| 第12回 | 2Dアニメーション制作(3) 動画制作 |
| 第13回 | 2Dアニメーション制作(4) 着色 |
| 第14回 | 2Dアニメーション制作(5) 撮影 |
| 第15回 | 2Dアニメーション制作(6) 撮影 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 中島 敏文 (非常勤講師)
実務経験： 広告代理店、印刷会社勤務等を経て、現在はフリーのイラストレーター。
広告、パッケージ等のイラストレーション、企業カレンダー等を手掛ける。

科目名：	作画技法応用
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 人物クロッキーなどの基礎的なトレーニングを通してデッサン力の向上を図る
コピック、色鉛筆の使い方を学び表現力を身に付ける

■到達目標： 人物のプロポーションを理解し様々なポーズを描けるようになる
動物の特徴を捉えて生き活きと描けるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 動物の特徴を捉える(1) 写真の模写とクロッキー |
| 第2回 | 動物の特徴を捉える(2) |
| 第3回 | 動物の特徴を捉える(3) 色鉛筆による着彩 |
| 第4回 | 動物の特徴を捉える(4) |
| 第5回 | 動物の特徴を捉える(5) |
| 第6回 | アニメのキャラクタを作る(1) キャラクタと動物のイラストを制作 |
| 第7回 | アニメのキャラクタを作る(2) |
| 第8回 | アニメのキャラクタを作る(3) |
| 第9回 | アニメのキャラクタを作る(4) |
| 第10回 | アニメのキャラクタを作る(5) |
| 第11回 | アニメのキャラクタを作る(6) |
| 第12回 | 動きのある人物を描く(1) 様々なアスリートを描く |
| 第13回 | 動きのある人物を描く(2) 力強さとスピード感の表現 |
| 第14回 | 動きのある人物を描く(3) |
| 第15回 | 動きのある人物を描く(4) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名： blender応用 I

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： より実践的なblenderの使い方について学ぶ
リアルで精確なモデリング技術を習得する

■到達目標： 3DCGにおける質感の設定について理解し、再現できるようになる
正しい形を効率良くモデリングできるようになる

■授業計画：

- 第1回 blenderの機能を知る(1) キーフレームアニメーション
- 第2回 blenderの機能を知る(2) キーフレームアニメーション
- 第3回 blenderの機能を知る(3) キーフレームアニメーション
- 第4回 写実的なモデリング(1)
- 第5回 写実的なモデリング(2)
- 第6回 写実的なモデリング(3)
- 第7回 現実的な質感設定について(1) 物理ベースレンダリングとはなにか
- 第8回 現実的な質感設定について(2) モデルにリアルな質感を設定する
- 第9回 現実的な質感設定について(3)
- 第10回 精確なモデリング(1)
- 第11回 精確なモデリング(2)
- 第12回 精確なモデリング(3)
- 第13回 精確なモデリング(4)
- 第14回 精確なモデリング(5)
- 第15回 精確なモデリング(6)

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	blender応用 II
------	---------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： より実践的なblenderの使い方について学ぶ
リアルで精確なモデリング技術を習得する

■到達目標： 3DCGにおける質感の設定について理解し、再現できるようになる
正しい形を効率良くモデリングできるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | blenderの機能を知る(1) キーフレームアニメーション |
| 第2回 | blenderの機能を知る(2) キーフレームアニメーション |
| 第3回 | blenderの機能を知る(3) キーフレームアニメーション |
| 第4回 | 写実的なモデリング(1) |
| 第5回 | 写実的なモデリング(2) |
| 第6回 | 写実的なモデリング(3) |
| 第7回 | 現実的な質感設定について(1) 物理ベースレンダリングとはなにか |
| 第8回 | 現実的な質感設定について(2) モデルにリアルな質感を設定する |
| 第9回 | 現実的な質感設定について(3) |
| 第10回 | 精確なモデリング(1) |
| 第11回 | 精確なモデリング(2) |
| 第12回 | 精確なモデリング(3) |
| 第13回 | 精確なモデリング(4) |
| 第14回 | 精確なモデリング(5) |
| 第15回 | 精確なモデリング(6) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作応用
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Adobe Aftereffectsのより広い映像分野での活用について学ぶ。

■到達目標： Adobe Aftereffectsの応用的な使い方。
3Dレイヤーの論理的・感覚的把握。
主要エフェクトの把握。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 3Dレイヤーの応用 |
| 第2回 | アクションエフェクトの作成(1) 斬撃などのエフェクト |
| 第3回 | アクションエフェクトの作成(2) 炎などのエフェクト |
| 第4回 | アクションエフェクトの作成(3) 独自のエフェクトのデザインと作成 |
| 第5回 | アクションエフェクトの作成(4) |
| 第6回 | アクションエフェクトの作成(5) |
| 第7回 | アクションエフェクトの作成(6) |
| 第8回 | 音響効果(1) 音響効果について |
| 第9回 | 音響効果(2) アクションエフェクト動画に効果音を追加する |
| 第10回 | 音響効果(3) |
| 第11回 | 音響効果(4) |
| 第12回 | 音響効果(5) |
| 第13回 | 音響効果(6) |
| 第14回 | 実写合成(1) Live2Dアニメーションに実写背景を合成する |
| 第15回 | 実写合成(2) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： カワナミ (非常勤講師)
実務経験： 映像制作企業、Web制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Live2Dによるアニメーション制作を中心に、映像制作全般を手掛ける。

科目名： **Live2D基礎**

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： Live2Dの特性と使用される場面を知る
Live2Dモデルの制作方法とアニメーションを学ぶ

■到達目標： オリジナルデザインのLive2Dモデルを完成させる

■授業計画：

- 第1回 Live2Dとは？ 基本の動作と使われ方について
- 第2回 Live2D基礎制作(1) サンプルデータを使いモデリングの流れを理解する
- 第3回 Live2D基礎制作(2) 首の角度と目の表情
- 第4回 Live2D基礎制作(3) 表情と揺れもの
- 第5回 Live2D基礎制作(4) 身体の動き
- 第6回 Live2D基礎制作(5) 顔の動き
- 第7回 Live2D基礎制作(6) アニメーションの作成
- 第8回 Live2D基礎制作(7) 完成したモデルでアニメーションを作る
- 第9回 Live2Dモデル制作(1) オリジナルデザインでモデルを作る
- 第10回 Live2Dモデル制作(2)
- 第11回 Live2Dモデル制作(3)
- 第12回 Live2Dモデル制作(4)
- 第13回 Live2Dモデル制作(5)
- 第14回 Live2Dアニメーション制作(1) 制作したモデルを使用してアニメーションを作成する。
- 第15回 Live2Dアニメーション制作(2)

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 菊池 有騎 (非常勤講師)
実務経験： アニメーション制作会社所属。
アニメーション作品の動画、原画、プロップデザイン等を担当。

科目名： 映像制作 II

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 映像制作の企画から実制作、最終的な仕上げまでを行う

■到達目標： 人に求められる映像を企画立案する発想力を身に付ける
得意とする映像制作技術を伸ばし自分の武器とする

■授業計画：

- 第1回 フリーテーマによる映像制作1(1) 企画立案
- 第2回 フリーテーマによる映像制作1(2) 実制作作業
- 第3回 フリーテーマによる映像制作1(3) 仕上げ作業
- 第4回 フリーテーマによる映像制作1(4) プレゼンテーション
- 第5回 フリーテーマによる映像制作2(1) 企画立案 得意な技術を活かした企画
- 第6回 フリーテーマによる映像制作2(2) 実制作作業
- 第7回 フリーテーマによる映像制作2(3) 仕上げ作業
- 第8回 フリーテーマによる映像制作2(4) プレゼンテーション
- 第9回 フリーテーマによる映像制作3(1) 企画立案 新しい技術に挑戦する
- 第10回 フリーテーマによる映像制作3(2) 実制作作業
- 第11回 フリーテーマによる映像制作3(3) 仕上げ作業
- 第12回 フリーテーマによる映像制作4(1) 企画立案 集大成としての作品
- 第13回 フリーテーマによる映像制作4(2) 実制作作業
- 第14回 フリーテーマによる映像制作4(3) 仕上げ作業
- 第15回 フリーテーマによる映像制作4(4) プレゼンテーション

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名： デジタルエフェクト

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 映像作品をもとに映像の基本的な組み立て方と演出について学ぶ

■到達目標： 映像制作の把握と映像演出の習得

■授業計画：

- 第1回 ショットサイズとアングルについて(1) ショットの種類と印象の違い
- 第2回 ショットサイズとアングルについて(2) AEでのレンズ再現
- 第3回 カメラワーク
- 第4回 映像加工
- 第5回 モーショントラッキング
- 第6回 ショートムービー制作(1) アニメ、CG、実写等、得意な方法で制作
- 第7回 ショートムービー制作(2)
- 第8回 ショートムービー制作(3)
- 第9回 ショートムービー制作(4)
- 第10回 ショートムービー制作(5)
- 第11回 絵コンテを描く(1) ラフの作成
- 第12回 絵コンテを描く(2) カメラ配置図の作成
- 第13回 絵コンテを描く(3) 絵コンテのスキャン
- 第14回 絵コンテを描く(4) 動画コンテの作成
- 第15回 絵コンテを描く(5) 仕上げ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	ゲームエンジン演習
------	------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： ゲームエンジンを用いたリアルタイムグラフィックの学習

■到達目標： ゲームエンジンへモデルデータを送り適切な設定をできるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Unity、UE4、Clusterの基本操作について |
| 第2回 | Unityの基本操作とVRMファイルについて |
| 第3回 | アバターデザインとモデル制作(1) |
| 第4回 | アバターデザインとモデル制作(2) |
| 第5回 | アバターデザインとモデル制作(3) |
| 第6回 | アバターデザインとモデル制作(4) |
| 第7回 | アバターデザインとモデル制作(5) |
| 第8回 | アバターデザインとモデル制作(6) |
| 第9回 | ワールドのデザインと制作(1) |
| 第10回 | ワールドのデザインと制作(2) |
| 第11回 | ワールドのデザインと制作(3) |
| 第12回 | ワールドのデザインと制作(4) |
| 第13回 | UnrealEngine4について(1) 基本操作について |
| 第14回 | UnrealEngine4について(2) モデルの読み込みとマテリアルノード |
| 第15回 | UnrealEngine4について(3) カメラの設定とレンダリング |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション I
------	-----------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション II
------	------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 宮崎 昭人 (非常勤講師)
実務経験： Just English Press Ltd.代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：	英会話
------	-----

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。

■到達目標： 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く |
| 第2回 | 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味 |
| 第3回 | 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ |
| 第4回 | 品詞の理解：辞書の使い方 |
| 第5回 | 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方 |
| 第6回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第7回 | 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方 |
| 第8回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第9回 | 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方 |
| 第10回 | 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する） |
| 第11回 | 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得 |
| 第12回 | 自己紹介 |
| 第13回 | 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン |
| 第14回 | 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現 |
| 第15回 | まとめ |

■教科書： プリント配布

■参考書： 辞書があれば望ましい

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 宮崎昭人 (非常勤講師)
実務経験： Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務(観光・ビジネス・科学・法務分野等)、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名： 英語

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。

■到達目標： 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む。

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 建築デザイン学科 建築士専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
設計製図Ⅰ	○		1年・前期	60
設計製図Ⅱ	○		2年・前期	60
建築設計デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	60
建築設計デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
建築CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	60
建築CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
住宅・店舗設計演習	○		2年・前期	60
建築計画Ⅰ	○		1年・前期	60
建築計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住空間計画	○		1年・後期	60
建築設備計画	○		1年・後期	60
建築構造力学Ⅰ	○		1年・後期	60
建築構造力学Ⅱ	○		2年・前期	60
建築構法	○		1年・後期	30
木構造	○		1年・前期	60
鉄筋コンクリート構造	○		1年・後期	60
鋼構造	○		2年・後期	60
建築生産	○		1年・前期	60
建築施工	○		2年・前期	60
建築法規Ⅰ	○		1年・後期	60
建築法規Ⅱ	○		2年・前期	60
建築概論	○		1年・前期	60
造形演習Ⅰ	○		1年・後期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
建築プレゼンテーションⅠ	○		1年・前期	30
建築プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
パースペクティブ演習	○		1年・前期	30
都市デザイン	○		2年・後期	60
英語	○		1年・前期	30
合 計				1680

対象学科: 建築デザイン学科
対象専攻: 建築士専攻
担当教員: 湊谷みち代 (非常勤講師)
実務経験: 公共建築を主たる設計事務所で高齢者施設やコミセンなどの設計に携わり、その後アトリエ系事務所にて住宅等の設計担当。独立後、住宅及び店舗の設計監理を担当

科目名 : 基礎製図

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

■科目概要: 建築設計製図の基礎、表現、技法を習得するとともに、デザインすることの意義を学ぶ。

■到達目標: 建築設計製図の基礎的知識、技法の習得を踏まえ、演習課題を通じ、建築製図の基礎的能力を身につける。

■授業計画:

- 第1回 基本製図(平面図・立面図・断面図・透視図の表現)
- 第2回 基本製図(製図の技法・表現)
- 第3回 基礎製図1 平面図トレース作業 軀体構成(柱幅, 壁厚)
- 第4回 基礎製図2 平面図トレース作業 開口部, 建具, 階段
- 第5回 基礎製図3 立面図トレース作業
- 第6回 基礎製図4 立面図トレース作業
- 第7回 基礎製図5 断面図トレース作業
- 第8回 基礎製図6 断面図トレース作業
- 第9回 基礎製図7 設備機器、家具、外構、寸法、室名、仕上げ
- 第10回 建築基礎製図 課題説明
- 第11回 建築基礎製図 エスキス(敷地条件、形態規制)、設計主旨、面積表
- 第12回 建築基礎製図 配置図、基準線(通り芯、柱芯、壁芯、間仕切り壁芯)
- 第13回 建築基礎製図 平面図作図、立面図作図
- 第14回 建築基礎製図 断面図作図
- 第15回 建築基礎製図 制作完成、プレゼンテーション、講評会

■教科書:

■参考書: 最新建築設計製図／井上書院、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 石塚和彦 (非常勤講師)
実務経験： 大手建設株式会社設計部門で、主に商業施設の建築設計・監理を担当。退社後、一級建築士事務所を設立し、主に個人住宅・商業施設の設計に携わる。

科目名：	設計製図Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築設計（住宅）における知識と技術を理論的に学習し、演習を通して基礎的設計技術を身につける。

■到達目標： 基本科目（ゾーニング、動線、建築構成要素等）の習得を踏まえ、演習課題を通して建築空間の構成を学ぶと共に、設計技術の基本を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 建築設計の概要 |
| 第2回 | 設計の基礎1（住宅設計におけるエスキースの要領と手順） |
| 第3回 | 設計の基礎2（住宅設計における配置計画、ゾーニング、グルーピング、動線計画） |
| 第4回 | 設計の基礎3（住宅設計におけるコアパターンと配置、外構施設） |
| 第5回 | 構造の種類と関係 木・S・RC・SRC 軸組み・壁式 |
| 第6回 | 基礎の種類と躯体の書き方 |
| 第7回 | 工法別、柱と梁のスパン、ピッチ |
| 第8回 | DS・PS設備 建物の位置と作図 |
| 第9回 | 住宅設計演習（敷地調査、状況分析、計画における資料収集） |
| 第10回 | 住宅設計演習（敷地調査、状況分析、資料収集のまとめ） |
| 第11回 | 住宅設計演習（設計コンセプト立案、アイデア展開） |
| 第12回 | 住宅設計演習（制作－1）通り芯・壁厚さ・内外壁の仕上げ |
| 第13回 | 住宅設計演習（制作－2）窓の作図法、納まり |
| 第14回 | 住宅設計演習（制作－3）立面図・軒先、パラペットの書き方 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： 最新建築設計製図／井上書院、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名：	設計製図Ⅱ
------	--------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 設計製図Ⅰで習得した理論、知識、技術を発展させる為に、様々な建築用途の演習を通して建築を学ぶ。

■到達目標： 建築の構成にいて理解すると共に設計製図の手法、技法、表現力を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 設計演習1（居住空間）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第2回 | 設計演習1（居住空間）制作1 |
| 第3回 | 設計演習1（居住空間）制作2 |
| 第4回 | 設計演習1（居住空間）制作3 |
| 第5回 | 設計演習1（居住空間）プレゼンテーション、講評会 |
| 第6回 | 設計演習2（商業施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第7回 | 設計演習2（商業施設）制作1 |
| 第8回 | 設計演習2（商業施設）制作2 |
| 第9回 | 設計演習2（商業施設）制作3 |
| 第10回 | 設計演習2（商業施設）プレゼンテーション、講評会 |
| 第11回 | 設計演習3（公共施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第12回 | 設計演習3（公共施設）制作1 |
| 第13回 | 設計演習3（公共施設）制作2 |
| 第14回 | 設計演習3（公共施設）制作3 |
| 第15回 | 設計演習3（公共施設）プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： 最新建築設計製図／井上書院、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 今井正樹（非常勤講師）
実務経験： ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として、住宅・店舗等の設計管理が業務

科目名：	建築設計デザイン演習Ⅰ
------	--------------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： デザイン基礎科目（デザイン論、建築史、色彩設計論等）を踏まえ、建築設計デザインの在り方と課題について具体的に理解し、演習を通して、建築設計デザインを行う意義と有用性について学ぶ。
- 到達目標： 建築設計デザインについて哲学、倫理、技術から建築的な思考を行い、空間をデザインする基礎力を養う。
建築を設計しデザインする上で必要な条件、プロセスを理解する。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 建築設計デザインの哲学 |
| 第2回 | 建築設計デザイン1（住居作品のDVD視聴） |
| 第3回 | 建築設計デザイン2（階段の空間～機能と演出効果） |
| 第4回 | 建築設計デザイン3（家具～家具の歴史、かたち、機能） |
| 第5回 | 建築設計デザイン4（照明～光と闇、照度と色温度、照明計画） |
| 第6回 | 演習課題1（住宅）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第7回 | 〃 制作1 住宅の特性と計画・エスキス |
| 第8回 | 〃 制作2 平面図・立面図 開口部のバランスとファサード |
| 第9回 | 〃 制作3 細部構成、家具の書き方 |
| 第10回 | プレゼンテーション、講評会 |
| 第11回 | 演習課題2（二世帯住宅）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第12回 | 〃 制作1 二世帯の関係性と配置の作図 |
| 第13回 | 〃 制作2 二世帯の断熱計画と生活時間帯（平面・断面図） |
| 第14回 | 〃 制作3 植栽の書き方と面積表・駐車場 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 湊谷みち代 （非常勤講師）
実務経験： 公共建築を主たる設計事務所で高齢者施設やコミセンなどの設計に携わり、その後アトリエ系事務所にて住宅等の設計担当。独立後、住宅及び店舗の設計監理を担当

科目名：	建築設計デザイン演習Ⅱ
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 建築設計デザイン演習Ⅰを踏まえ、様々な用途の演習を通して、的確な空間把握、用途に応じた設計デザインをする能力を養う。

■到達目標： 建築設計デザインにおける表現力、空間構成力を身につける。自分のアイデアをデザインする方法論（設計手法）の具現化を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 演習課題1（オフィスビル）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第2回 | 演習課題1 法規（集団規定、単体規定、避難計画） |
| 第3回 | 演習課題1 構造計画（構造グリッド、各部位の寸法） |
| 第4回 | 演習課題1 プレゼンテーション、講評会 |
| 第5回 | 演習課題2（児童福祉施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第6回 | 演習課題2 周辺環境、所要室、機能図の検討、動線計画 |
| 第7回 | 演習課題2 細部構造（階段、地下室、大空間） |
| 第8回 | 演習課題2 プレゼンテーション、講評会 |
| 第9回 | 演習課題3（商業施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第10回 | 演習課題3 細部計画（空間ユニット、階段、外部空間） |
| 第11回 | 演習課題3 給排水、衛生、搬送設備 |
| 第12回 | 演習課題3 プレゼンテーション、講評会 |
| 第13回 | 演習課題4（コミュニティ施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第14回 | 演習課題4 高齢者、身障者への配慮（バリアフリー新法） |
| 第15回 | 演習課題4 プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック／彰国社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 飯塚哉子（専任教員）
実務経験： ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：	建築CAD演習 I
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築CADの概要、2次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する。

■到達目標： CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 基本操作1（作図環境の設定、2次元図形の基本的な作図、CAD製図のJIS規格） |
| 第2回 | 基本操作2（レイヤー、クラス、縮尺、寸法） |
| 第3回 | 配置図の作図 線種表現（境界線、点景、方位、駐車場） |
| 第4回 | 住宅の平面図 画面情報を利用した効率的な作図技術（柱、壁、開口部） |
| 第5回 | 住宅の平面図 線分と面を利用した作図の概念（建具、設備機器） |
| 第6回 | 住宅の平面図 図形登録を利用した効率的な作図技術、ハッチング、
タイルパターン、出力方法 |
| 第7回 | 住宅の断面図 レイヤの概念と利用法、床高、天井高、軒高、最高高さ |
| 第8回 | 住宅の断面図 腰高、内法高、見えがかり |
| 第9回 | 住宅の立面図 平面図からの投影下書き線 |
| 第10回 | 住宅の立面図 軒高、基礎高、開口部内法、屋根勾配 |
| 第11回 | かなばかり図 材料構造表示記号、仕上材名称 |
| 第12回 | 天井伏図 換気口、点検口、天井埋込照明器具 |
| 第13回 | 床伏図 土台、大引、火打、根太 |
| 第14回 | 面積表、全体レイアウト |
| 第15回 | まとめ、ポートフォリオ（課題作品集）作成 |

■教科書： プリント配布

■参考書： Vector Works 建築設計ガイド、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 今井正樹 (非常勤講師)
実務経験： ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として、住宅・店舗等の設計管理が業務

科目名	建築CAD演習Ⅱ
-----	----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う。
- 到達目標： 設計に必要な技術と表現（CAD：製図、CG：プレゼン）を実践的な課題と関連付けながら学び、知識を深める。

■授業計画：

- 第1回 敷地図作図 フロアプラン、CADによる簡易3Dモデリング
- 第2回 ボリュームスタディによる建物の大きさ、バランス検討、適性配置
- 第3回 ブロックプラン、ダイアグラム、動線
- 第4回 基本設計 配置図兼平面図 ラフ3D
- 第5回 構造・設備コア、耐震壁
- 第6回 複写機能による各階平面図、画層作成、編集機能
- 第7回 平面詳細図 オブジェクトの階層構造と作業環境
- 第8回 屋根の形状作成と壁高の調整
- 第9回 外観のCG作成 マテリアルの作成とマッピング
- 第10回 立面図修正
- 第11回 室内空間のCG（美しく質感豊かな透視図を作成）
- 第12回 展開図修正
- 第13回 イメージ（光源・背景等）の仕上げ
- 第14回 照明計画図作図
- 第15回 まとめ、合評

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 鈴木理 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、オフィス、ホテル、公共施設などを担当し、独立後、住宅、店舗などの設計監理に従事。

科目名：	住宅・店舗設計演習
------	------------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 住宅・店舗設計に係る基本科目等の基礎的な知識、技術、工法を踏まえ、演習課題を通して住宅・店舗設計に関する知識と技術を学ぶ。

■到達目標： 住宅の基本設計及び商業施設の基本設計に必要な知識、技術手法を学び、作図表現する能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 住宅における人間工学と単位空間 |
| 第2回 | 住宅における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第3回 | 木造の特性と2×4・RCの壁量 |
| 第4回 | 住宅設計演習 敷地調査、状況分析、エスキース |
| 第5回 | 住宅設計演習 柱・寸法線・間仕切り壁中心線の記入 |
| 第6回 | 住宅設計演習 壁厚・開口部・設備器具・家具 |
| 第7回 | 住宅設計演習 合評 |
| 第8回 | 商業施設における人間工学と単位空間 |
| 第9回 | 商業施設における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第10回 | 照明計画(光の表現の検討) |
| 第11回 | 内部仕上げ材と下地の関係 |
| 第12回 | 異素材のつなぎ目と納まり(ガラス・石・木・モルタル)、内部造作の書き方 |
| 第13回 | 店舗設計デザインの計画方法(調査、分析、計画)、エスキース(単位空間・物品距離の確認) |
| 第14回 | 平面図、立面図、断面図 展開図の作図と、仕上げ表 |
| 第15回 | プレゼンテーション 講評会 |

■教科書： プリント配布

■参考書： コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 伊達昌広（非常勤講師）
実務経験： 設計事務所に勤務後、一級建築士事務所を設立。北海道を中心に住宅からビルディング
特殊建築、地域活性化事業など、建築計画に関わる仕事に従事。

科目名：	建築計画Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う。

■到達目標： 建築計画の概念及び設計プロセスの修得。条件（立地、予算、法規、機能）を整理・検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。また、人間の知覚や行動を理解し、空間の構成や配置を設計に反映できる事を目的とする。

■授業計画：

- | | | |
|------|------|-----------------------|
| 第1回 | 建築計画 | 地理的環境・機能と形態 |
| 第2回 | 建築計画 | 安全性・美しさ・象徴性・法規と形態 |
| 第3回 | 建築計画 | 人間の知覚と行動、歩行空間、建物の配置 |
| 第4回 | 建築計画 | 寸法と規模の計画、単位空間と建築部位 |
| 第5回 | 建築計画 | 空間構成技法（仕切りと連結） |
| 第6回 | 住宅計画 | 住宅を形づくる要因（気候風土） |
| 第7回 | 住宅計画 | 住宅の種類と作品 |
| 第8回 | 住宅計画 | ライフスタイル、高齢化 |
| 第9回 | 住宅計画 | 住まいの性能 |
| 第10回 | 住宅計画 | デザイン上の解法 |
| 第11回 | 地域計画 | 地域の産業、経済、社会的背景を踏まえた立案 |
| 第12回 | 地域計画 | まちづくり、交通計画 |
| 第13回 | 地域計画 | 公園緑地計画 |
| 第14回 | 地域計画 | エネルギー共生型の地域づくり |
| 第15回 | 地域計画 | 総括、レポート報告・講評会 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 図説 やさしい建築計画／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 伊達昌広 （非常勤講師）
実務経験： 設計事務所に勤務後、一級建築士事務所を設立。北海道を中心に住宅からビルディング
特殊建築、地域活性化事業など、建築計画に関わる仕事に従事。

科目名：	建築計画Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 住居系・非住居系の建築を通して、建築の計画と設計を理解する。

■到達目標： 建築の計画・設計に求められる基本的な素養と問題意識を身につけることを目的とする。

■授業計画：

- | | | |
|------|---------|--|
| 第1回 | 集合住宅の計画 | 集合住宅計画の概論、集合住宅の目的と種類 |
| 第2回 | 集合住宅の計画 | 敷地計画、住棟計画 |
| 第3回 | 集合住宅の計画 | 平面計画、計画事例 |
| 第4回 | 集合住宅の計画 | 居間、寝室、台所等の各部計画 |
| 第5回 | 集合住宅の計画 | 外構計画 |
| 第6回 | 福祉施設の計画 | 福祉施設の役割 |
| 第7回 | 福祉施設の計画 | 福祉施設の空間的要件 |
| 第8回 | 福祉施設の計画 | 心身状況と環境の関係 |
| 第9回 | 福祉施設の計画 | バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン1 |
| 第10回 | 福祉施設の計画 | バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン2 |
| 第11回 | 公共施設の計画 | 公共図書館のサービスのあり方(開かれた図書館) |
| 第12回 | 公共施設の計画 | 図書館建築の考え方(ユニバーサルデザイン) |
| 第13回 | 公共施設の計画 | スペースの機能、構成および配置
(必要なスペースの機能、設備、資料、構成) |
| 第14回 | 公共施設の計画 | 規模計画 (開架冊数、蔵書冊数、規模の計画) |
| 第15回 | 公共施設の計画 | 運営計画 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 図説 やさしい建築計画／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 伊達昌広 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所に勤務後、一級建築士事務所を設立。北海道を中心に住宅からビルディング特殊建築、地域活性化事業など、建築計画に関わる仕事に従事。

科目名： 住空間計画

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 住宅を対象に住宅が成り立たせる背景を学ぶ。建築設計、計画における幅広い視野を習得する。

■到達目標： 住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する。住宅の計画、設計することの特殊性とその方法を理解する。

■授業計画：

- 第1回 住宅について 住宅建築の位置付け、多様な住宅
- 第2回 住宅の要素Ⅰ 外的環境(自然、地形、立地条件)
- 第3回 住宅の要素Ⅱ 人的環境(建築技術、生業体系、防犯、社会形態)
- 第4回 住宅の要素Ⅲ 文化形態、住宅の多様性
- 第5回 建築計画 建築計画の理論と方法
- 第6回 住生活と生活構造 住宅は住生活の為の空間、住生活内容の成員、生活行為
- 第7回 団欒・食事空間 居間、食事室の意義と要求条件、計画の要点
- 第8回 家事空間 台所を中心に社会・技術の発展に伴う家事空間の変遷と求められる要点
- 第9回 就寝空間 日本における就寝に係る特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件
- 第10回 生理・衛生空間 浴室、洗面所、WCの計画上の要点
- 第11回 連絡空間、屋外空間 玄関、廊下、階段、庭、サービスヤードの計画上の要点
- 第12回 計画の手法 配置計画上の要点、平面計画を行う上でのゾーニング、動線分離の解説
- 第13回 日本の住宅 日本住宅における構成上の特色
- 第14回 世界の住宅 世界の住宅における構成上の特色
- 第15回 今後の住宅課題 現在の住宅に至るまでの移り変わり、今後の住宅の在り方

■教科書： プリント配布

■参考書： 図説 やさしい建築計画／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 鈴木理 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、オフィス、ホテル、公共施設などを担当し、独立後、住宅、店舗などの設計監理に従事。

科目名：	都市デザイン
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 私達の生活する都市を、どのようにつくるのか。そもそも、都市とは何かを具体例に即して考察する。

■到達目標： 近代の都市設計理念は何を作り出し、今どのような問題に直面しているか。今日の都市に求められているものは何か。それを解決するための方法は何かを学ぶ。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 都市とは何か 都市計画の目的と方法について考察する |
| 第2回 | 都市のかたち① 京都と江戸 |
| 第3回 | 都市のかたち② 古代と中世ヨーロッパ |
| 第4回 | 都市のかたち③ ルネサンスとバロック |
| 第5回 | 近代の都市デザイン理念① 庭園都市 |
| 第6回 | 近代の都市デザイン理念② 塔の都市 |
| 第7回 | 近代の日本の都市デザイン① 文明開化と西欧化 |
| 第8回 | 近代の日本の都市デザイン② 戦災復興と再開発 |
| 第9回 | 新しい都市デザイン理念① 再開発批判～住区再生 |
| 第10回 | 新しい都市デザイン理念② 「親近性」を求めて |
| 第11回 | 都市デザインの要素① 通り |
| 第12回 | 都市デザインの要素② 広場 |
| 第13回 | 都市デザインの要素③ 水と緑 |
| 第14回 | 都市デザインの要素④ 都市住居 |
| 第15回 | 都市をいかにつくるか |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 嶋津哲也 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、意匠設計・構造設計・設計監理に従事し、退職後、ゼネコンにて施工管理を担当

科目名：	建築設備計画
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する。
- 到達目標： 建築と設備の整合性と維持管理の重要性が把握できると共に、給排水・衛生設備計画手法を知る。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 各種エネルギーの利用技術 省エネルギーのための各種技術 |
| 第2回 | 冷暖房設備 暖房設備の分類、コールドドラフト |
| 第3回 | 冷暖房設備 冷凍機、ヒートポンプ、冷却塔 |
| 第4回 | 空気調和設備 各種空調方式、熱負荷計算 |
| 第5回 | 空気調和設備 換気設備 |
| 第6回 | 電気設備 配電方式、配線方式、避雷設備 |
| 第7回 | 電気設備・ガス設備 |
| 第8回 | 給水給湯設備 給水方式、給水量、必要圧力 |
| 第9回 | 給水給湯設備 水質汚染防止、中水 |
| 第10回 | 排水通気設備 排水方式、トラップ、通気管 |
| 第11回 | 衛生設備 衛生器具、パイプスペース |
| 第12回 | 消防防災設備 警報、防火、排煙、非難誘導 |
| 第13回 | ごみ処理設備 基本的な設計提案 |
| 第14回 | 情報通信設備 UPS、CVCF、PBX、LAN、電磁シールドルーム |
| 第15回 | 設備融合 保守管理、LC計画、中央管制、各種建築物の設備容量と機械室面積 |

■教科書：

■参考書： 図説 やさしい建築設備／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一 (専任教員)
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名：	建築構造力学Ⅰ
------	---------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： 本講義では構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形を理解する。
- 到達目標： 安全な構造物を設計するための基礎として、力と変形の関係について学び、簡単な構造物の変形や応力の解析を行える能力を演習を通して養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス、基礎数理、構造の役割と構成 |
| 第2回 | 力の合成と分解、力のつり合い、使用単位 |
| 第3回 | 構造物のモデル化、構造物に作用する荷重、支点と反力 |
| 第4回 | 構造物の安定・不安定、静定構造物の反力の算定 |
| 第5回 | 静定ばりの応力算定：片持ち梁、単純梁、跳ね出し梁 |
| 第6回 | 静定ばりの応力算定：ゲルバー梁、重ね合わせの原理 |
| 第7回 | 静定ラーメンの応力算定：応力図(M,N,Q) |
| 第8回 | 片持ちばり系、単純ばり系、3ピンラーメン |
| 第9回 | 静定トラスの応力算定：トラスの種類、トラスの解法 |
| 第10回 | 静定トラスの応力算定：節点法、切断法 |
| 第11回 | 断面の性質、断面一次モーメント、断面二次モーメント |
| 第12回 | 断面係数、断面2次半径、断面極2次モーメント |
| 第13回 | 垂直・せん断応力度、曲げ応力度、許容応力度 |
| 第14回 | 部材の変形、 σ - ε 曲線、たわみ |
| 第15回 | 座屈、期末テスト |

■教科書： First Stageシリーズ 建築構造設計概論／実教出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 飯塚哉子（専任教員）
実務経験： ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：	建築構造力学Ⅱ
------	---------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 各種構造物が力学的にどのような構造になっているか、構造力学の原理を理解させ不静定構造に関する基礎理論を体系的に解説し、演習を交えて理解を深める。
- 到達目標： 構造力学Ⅰの知識をもとに力のつり合い条件のみでは解くことができない不静定構造物について、部材に生じる応力を算定する方法を習得する。

■授業計画：

- 第1回 仮想仕事の原理と構造物の変形
- 第2回 仮想仕事の原理による静定トラスの変形の解法
- 第3回 応力法による不静定トラスの解法
- 第4回 静定梁の変形
- 第5回 応力法による不静定ばりの解法
- 第6回 カステリアーノの定理による不静定梁の解法
- 第7回 固定端力
- 第8回 たわみ角法によるラーメンの解法（節点移動無）
- 第9回 たわみ角法によるラーメンの解法（節点移動有）
- 第10回 固定モーメント法の原理
- 第11回 固定法による連続梁の解法
- 第12回 固定法による連ラーメンの解法（節点移動無）
- 第13回 固定法による連ラーメンの解法（節点移動有）
- 第14回 構造物の振動、固有周期
- 第15回 座屈、期末テスト

■教科書： First Stageシリーズ 建築構造設計概論／実教出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名：	建築構法
------	------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する。

■到達目標： 木質構法・鉄筋コンクリート構法・鉄骨構法を中心に、その役割・構成を理解する。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 建築構法の概説(建築物の構成、構造方式の種類、構法の変遷) |
| 第2回 | 主体構法(建築物への荷重・外力、水平構面とねじれ) |
| 第3回 | 木質構法: 木質構法の特徴、木質材料 |
| 第4回 | 木質構法: 軸組構法 |
| 第5回 | 木質構法: 枠組壁構法 |
| 第6回 | 木質構法: 大断面集成材構法 |
| 第7回 | 鉄筋コンクリート構法: 構造形式、材料 |
| 第8回 | 鉄筋コンクリート構法: ラーメン |
| 第9回 | 鉄筋コンクリート構法: 壁式、PC、SRC |
| 第10回 | 鉄骨構法: 構造形式と特徴、鋼材 |
| 第11回 | 鉄骨構法: 接合方法、架構、建方 |
| 第12回 | 過去の地震被害に見られる構法上の教訓 |
| 第13回 | 形態と構法 |
| 第14回 | 性能と構法 |
| 第15回 | 総括、テスト |

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名： 木構造

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 日本建築の特徴である木構造の基本を理解し、施工の概要、構造の特徴、木材の性質、構造設計に必要な構造計画を学ぶ。

■到達目標： 各種木質構造の特徴、力学的性質を理解し、圧縮材・引張材・曲げ材、接合部の設計法を習得する。

■授業計画：

- 第1回 木質材料(危険温度、許容応力度、構造用製材の基準強度)
- 第2回 木材の性質(ヤング係数、含水率、クリープ)
- 第3回 軸組と基礎・土台・床組
- 第4回 柱と横架材(はり・胴差し・けた)、筋かい、火打ち、方づえ
- 第5回 小屋組(洋風小屋組・和風小屋組・ひねり金物)
- 第6回 耐力壁の配置と選定、所要有効長さ、見付面積
- 第7回 部材の設計(引張材、圧縮材、曲げ材)
- 第8回 大断面集成材による木造建築物
- 第9回 枠組壁工法(ツーバイフォー工法)、生産の要点
- 第10回 部材の接合法(継手、仕口、補助材)
- 第11回 防腐、防蟻
- 第12回 木造の耐震計算、変形性能
- 第13回 日本住宅性能表示基準
- 第14回 住宅設計例
- 第15回 期末テスト

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 五十嵐雄祐 (非常勤講師)
実務経験： 東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立

科目名：	鉄筋コンクリート構造
------	------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 鉄筋コンクリートとしての部材の力学的挙動を正しく理解する能力を養う。

■到達目標： 鉄筋コンクリート構造における許容応力度設計法の概念を理解し、コンクリートと鉄筋の材料的な特徴および鉄筋コンクリートとしての構造特性を学ぶ。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | RC造の特徴、構造形式(ラーメン・壁式・フラットスラブ・シェル) |
| 第2回 | 材料(セメントの種類、骨材、コンクリート) |
| 第3回 | 材料の性質と許容応力度 |
| 第4回 | はりの許容応力度設計、断面算定、終局曲げモーメント |
| 第5回 | はりのせん断補強 |
| 第6回 | 柱の軸方向力と曲げに対する断面算定 |
| 第7回 | 柱のせん断補強 |
| 第8回 | 柱梁接合部のせん断補強 |
| 第9回 | 柱の終局圧縮耐力 |
| 第10回 | 床スラブの構造、スラブの応力分布と配筋 |
| 第11回 | 耐震壁の挙動と設計(設計上の留意点、開口部補強) |
| 第12回 | 基礎(フーチング、基礎ばりの設計) |
| 第13回 | 定着、継手及び付着(フック、あき、かぶり厚さ) |
| 第14回 | コンクリートのひび割れと破壊性状 |
| 第15回 | 鉄筋コンクリート造の耐震設計、テスト |

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名： 鋼構造

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 鋼構造の建築空間構成に果たす役割、材料としての鋼材の性質、空間構成の方法と設計の基礎となる変形・力の伝達と耐力等を体系的に理解することを目標とする。
- 到達目標： 鉄骨構造の特質及び許容応力度の理解。各部構造の骨組名称と役割、引張材・圧縮材の断面算定、接合の特徴と許容耐力について理解する。

■授業計画：

- 第1回 鉄骨構造の特性
- 第2回 構造材料の材質規格、機械的性質、許容応力度
- 第3回 鋼材の力学的特性、腐食、その他の鋼材・非鉄金属
- 第4回 構造形式(トラス・ラーメン)、各部構造
- 第5回 はり材(横座屈、局部座屈、たわみ)、柱、筋かい
- 第6回 部材の設計(引張材)
- 第7回 部材の設計(圧縮材)
- 第8回 細長比、座屈、板要素幅厚比
- 第9回 接合部設計(継手、仕口)
- 第10回 ダイアフラム、崩壊型
- 第11回 高力ボルト・リベット・ボルト接合(縁端距離、摩擦)
- 第12回 溶接接合(溶接継目、溶接欠陥、溶接記号)
- 第13回 鉄骨造の耐震設計(許容応力度、局部座屈)
- 第14回 耐火被覆、保有水平耐力、変形能力
- 第15回 まとめ、テスト

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 嶋津哲也 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、意匠設計・構造設計・設計監理に従事し、退職後、ゼネコンにて施工管理を担当

科目名	建築生産
-----	------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について事例に基づき解説する。

■到達目標： 建築物が生産される過程に関する広範な知識を習得し、構造種別にしたがった各種技術の知識、建築物の性能（安全性、経済性、生産性、環境性等）について総合的に評価する能力を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 建築生産のプロセス |
| 第2回 | 施工計画と施工管理 |
| 第3回 | 工程管理・原価管理・品質管理 |
| 第4回 | 建築施工における安全管理 |
| 第5回 | 木造の施工技術① |
| 第6回 | 木造の施工技術② |
| 第7回 | RC造の施工技術① |
| 第8回 | RC造の施工技術② |
| 第9回 | 鉄骨造の施工技術 |
| 第10回 | 組積造の施工技術 |
| 第11回 | 維持保全と建築ストックの活用 |
| 第12回 | 建物の運用・維持管理 |
| 第13回 | 建物の解体とリサイクル |
| 第14回 | 住宅リノベーション |
| 第15回 | 建築生産の持続性と将来展望、テスト |

■教科書： 図説 はじめての建築施工／学芸出版社

■参考書： 2級建築施工管理技士学科テキスト／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名： 建築施工

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築が完成にいたるまでの手順・プロセスを知り、同時に安全管理や設備など、実際に建築士として役立つための知識を習得する。
- 到達目標： 現場の写真やDVDを用いて、施工というものをイメージさせるとともに、演習などを通して、施工のプロセスなどを理解してもらう。

■授業計画：

- 第1回 施工業務・施工計画
- 第2回 施工監理・仮設工事・足場
- 第3回 地盤調査・土工事・山留め工事
- 第4回 基礎・地業工事
- 第5回 鉄筋工事
- 第6回 型枠工事
- 第7回 コンクリート工事
- 第8回 鉄骨工事
- 第9回 プレキャストコンクリート工事・ALC・パネル工事、カーテンウォール工事
- 第10回 中間テスト
- 第11回 メーソンリー工事・木工事・屋根工事
- 第12回 防水工事
- 第13回 左官工事・仕上げ工事
- 第14回 設備工事
- 第15回 期末テスト

■教科書： 図説 はじめての建築施工／学芸出版社

■参考書： 2級建築施工管理技士学科テキスト／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 弘田亨一（非常勤講師）
実務経験： ハウスメーカーにて設計業務（住宅・集合住宅）に従事した後、設計事務所にて店舗・医療施設・住宅の設計・監理業務を行う

科目名：	建築法規Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築基準法及び建築基準法施行令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、都市計画区域等における主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用すべく能力を養う。
- 到達目標： 建築基準法を正しく解釈し、建築法令集を適切に参照して、法規的問題を解決できるようにする事を目的とする。

■授業計画：

- 第1回 建築基準法の概要、建築関連の法体系
- 第2回 用語の定義（建築物に関する用語）準用工作物、特殊建築物
- 第3回 用語の定義（防火関係の用語）耐火、準耐、防火構造、性能
- 第4回 都市計画区域等における建築制限（集団規定）道路
- 第5回 用途地域（用途地域の指定、建築物の用途制限）
- 第6回 面積算定（敷地面積、建築面積、延べ面積）
- 第7回 面積制限（容積率、前面道路、建ぺい率）
- 第8回 高さ等の算定（建築物の高さ、軒の高さ、階数、避難階）
- 第9回 道路斜線、隣地斜線、北側斜線、天空率、日影規制
- 第10回 建築手続（建築主、確認済証、確認申請、各種届出）
- 第11回 建築物自体の技術基準（単体規定）一般構造（階段、便所）
- 第12回 居室の採光、有効開口部面積の算定、換気、シックハウス
- 第13回 居室の天井・床の高さ、共同住宅の界壁
- 第14回 建築設備（避雷設備、給排水設備、昇降機設備）
- 第15回 総括、期末テスト

■教科書： 二級建築士試験合格セミナー 建築法規／オーム社

■参考書： 建築基準法関係法令集／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 弘田亨一（非常勤講師）
実務経験： ハウスメーカーにて設計業務（住宅・集合住宅）に従事した後、設計事務所にて店舗・医療施設・住宅の設計・監理業務を行う

科目名：	建築法規Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築法規Ⅰで得た知識をもとに、法を踏まえた上での建築設計・デザインの表現を知る。

■到達目標： 設計のプランニングやデザインなど課題を用いて学習することで、法律がどんな場面でどのようにして必要とされるか、実際に行うことで身につけてもらう。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 構造強度 |
| 第2回 | 防火関係規定 法22条で規定する区域内の防火措置 |
| 第3回 | 防火関係規定 大規模の木造建築物の外壁等(25条) |
| 第4回 | 防火関係規定 耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物 |
| 第5回 | 防火関係規定 防火地域、準防火地域内の防火規定① |
| 第6回 | 防火関係規定 防火地域、準防火地域内の防火規定② |
| 第7回 | 防火関係規定 防火区画 |
| 第8回 | 避難規定 廊下、避難階段及び出入り口① |
| 第9回 | 避難規定 廊下、避難階段及び出入り口② |
| 第10回 | 中間テスト |
| 第11回 | バリアフリー新法・建築士法・建設業法・消防法 |
| 第12回 | 法規をふまえたプランニング① |
| 第13回 | 法規をふまえたプランニング② |
| 第14回 | 法規をふまえたプランニング③ |
| 第15回 | 期末テスト |

■教科書： 二級建築士試験合格セミナー 建築法規／オーム社

■参考書： 建築基準法関係法令集／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 大塚裕介（専任教員）
実務経験： 設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、設計競技のプレゼンテーションを手掛けるデザイン事務所を主宰。

科目名：	建築概論
------	------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築を学び始めるにあたって、人間の生活環境としての建築空間を創造する理論、方法を概観することを目的とする。これから始まる建築に関する種々の専門分野の相互関係を理解する。
- 到達目標： 建築の理念や職能範囲を知り、建築学の概略を捉える。建築物に作用する荷重の構造原理を理解する。建築をつくるにあたって、計画的アプローチがどのように関わるかを理解する。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 建築について、建築における職能について |
| 第2回 | 建築学における計画系の位置づけ |
| 第3回 | 歴史の中の建築①(建築史) |
| 第4回 | 歴史の中の建築②(") |
| 第5回 | 建物をつくる①(計画・設計) |
| 第6回 | 建物をつくる②(") |
| 第7回 | 都市をつくる(街並み・都市計画・建築法規) |
| 第8回 | VTR(建築設計の実際) |
| 第9回 | 建築の構造(荷重外力・構造原理)、シェル・空間構造 |
| 第10回 | 地盤・基礎 |
| 第11回 | 各種構造①(木構造) |
| 第12回 | 各種構造②(鉄骨構造) |
| 第13回 | 各種構造③(鉄筋コンクリート構造) |
| 第14回 | 各種構造④(その他のコンクリート系構造) |
| 第15回 | 各部構造(屋根・床・壁・天井) |

■教科書：

■参考書： 世界で一番美しい建築デザインの教科書／エクスナレッジ

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	造形演習Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 作品制作を通じて建築設計に必要なプレゼンテーションテクニック及び建築の3次元形態の把握方法を理解する。

■到達目標： 建築模型とパースが正確に作成でき、建築物を立体的に表現する能力を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 導入、課題説明 |
| 第2回 | 【住宅模型の制作】 エスキース |
| 第3回 | 【住宅模型の制作】 模型用図面の製図 |
| 第4回 | 【住宅模型の制作】 外部展開図 |
| 第5回 | 【住宅模型の制作】 モデルボードの性質、カット法 |
| 第6回 | 【住宅模型の制作】 部材切り出し |
| 第7回 | 【住宅模型の制作】 組み立て |
| 第8回 | 【住宅模型の制作】 スタディモデルによる発想と展開 |
| 第9回 | 【住宅模型の制作】 図面修正 |
| 第10回 | 【外観パースの作成】 二点透視図法による作図(SP,HL,VP) |
| 第11回 | 【外観パースの作成】 二点透視図法による作図(SP,HL,VP) |
| 第12回 | 【外観パースの作成】 壁面、屋根の描画 |
| 第13回 | 【外観パースの作成】 原図の転写 |
| 第14回 | 【外観パースの作成】 着彩仕上げ |
| 第15回 | 合評 |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	造形演習Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する。

■到達目標： 構造模型制作を通して、部材構成および部材名称を理解し、組立図から基礎伏図、小屋組図を読み取る能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、図面確認(平面図、伏図、軸組図) |
| 第2回 | 【木造在来構法】 基礎伏図(敷地、基礎、束石) |
| 第3回 | 【木造在来構法】 床束、根がらみ、土台(継手・仕口)、火打ち |
| 第4回 | 【木造在来構法】 床伏図(大引き、根太、根太掛け) |
| 第5回 | 【木造在来構法】 建て方(通し柱、管柱、木材の元口と末口) |
| 第6回 | 【木造在来構法】 大梁、胴差し、火打ち梁、小ばり、2階床組 |
| 第7回 | 【木造在来構法】 小屋ばり、軒桁、小屋組(棟木、母屋) |
| 第8回 | 【木造在来構法】 垂木、まぐさ、窓台、間柱、筋かい |
| 第9回 | 【桢組壁工法】 ツーバイフォー工法に使用される材料特性 |
| 第10回 | 【桢組壁工法】 基礎、土台、1階床組 |
| 第11回 | 【桢組壁工法】 1階壁組(はり間方向) 隅柱、かい木 |
| 第12回 | 【桢組壁工法】 1階壁組(けた方向) ころび止め、頭つなぎ |
| 第13回 | 【桢組壁工法】 2階床組、2階壁組 |
| 第14回 | 【桢組壁工法】 小屋組、仕上げ |
| 第15回 | 合評(工法の違いによる構造的特長) |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	建築プレゼンテーションⅠ
------	--------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 建築を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う。

■到達目標： パースペクティブ、3DやCGなどの表現方法を用いて、建築を表現するための技術を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | プレゼンテーションの概要 |
| 第2回 | 建築の企画からプレゼンテーション |
| 第3回 | 建築の企画① コンセプトの考え方 |
| 第4回 | 建築の企画② コンセプト表現と構成 |
| 第5回 | 建築の企画③ コンセプトのプレゼンテーション |
| 第6回 | 建築デザイン① 平面図・立面図の表現方法 |
| 第7回 | 建築デザイン② 面積表・方位・枠等の表現方法 |
| 第8回 | 建築デザイン③ 全体のバランスと中心となるコンセプト |
| 第9回 | プレゼンテーションの建築作品例の収集 |
| 第10回 | 建築コンセプトの理解と図面のプレゼン発表 |
| 第11回 | 各自建築材料の収集(建築図面・スキャン取り込み) |
| 第12回 | 建築プレゼンテーションの作成① 図面表現 |
| 第13回 | 建築プレゼンテーションの作成② 透視図 |
| 第14回 | 建築プレゼンテーションの作成③ レイアウト |
| 第15回 | 合評 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック／彰国社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	建築プレゼンテーションⅡ
------	--------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝達するビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ。

■到達目標： 建築CAD演習Ⅰ・Ⅱ及び建築プレゼンテーションⅠで学習した基礎技術をもとに、建築空間をより一層明確に表現・伝達する技術を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 図面のレイアウトとバランス |
| 第2回 | 図面表現、製図基準 |
| 第3回 | 平面図・配置図の表現と種類 |
| 第4回 | 立面図・樹木の表現と種類 |
| 第5回 | 断面図の表現と種類 |
| 第6回 | コンセプト及び基本設計、マスタープラン |
| 第7回 | エスキース、スタディ模型 |
| 第8回 | 基本建築図の作図(平面図、立面図等) |
| 第9回 | ドローイング |
| 第10回 | アクソメ |
| 第11回 | 外観パース作成 |
| 第12回 | リアスティックな内観パースの作成(エレメントの配置) |
| 第13回 | アクソメ |
| 第14回 | モデリング |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック／彰国社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 松原祐子 (非常勤講師)
実務経験： 大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務。オフィスデザイン・設計監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ演習
------	-------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

- 科目概要： 設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する。
- 到達目標： パースを通して空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 透視図の基本と用語 SPの距離と見え方、HL、ELの高さと見え方 |
| 第2回 | 基本プランニング・エスキース |
| 第3回 | 平面計画 イメージパース(一消点透視図) |
| 第4回 | 基本設計 イメージパース(一消点透視図) |
| 第5回 | 平面図 イメージパース(二消点透視図) |
| 第6回 | 平面図 イメージパース(二消点透視図) |
| 第7回 | 展開図 リアスティックな内観パース(エレメントの配置) |
| 第8回 | 天井伏図 照明計画・俯瞰図 |
| 第9回 | 断面図 アイソメ |
| 第10回 | 断面図 アイソメ |
| 第11回 | 立面図 外観パース(ファサード・テクスチャ) |
| 第12回 | 立面図 外観パース(窓・ミラーの表現) |
| 第13回 | 完成予想パース |
| 第14回 | 鳥瞰図 樹木の表現と種類 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 インテリアデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
住宅設計演習	○		2年・前期	60
CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	30
CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
インテリア計画Ⅰ	○		1年・前期	60
インテリア計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住まいと環境	○		1年・前期	30
設備計画	○		2年・前期	60
基礎力学	○		1年・後期	30
建築一般	○		2年・前期	30
インテリア構法	○		1年・後期	60
インテリアエレメント	○		1年・前期	60
インテリア施工	○		1年・後期	30
インテリア法規	○		2年・前期	30
造形演習Ⅰ	○		1年・前期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
パースペクティブ基礎演習	○		1年・前期	60
インテリア概論	○		1年・前期	30
インテリア設計演習	○		1年・後期	30
住空間計画	○		1年・後期	30
インテリアデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
インテリアデザイン応用演習	○		2年・前期	60
プレゼンテーションⅠ	○		1年・後期	60
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
3Dデザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
3Dデザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
商業施設デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
商業施設デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP応用演習	○		2年・後期	30
インテリアディテール	○		1年・後期	30
インテリア装備	○		2年・前期	30
インテリア模型	○		1年・後期	30
英語	○		1年・前期	30
合 計				1560

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアデザイン専攻
 担当教員：来生亜子（非常勤講師）
 実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネーター業務。その後フリーにて活動。日本パーステック協会会員

科目名：	インテリア概論
------	----------------

履修形態：必修
 授業形態：講義
 履修学年：1年次
 開講学期：前期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

- 科目概要：インテリアデザイン、コーディネーションボード等の作成を中心にもの創りの楽しさを学ぶ。また、コンペ等に積極的に取り組む
- 到達目標：インテリアデザイナー、コーディネーターとして必要な知識、技術を身に付け、実践する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(インテリアデザイン、コーディネーターの仕事について) |
| 第2回 | インテリアの歴史・インテリア計画 |
| 第3回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第4回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第5回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第6回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第7回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第8回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第9回 | インテリア構造 |
| 第10回 | インテリア構法 |
| 第11回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(設計図書について) |
| 第12回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第13回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第14回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |
| 第15回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネート業務。その後フリーにて活動。設計から入るインテリアデザインを行う

科目名：	住まいと環境
------	--------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する
- 到達目標：熱・空気・音・光環境のメカニズムとこれらの測定技術、制御技術を理解し、人間が建物内で快適な生活を送る為の室内環境整備の基準や方法を学ぶ

■授業計画：

- 第1回 熱環境Ⅰ：室内環境と温熱感覚、熱損失と熱取得
- 第2回 熱環境Ⅱ：熱伝導、熱貫流率、熱損失係数、遮熱
- 第3回 熱環境Ⅲ：室温と熱負荷、不快指数、快適域
- 第4回 光環境Ⅰ：日照と日射、日影線図、日影時間の検討
- 第5回 光環境Ⅱ：採光上有効な窓、光の単位と法則、採光計画
- 第6回 光環境Ⅲ：室内照度分布、照明計画
- 第7回 空気環境Ⅰ：空気質と換気、必要換気量、換気方式
- 第8回 空気環境Ⅱ：換気と通風の力学、圧力差、圧力損失
- 第9回 空気環境Ⅲ：通風、室内気流と温度分布
- 第10回 湿気Ⅰ：水蒸気量、空気線図、露点温度
- 第11回 湿気Ⅱ：壁体の結露、（表面結露と内部結露）
- 第12回 音環境Ⅰ：音の伝搬と減衰、室内音響
- 第13回 音環境Ⅱ：吸音・遮音特性、住宅内装計画
- 第14回 音環境Ⅲ：騒音・振動の計測とその評価、環境基準
- 第15回 電磁環境：電磁環境とその障害、電磁シールド技術

■教科書：

■参考書：学芸出版社 専門士課程 建築計画

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：日常生活の中で室内照明や音響効果、室内気流と空気、温度や湿度等に関心を持ち、周辺環境を注意深く観察し、疑問を持って講義に臨んでほしい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮崎昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：英語

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する

■到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント③：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書：プリント配布

■参考書：辞書があれば望ましい

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	インテリア計画Ⅰ
------	----------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う

■到達目標：建築計画の概念および設計プロセスの習得。条件（立地、予算、法規、機能）を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。常用寸法やヒューマンスケールを身に付ける。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 地理的環境・機能と形態 |
| 第2回 | 安全性・美しさ・象徴性・法規と形態 |
| 第3回 | 人間の知覚と行動、歩行空間、建物の配置 |
| 第4回 | 寸法と規模の計画、単位空間と建築部位 |
| 第5回 | 空間構成技法（仕切りと連結） |
| 第6回 | 住宅を形づくる要因（気候風土） |
| 第7回 | 住宅の種類と作品 |
| 第8回 | ライフスタイル、高齢化 |
| 第9回 | 住まいの性能 |
| 第10回 | デザイン上の解法 |
| 第11回 | リフォーム計画：リフォームの種類と内容 |
| 第12回 | リフォーム計画：計画上の留意点 |
| 第13回 | リフォーム計画：住宅性能の維持 |
| 第14回 | リフォーム計画：快適性の向上 |
| 第15回 | リノベーション |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅱ

■履修上の留意点：日常生活の中にある空間や物の寸法、素材、納まり等を興味を持って観察して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立

科目名：	インテリア計画Ⅱ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅空間に焦点を当て、その実例等を等を通してディテール、建築手法、計画における幅広い知識を習得する

■到達目標：住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する

■授業計画：

- 第1回 住宅について：住宅建築の位置付け、多様な住宅
- 第2回 住宅の要素Ⅰ：外的環境（自然、地形、立地条件）
- 第3回 住宅の要素Ⅱ：人的環境（建築技術、生業体系、防犯、社会形態）
- 第4回 住宅の要素Ⅲ：文化形態、住宅の多様性
- 第5回 建築計画：建築計画の理論と方法
- 第6回 住生活と生活構造：住宅は住生活の為の空間、住生活内容の成員、生活行為
- 第7回 団欒・食事空間：居間、食事室の意義と要求条件、計画の要点
- 第8回 家事空間：台所を中心に社会・技術の発展に伴う家事空間の変遷と求められる要点
- 第9回 就寝空間：日本における特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件
- 第10回 生理・衛生空間：浴室、洗面所、WCの計画上の要点
- 第11回 連絡空間、屋外空間：玄関、廊下、階段、庭、サービスヤードの計画上の要点
- 第12回 計画手法：配置計画上の要点、平面計画を行う上でのゾーニング、動線分離の解説
- 第13回 日本の住宅：日本住宅における構成上の特色
- 第14回 世界の住宅：世界の住宅における構成上の特色
- 第15回 今後の住宅課題：現在の住宅に至るまでの移り変わり、今後の住宅の在り方

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：	インテリアデザイン基礎演習
------	----------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：著名なインテリアデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れる。照明器具のシェード製作を通して機能とデザインの基礎を学ぶ

■到達目標：グループ作業を通じて協働で作業することの大切さ、他人の意見を尊重するという社会人としてのマナーを身に付ける。照明製作を通じてイメージを形にする難しさと達成感を学び言葉を使わずに意図を伝えるというデザインの役割を体験する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 事例分析1: デザインの意味、役割について考える。著名なインテリアデザイナーの紹介 |
| 第2回 | 事例分析2: デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習 |
| 第3回 | 事例分析3: 中間発表を通して最初の自分の考え方との差異を議論 |
| 第4回 | 事例分析4: デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析 |
| 第5回 | 事例分析5: 最終発表、プレゼンテーション |
| 第6回 | 照明器具の製作1: 照明の果たす役割、種類について |
| 第7回 | 照明器具の製作2: ファーストアイデアをプレゼンテーション |
| 第8回 | 照明器具の製作3: ペーパーモデル(S=1/3)の製作(デザイン意図と形の整合性) |
| 第9回 | 照明器具の製作4: 試作を重ね、アイデアの進化、改良 |
| 第10回 | 照明器具の製作5: プロポーション、ディテールを詰める |
| 第11回 | 照明器具の製作6: ペーパーモデル(原寸)の製作 |
| 第12回 | 照明器具の製作7: 電球器具の取り付け(熱、大きさ、明るさ) |
| 第13回 | 照明器具の製作8: ペーパーモデル(原寸)の発表。修正点洗い出し |
| 第14回 | 照明器具の製作9: 最終モデルの製作(材質の違いによる問題点) |
| 第15回 | 照明器具の製作10: 最終発表(消灯、点灯時の照明としての役割、造形、意図を議論) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰

科目名：	インテリアデザイン応用演習
------	----------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：既存シティホテルの改修課題。実際の物件を対象に現地視察を行い周辺状況の確認から課題条件を読み解き、各自で課題対象範囲に対してテナントの設定とインテリアの提案を行う
- 到達目標：与えられた時間内にアイディアをまとめ、それを実際のクライアントを想定して見る人に分かるレベルとし、更にプロとして責任をもって説明できることを目指す

■授業計画：

- 第1回 図面の解読と条件把握。事前に問題点を論議整理
- 第2回 現地見学、情報収集
- 第3回 中間発表（実現可能性について論議）
- 第4回 模型製作及び事例情報の収集①
- 第5回 模型製作及び事例情報の収集②
- 第6回 中間発表（白模型の提出とアイディアスケッチ）
- 第7回 空間造形①（平面図、断面図）
- 第8回 空間造形②（平面図、断面図）
- 第9回 中間発表（図面と模型の提出）プレゼンテーション
- 第10回 フィードバック（発表で指摘された部分の修正作業）
- 第11回 詳細検討（素材、什器、照明etc.）
- 第12回 中間発表（図面と模型の提出）修正点の説明
- 第13回 模型及び図面の仕上げ①
- 第14回 模型及び図面の仕上げ②
- 第15回 最終発表

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： インテリアデザイン専攻
担当教員： 宮前和生 (非常勤講師)
実務経験： 商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	基礎製図
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築図面の描き方やルールを学び、各種図面を理解しながら作図出来る基礎的能力を身につける

■到達目標： 建築製図の基礎的知識、技法を学び、演習課題を通じて製図の手法、技法のみならず、部材名、構造、納まり等を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 建築製図の基本(製図用具、製図のルール、JIS) |
| 第2回 | 線と文字の練習 |
| 第3回 | 立体の理解(正投影図、アイソメ、アクソメ) |
| 第4回 | 立体の理解(展開図) |
| 第5回 | 木造平面図(グリッド、柱、大壁、真壁) |
| 第6回 | 木造平面図(建具:窓、戸、造付け設備、タイル等割付線) |
| 第7回 | 木造平面図(室名、出入口表示、寸法線) |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 配置図・屋根伏図 |
| 第11回 | 矩計図 |
| 第12回 | 基礎伏図(フーチング、床下換気口、土間コン) |
| 第13回 | 床伏図(土台、大引、根太、束、火打ち) |
| 第14回 | 小屋伏図(棟木、母屋、軒桁、梁、垂木、小屋束) |
| 第15回 | 平面詳細図 |

■教科書： 株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ基礎演習
------	---------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する
- 到達目標：パースを通して空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う

■授業計画：

- 第1回 透視図の基本と用語。SPの距離と見え方、HL、ELの高さと見え方
- 第2回 基本プランニング・エスキース
- 第3回 平面計画：イメージパース（一消点透視図）
- 第4回 基本設計：イメージパース（一消点透視図）
- 第5回 平面図：イメージパース（二消点透視図）
- 第6回 平面図：イメージパース（二消点透視図）
- 第7回 展開図：リアスティックな内観パース（エレメントの配置）
- 第8回 天井伏図：照明計画・俯瞰図
- 第9回 断面図、アイソメ
- 第10回 断面図、アクソメ
- 第11回 立面図、外観パース（ファサード・テクスチャ）
- 第12回 立面図、外観パース（窓・ミラーの表現）
- 第13回 完成予想パース
- 第14回 鳥瞰図、樹木の表現と種類
- 第15回 プレゼンテーション、講評

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：インテリア構法

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの構造・構法と仕上げに関する知識を解説。建築の技術用語、基礎的な構造形式を習得する

■到達目標：建築構造の基礎的な技術用語、納まりを理解し、習得した技術用語をベースに専門性の深掘りが行えるようにする

■授業計画：

- 第1回 木構造と木材
- 第2回 鉄骨構造と鋼材
- 第3回 鉄筋コンクリート構造とコンクリート
- 第4回 その他の構造
- 第5回 プレハブ構法
- 第6回 床の構法（下地と仕上げ） 演習課題1
- 第7回 壁の構法（下地と仕上げ） 演習課題2
- 第8回 開口部（下地と仕上げ） 演習課題3
- 第9回 天井の構法（下地と仕上げ）
- 第10回 スペースユニット
- 第11回 造作と造作材、建具
- 第12回 断熱材料
- 第13回 吸音材と遮音材
- 第14回 防火材料
- 第15回 防水材料・シール材・接着剤

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：基礎力学

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形を理解する

■到達目標：安全な構造物を設計するための基礎として力と変形の関係について学び、簡単な構造物の変形や応力の解析を行える能力を演習を通して養う

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス、基礎数理、構造の役割と構成
- 第2回 力の合成と分解、力のつり合い、使用単位
- 第3回 構造物のモデル化、構造物に作用する荷重、支点と反力
- 第4回 構造物の安定・不安定、静定構造物の反力の算定
- 第5回 静定ばりの応力算定：片持ち梁、単純梁
- 第6回 静定ばりの応力算定：跳ね出し梁
- 第7回 静定ラーメンの応力算定：応力図(M,N,Q)
- 第8回 片持ちばり系、単純ばり系、3ピンラーメン
- 第9回 静定トラスの応力算定：トラスの種類、トラスの解法
- 第10回 静定トラスの応力算定：節点法、切断法
- 第11回 断面の性質、断面一次モーメント、断面二次モーメント
- 第12回 断面係数、断面2次半径、断面極2次モーメント
- 第13回 垂直・せん断応力度、曲げ応力度、許容応力度
- 第14回 部材の変形、 $\sigma-\epsilon$ 曲線、たわみ
- 第15回 座屈、期末テスト

■教科書：実教出版株式会社 最新建築構造設計入門 -力学から設計まで-

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築構造

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：高等学校における数学と物理学(特に力学)の履修を前提としている為、各自の理解を確認して問題集等に取り組んで欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアエレメント
------	------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う

■到達目標：室内を構成する要素である建具等の材料特性、加工方法、仕組みについて理解する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | エレメントの分類と特性：製品の規格・性能、選定、発注、設置 |
| 第2回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：内装仕上げ部材、建具部材） |
| 第3回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（構造や下地の基礎知識） |
| 第4回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：間仕切、収納部材、階段） |
| 第5回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：給排水、換気・空調設備機器） |
| 第6回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：水回り、照明電機設備機器） |
| 第7回 | 生活行為をサポートする用具系エレメント |
| 第8回 | 生活環境を整えるエレメント（ウインドートリートメント） |
| 第9回 | 関連エレメント |
| 第10回 | メーカーのショールーム見学（実物確認）コーディネーションボードの作成 |
| 第11回 | 建具（内部建具、外部建具、建築金物） |
| 第12回 | 床（木質系、プラスチック系、石・タイル系、繊維系） |
| 第13回 | 壁（塗壁、タイル、壁装、間仕切） |
| 第14回 | 天井（直天井、吊り天井） |
| 第15回 | 照明（照明方法、照明方式、建築化照明、昼光率） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアデザイン専攻
 担当教員：大塚裕介（専任教員）
 実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	インテリア施工
------	----------------

履修形態：必修
 授業形態：講義
 履修学年：1年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要：建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について実例に基づき解説する

■到達目標：建築物が生産される過程に関する広範な知識を習得し、構造種別にしたがった各種技術、建築物の性能（安全性、経済性、生産性、環境性等）について総合的に評価する能力を身に着ける

■授業計画：

- 第1回 工事管理(工程管理・原価管理・品質管理)
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 内装各種工事①(軽量鉄骨下地、左官工事、タイル工事)
- 第4回 内装各種工事②(建具・ガラス工事、塗装工事)
- 第5回 内装各種工事③(金属工事、張り石工事、床工事)
- 第6回 仮設工事・土工事・基礎工事
- 第7回 鉄筋・型枠工事
- 第8回 コンクリート工事①(材料、調合、品質管理、試験)
- 第9回 コンクリート工事②(運搬、養生、各種コンクリート)
- 第10回 鉄骨工事(鋼材、接合、建方、耐火被覆)
- 第11回 木工事(材料、加工、造作、在来、2×4)
- 第12回 組積工事(コンクリートブロック、ALC、れんが)
- 第13回 防水・断熱工事
- 第14回 設備工事、施工機器
- 第15回 積算、工事請負契約

■教科書：

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築施工

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア構法

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計（CADによる作図）を担当

科目名：	CAD演習Ⅰ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築CADの概要、二次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する

■到達目標：CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 基本操作1（作図環境の設定、2次元図形の基本的な作図）CAD製図のJIS規格 |
| 第2回 | 基本操作2（レイヤー、クラス、縮尺、寸法） |
| 第3回 | 配置図の作図：線種表現（境界線、点景、方位、駐車場） |
| 第4回 | 住宅の平面図：画面情報を利用した効率的な作図技術（柱、壁、開口部） |
| 第5回 | 住宅の平面図：線分と面を利用した作図の概念（建具、設備機器） |
| 第6回 | 住宅の平面図：図形登録を利用した効率的な作図技術（ハッチング、タイルパターン） |
| 第7回 | 住宅の断面図：レイヤの概念と利用法（床高、天井高、軒高、最高高さ） |
| 第8回 | 住宅の断面図：腰高、内法高、見えがかり |
| 第9回 | 住宅の立面図：平面図からの投影下書き線 |
| 第10回 | 住宅の立面図：軒高、基礎高、開口部内法、屋根勾配 |
| 第11回 | 矩計図：材料構造表示記号、仕上材名称 |
| 第12回 | 天井伏図：換気口、点検口、天井埋込照明器具 |
| 第13回 | 床伏図：土台、大引、火打、根太 |
| 第14回 | 面積表、全体レイアウト |
| 第15回 | まとめ、ポートフォリオ（課題作品集）作成 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：今井正樹（非常勤講師）
実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	CAD演習Ⅱ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う
- 到達目標：設計に必要な技術と表現（CAD：製図、CG：プレゼン）を実践的な課題と関連付けながら学び、知識を深める

■授業計画：

- 第1回 敷地図作図：フロアプラン、CADによる簡易3Dモデリング
- 第2回 ボリュームスタディによる建物の大きさ、バランス検討
- 第3回 ブロックプラン、ダイアグラム、動線
- 第4回 基本設計 配置図兼平面図 ラフ3D
- 第5回 構造・設備コア、耐震壁
- 第6回 複写機能による各階平面図、画層作成、編集機能
- 第7回 平面詳細図 オブジェクトの階層構造と作業環境
- 第8回 屋根の形状作成と壁高の調整
- 第9回 外観のCG作成 マテリアルの作成とマッピング
- 第10回 立面図修正
- 第11回 室内空間のCG（美しく質感豊かな透視図を作成）
- 第12回 展開図修正
- 第13回 イメージ（光源・背景等）の仕上げ
- 第14回 照明計画図作図
- 第15回 まとめ、合評

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	住空間計画
------	-------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：前期で学んだ建築知識を総合的に活用し、快適で美しい建築物を設計する実務的能力を養う

■到達目標：現地調査を行い、プランから設計まで、住宅設計に係る一連の流れを習得し、プレゼンシートとしてまとめる

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 設計事例紹介、設計条件の確認（用途地域、高さ制限） |
| 第2回 | 現地調査（周辺環境、近隣との関係）、エスキース |
| 第3回 | 設計主旨と配置プラン |
| 第4回 | ボリューム模型 |
| 第5回 | 配置図、平面プラン |
| 第6回 | 採光・換気・設備に関する法規制 |
| 第7回 | 平面図 |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 面積表 |
| 第11回 | 模型 |
| 第12回 | 内観パース |
| 第13回 | 外観パース |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅰ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：作品製作を通じて建築設計に必要なヒューマンスケール、三次元形態の把握方法を理解する

■到達目標：建築模型が正確に作成出来、建築物を立体的に表現する能力を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | 教室模型の制作1:課題説明、実測 |
| 第2回 | 教室模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第3回 | 教室模型の制作3:展開図 |
| 第4回 | 教室模型の制作4:モデルボードの性質、カット法 |
| 第5回 | 教室模型の制作5:部材切り出し |
| 第6回 | 教室模型の制作6:組み立て |
| 第7回 | 住宅模型の制作1:エスキース |
| 第8回 | 住宅模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第9回 | 住宅模型の制作3:外部展開図 |
| 第10回 | 住宅模型の制作4:部材切り出し |
| 第11回 | 住宅模型の制作5:開口部 |
| 第12回 | 住宅模型の制作6:組み立て |
| 第13回 | 住宅模型の制作7:スタディモデルによる発想と展開 |
| 第14回 | 住宅模型の制作8:図面修正 |
| 第15回 | 合評:プレゼンテーション |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅱ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する

■到達目標：構造模型制作を通して、部材構成および部材名称を理解し、組立図から基礎伏図、小屋組図を読み取る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、図面確認（平面図、伏図、軸組図） |
| 第2回 | 【木造在来構法】基礎伏図（敷地、基礎、束石） |
| 第3回 | 〃 床束、根がらみ、土台（継手・仕口）、火打ち |
| 第4回 | 〃 床伏図（大引き、根太、根太掛け） |
| 第5回 | 〃 建て方（通し柱、管柱、木材の元口と末口） |
| 第6回 | 〃 大梁、胴差し、火打ち梁、小ばり、2階床組 |
| 第7回 | 〃 小屋ばり、軒桁、小屋組（棟木、母屋） |
| 第8回 | 〃 垂木、まぐさ、窓台、間柱、筋かい |
| 第9回 | 【枠組壁工法】ツーバイフォー工法に使用される材料特性 |
| 第10回 | 〃 基礎、土台、1階床組 |
| 第11回 | 〃 1階壁組（はり間方向）隅柱、かい木 |
| 第12回 | 〃 1階壁組（けた方向）ころび止め、頭つなぎ |
| 第13回 | 〃 2階床組、2階壁組 |
| 第14回 | 〃 小屋組、仕上げ |
| 第15回 | 合評（工法の違いによる構造的特長） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：DTP基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：プレゼンテーションを作成する上で必要なイラストレーター・フォトショップの基礎知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う

■到達目標：演習課題を通してIllustrator/photoshopスタンダード認定試験の合格を目指す

■授業計画：

- 第1回 プレゼンテーション概要：様々な業界のCG事例を紹介
- 第2回 イラストレーター基礎①：イラストレーター作業環境を知る。用紙サイズ・カラーモード
- 第3回 イラストレーター基礎②：主に使用するツールパレットの説明。ベジェ曲線演習
- 第4回 イラストレーター基礎③：練習問題を通じて作図演習
- 第5回 イラストレーター基礎④：フィルタ・効果の説明
- 第6回 フォトショップ基礎①：フォトショップの作業環境を知る。画像サイズ・カラーモード
- 第7回 フォトショップ基礎②：主に使用するツールパレットの説明、選択範囲
- 第8回 フォトショップ基礎③：色調・レベル補正概要の説明、画像加工演習を行う
- 第9回 フォトショップ基礎④：フィルタ効果等説明、作業演習
- 第10回 イラストレーター演習①：学校祭ポスター・旗の作成
- 第11回 イラストレーター演習②：学校祭ポスター・旗の作成
- 第12回 イラストレーター演習③：個人名刺作成
- 第13回 フォトショップ演習①：CDジャケット作成①資料収集、分析
- 第14回 フォトショップ演習②：CDジャケット作成②、画像加工
- 第15回 フォトショップ演習③：CDジャケット作成③、仕上

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：Illustrator能力認定試験問題集、Photoshop能力認定試験問題集

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、設計競技のプレゼンテーションを手掛けるデザイン事務所を主宰。

科目名：	DTP応用演習
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：複数のグラフィックスアプリケーションを用い、文字やグラフィックを自在に操る技術と知識を実践的に修得する

■到達目標：イメージング技術、デジタル環境下におけるレイアウト技術について、実務的な作品の制作工程を通じて展開力を身につける。適切に思考を表現し、第三者へ伝えることができる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | テーマからコンセプト |
| 第2回 | コンセプト案を可視化するたのエスキース |
| 第3回 | 基本設計 |
| 第4回 | スタディ模型にてボリューム検討、ダイアグラムの作成 |
| 第5回 | 基本設計図の作成(平面図、立面図、断面図) |
| 第6回 | 画像加工①CG加工：内観パースモデリング |
| 第7回 | 画像加工②CG加工：内観パーステクスチャ |
| 第8回 | 画像加工③CG加工：外観パース |
| 第9回 | 画像加工①模型写真加工 |
| 第10回 | 画像加工②模型写真加工 |
| 第11回 | レイアウト(コンセプト、ダイアグラム、図面、パース) |
| 第12回 | カラーバランス |
| 第13回 | レイアウト調整、再構成 |
| 第14回 | 仕上、高解像度レンダリング、校正チェック |
| 第15回 | 出力 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	インテリア模型
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：本授業ではインテリア模型作成の応用技法を学び、プレゼンテーションツールとしての活かし方を身につけることを目指す

■到達目標：コンセプトを端的に伝えられる模型構成、カメラアングル、Photoshopスキルを身につける。必要とされる模型表現と作業時間のバランスを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | アトリエの建築模型達 |
| 第2回 | 模型の道具と材料 |
| 第3回 | 材料加工のテクニック：切る |
| 第4回 | 材料加工のテクニック：削る |
| 第5回 | 材料加工のテクニック：曲げる |
| 第6回 | 材料加工のテクニック：接着 |
| 第7回 | 材料加工のテクニック：塗装 |
| 第8回 | 細密表現、素材の質感 |
| 第9回 | 植栽の作り方 |
| 第10回 | 人、車の作り方 |
| 第11回 | 模型撮影：セッティング、ライティング |
| 第12回 | 画像加工、補正 |
| 第13回 | 背景合成 |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：今井正樹（非常勤講師）
実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	3Dデザイン演習Ⅰ
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：効果的なプレゼンテーションに不可欠な製図技法、表現技法の一つとして、Vectorworks やRender WorksなどのCADソフトの習得を目指す
- 到達目標：家具、室内3D空間の作成、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 3D基本操作、柱状体の作成を通じて3Dの基礎を学ぶ |
| 第2回 | 回転体の作成、3Dパス、3Dツール操作練習 |
| 第3回 | 3D図形の加工（噛み合わせ、削り取り）、3D視点操作（投影、アングル設定） |
| 第4回 | テクスチャーの取り込み、マッピング練習 |
| 第5回 | レンダリングの使い分け、照明計画（太陽光、直接光、間接光） |
| 第6回 | 家具のモデリング（椅子） |
| 第7回 | 家具のモデリング（テーブル） |
| 第8回 | インテリア空間のモデリング、レイヤとクラスの設定、下図作成 |
| 第9回 | 床、壁の作成、シートレイヤ、画面登録、ビューポート |
| 第10回 | 天井の作成、シートレイヤ、画面登録、ビューポート |
| 第11回 | テクスチャー |
| 第12回 | 光源調整、アングル調整、レンダリング |
| 第13回 | イメージ、テキスト入力、レイアウト |
| 第14回 | プレゼンボードレイアウト調整、プリントアウト |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：3Dデザイン演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアデザイン専攻
 担当教員：今井正樹（非常勤講師）
 実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	3Dデザイン演習Ⅱ
------	------------------

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：2年次
 開講学期：前期
 授業時数：60時間
 単 位：2単位

■科目概要：3Dデザイン演習Ⅰにて学んだ技術を基に、より高度なモデリングテクニックを習得する

■到達目標：家具、室内3D空間の作成、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得。Vectorworks Designerの機能を使い、外構のデザイン等、トータルのプレゼンテーションを目指す

■授業計画：

- 第1回 多層階のモデリングの作成：初期設定、基本ツール、コマンド練習
- 第2回 多層階のモデリングの作成：ストーリーの作成、基礎の設定
- 第3回 多層階のモデリングの作成：1階の柱、壁、床の作成
- 第4回 多層階のモデリングの作成：ハイブリッドシンボル、プラグインオブジェクトの配置
- 第5回 多層階のモデリングの作成：2階の作成、2階バルコニー、屋上塔屋の作成
- 第6回 多層階のモデリングの作成：外構の作成、パースの作成、ビューポート設定
- 第7回 多層階のモデリングの作成：各階平面図、立面図、断面図、パースの取り出し
- 第8回 エスキス：建築ボリューム・配置の検討、外構検討
- 第9回 エスキス：平面計画の検討
- 第10回 壁の設定、壁の自動生成、床、天井の設定
- 第11回 プラグインオブジェクトの挿入、各階の屋根等作成、ハイブリッドオブジェクトの作成
- 第12回 図面枠、表題欄、プレゼンテーションの作成フロー、配置図、平面図等の取り出し
- 第13回 断面図、立面図等取り出し
- 第14回 パースの作成、取り出し
- 第15回 シートレイヤの変更調整、プリントアウト

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：3Dデザイン演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアディテール
------	------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：『良いデザインは良いディテールの積み重ねで出来ている』ディテールの重要性を実物や素材に触れる機会を通して体験し学ぶ

■到達目標：インテリアディテールの基礎知識、デザイン、プレゼンテーション、素材知識、納まりを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 校内探索(仕上げ材、工法、納まり) |
| 第2回 | 校外学習①(ウィンドウトリートメント) |
| 第3回 | 光のさまざまな表情を暮らしに生かす |
| 第4回 | 空間を光でつなぐ心理効果 |
| 第5回 | 暮らしを豊かにする天窓 |
| 第6回 | 心地好さを生む風の動線計画 |
| 第7回 | 校外学習②(住宅) |
| 第8回 | 一工夫で「使う場所」から「過ごす場所」に |
| 第9回 | 利便性を高める動線 |
| 第10回 | 飾るスペースの提案(階段、廊下)、収納計画 |
| 第11回 | 気配と光を伝える建具のスリット、空間に風穴を開ける |
| 第12回 | 家具収納で空間を緩やかに仕切る |
| 第13回 | 建具の開閉で開放感と落ち着きをコントロール |
| 第14回 | 意匠的な魅力もある室内壁の穴 |
| 第15回 | 将来変化に対応するディテール |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	インテリア設計演習
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：デッサンの基礎を交えながら、空間の把握、造形やデザイン感覚の育成、レイアウト図簡易図法で表現する力を養いクイックパースを習得する。平面詳細図を通して寸法の押さえを再確認する
- 到達目標：インテリアコーディネーター資格試験、インテリアプランナー資格試験の実技合格を目標とする

■授業計画：

- 第1回 簡易図法（一消点透視図）平面図を読み解き空間構成を完成させる
- 第2回 一消点透視図のグリッドシートを作成しトレースダウン
- 第3回 着彩、提出
- 第4回 IP資格試験設計製図：問題読解、設計条件の確認
- 第5回 IP資格試験設計製図：エスキース（計画・構成）
- 第6回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第7回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第8回 IP資格試験設計製図：床・壁・天井の仕上げ記入
- 第9回 IP資格試験設計製図：平面図の意図を反映させた透視図の作図
- 第10回 IP資格試験設計製図：トレースダウン
- 第11回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（形状）
- 第12回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（材質感）
- 第13回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（仕上げ）
- 第14回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（主要寸法）
- 第15回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（着彩、仕上げ）

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	商業施設デザイン演習Ⅰ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：商業施設の設計図トレースを通じ、コンクリート造軽量鉄骨仕上げの下地、内部仕上げ、建具等のディテール、納まりを理解する。第三角法による什器図の作図
- 到達目標：オフィス・マンション・商業施設等のビル内部におけるインテリアの設計技術、家具・什器の製図技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 製図規約の再確認と応用 |
| 第2回 | 線種表現、基準線と寸法線、表示記号 |
| 第3回 | RC造、計量鉄骨間仕切り壁の理解 |
| 第4回 | 内部開口部、外部開口部 |
| 第5回 | 平面詳細提出 |
| 第6回 | 展開図の作図（高さの基準、CH） |
| 第7回 | 展開図の作図（窓の位置、仕上げの記入） |
| 第8回 | 展開図提出 |
| 第9回 | 天井伏図（仕上げ、組み天井下地の理解） |
| 第10回 | 天井伏図（照明計画） |
| 第11回 | 天井伏図提出 |
| 第12回 | 什器図（正投影法） |
| 第13回 | 什器図（平面図・正面図・断面図・側面図） |
| 第14回 | 什器図提出 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	商業施設デザイン演習Ⅱ
------	--------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：カフェレストランのデザインをモデルとして設計工程、調査・資料収集、構想、設計、プレゼンテーションまでを順を追って学習する。商業施設計画に必要な設計図書、関連法規を理解する
- 到達目標：業態・消費者の動向、デザイン傾向、立地環境等を分析把握し立案、基本設計及びプレゼンテーションとしてまとめる能力を習得

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 商業施設デザイン概論：カフェレストラン構想と資料収集 |
| 第2回 | カフェレストランの形態と概要：デザイン設計のアウトラインと設計図書 |
| 第3回 | 立地環境・消費者動向・デザインの傾向を踏まえ計画 |
| 第4回 | コンセプト、テーマの決定 |
| 第5回 | デザイン計画（エスキス） |
| 第6回 | 店舗構成、機能の配置と動線計画 |
| 第7回 | 平面図作図 |
| 第8回 | 断面・展開位置の決め方、記号の記入 |
| 第9回 | 展開図作図 |
| 第10回 | 動態寸法 |
| 第11回 | 天井伏図（配灯図）作図 |
| 第12回 | サイン計画 |
| 第13回 | 什器図 |
| 第14回 | レイアウト、プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：商業施設デザイン演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。住宅や店舗の設計・デザインを手掛ける。

科目名：インテリア装備

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：各部の構法・材料・エレメント・防災安全・サイン計画について演習課題を通して学ぶ

■到達目標：インテリアプランナー試験（学科：装備）の分野の習得を目指す

■授業計画：

- 第1回 住宅における壁、床等の取り合い
- 第2回 床構法
- 第3回 階段
- 第4回 木製天井下地
- 第5回 開口部
- 第6回 窓、カーテン、ブラインド、シェード
- 第7回 和風造作
- 第8回 名作椅子、ベッド
- 第9回 照明器具、照明光源
- 第10回 カーペット（種類と工法）
- 第11回 建具、錠、家具金物
- 第12回 壁紙、塗壁、壁装
- 第13回 サイン計画
- 第14回 内装材
- 第15回 安全対策、火災安全」計画、煙制御

■教科書：インテリアプランナーガイドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：石塚和彦（非常勤講師）
実務経験：大手建設株式会社設計部門で、主に商業施設の建築設計・監理を担当。退社後、一級建築士事務所を設立し、主に個人住宅・商業施設の設計に携わる。

科目名：	住宅設計演習
------	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅設計に係る基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して住空間をデザインする基礎力を養う

■到達目標：ゾーニング、動線、建築構成要素等を学び、作図表現する能力、設計技術の基本を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 住宅における人間工学と単位空間 |
| 第2回 | 住宅における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第3回 | 木造の特性と2×4・RCの壁量 |
| 第4回 | 住宅設計課題1（敷地調査、状況分析、エスキース） |
| 第5回 | 〃 制作1 平面図（通り芯・壁厚・内外壁の仕上げ） |
| 第6回 | 〃 制作2 敷地・配置図 |
| 第7回 | 〃 制作3 立面図開口部のバランスとファサード |
| 第8回 | 〃 制作4 細部構成・設備器具・家具 |
| 第9回 | プレゼンテーション、講評会 |
| 第10回 | 住宅設計課題2（二世帯住宅）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第11回 | 〃 制作1 二世帯の関係性と配置の作図 |
| 第12回 | 〃 制作2 二世帯の断熱計画と生活時間帯（平面・断面図） |
| 第13回 | 〃 制作3 階段～機能と演出効果、照明～光と影 |
| 第14回 | 〃 制作4 植栽の書き方と面積表・駐車場 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：設備計画

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する

■到達目標：建築と設備の整合性と維持管理の重要性が把握できると共に、給排水・衛生設備計画手法を知る

■授業計画：

- 第1回 各種エネルギーの利用技術、省エネルギーのための各種技術
- 第2回 冷暖房設備：暖房設備の分類、コールドドラフト
- 第3回 冷暖房設備：冷凍機、ヒートポンプ、冷却塔
- 第4回 空気調和設備：各種空調方式、熱負荷計算
- 第5回 空気調和設備：換気設備、自然エネルギーの利用
- 第6回 電気設備：配電方式、配線方式、避雷設備
- 第7回 照明設備・ガス設備
- 第8回 給水給湯設備：給水方式、給水量、必要圧力
- 第9回 給水給湯設備：水質汚染防止、中水
- 第10回 排水通気設備：排水方式、トラップ、通気管
- 第11回 衛生設備：衛生器具、パイプスペース
- 第12回 消化防災設備：警報、防火、排煙、非難誘導
- 第13回 ごみ処理設備：基本的な設計提案
- 第14回 情報通信設備：UPS、CVCF、PBX、LAN、電磁シールドルーム
- 第15回 設備融合：保守管理、LC計画、中央管制、各種建築物の設備容量と機械室面積

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書：『建築設備学教科書』／建築設備教科書研究会編著(彰国社)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：建築一般

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する

■到達目標：木質構法・鉄筋コンクリート構法・鉄骨構法を中心に、その役割・構成を理解する

■授業計画：

- 第1回 建築構法の概説(建築物の構成、構造方式の種類、構法の変遷)
- 第2回 主体構法(建築物への荷重・外力、水平構面とねじれ)
- 第3回 木質構法: 木質構法の特徴、材料、木材の性質(ヤング係数、含水率、防腐防蟻)
- 第4回 木質構法: 軸組構法、部材の接合法(継手、仕口)
- 第5回 木質構法: 枠組壁構法、ツーバイフォー工法、生産の要点
- 第6回 木質構法: 大断面集成材構法、大断面集成材による木造建築物
- 第7回 鉄筋コンクリート構法: 構造形式、材料(セメントの種類、骨材)
- 第8回 鉄筋コンクリート構法: ラーメン、材料の性質と許容応力度
- 第9回 鉄筋コンクリート構法: 壁式、PC、SRC
- 第10回 鉄骨構法: 構造形式と特徴、鋼材の力学的特性
- 第11回 鉄骨構法: 接合方法、架構、建方
- 第12回 過去の地震被害に見られる構法上の教訓
- 第13回 形態と構法
- 第14回 性能と構法
- 第15回 総括、テスト

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計を担当

科目名：インテリア法規

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用する能力を養う
- 到達目標：建築基準法を正しく解釈し、建築法令集を適切に参照して法規的問題を解決できるようにする事を目的とする

■授業計画：

- 第1回 建築基準法の概要、建築関連の法体系
- 第2回 用語の定義（建築物に関する用語）準用工作物、特殊建築物
- 第3回 用語の定義（防火関係の用語）耐火、準耐、防火構造、性能
- 第4回 都市計画区域等における建築制限（集団規定）道路
- 第5回 用途地域（用途地域の指定、建築物の用途制限）
- 第6回 面積算定（敷地面積、建築面積、延べ床）
- 第7回 面積制限（容積率、前面道路、建ぺい率）
- 第8回 高さ等の算定（建築物の高さ、軒の高さ、階数、避難階）
- 第9回 内装制限、消防法、防災物品
- 第10回 建築手続（建築主、確認済証、確認申請、各種届出）
- 第11回 建築物自体の技術基準（単体規定）一般構造（階段、便所）
- 第12回 居室の採光、有効開口部面積の算定、換気、シックハウス
- 第13回 居室の天井・床の高さ、共同住宅の界壁
- 第14回 建築設備（避雷設備、給排水設備、昇降機設備）
- 第15回 建設業法、景観法、バリアフリー法、建築士法、品確法、省エネ法

■教科書：建築基準法関係法令集（建築資料研究社／日建学院 編）

■参考書：学芸出版社 やさしい建築法規

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：法令集をつねに開き確認することを身につける

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅠ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：インテリア空間を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う
- 到達目標：パースペクティブ、3DやCGなどの表現方法を用いて、空間を表現するための技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | プレゼンテーションの概要 |
| 第2回 | 建築設計競技プレゼンテーション例の紹介と解説 |
| 第3回 | 設計主旨及びエスキース |
| 第4回 | 基本設計 |
| 第5回 | 図面表現① |
| 第6回 | 図面表現② |
| 第7回 | 外観パース作成、モデリング |
| 第8回 | 外観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第9回 | 外観パース作成、ヒューマンスケール、外構、植栽、背景合成 |
| 第10回 | 内観パース作成、モデリング |
| 第11回 | 内観パース作成、光源設定 |
| 第12回 | 内観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第13回 | エレメントの取り込み |
| 第14回 | レイアウト、校正 |
| 第15回 | 最終調整、仕上げ、プリントアウト |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅡ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅡ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝えるビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ

■到達目標：プレゼンテーションⅠで学習した基礎技術をもとに、建築、インテリア空間をより一層明確に表現・伝える技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 図面のレイアウトとバランス |
| 第2回 | 図面表現、製図基準 |
| 第3回 | 平面図・配置図の表現と種類 |
| 第4回 | 立面図・樹木の表現と種類 |
| 第5回 | 断面図の表現と種類 |
| 第6回 | コンセプト及び基本設計、マスタープラン |
| 第7回 | エスキース、スタディ模型 |
| 第8回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第9回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第10回 | ドローイング |
| 第11回 | リアスティックな内観パースの作成（エレメントの配置） |
| 第12回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第13回 | 外観パース作成 |
| 第14回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第15回 | レイアウト調整、プレゼンテーション、講評 |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅠ

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 インテリアコーディネーション専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
住宅設計演習	○		2年・前期	60
CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	30
CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
インテリア計画Ⅰ	○		1年・前期	60
インテリア計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住まいと環境	○		1年・前期	30
設備計画	○		2年・前期	60
基礎力学	○		1年・後期	30
建築一般	○		2年・前期	30
インテリア構法	○		1年・後期	60
インテリアエレメント	○		1年・前期	60
インテリア施工	○		1年・後期	30
インテリア法規	○		2年・前期	30
造形演習Ⅰ	○		1年・前期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
パースペクティブ基礎演習	○		1年・前期	60
インテリア概論	○		1年・前期	30
インテリア設計演習	○		1年・後期	30
住空間計画	○		1年・後期	30
インテリアデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
インテリアデザイン応用演習	○		2年・前期	60
プレゼンテーションⅠ	○		1年・後期	60
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
インテリアコーディネーション演習	○		1年・後期	30
インテリアコーディネーター資格試験講座	○		2年・前期	60
商業施設デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
パースペクティブ応用演習	○		2年・前期	60
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP応用演習	○		2年・後期	30
インテリアディテール	○		1年・後期	30
インテリア装備	○		2年・前期	30
インテリア模型	○		1年・後期	30
英語	○		1年・前期	30
合 計				1560

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネーター業務。その後フリーにて活動。日本パーステック協会会員

科目名：	インテリア概論
------	---------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：インテリアデザイン、コーディネーションボード等の作成を中心にもの創りの楽しさを学ぶ。また、コンペ等に積極的に取り組む
- 到達目標：インテリアデザイナー、コーディネーターとして必要な知識、技術を身に付け、実践する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(インテリアデザイン、コーディネーターの仕事について) |
| 第2回 | インテリアの歴史・インテリア計画 |
| 第3回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第4回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第5回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第6回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第7回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第8回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第9回 | インテリア構造 |
| 第10回 | インテリア構法 |
| 第11回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(設計図書について) |
| 第12回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第13回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第14回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |
| 第15回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：宮崎昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：英語

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する

■到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント③：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書：プリント配布

■参考書：辞書があれば望ましい

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネート業務。その後フリーにて活動。設計から入るインテリアデザインを行う

科目名：	住まいと環境
------	--------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する
- 到達目標：熱・空気・音・光環境のメカニズムとこれらの測定技術、制御技術を理解し、人間が建物内で快適な生活を送る為の室内環境整備の基準や方法を学ぶ

■授業計画：

- 第1回 熱環境Ⅰ：室内環境と温熱感覚、熱損失と熱取得
- 第2回 熱環境Ⅱ：熱伝導、熱貫流率、熱損失係数、遮熱
- 第3回 熱環境Ⅲ：室温と熱負荷、不快指数、快適域
- 第4回 光環境Ⅰ：日照と日射、日影線図、日影時間の検討
- 第5回 光環境Ⅱ：採光上有効な窓、光の単位と法則、採光計画
- 第6回 光環境Ⅲ：室内照度分布、照明計画
- 第7回 空気環境Ⅰ：空気質と換気、必要換気量、換気方式
- 第8回 空気環境Ⅱ：換気と通風の力学、圧力差、圧力損失
- 第9回 空気環境Ⅲ：通風、室内気流と温度分布
- 第10回 湿気Ⅰ：水蒸気量、空気線図、露点温度
- 第11回 湿気Ⅱ：壁体の結露、（表面結露と内部結露）
- 第12回 音環境Ⅰ：音の伝搬と減衰、室内音響
- 第13回 音環境Ⅱ：吸音・遮音特性、住宅内装計画
- 第14回 音環境Ⅲ：騒音・振動の計測とその評価、環境基準
- 第15回 電磁環境：電磁環境とその障害、電磁シールド技術

■教科書：

■参考書：学芸出版社 専門士課程 建築計画

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：日常生活の中で室内照明や音響効果、室内気流と空気、温度や湿度等に関心を持ち、周辺環境を注意深く観察し、疑問を持って講義に臨んでほしい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	インテリア計画Ⅰ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う

■到達目標：建築計画の概念および設計プロセスの習得。条件（立地、予算、法規、機能）を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。常用寸法やヒューマンスケールを身に付ける。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 地理的環境・機能と形態 |
| 第2回 | 安全性・美しさ・象徴性・法規と形態 |
| 第3回 | 人間の知覚と行動、歩行空間、建物の配置 |
| 第4回 | 寸法と規模の計画、単位空間と建築部位 |
| 第5回 | 空間構成技法（仕切りと連結） |
| 第6回 | 住宅を形づくる要因（気候風土） |
| 第7回 | 住宅の種類と作品 |
| 第8回 | ライフスタイル、高齢化 |
| 第9回 | 住まいの性能 |
| 第10回 | デザイン上の解法 |
| 第11回 | リフォーム計画：リフォームの種類と内容 |
| 第12回 | リフォーム計画：計画上の留意点 |
| 第13回 | リフォーム計画：住宅性能の維持 |
| 第14回 | リフォーム計画：快適性の向上 |
| 第15回 | リノベーション |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅱ

■履修上の留意点：日常生活の中にある空間や物の寸法、素材、納まり等を興味を持って観察して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立

科目名：	インテリア計画Ⅱ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅空間に焦点を当て、その実例等を等を通してディテール、建築手法、計画における幅広い知識を習得する

■到達目標：住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する

■授業計画：

- 第1回 住宅について：住宅建築の位置付け、多様な住宅
- 第2回 住宅の要素Ⅰ：外的環境（自然、地形、立地条件）
- 第3回 住宅の要素Ⅱ：人的環境（建築技術、生業体系、防犯、社会形態）
- 第4回 住宅の要素Ⅲ：文化形態、住宅の多様性
- 第5回 建築計画：建築計画の理論と方法
- 第6回 住生活と生活構造：住宅は住生活の為の空間、住生活内容の成員、生活行為
- 第7回 団欒・食事空間：居間、食事室の意義と要求条件、計画の要点
- 第8回 家事空間：台所を中心に社会・技術の発展に伴う家事空間の変遷と求められる要点
- 第9回 就寝空間：日本における特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件
- 第10回 生理・衛生空間：浴室、洗面所、WCの計画上の要点
- 第11回 連絡空間、屋外空間：玄関、廊下、階段、庭、サービスヤードの計画上の要点
- 第12回 計画手法：配置計画上の要点、平面計画を行う上でのゾーニング、動線分離の解説
- 第13回 日本の住宅：日本住宅における構成上の特色
- 第14回 世界の住宅：世界の住宅における構成上の特色
- 第15回 今後の住宅課題：現在の住宅に至るまでの移り変わり、今後の住宅の在り方

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：	インテリアデザイン基礎演習
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：著名なインテリアデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れる。照明器具のシェード製作を通して機能とデザインの基礎を学ぶ

■到達目標：グループ作業を通じて協働で作業することの大切さ、他人の意見を尊重するという社会人としてのマナーを身に付ける。照明製作を通じてイメージを形にする難しさと達成感を学び言葉を使わずに意図を伝えるというデザインの役割を体験する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 事例分析1: デザインの意味、役割について考える。著名なインテリアデザイナーの紹介 |
| 第2回 | 事例分析2: デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習 |
| 第3回 | 事例分析3: 中間発表を通して最初の自分の考え方との差異を議論 |
| 第4回 | 事例分析4: デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析 |
| 第5回 | 事例分析5: 最終発表、プレゼンテーション |
| 第6回 | 照明器具の製作1: 照明の果たす役割、種類について |
| 第7回 | 照明器具の製作2: ファーストアイデアをプレゼンテーション |
| 第8回 | 照明器具の製作3: ペーパーモデル(S=1/3)の製作(デザイン意図と形の整合性) |
| 第9回 | 照明器具の製作4: 試作を重ね、アイデアの進化、改良 |
| 第10回 | 照明器具の製作5: プロポーション、ディテールを詰める |
| 第11回 | 照明器具の製作6: ペーパーモデル(原寸)の製作 |
| 第12回 | 照明器具の製作7: 電球器具の取り付け(熱、大きさ、明るさ) |
| 第13回 | 照明器具の製作8: ペーパーモデル(原寸)の発表。修正点洗い出し |
| 第14回 | 照明器具の製作9: 最終モデルの製作(材質の違いによる問題点) |
| 第15回 | 照明器具の製作10: 最終発表(消灯、点灯時の照明としての役割、造形、意図を議論) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰

科目名：	インテリアデザイン応用演習
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：既存シティホテルの改修課題。実際の物件を対象に現地視察を行い周辺状況の確認から課題条件を読み解き、各自で課題対象範囲に対してテナントの設定とインテリアの提案を行う
- 到達目標：与えられた時間内にアイディアをまとめ、それを実際のクライアントを想定して見る人に分かるレベルとし、更にプロとして責任をもって説明できることを目指す

■授業計画：

- 第1回 図面の解説と条件把握。事前に問題点を論議整理
- 第2回 現地見学、情報収集
- 第3回 中間発表（実現可能性について論議）
- 第4回 模型製作及び事例情報の収集①
- 第5回 模型製作及び事例情報の収集②
- 第6回 中間発表（白模型の提出とアイディアスケッチ）
- 第7回 空間造形①（平面図、断面図）
- 第8回 空間造形②（平面図、断面図）
- 第9回 中間発表（図面と模型の提出）プレゼンテーション
- 第10回 フィードバック（発表で指摘された部分の修正作業）
- 第11回 詳細検討（素材、什器、照明etc.）
- 第12回 中間発表（図面と模型の提出）修正点の説明
- 第13回 模型及び図面の仕上げ①
- 第14回 模型及び図面の仕上げ②
- 第15回 最終発表

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	基礎製図
------	------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築図面の描き方やルールを学び、各種図面を理解しながら作図出来る基礎的能力を身につける

■到達目標：建築製図の基礎的知識、技法を学び、演習課題を通じて製図の手法、技法のみならず、部材名、構造、納まり等を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 建築製図の基本（製図用具、製図のルール、JIS） |
| 第2回 | 線と文字の練習 |
| 第3回 | 立体の理解（正投影図、アイソメ、アクソメ） |
| 第4回 | 立体の理解（展開図） |
| 第5回 | 木造平面図（グリッド、柱、大壁、真壁） |
| 第6回 | 木造平面図（建具：窓、戸、造付け設備、タイル等割付線） |
| 第7回 | 木造平面図（室名、出入口表示、寸法線） |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 配置図・屋根伏図 |
| 第11回 | 矩計図 |
| 第12回 | 基礎伏図（フーチング、床下換気口、土間コン） |
| 第13回 | 床伏図（土台、大引、根太、束、火打ち） |
| 第14回 | 小屋伏図（棟木、母屋、軒桁、梁、垂木、小屋束） |
| 第15回 | 平面詳細図 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ基礎演習
------	---------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する
- 到達目標：パースを通して空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 透視図の基本と用語。SPの距離と見え方、HL、ELの高さと見え方 |
| 第2回 | 基本プランニング・エスキース |
| 第3回 | 平面計画：イメージパース（一消点透視図） |
| 第4回 | 基本設計：イメージパース（一消点透視図） |
| 第5回 | 平面図：イメージパース（二消点透視図） |
| 第6回 | 平面図：イメージパース（二消点透視図） |
| 第7回 | 展開図：リアスティックな内観パース（エレメントの配置） |
| 第8回 | 天井伏図：照明計画・俯瞰図 |
| 第9回 | 断面図、アイソメ |
| 第10回 | 断面図、アクソメ |
| 第11回 | 立面図、外観パース（ファサード・テクスチャ） |
| 第12回 | 立面図、外観パース（窓・ミラーの表現） |
| 第13回 | 完成予想パース |
| 第14回 | 鳥瞰図、樹木の表現と種類 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ応用演習
------	---------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：室内のプランを考え、パース表現の演習を行う。簡易グリッドを用いてクイックパースを学び、実務に必要なスキルを身に付ける。

■到達目標：インテリアパースの着彩技術をより深める為に、様々な画材に慣れ、パースの完成度を上げる。素材表現と添景表現を学習し、表現の幅を広げる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------|
| 第1回 | 素材表現：壁、タイル |
| 第2回 | 素材表現：塗装 |
| 第3回 | 素材表現：床、石 |
| 第4回 | 添景表現：樹木 |
| 第5回 | 添景表現：草花 |
| 第6回 | 添景表現：人物① |
| 第7回 | 添景表現：人物② |
| 第8回 | 室内パース① |
| 第9回 | 室内パース②彩色 |
| 第10回 | 家具と人物① |
| 第11回 | 家具と人物②彩色 |
| 第12回 | クイックパース① |
| 第13回 | クイックパース②彩色 |
| 第14回 | スケッチ |
| 第15回 | 寸法と仕上げ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：インテリア構法

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの構造・構法と仕上げに関する知識を解説。建築の技術用語、基礎的な構造形式を習得する

■到達目標：建築構造の基礎的な技術用語、納まりを理解し、習得した技術用語をベースに専門性の深掘りが行えるようにする

■授業計画：

- 第1回 木構造と木材
- 第2回 鉄骨構造と鋼材
- 第3回 鉄筋コンクリート構造とコンクリート
- 第4回 その他の構造
- 第5回 プレハブ構法
- 第6回 床の構法（下地と仕上げ） 演習課題1
- 第7回 壁の構法（下地と仕上げ） 演習課題2
- 第8回 開口部（下地と仕上げ） 演習課題3
- 第9回 天井の構法（下地と仕上げ）
- 第10回 スペースユニット
- 第11回 造作と造作材、建具
- 第12回 断熱材料
- 第13回 吸音材と遮音材
- 第14回 防火材料
- 第15回 防水材料・シール材・接着剤

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚裁子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：基礎力学

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形を理解する

■到達目標：安全な構造物を設計するための基礎として力と変形の関係について学び、簡単な構造物の変形や応力の解析を行える能力を演習を通して養う

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス、基礎数理、構造の役割と構成
- 第2回 力の合成と分解、力のつり合い、使用単位
- 第3回 構造物のモデル化、構造物に作用する荷重、支点と反力
- 第4回 構造物の安定・不安定、静定構造物の反力の算定
- 第5回 静定ばりの応力算定：片持ち梁、単純梁
- 第6回 静定ばりの応力算定：跳ね出し梁
- 第7回 静定ラーメンの応力算定：応力図(M,N,Q)
- 第8回 片持ちばり系、単純ばり系、3ピンラーメン
- 第9回 静定トラスの応力算定：トラスの種類、トラスの解法
- 第10回 静定トラスの応力算定：節点法、切断法
- 第11回 断面の性質、断面一次モーメント、断面二次モーメント
- 第12回 断面係数、断面2次半径、断面極2次モーメント
- 第13回 垂直・せん断応力度、曲げ応力度、許容応力度
- 第14回 部材の変形、 σ - ε 曲線、たわみ
- 第15回 座屈、期末テスト

■教科書：実教出版株式会社 最新建築構造設計入門 -力学から設計まで-

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築構造

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：高等学校における数学と物理学(特に力学)の履修を前提としている為、各自の理解を確認して問題集等に取り組んで欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアエレメント
------	------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う

■到達目標：室内を構成する要素である建具等の材料特性、加工方法、仕組みについて理解する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | エレメントの分類と特性：製品の規格・性能、選定、発注、設置 |
| 第2回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：内装仕上げ部材、建具部材） |
| 第3回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（構造や下地の基礎知識） |
| 第4回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：間仕切、収納部材、階段） |
| 第5回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：給排水、換気・空調設備機器） |
| 第6回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：水回り、照明電機設備機器） |
| 第7回 | 生活行為をサポートする用具系エレメント |
| 第8回 | 生活環境を整えるエレメント（ウインドトリートメント） |
| 第9回 | 関連エレメント |
| 第10回 | メーカーのショールーム見学（実物確認）コーディネーションボードの作成 |
| 第11回 | 建具（内部建具、外部建具、建築金物） |
| 第12回 | 床（木質系、プラスチック系、石・タイル系、繊維系） |
| 第13回 | 壁（塗壁、タイル、壁装、間仕切） |
| 第14回 | 天井（直天井、吊り天井） |
| 第15回 | 照明（照明方法、照明方式、建築化照明、昼光率） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：インテリア施工

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について実例に基づき解説する

■到達目標：建築物が生産される過程に関する広範な知識を習得し、構造種別にしたがった各種技術、建築物の性能（安全性、経済性、生産性、環境性等）について総合的に評価する能力を身に着ける

■授業計画：

- 第1回 工事管理(工程管理・原価管理・品質管理)
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 内装各種工事①(軽量鉄骨下地、左官工事、タイル工事)
- 第4回 内装各種工事②(建具・ガラス工事、塗装工事)
- 第5回 内装各種工事③(金属工事、張り石工事、床工事)
- 第6回 仮設工事・土工事・基礎工事
- 第7回 鉄筋・型枠工事
- 第8回 コンクリート工事①(材料、調合、品質管理、試験)
- 第9回 コンクリート工事②(運搬、養生、各種コンクリート)
- 第10回 鉄骨工事(鋼材、接合、建方、耐火被覆)
- 第11回 木工事(材料、加工、造作、在来、2×4)
- 第12回 組積工事(コンクリートブロック、ALC、れんが)
- 第13回 防水・断熱工事
- 第14回 設備工事、施工機器
- 第15回 積算、工事請負契約

■教科書：

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築施工

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア構法

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計（CADによる作図）を担当

科目名：	CAD演習Ⅰ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築CADの概要、二次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する

■到達目標：CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 基本操作1（作図環境の設定、2次元図形の基本的な作図）CAD製図のJIS規格 |
| 第2回 | 基本操作2（レイヤー、クラス、縮尺、寸法） |
| 第3回 | 配置図の作図：線種表現（境界線、点景、方位、駐車場） |
| 第4回 | 住宅の平面図：画面情報を利用した効率的な作図技術（柱、壁、開口部） |
| 第5回 | 住宅の平面図：線分と面を利用した作図の概念（建具、設備機器） |
| 第6回 | 住宅の平面図：図形登録を利用した効率的な作図技術（ハッチング、タイルパターン） |
| 第7回 | 住宅の断面図：レイヤの概念と利用法（床高、天井高、軒高、最高高さ） |
| 第8回 | 住宅の断面図：腰高、内法高、見えがかり |
| 第9回 | 住宅の立面図：平面図からの投影下書き線 |
| 第10回 | 住宅の立面図：軒高、基礎高、開口部内法、屋根勾配 |
| 第11回 | 矩計図：材料構造表示記号、仕上材名称 |
| 第12回 | 天井伏図：換気口、点検口、天井埋込照明器具 |
| 第13回 | 床伏図：土台、大引、火打、根太 |
| 第14回 | 面積表、全体レイアウト |
| 第15回 | まとめ、ポートフォリオ（課題作品集）作成 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：今井正樹（非常勤講師）
実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	CAD演習Ⅱ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う
- 到達目標：設計に必要な技術と表現（CAD：製図、CG：プレゼン）を実践的な課題と関連付けながら学び、知識を深める

■授業計画：

- 第1回 敷地図作図：フロアプラン、CADによる簡易3Dモデリング
- 第2回 ボリュームスタディによる建物の大きさ、バランス検討
- 第3回 ブロックプラン、ダイアグラム、動線
- 第4回 基本設計 配置図兼平面図 ラフ3D
- 第5回 構造・設備コア、耐震壁
- 第6回 複写機能による各階平面図、画層作成、編集機能
- 第7回 平面詳細図 オブジェクトの階層構造と作業環境
- 第8回 屋根の形状作成と壁高の調整
- 第9回 外観のCG作成 マテリアルの作成とマッピング
- 第10回 立面図修正
- 第11回 室内空間のCG（美しく質感豊かな透視図を作成）
- 第12回 展開図修正
- 第13回 イメージ（光源・背景等）の仕上げ
- 第14回 照明計画図作図
- 第15回 まとめ、合評

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	住空間計画
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：前期で学んだ建築知識を総合的に活用し、快適で美しい建築物を設計する実務的能力を養う

■到達目標：現地調査を行い、プランから設計まで、住宅設計に係る一連の流れを習得し、プレゼンシートとしてまとめる

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 設計事例紹介、設計条件の確認（用途地域、高さ制限） |
| 第2回 | 現地調査（周辺環境、近隣との関係）、エスキース |
| 第3回 | 設計主旨と配置プラン |
| 第4回 | ボリューム模型 |
| 第5回 | 配置図、平面プラン |
| 第6回 | 採光・換気・設備に関する法規制 |
| 第7回 | 平面図 |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 面積表 |
| 第11回 | 模型 |
| 第12回 | 内観パース |
| 第13回 | 外観パース |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅰ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：作品製作を通じて建築設計に必要なヒューマンスケール、三次元形態の把握方法を理解する

■到達目標：建築模型が正確に作成出来、建築物を立体的に表現する能力を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | 教室模型の制作1:課題説明、実測 |
| 第2回 | 教室模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第3回 | 教室模型の制作3:展開図 |
| 第4回 | 教室模型の制作4:モデルボードの性質、カット法 |
| 第5回 | 教室模型の制作5:部材切り出し |
| 第6回 | 教室模型の制作6:組み立て |
| 第7回 | 住宅模型の制作1:エスキース |
| 第8回 | 住宅模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第9回 | 住宅模型の制作3:外部展開図 |
| 第10回 | 住宅模型の制作4:部材切り出し |
| 第11回 | 住宅模型の制作5:開口部 |
| 第12回 | 住宅模型の制作6:組み立て |
| 第13回 | 住宅模型の制作7:スタディモデルによる発想と展開 |
| 第14回 | 住宅模型の制作8:図面修正 |
| 第15回 | 合評:プレゼンテーション |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅱ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する

■到達目標：構造模型制作を通して、部材構成および部材名称を理解し、組立図から基礎伏図、小屋組図を読み取る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、図面確認（平面図、伏図、軸組図） |
| 第2回 | 【木造在来構法】基礎伏図（敷地、基礎、束石） |
| 第3回 | 〃 床束、根がらみ、土台（継手・仕口）、火打ち |
| 第4回 | 〃 床伏図（大引き、根太、根太掛け） |
| 第5回 | 〃 建て方（通し柱、管柱、木材の元口と末口） |
| 第6回 | 〃 大梁、胴差し、火打ち梁、小ばり、2階床組 |
| 第7回 | 〃 小屋ばり、軒桁、小屋組（棟木、母屋） |
| 第8回 | 〃 垂木、まぐさ、窓台、間柱、筋かい |
| 第9回 | 【枠組壁工法】ツーバイフォー工法に使用される材料特性 |
| 第10回 | 〃 基礎、土台、1階床組 |
| 第11回 | 〃 1階壁組（はり間方向）隅柱、かい木 |
| 第12回 | 〃 1階壁組（けた方向）ころび止め、頭つなぎ |
| 第13回 | 〃 2階床組、2階壁組 |
| 第14回 | 〃 小屋組、仕上げ |
| 第15回 | 合評（工法の違いによる構造的特長） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
 担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
 実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	DTP基礎演習
------	----------------

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1年次
 開講学期：前期
 授業時数：60時間
 単 位：2単位

■科目概要： プレゼンテーションを作成する上で必要なイラストレーター・フォトショップの基礎知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う

■到達目標： 演習課題を通してIllustrator/photoshopスタンダード認定試験の合格を目指す

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | プレゼンテーション概要：様々な業界のCG事例を紹介 |
| 第2回 | イラストレーター基礎①：イラストレーター作業環境を知る。用紙サイズ・カラーモード |
| 第3回 | イラストレーター基礎②：主に使用するツールパレットの説明。ベジェ曲線演習 |
| 第4回 | イラストレーター基礎③：練習問題を通じて作図演習 |
| 第5回 | イラストレーター基礎④：フィルタ・効果の説明 |
| 第6回 | フォトショップ基礎①：フォトショップの作業環境を知る。画像サイズ・カラーモード |
| 第7回 | フォトショップ基礎②：主に使用するツールパレットの説明、選択範囲 |
| 第8回 | フォトショップ基礎③：色調・レベル補正概要の説明、画像加工演習を行う |
| 第9回 | フォトショップ基礎④：フィルタ効果等説明、作業演習 |
| 第10回 | イラストレーター演習①：学校祭ポスター・旗の作成 |
| 第11回 | イラストレーター演習②：学校祭ポスター・旗の作成 |
| 第12回 | イラストレーター演習③：個人名刺作成 |
| 第13回 | フォトショップ演習①：CDジャケット作成①資料収集、分析 |
| 第14回 | フォトショップ演習②：CDジャケット作成②、画像加工 |
| 第15回 | フォトショップ演習③：CDジャケット作成③、仕上 |

■教科書： 世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書： Illustrator能力認定試験問題集、Photoshop能力認定試験問題集

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目： DTP応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
 担当教員：大塚裕介（専任教員）
 実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、設計競技のプレゼンテーションを手掛けるデザイン事務所を主宰。

科目名：	DTP応用演習
------	----------------

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：2年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要： 複数のグラフィックスアプリケーションを用い、文字やグラフィックを自在に操る技術と知識を実践的に修得する

■到達目標： イメージング技術、デジタル環境下におけるレイアウト技術について、実務的な作品の制作工程を通じて展開力を身につける。適切に思考を表現し、第三者へ伝えることができる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | テーマからコンセプト |
| 第2回 | コンセプト案を可視化するたのエスキース |
| 第3回 | 基本設計 |
| 第4回 | スタディ模型にてボリューム検討、ダイアグラムの作成 |
| 第5回 | 基本設計図の作成(平面図、立面図、断面図) |
| 第6回 | 画像加工①CG加工：内観パースモデリング |
| 第7回 | 画像加工②CG加工：内観パーステクスチャ |
| 第8回 | 画像加工③CG加工：外観パース |
| 第9回 | 画像加工①模型写真加工 |
| 第10回 | 画像加工②模型写真加工 |
| 第11回 | レイアウト(コンセプト、ダイアグラム、図面、パース) |
| 第12回 | カラーバランス |
| 第13回 | レイアウト調整、再構成 |
| 第14回 | 仕上、高解像度レンダリング、校正チェック |
| 第15回 | 出力 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目： DTP基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	インテリア模型
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：本授業ではインテリア模型作成の応用技法を学び、プレゼンテーションツールとしての活かし方を身につけることを目指す

■到達目標：コンセプトを端的に伝えられる模型構成、カメラアングル、Photoshopスキルを身につける。必要とされる模型表現と作業時間のバランスを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | アトリエの建築模型達 |
| 第2回 | 模型の道具と材料 |
| 第3回 | 材料加工のテクニック：切る |
| 第4回 | 材料加工のテクニック：削る |
| 第5回 | 材料加工のテクニック：曲げる |
| 第6回 | 材料加工のテクニック：接着 |
| 第7回 | 材料加工のテクニック：塗装 |
| 第8回 | 細密表現、素材の質感 |
| 第9回 | 植栽の作り方 |
| 第10回 | 人、車の作り方 |
| 第11回 | 模型撮影：セッティング、ライティング |
| 第12回 | 画像加工、補正 |
| 第13回 | 背景合成 |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： インテリアコーディネーション専攻
担当教員： 来生亜子 (非常勤講師)
実務経験： インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネーター業務。その後フリーにて活動。日本パーステック協会会員

科目名：	インテリアコーディネーション演習
------	-------------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

- 科目概要： インテリアプレゼンテーションの重要性とインテリアコーディネーションの一連の流れを理解し、基本計画案や実施計画案、各種エレメント等のプレゼンテーションボードの作成技法を習得します。
- 到達目標： コーディネーターに必要なインテリア関連法規の知識を身につける。
顧客の要望を聞き取り、インテリアコーディネーターとしての提案を行うことができる。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | クライアント設定によるインテリアコーディネーション基本計画 |
| 第2回 | プレゼン演習：ヒアリング、エスキス |
| 第3回 | プレゼン演習：インテリア関連法規 |
| 第4回 | プレゼン演習：平面図 |
| 第5回 | プレゼン演習：家具配置図 |
| 第6回 | プレゼン演習：内装材選定 |
| 第7回 | プレゼン演習：設備選定 |
| 第8回 | プレゼン演習：インテリアエレメント選定 |
| 第9回 | プレゼン演習：インテリアパース作成 |
| 第10回 | プレゼン演習：インテリアパース作成 |
| 第11回 | プレゼン演習：プレゼンテーションボード作成 |
| 第12回 | プレゼン演習：プレゼンテーションボード作成 |
| 第13回 | プレゼン演習：レイアウト調整 |
| 第14回 | プレゼン演習：DTP処理 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書： インテリアコーディネーターハンドブック

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアコーディネーター資格試験講座
------	----------------------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：用語や試験のポイント説明に加えて、実用での知識や商品・素材に触れる機会を交えて理解見識を深める。

■到達目標：資格対策を中心としながら、実務で役立つインテリア、建築分野の知識を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | インテリアの歴史①日本 |
| 第2回 | インテリアの歴史②西洋 |
| 第3回 | インテリアコーディネーションの計画①人間工学・寸法、生活行為と造作空間 |
| 第4回 | インテリアコーディネーションの計画②造形原理・色彩 |
| 第5回 | インテリアコーディネーションの計画③安全性・性能と評価・コストと維持管理 |
| 第6回 | インテリアエレメント①分類と特性、家具の種類、材料と金物、仕上げ、造形部品 |
| 第7回 | インテリアエレメント②ウインドウトリートメント |
| 第8回 | インテリアエレメント③カーペットその他エレメント、商品情報 |
| 第9回 | インテリアの構造・構法と仕上げ①建築構造、インテリア構法 |
| 第10回 | インテリアの構造・構法と仕上げ②造作と造作材 |
| 第11回 | インテリアの構造・構法と仕上げ③リフォーム |
| 第12回 | 環境と設備①環境工学・音・光 |
| 第13回 | 環境と設備②住宅設備（給排水・換気・冷暖房・自然エネルギー） |
| 第14回 | 環境と設備③電気設備・住宅設備機器 |
| 第15回 | インテリア関連の法規、規格、制度 |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック（上下）

■参考書：インテリアコーディネーター1次試験対策過去問題集

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアディテール
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：『良いデザインは良いディテールの積み重ねで出来ている』ディテールの重要性を実物や素材に触れる機会を通して体験し学ぶ

■到達目標：インテリアディテールの基礎知識、デザイン、プレゼンテーション、素材知識、納まりを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 校内探索(仕上げ材、工法、納まり) |
| 第2回 | 校外学習①(ウィンドウトリートメント) |
| 第3回 | 光のさまざまな表情を暮らしに生かす |
| 第4回 | 空間を光でつなぐ心理効果 |
| 第5回 | 暮らしを豊かにする天窓 |
| 第6回 | 心地好さを生む風の動線計画 |
| 第7回 | 校外学習②(住宅) |
| 第8回 | 一工夫で「使う場所」から「過ごす場所」に |
| 第9回 | 利便性を高める動線 |
| 第10回 | 飾るスペースの提案(階段、廊下)、収納計画 |
| 第11回 | 気配と光を伝える建具のスリット、空間に風穴を開ける |
| 第12回 | 家具収納で空間を緩やかに仕切る |
| 第13回 | 建具の開閉で開放感と落ち着きをコントロール |
| 第14回 | 意匠的な魅力もある室内壁の穴 |
| 第15回 | 将来変化に対応するディテール |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	インテリア設計演習
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：デッサンの基礎を交えながら、空間の把握、造形やデザイン感覚の育成、レイアウト図簡易図法で表現する力を養いクイックパースを習得する。平面詳細図を通して寸法の押さえを再確認する
- 到達目標：インテリアコーディネーター資格試験、インテリアプランナー資格試験の実技合格を目標とする

■授業計画：

- 第1回 簡易図法（一消点透視図）平面図を読み解き空間構成を完成させる
- 第2回 一消点透視図のグリッドシートを作成しトレースダウン
- 第3回 着色、提出
- 第4回 IP資格試験設計製図：問題読解、設計条件の確認
- 第5回 IP資格試験設計製図：エスキース（計画・構成）
- 第6回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第7回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第8回 IP資格試験設計製図：床・壁・天井の仕上げ記入
- 第9回 IP資格試験設計製図：平面図の意図を反映させた透視図の作図
- 第10回 IP資格試験設計製図：トレースダウン
- 第11回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（形状）
- 第12回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（材質感）
- 第13回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（仕上げ）
- 第14回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（主要寸法）
- 第15回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（着色、仕上げ）

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	商業施設デザイン演習Ⅰ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：商業施設の設計図トレースを通じ、コンクリート造軽量鉄骨仕上げの下地、内部仕上げ、建具等のディテール、納まりを理解する。第三角法による什器図の作図
- 到達目標：オフィス・マンション・商業施設等のビル内部におけるインテリアの設計技術、家具・什器の製図技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 製図規約の再確認と応用 |
| 第2回 | 線種表現、基準線と寸法線、表示記号 |
| 第3回 | RC造、計量鉄骨間仕切り壁の理解 |
| 第4回 | 内部開口部、外部開口部 |
| 第5回 | 平面詳細提出 |
| 第6回 | 展開図の作図（高さの基準、CH） |
| 第7回 | 展開図の作図（窓の位置、仕上げの記入） |
| 第8回 | 展開図提出 |
| 第9回 | 天井伏図（仕上げ、組み天井下地の理解） |
| 第10回 | 天井伏図（照明計画） |
| 第11回 | 天井伏図提出 |
| 第12回 | 什器図（正投影法） |
| 第13回 | 什器図（平面図・正面図・断面図・側面図） |
| 第14回 | 什器図提出 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。住宅や店舗の設計・デザインを手掛ける。

科目名：インテリア装備

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：各部の構法・材料・エレメント・防災安全・サイン計画について演習課題を通して学ぶ

■到達目標：インテリアプランナー試験（学科：装備）の分野の習得を目指す

■授業計画：

- 第1回 住宅における壁、床等の取り合い
- 第2回 床構法
- 第3回 階段
- 第4回 木製天井下地
- 第5回 開口部
- 第6回 窓、カーテン、ブラインド、シェード
- 第7回 和風造作
- 第8回 名作椅子、ベッド
- 第9回 照明器具、照明光源
- 第10回 カーペット（種類と工法）
- 第11回 建具、錠、家具金物
- 第12回 壁紙、塗壁、壁装
- 第13回 サイン計画
- 第14回 内装材
- 第15回 安全対策、火災安全」計画、煙制御

■教科書：インテリアプランナーガイドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：石塚和彦（非常勤講師）
実務経験：大手建設株式会社設計部門で、主に商業施設の建築設計・監理を担当。退社後、一級建築士事務所を設立し、主に個人住宅・商業施設の設計に携わる。

科目名：	住宅設計演習
------	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅設計に係る基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して住空間をデザインする基礎力を養う

■到達目標：ゾーニング、動線、建築構成要素等を学び、作図表現する能力、設計技術の基本を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 住宅における人間工学と単位空間 |
| 第2回 | 住宅における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第3回 | 木造の特性と2×4・RCの壁量 |
| 第4回 | 住宅設計課題1（敷地調査、状況分析、エスキース） |
| 第5回 | 〃 制作1 平面図（通り芯・壁厚・内外壁の仕上げ） |
| 第6回 | 〃 制作2 敷地・配置図 |
| 第7回 | 〃 制作3 立面図開口部のバランスとファサード |
| 第8回 | 〃 制作4 細部構成・設備器具・家具 |
| 第9回 | プレゼンテーション、講評会 |
| 第10回 | 住宅設計課題2（二世帯住宅）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第11回 | 〃 制作1 二世帯の関係性と配置の作図 |
| 第12回 | 〃 制作2 二世帯の断熱計画と生活時間帯（平面・断面図） |
| 第13回 | 〃 制作3 階段～機能と演出効果、照明～光と影 |
| 第14回 | 〃 制作4 植栽の書き方と面積表・駐車場 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
 担当教員：大塚裕介（専任教員）
 実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：設備計画

履修形態：必修
 授業形態：講義
 履修学年：2年次
 開講学期：前期
 授業時数：60時間
 単 位：2単位

■科目概要： 建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する

■到達目標： 建築と設備の整合性と維持管理の重要性が把握できると共に、給排水・衛生設備計画手法を知る

■授業計画：

- 第1回 各種エネルギーの利用技術、省エネルギーのための各種技術
- 第2回 冷暖房設備：暖房設備の分類、コールドドラフト
- 第3回 冷暖房設備：冷凍機、ヒートポンプ、冷却塔
- 第4回 空気調和設備：各種空調方式、熱負荷計算
- 第5回 空気調和設備：換気設備、自然エネルギーの利用
- 第6回 電気設備：配電方式、配線方式、避雷設備
- 第7回 照明設備・ガス設備
- 第8回 給水給湯設備：給水方式、給水量、必要圧力
- 第9回 給水給湯設備：水質汚染防止、中水
- 第10回 排水通気設備：排水方式、トラップ、通気管
- 第11回 衛生設備：衛生器具、パイプスペース
- 第12回 消化防災設備：警報、防火、排煙、非難誘導
- 第13回 ごみ処理設備：基本的な設計提案
- 第14回 情報通信設備：UPS、CVCF、PBX、LAN、電磁シールドルーム
- 第15回 設備融合：保守管理、LC計画、中央管制、各種建築物の設備容量と機械室面積

■教科書： インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書： 『建築設備学教科書』／建築設備教科書研究会編著(彰国社)

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：建築一般

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する

■到達目標：木質構法・鉄筋コンクリート構法・鉄骨構法を中心に、その役割・構成を理解する

■授業計画：

- 第1回 建築構法の概説(建築物の構成、構造方式の種類、構法の変遷)
- 第2回 主体構法(建築物への荷重・外力、水平構面とねじれ)
- 第3回 木質構法:木質構法の特徴、材料、木材の性質(ヤング係数、含水率、防腐防蟻)
- 第4回 木質構法:軸組構法、部材の接合法(継手、仕口)
- 第5回 木質構法:枠組壁構法、ツーバイフォー工法、生産の要点
- 第6回 木質構法:大断面集成材構法、大断面集成材による木造建築物
- 第7回 鉄筋コンクリート構法:構造形式、材料(セメントの種類、骨材)
- 第8回 鉄筋コンクリート構法:ラーメン、材料の性質と許容応力度
- 第9回 鉄筋コンクリート構法:壁式、PC、SRC
- 第10回 鉄骨構法:構造形式と特徴、鋼材の力学的特性
- 第11回 鉄骨構法:接合方法、架構、建方
- 第12回 過去の地震被害に見られる構法上の教訓
- 第13回 形態と構法
- 第14回 性能と構法
- 第15回 総括、テスト

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計を担当

科目名：インテリア法規

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用する能力を養う
- 到達目標：建築基準法を正しく解釈し、建築法令集を適切に参照して法規的問題を解決できるようにする事を目的とする

■授業計画：

- 第1回 建築基準法の概要、建築関連の法体系
- 第2回 用語の定義（建築物に関する用語）準用工作物、特殊建築物
- 第3回 用語の定義（防火関係の用語）耐火、準耐、防火構造、性能
- 第4回 都市計画区域等における建築制限（集団規定）道路
- 第5回 用途地域（用途地域の指定、建築物の用途制限）
- 第6回 面積算定（敷地面積、建築面積、延べ床）
- 第7回 面積制限（容積率、前面道路、建ぺい率）
- 第8回 高さ等の算定（建築物の高さ、軒の高さ、階数、避難階）
- 第9回 内装制限、消防法、防災物品
- 第10回 建築手続（建築主、確認済証、確認申請、各種届出）
- 第11回 建築物自体の技術基準（単体規定）一般構造（階段、便所）
- 第12回 居室の採光、有効開口部面積の算定、換気、シックハウス
- 第13回 居室の天井・床の高さ、共同住宅の界壁
- 第14回 建築設備（避雷設備、給排水設備、昇降機設備）
- 第15回 建設業法、景観法、バリアフリー法、建築士法、品確法、省エネ法

■教科書：建築基準法関係法令集（建築資料研究社／日建学院 編）

■参考書：学芸出版社 やさしい建築法規

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：法令集をつねに開き確認することを身につける

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅠ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：インテリア空間を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う
- 到達目標：パースペクティブ、3DやCGなどの表現方法を用いて、空間を表現するための技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | プレゼンテーションの概要 |
| 第2回 | 建築設計競技プレゼンテーション例の紹介と解説 |
| 第3回 | 設計主旨及びエスキース |
| 第4回 | 基本設計 |
| 第5回 | 図面表現① |
| 第6回 | 図面表現② |
| 第7回 | 外観パース作成、モデリング |
| 第8回 | 外観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第9回 | 外観パース作成、ヒューマンスケール、外構、植栽、背景合成 |
| 第10回 | 内観パース作成、モデリング |
| 第11回 | 内観パース作成、光源設定 |
| 第12回 | 内観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第13回 | エレメントの取り込み |
| 第14回 | レイアウト、校正 |
| 第15回 | 最終調整、仕上げ、プリントアウト |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅡ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅡ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝えるビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ

■到達目標：プレゼンテーションⅠで学習した基礎技術をもとに、建築、インテリア空間をより一層明確に表現・伝達する技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 図面のレイアウトとバランス |
| 第2回 | 図面表現、製図基準 |
| 第3回 | 平面図・配置図の表現と種類 |
| 第4回 | 立面図・樹木の表現と種類 |
| 第5回 | 断面図の表現と種類 |
| 第6回 | コンセプト及び基本設計、マスタープラン |
| 第7回 | エスキース、スタディ模型 |
| 第8回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第9回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第10回 | ドローイング |
| 第11回 | リアスティックな内観パースの作成（エレメントの配置） |
| 第12回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第13回 | 外観パース作成 |
| 第14回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第15回 | レイアウト調整、プレゼンテーション、講評 |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅠ

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 クラフトデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・ 学期	授業時数
	必修	選択		
工芸概論	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・後期	30
DTP演習Ⅱ	○		2年・前期	30
CAD演習	○		2年・前期	60
木工基礎演習	○		1年・前期	60
陶芸基礎演習	○		1年・前期	60
鋳造基礎演習	○		1年・前期	60
金属加工基礎演習	○		1年・前期	60
木工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅰ	○		1年・後期	30
鋳造演習Ⅰ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅱ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅱ	○		1年・後期	30
工芸研究				
木工演習Ⅱ		○	1年・後期	30
貴金属加工演習				
プランニング	○		1年・前期	60
環境デザイン	○		1年・後期	30
専門技術演習(6科目選択)				
木工演習Ⅲ		○	2年・前期	360
陶芸演習Ⅲ				
鋳造演習Ⅲ				
金工演習Ⅲ				
木工演習Ⅳ				
陶芸演習Ⅳ				
鋳造演習Ⅳ				
金工演習Ⅳ				
木工演習Ⅴ				
鋳造演習Ⅴ				
金工演習Ⅴ				
造形演習Ⅰ				
造形演習Ⅱ				
素材研究Ⅰ				
素材研究Ⅱ				
英語	○		1年・前期	30
合 計				1110

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名： 工芸概論

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：伝統工芸の技法を演習課題を通して身につける。道具の使い方、素材の使い方、先人から引き継がれてきた手仕事における知恵と工夫を直に感じ、また産地の特性も含めた日本の文化、産業の歴史を学ぶ。
- 到達目標：基本的な手工具、機械工具、火の扱い方の習得をする。課題に対して正しく加工し、組み立てにおける精度を上げ、着色技法まで一連のながれをつかむことで、金属工芸の加工法、基本的な技術の習得を目指す。

■授業計画：

- 第1回 金工三大分野におけるそれぞれの作業内容の違いと作品の違いについて解説。
- 第2回 50mmの箱を制作。ノギス、スコヤ、ケガキなど、正確に計測する道具の名前と使用法。地金からパーツを切り出す。
- 第3回 6枚の銅板の加工① 正方形を正確に手やすりで加工 断面(組み立て接合面)の精度を出す。
- 第4回 6枚の銅板の加工②
- 第5回 6枚の銅板の加工③
- 第6回 6枚の銅板の加工④
- 第7回 6枚の銅板の加工⑤
- 第8回 バーナーの取り扱いと、火力の説明、並びにロー付け技法の解説。ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立てる①
- 第9回 ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て②
- 第10回 ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て③
- 第11回 ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て④
- 第12回 蓋部の加工の説明。加工を行う。
- 第13回 内箱として真鍮の箱を制作。制作方法は銅板と同様であるがロー付けはせず板をはめこむ。
- 第14回 金属の仕上げについて、着色方法を解説。箱全体を研磨し、仕上げ加工を行う。
- 第15回 箱全体を研磨し、仕上げ加工を行う。 合評

■教科書： 指定なし

■参考書： 金工の伝統技法(理工学社) 工芸(武蔵野美術出版) ほか

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：桂 充子（専任教員）
実務経験：前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。店舗のリーフレット制作、店内装飾に携わる。

科目名：DTP演習Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単位：1単位

■科目概要：Adobe社Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトの基礎操作を習得。

■到達目標：Illustrator、Photoshop（グラフィックソフト）を使い、ビジュアル表現の技能を身につける基礎演習授業。アプリケーション内のツールや各用語の把握、基本操作を学び、文字入力や作図によるグラフィックレイアウトの基礎を覚える。また、情報を取り込み、出力できるようPC周辺機器の操作を理解する。

■授業計画：

第1回	オブジェクトの作図：Illustratorの基本 操作とファイル作成、図形とペンツール使用の直線曲線の作図理解
第2回	オブジェクトの作図：線とカラーリング、オブジェクトの編集操作
第3回	オブジェクトの作図：グラデーション、パターン理解、文字の入力とレイアウト
第4回	練習課題：名刺制作
第5回	アートワーク：画像の配置と編集
第6回	アートワーク：レイヤーの理解
第7回	スキャナーとプリンター操作：下絵や手で作図した描画をスキャン、またプリント出力を理解
第8回	練習問題：Illustratorクリエイター能力試験の模擬問題にチャレンジ 実技問題
第9回	練習問題：Illustratorクリエイター能力試験の模擬問題にチャレンジ 実践問題
第10回	練習問題：Illustratorクリエイター能力試験の模擬問題にチャレンジ 実践問題解答
第11回	オブジェクトの作図：Photoshopの基本 操作とファイル作成、選択ツールの理解
第12回	オブジェクトの作図：画像の補正
第13回	オブジェクトの作図：レイヤーの理解
第14回	オブジェクトの作図：フィルターとレイヤースタイル
第15回	練習問題：DM制作。画像の配置と文字編集。

■教科書：illustrator操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフトデザイン専攻
担当教員: 桂 充子 (専任教員)
実務経験: 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。店舗のリーフレット制作、店内装飾に携わる。

科目名 : DTP演習Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 2年次
開講学期: 前期
授業時数: 30時間
単 位: 1単位

- 科目概要:** Adobe社Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトを使って資料制作、ポートフォリオの編集
■到達目標: Illustrator、Photoshop（グラフィックソフト）を使い、ビジュアル表現の技能を高める演習授業。特にillustratorクリエイター能力試験3級取得を目的とする。またプレゼンテーション用の資料を作ることができ、就職活動に使用するポートフォリオの制作も行う。

■授業計画:

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説 ペンツール、グラデーション、図形作成、レイヤー、テキスト編集 |
| 第2回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実践問題 ガイド、レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集 |
| 第3回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題の練習 実践問題の解答を解説 |
| 第4回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説 ペンツール、グラデーション、図形作成、レイヤー、テキスト編集 |
| 第5回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実践問題 ガイド、レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集 |
| 第6回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題の練習 実践問題の解答を解説 |
| 第7回 | Photoshoprクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説 レイヤー、色調補正、効果、選択の理解 |
| 第8回 | Photoshoprクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実践問題 レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集、選択範囲、効果の理解 |
| 第9回 | Photoshoprクリエイター能力試験対策: 模擬問題の練習 実践問題の解答を解説 |
| 第10回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集① |
| 第11回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集② |
| 第12回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集③ |
| 第13回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集④ |
| 第14回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集⑤ |
| 第15回 | ポートフォリオ制作: 提出 チェック |

■教科書: illustrator操作とデザインの教科書(技術評論社)

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 今井 正樹 (非常勤講師)
実務経験: ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務

科目名 : CAD演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 6 0 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 設計者の意志を明確に製作者に伝える為のツールである図面をC A Dシステムを使つて的確に作図及びトレースする。
■到達目標: CADスキル習得の結果として、実技検定試験の合格を目指す。

■授業計画:

- 第1回 2D基本操作: CADのセットアップと起動、2D基本描画。ツールパレット、サブメニューの解説
- 第2回 2D復習: 用紙設定、図形の編集、作図補助機能、データパレットを用いた数値入力による作図
- 第3回 3Dモデリング①Red & Blue Chair: 3次元座標の考え方、2D図形から3D図形への変換。座標軸と掃引によるオブジェクトの位置関係、レンダリング。
- 第4回 3Dモデリング②ウォールナットTable: 錐状体の作図、Z方向の移動、面取り、テクスチャの取り込み、透視投影法
- 第5回 CAD検定試験問題練習: JISの建築製図規格について、データ管理、環境設定、用紙サイズと縮尺の設定。線の太さ、線種の使い分け
- 第6回 CAD検定試験問題練習: 図面枠、レイヤー及びクラス管理、グリッド設定、基準点
- 第7回 CAD検定試験問題練習: 基準線、通り芯、方位記号、寸法、通り芯記号
- 第8回 CAD検定試験問題練習: 壁・柱、包絡処理(交点の留め、線の消去)
- 第9回 CAD検定試験問題練習: 間仕切壁、配列複製、鏡像反転、円弧、回転
- 第10回 CAD検定試験問題練習: 階段平面図、段板、踏面、ささら桁、雑線、手摺り
- 第11回 CAD検定試験問題練習: 円弧の寸法記入について、角度の入れ方、破断線
- 第12回 CAD検定試験問題練習: 建具の納まり、ドアの表現、サッシの表現
- 第13回 CAD検定試験問題練習: ドア枠、戸当たり、框、チリの取り方
- 第14回 CAD検定試験問題練習: 異なったCAD間での図面交換、線種表現確認
- 第15回 CAD検定試験問題練習: 部品や図形のライブラリ化・グループ化管理(再利用性)、採点チェックポイントの理解、図面全体イメージ

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名	製図デザイン
履修形態：	必修
授業形態：	演習
履修学年：	1 年次
開講学期：	前期
授業時数：	60 時間
単 位：	2 単位
■科目概要：	15mmシナランバーコア合板（910mm×910mm）を使用して、木製家具の基礎デザイン、製図、製作。木材組立加工を安全かつ簡略化された手法を用いて感覚をつかむ。製図の基礎から実材を用いた製作へ。
■到達目標：	・図面作成から実制作へ行うため、精度ある仕事の手順理解と、丁寧な作業の必要性を認識し、基礎技術を養う。 ・安全な木材加工を覚え、応用へつなげる。
■授業計画：	
第1回	「もの」が作り出されるまでの一般的なプロセスを木製家具の場合という具体的事例をあげて説明する。
第2回	製図：ランバーコア合板の特質、主な使われ方の説明。構造、接合法を実材サンプルを用いて説明。基本パターンを基づいて3面図(4面図)、仕口の部分詳細図作成。
第3回	製図：基本パターンを基づいて3面図(4面図)、仕口の部分詳細図作成。
第4回	製図：基本パターンを基づいて3面図(5面図)、仕口の部分詳細図作成。
第5回	制作：木取図の作成。工具、木工機械の正しく安全な使用方法の実演、説明①
第6回	木取：木取図に基づいて木取を行う。横切り盤の安全な使用法の実演、説明②
第7回	仕口加工：ボール盤による穴あけ加工をする①
第8回	仕口加工：ボール盤による穴あけ加工をする②
第9回	組み立て：木口テープを張る。サンドペーパー等を用い材料の表面を整える①
第10回	組み立て：木口テープを張る。サンドペーパー等を用い材料の表面を整える②
第11回	組み立て：サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて組立①
第12回	組み立て：サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて組立②
第13回	仕上げ：ダボでビス穴をふさぐ。水性ウレタン塗料、ステイン等で塗装、仕上①
第14回	仕上げ：ダボでビス穴をふさぐ。水性ウレタン塗料、ステイン等で塗装、仕上②
第15回	合評
■教科書：	指定なし
■参考書：	木工技術シリーズ(産調出版)
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：木工基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：木工に関する工具や機械の使用方法および安全指導。木材を使用し生活道具、工芸品の制作を通して木工基礎技術を養う。
- 到達目標：木工の基礎知識を身に付け、デザインおよび制作ができるようになる。手工具と木工機械の使用方法を覚え、今後の制作で応用ができるよう繋げる。期日をまでに作品が完成できるように、計画性を持って制作に取り組む。

■授業計画：

- 第1回 ものづくりについて木材を使用した作品など例を挙げ、学生がイメージしやすいよう説明を行う。木材を使ったカトラリー、器のデザイン画を描く。
- 第2回 デザインや作りたいものの考え方や探し方について指導。引き続きデザイン画作成。
- 第3回 木材加工：木工室で使用する手工具、電動工具の名称や使い方の説明を行う。
- 第4回 木材加工：木材の種類や特徴について説明を行う。（広葉樹と針葉樹、無垢材と合板など）木取りが終わり次第、各自作業に取り組む①
- 第5回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作②
- 第6回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作③
- 第7回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作④
- 第8回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作⑤
- 第9回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作⑥
- 第10回 仕上げ：塗装の概要・種類の説明を行う。（オイルやウレタンなど）
- 第11回 合評
- 第12回 大型機械の使用説明。サンプルを基に作業指導。安全確認の指導。
- 第13回 ほぞ加工の練習①
- 第14回 ほぞ加工の練習②
- 第15回 手道具の手入れ、機械調整の指導。

■教科書：指定なし

■参考書：手作りする木のカトラリー 手作りする木の器（誠文堂新光社）ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：大石 俊久（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 同協会主催の陶芸教室でも講師を務めている

科目名：陶芸基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：陶芸の基礎（玉造り・紐造り・板造り等）を学ぶ。粘土・釉薬・道具の取り扱い・片付け・掃除などを覚える。
- 到達目標：各制作方法を習得する。粘土・道具・釉薬の取り扱いを覚える。素材の特性から、管理する意識が必要であるため、乾燥、焼成まで、一連の作品制作の手順理解を深める。

■授業計画：

- 第1回 やきものが出来るまで：陶芸の製作工程について説明をする。土練り・玉造り：荒練・菊練（粘土を練る基本作業）を学び、玉造りでカップを作る。
- 第2回 仕上げ・高台を作る：前回制作したカップの高台を作る。（付け高台・削り高台を覚える。）取っ手をつける。
- 第3回 紐造り：ひも状にした粘土を積み上げていくことで作品を作る。（器全体とのバランスを考えて成形を目指す。）
- 第4回 組鉢：同じ寸法の器を制作する。（玉造り・小鉢等）
- 第5回 仕上げ：前回制作した作品に高台を作る。
- 第6回 釉がけ：釉薬の取り扱い方・施釉方法等を覚える。
- 第7回 板造り：板状に伸ばした粘土から形を作る。（筒型花入れ）
- 第8回 袋物：紐造りで球体を作る。（シュガーポット・花器等）
- 第9回 木材加工：前回の削り。
- 第10回 仕上げ：塗装の概要・種類の説明を行う。（オイルやウレタンなど）
- 第11回 練込角皿・象嵌：異なる粘土を混ぜ込み、器の表面に模様を出す。（赤・白）粘土を板状に伸ばし角皿のパーツを作る。
- 第12回 仕上げ：前回のパーツを組み立てて角皿を作る。
- 第13回 釉がけ：重ねがけ・撥水剤等を使った掛け分け。
- 第14回 象嵌：半乾燥状態の作品に模様を彫り、別の粘土を埋め込む・削ることで装飾を施す。
- 第15回 仕上げ：前回の仕上げ 模様を出す。線象嵌→素焼き後化粧土を施し焼成。

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
 実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burning John（シルバーアクセサリー工房）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名： 鑄造基礎演習

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1 年次
 開講学期：前期
 授業時数：60 時間
 単 位：2 単位

■科目概要： 貴金属のひとつである、銀を素材に、アクセサリーの制作を行う。基本的な工具・道具類の安全且つ適切な使用方法を演習課題によって身につける。

■到達目標： ロストワックス技法を中心にシンプルなアクセサリー制作を演習課題とし、道具・工具が使用でき、基本的な制作知識の習得を目的とする。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス：鑄造の基本的な説明と道具類の扱い方を説明。ワックスを使って練習。 |
| 第2回 | 平打リングの制作・原型作り：スパチュラを使い、ワンポイントの模様のあるリングを制作。 |
| 第3回 | 平打リングの制作・原型作り：鑄造での制作における注意点（ガス抜き、湯道など）を指導。 |
| 第4回 | 平打リングの制作・原型作り：ポリウム（地金使用料や重さのバランスなどの細かいチェック）サイズ、ワックス原型の仕上げチェック |
| 第5回 | 平打リングの制作・埋没：石膏の型に関する注意点の確認。真空機の使用説明。 |
| 第6回 | 平打リングの制作・鑄造（キャスト）：脱蠟の仕方の説明。6～8時間焼成の為、電気窯の管理について指導。続けて精密鑄造機の操作方法を説明後、実際に鑄造を行 |
| 第7回 | 平打リングの制作・仕上げ：巣埋めやヘラがけ、きさげの使い方を指導。リユーターによる鑄肌の仕上げとバフ掛けによる最終研磨の説明。 |
| 第8回 | 平打リングの制作・仕上げ：ロー付けの指導。バーナーの仕組みを解説。取り扱いの安全指導。 |
| 第9回 | 平打リングの制作・合評：作品の制作工程を振り返りながら、作業との因果関係を確認。 |
| 第10回 | オーダー品の制作・ヒアリング：ペアになってお互いに装飾品をオーダー。実際の宝飾業のようにクライアントを意識させる課題。 |
| 第11回 | オーダー品の制作・デザイン：ヒアリングから製図、完成予想図を作成。 |
| 第12回 | オーダー品の制作・原型作り：ワックスによる成形① |
| 第13回 | オーダー品の制作・原型作り：ワックスによる成形② |
| 第14回 | オーダー品の制作・原型作り：石留めの技法を説明。宝石（貴石、半貴石）の種類や色、カットパターンなど説明。また専用の工具の使い方を指導。 |
| 第15回 | オーダー品の制作・合評：ワックスまでの振り返りを行い、それぞれの原型仕上がりをチェック。 |

■教科書： 指定なし

■参考書： 指定なし

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：菱野 史彦（非常勤講師）
実務経験：造形作家 金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表 住宅金属製品（門、螺旋階段など）、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名：金属加工基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：製造分野の中でも、素材の特性や加工方法、塗装方法（着彩）など多岐にわたる金属の基礎知識、加工技術を身につける。
- 到達目標：素材加工において、安全で的確な作業方法を身につける。金属だからこそ出来る形の成り立ちを理解し、演習課題を通して基本的な切断、組み立て、接着、仕上げができるようになる。

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス：金属の身近な表現や特性などを説明することで素材に対する知識を深める。機械の加工目的ごとの操作方法を習得し、加工時の危険性や注意点を理解する。コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。機械のメンテナンスを（鋸刃の溶接）習得。
- 第2回 機械作業演習：練習で切り出した部材をボール盤を使い指定サイズの穴を開ける。開けた穴に指定サイズのねじを切る加工のほかハンドリベッターを使い二つの部材をかしめる事でパーツの組み立て方法を理解する。
- 第3回 機械作業演習：前回と同様に機械作業
- 第4回 フィギア制作・デザイン：実際の加工作業から得た技術を踏まえエスキースで形を検討しデザインを考える。
- 第5回 フィギア制作・デザイン：デザインから適切な加工方法を検討、制作物の設計図を作
- 第6回 フィギア制作・制作：部材、材料を選定しパーツを大まかな形に切り出す。作業工程を踏まえ加工の危険性に注意をしつつ効率よく機械加工をする。
- 第7回 フィギア制作・制作：前回に続き部材、材料を選定しパーツを大まかな形に切り出す。作業工程を踏まえ加工の危険性に注意をしつつ効率よく機械加工をする。
- 第8回 フィギア制作・制作：切り出したパーツを手工具による加工でデザイン通りの形状になるように作業を進める。加工内容によっては工作機械を都度使用する。
- 第9回 フィギア制作・制作：前回と同様、切り出したパーツを手工具による加工でデザイン通りの形状になるように作業を進める。加工内容によっては工作機械を都度使用する。
- 第10回 フィギア制作・制作：前回と同様、制作を進める。
- 第11回 フィギア制作・制作：前回と同様、制作を進める。
- 第12回 フィギア制作・制作：パーツの仕上げ加工。一つ一つの形をよりデザインの形に近づけ丁寧な加工をする。
- 第13回 フィギア制作・制作：前回と同様パーツの仕上げ加工
- 第14回 フィギア制作・制作：仕上げ加工。表面処理やディスプレイを考える。作品の全体的な雰囲気を考え形に合わせた仕上げをする。
- 第15回 フィギア制作・合評：それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。

■教科書：指定なし

■参考書：トコトンやさしい金属加工の本（日刊工業新聞社）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
 実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：木工演習Ⅰ

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要： 木材の性質と、形態の関係性、制作工程の理解を深める。板材、角材から部材を成形、また木材加工の道具、工具の工程に沿った使用方を学ぶ。

■到達目標： 無垢材のスツール制作に取り組み、ほぞ組みの技法を中心に加工、組み立て、塗装を行い、基本的な家具の制作を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 課題説明・木取り：木製スツールを基本の形態として脚ものの構造やバリエーションを説明する。また木製家具のデザインについて、木の性質の観点で解説。大型機械の操作練習。 |
| 第2回 | 木取り：木材の特質（木目の方向性）の説明。バンドソー、糸鋸等の取り扱い説明、安全指導。木材に墨付けをおこない、切り出す材料決めていく。木目の方向や、完成した時の木目の出方の基礎を説明。 |
| 第3回 | 木取り：木材の特質（木目の方向性）の説明。バンドソー、糸鋸等の取り扱い説明、安全指導。バンドソーによる木取り。 |
| 第4回 | 脚部製作：バンドソー、横切り盤による木取り。安全指導。 |
| 第5回 | 脚部製作：手押しカンナによる基準面出し。（スコヤ使用）自動カンナによる平面出し。（ノギス使用）安全指導。 |
| 第6回 | 仕口加工：毛引きなどを使った墨つけ（加工部分の下書き）。角のみによるぼぞ穴加工。 |
| 第7回 | 仕口加工：毛引きなどを使った墨つけ（加工部分の下書き）。角のみによるぼぞ穴加工。 |
| 第8回 | 仕口加工：仮組みを行いながらホゾ調整。（平ノミ使用）① |
| 第9回 | 仕口加工：仮組みを行いながらホゾ調整。（平ノミ使用）② |
| 第10回 | 仕口加工・組立・座面の加工：仮組みを行いながらホゾ調整。サンドペーパーによる仕上げ。 |
| 第11回 | 仕口加工・組立・座面の加工：仮組みを行いながらホゾ調整。サンドペーパーによる仕上げ。 |
| 第12回 | 座面の加工：木取り→平面だし→板はぎ。※随時木工機械使用の安全指導。 |
| 第13回 | 組み立て：カンナ、サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバ、木ネジを用いて、脚部、座面の組立。 |
| 第14回 | 仕上げ：水性ウレタン塗料、オイル塗料、ステイン等で塗装、仕上。 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：大石 俊久（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 同協会主催の陶芸教室でも講師を務めている

科目名：陶芸演習Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：企業連携授業。窯焼きの歴史を学ぶとともに、現代でも続く登り窯の焼成方法を、作陶から窯詰め、焼成、窯出しと一連の工程を学ぶことで、窯と土、燃料につかう薪、温度（熱量をさす）の総合的な陶芸の実際を学ぶ。なお、登り窯での焼成は屋外での活動になる。
- 到達目標：登り窯の歴史の理解。登り窯の形式や特長を知り、効果的な温度管理のための燃料（薪）と焼成時間の関係性を理解する。また電気窯やガス窯とは違い、薪の利用で、作陶したものがどのような仕上がりになるかを体験的に学び、桃山時代から続く伝統技法の流れが現代の陶芸にどのような影響をもたらしているかを知る。

■授業計画：

- 第1回 作陶：基礎演習での成形方法やロクロ技法で造形作品や器など制作。粘土は登り窯焼成に適した耐火度の高いものを使用。
- 第2回 作陶：制作①
- 第3回 作陶：制作②
- 第4回 作陶：制作③
- 第5回 作陶：制作④
- 第6回 見学：札幌芸術の森 登り窯を実際に見学し、登り窯の歴史、成り立ちを学ぶ。
- 第7回 作陶：制作⑤
- 第8回 作陶：制作⑥
- 第9回 作陶：制作⑦
- 第10回 施釉：粉引きの要領
- 第11回 乾燥と窯、薪の準備：登り窯焼成の準備を行う。薪割り、窯詰めの際の備品を整える①
- 第12回 乾燥と窯、薪の準備：登り窯焼成の準備を行う。薪割り、窯詰めの際の備品を整える②
- 第13回 窯詰め：札幌芸術の森 登り窯を使用し作品の窯詰め作業。
- 第14回 焼成：焼成作業
- 第15回 合評：作品の焼成状態を見て、電気窯での焼成作品と比べ分析、振り返りを行う。

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名：金工演習Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：金属の加工法、鍛金の基本的な技術（定形しぼり）の習得をする。素材加工の工程の中で素材と向き合い、特性を知り、その可能性を探る。
- 到達目標：銅と真鍮、2つの金属を使用したフライパンの制作。テーマに沿った形を考え、鍛金の技法による成形。パンの部分と持ち手の接合を行い、仕上げとして錫挽きを施す。

■授業計画：

- 第1回 課題説明：定形しぼり、変形しぼりで制作された作品の紹介、個々の作品の参考に
する。
- 第2回 デザイン：模型制作
- 第3回 デザイン：設計図作成。鍋型（パン）の内径ゲージを作る。
- 第4回 鍛金練習：使用する道具の説明。基本姿勢、金づちの正しい持ち方など、デモン
ストレーション
- 第5回 鍛金練習：焼き鈍しとしぼりを繰り返し、成形①
- 第6回 鍛金：成形②
- 第7回 鍛金：成形③
- 第8回 鍛金：成形④
- 第9回 鍛金：成形⑤
- 第10回 鍛金：成形⑥
- 第11回 鍛金：柄の成形①
- 第12回 鍛金：柄の成形②
- 第13回 鍛金：柄の成形③
- 第14回 リベットで柄を本体（鍋部）に接合。内側に錫挽き。
- 第15回 全体を研磨し、仕上げ。 合評

■教科書：指定なし

■参考書：金工の伝統技法（理工学社） 鍛金の実践（美術出版社） ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burning John（シルバーアクセサリー工房）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名： 鑄造演習Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：企業連携授業。基礎演習に引き続き、ロストワックス技法での演習課題を行う。基本形から装身具としての機能を持ったオリジナルデザインを制作。

■到達目標：

- ・ワックスモデリングの基本を踏まえたアクセサリー制作。
- ・美しい仕上げを前提としたデザインの展開、アレンジ能力の向上を目指す
- ・デザインの発展を目的とした個別技能の取得。（石留め、仕上げの多様な技法等）

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 石を使ったアクセサリーの原型制作：課題説明。デザインのラフ案に取り組む。 |
| 第2回 | 原型制作：石留めの説明、貴石と半貴石において石留めの技法を解説。 |
| 第3回 | 原型制作：ラフ案提出後、具体的な完成予想図を作成。立体にするときの注意点、工程を指導。 |
| 第4回 | 原型制作：引き続き具体的な完成予想図を作成。立体にするときの注意点、工程を指導。 |
| 第5回 | 原型制作：ワックスで原型作り① |
| 第6回 | 原型制作：ワックスで原型作り② |
| 第7回 | 原型制作：ワックスで原型作り③ |
| 第8回 | 原型制作：ワックスで原型作り④ ツリー立ての作業後、石膏に埋没① |
| 第9回 | 原型制作：引き続きツリー立ての作業後、石膏に埋没② |
| 第10回 | キャスト：鑄造作業 |
| 第11回 | 仕上げ・研磨：石留めの練習（ミルタガネの使用、タガネの制作 概論）
研磨による石のダメージについての説明（洗浄方法など） |
| 第12回 | 仕上げ・石留め：研磨。銀の表面の加工を解説。鏡面磨き、白上げ、マット仕上げの説明。 |
| 第13回 | 仕上げ・石留め：研磨後、石留め。 |
| 第14回 | 仕上げ：ネックレスの場合、チェーン制作 |
| 第15回 | 合評：デザイン、仕上げ等の寸評、考察。 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：大石 俊久（非常勤講師）
 実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 同協会主催の陶芸教室でも講師を務めている

科目名：陶芸演習Ⅱ

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1 年次
 開講学期：後期
 授業時数：30 時間
 単 位：1 単位

- 科目概要：**ロクロ成形の習得。小品から大型作品の成形。釉薬の種類、施釉方法、装飾技術のマスター。陶芸における焼成の意味を理解する。
■到達目標：電動ロクロ技法の修得・成形、施釉、装飾の基礎技術を身につける。それぞれの土の特性、焼成時の変化を意識して考察する。釉薬の種類や焼成や湿度プログラムによる変化、素材の特性を知る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 土練り、土殺し：菊練り-粘土の中の気泡を取り除く。土殺し-土をロクロの回転に慣らし、中心軸を出す。 |
| 第2回 | 成形(茶碗)：「器」成形の基礎となる茶碗の作り方、コテの使い方、切り糸での底の切り方、器の養生。 |
| 第3回 | 成形(湯呑)：立ち上げ方、口元の処理 |
| 第4回 | 成形(花瓶)：起伏の付け方 |
| 第5回 | 削り：削り作業におけるロクロ上での中心の出し方、高台の削り方、高台の種類を覚える。 |
| 第6回 | 施釉：施釉のかけ方、撥水剤の扱い、コンプレッサーの使用。応用としてマスキングの考え方や、スポンジングによるムラ掛けなどを学ぶ。 |
| 第7回 | 板造り：板状に伸ばした粘土から形を作る。(筒型花入れ) |
| 第8回 | 成形(中鉢)：中鉢の作り方、コテの使い方を覚える。1kgから1個を挽くこと、カメ板を使用しての大型成型から平底の作り方、仕上げ方法を学ぶ。 |
| 第9回 | 削り：削り作業における中心の出し方、高台の削り方、鉢物のバランスのとり方、仕上げ方を覚える。 |
| 第10回 | 成形(袋物)：柄ゴテの使い方、首のすぼめ方、閉じ方、袋物のバランス、厚みの見方、仕上げ方を学ぶ。 |
| 第11回 | 練込角皿・象嵌：異なる粘土を混ぜ込み、器の表面に模様を出す。(赤・白)粘土を板状に伸ばし角皿のパーツを作る。 |
| 第12回 | 削り：シッタの使い方、シッタの中心の取り方、袋物の仕上げや削りを学ぶ。 |
| 第13回 | 成形(練り込)：色素練りこみ方法：土に色顔料を混ぜ、2色以上の色土を使用し、マーブル模様を出す。混色方法や一個挽きの方法を学ぶ。 |
| 第14回 | 削り：半乾燥状態の作品に削り作業。 |
| 第15回 | 陶芸Ⅰの作品との全体講評会：登り窯と電気窯で焼成した作品を比べ、振り返りを行い、土、施釉、焼成による分析を行う。 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 菱野 史彦 (非常勤講師)
実務経験: 造形作家 金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表 住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名 : 金工演習Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 後期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

- 科目概要:** 金属加工技術である切削、研磨、接合、仕上げの技術を高める。オリジナルデザインを基に作図し完成までの作業工程を計画、実行。素材の特性を生かした加工方法を探る。
■到達目標: 金属の加工技術を応用し2種類以上の金属素材を用いて表札、サインを制作する。

■授業計画:

- 第1回 課題説明: 金属の種類などを説明しながら表現にあった形と素材を効果的に使う必要性などを実例を使って説明し理解させる。
- 第2回 デザイン: 実例を踏まえ設定を自宅や、架空の店舗、知人に送るための品物などにして目的に適したデザインを考える。
- 第3回 デザイン: デザイン上の加工方法を検討、指導しながら設計図を完成。
- 第4回 制作・部材加工 形にする上で設計上の問題をどう解決していくか、素材と組み立て方を考えながら進める①
- 第5回 制作・部材加工②
- 第6回 制作・部材加工③
- 第7回 制作・部材加工④
- 第8回 制作・部材加工⑤
- 第9回 制作: 組み立て リベット接合、ロー付け、ねじ留め①
- 第10回 制作: 組み立て リベット接合、ロー付け、ねじ留め②
- 第11回 制作: 組み立て リベット接合、ロー付け、ねじ留め③
- 第12回 制作: 仕上げ 加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する①
- 第13回 制作: 仕上げ 加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する②
- 第14回 制作: 仕上げ 加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する③
- 第15回 合評: それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい金属加工の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名： 工芸研究(木工演習Ⅱ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：製材、加工の技術力の向上。課題制作を通して接ぎ手の理解を深め、手工具、電動工具の使用方法を学ぶ。木材の性質を考え成形から金具などの取り付けまで一連の木製品づくりを学ぶ。
- 到達目標：無垢材で鍋敷き（小作品）を手加工の1つ、蟻組接ぎの技法での制作と、無垢材を利用した機械加工による小箱の制作を行う。

■授業計画：

- 第1回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。木取り。
- 第2回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。成形①
- 第3回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。成形②
- 第4回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。仕上げ。
- 第5回 小箱づくり：幅300mm×奥行180mm×高さ90mmの木製箱制作 なお既定のデザインを制作するが、若干の大きさの変更は認める。指定材料、指定量の中で制作する事。木取り作業。
- 第6回 木取：木取図に基づいて木取を行う。横切り盤の安全な使用法の実演、説明。
- 第7回 小箱づくり：材料カット 機械加工 治具の作り方を学ぶ①
- 第8回 小箱づくり：材料カット 機械加工②
- 第9回 小箱づくり：組み立て 箱組留接手加工①
- 第10回 小箱づくり：組み立て 箱組留接手加工②
- 第11回 小箱づくり：仮組み
- 第12回 小箱づくり：仕上げ サンダー作業
- 第13回 小箱づくり：塗装
- 第14回 小箱づくり：金具取付、塗装
- 第15回 合評

■教科書： 指定なし

■参考書： 木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：阿部 秀行（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社製造勤務を経て 秀工房（貴金属・宝飾製造業）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名：工芸研究(貴金属加工演習)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：企業連携授業。貴金属の種類とシルバー素材の地金の配合方法や計算について学び、実際に彫金道具や機械工具を用いた地金形成方法の演習。
- 到達目標：銀素材の特徴や性質を知り、彫金道具の使い方を理解する。基本的なリングの形成方法、ロー付けなどの特殊技術を習得する。

■授業計画：

- 第1回 工具類の説明：ヤスリの種類、糸ノコのノコ刃の種類、ヤットコの種類、ロー材の種類、バーナーのガス圧力の調整器の使用方法、その他機械工具の説明と使用方法の説明。
- 第2回 地金の配合方法：貴金属の地金の種類を元素記号から覚え、地金配合について理論的に説明する。バーナーを使用した地金溶解方法の順序を覚える。地金の国内また、国外の刻印表示の見分け方を覚える。
- 第3回 地金の作成：溶解した地金を金床と金槌で締めてローラーを使用し、棒状ならびに板状に形成する。
- 第4回 地金の作成：さらに細く棒状ならびに板状に形成する。
- 第5回 ロー付け：地金のロー付け方法やロー材の選び方は、棒・板・線など大きさや形状などによって異なるため、それぞれ適したロー付け方法があることを理解する。
- 第6回 ロー付け：接合練習
- 第7回 平打リング加工：板状の地金を使用して平打リング加工をする。平打加工はサイズ、幅、厚さ、重さなどを決め、比重を使って計算し、正確な制作工程を学ぶ。
- 第8回 平打リング加工：加工作業
- 第9回 ヤスリの使い方：作成した平打リングを、だ円ヤスリ、平ヤスリ、両甲ヤスリを使って内側、両サイド、上部の順序で形成していく。平ヤスリは荒目、中目、細目の3種類を使用して仕上げていく。また、キサゲ、ヘラも使用しさらにリングの表面を仕上げる。
- 第10回 平打リングの仕上げ：リングの形が整ったら、リユーターを使用してセラミックポイントである程度仕上げ、バフ(板バフ・布バフ)を使用して仕上げていく。平打リング完成。
- 第11回 仕上げ・研磨：石留めの練習(ミルタガネの使用、タガネの制作 概論)
研磨による石のダメージについての説明(洗浄方法など)
- 第12回 甲丸リング加工：甲丸加工は、サイズ、幅、厚さを決めて、ローラーと溝台を使用して作成する。形成に使用するヤスリは平打リングと同様だが、削り方が違うので、ヤス甲丸リングの仕上げ：仕上げはキサゲ、ヘラを使い、その後、リユーター、布バフを使用して仕上げる。甲丸リング完成。
- 第14回 縄目加工：作った丸線で縄目作りを行う。縄目づくりは、バーナーを使って丸線を加熱しながらひねりを入れていき作成する。縄目が出来たら丸めてロー付けしてリングを合評：3つのリングの作品講評
- 第15回

■教科書：指定なし

■参考書：宝飾クラフトの実際(美術出版社) ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：吉田 修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン 設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名	プランニング
履修形態：	必修
授業形態：	演習
履修学年：	1 年次
開講学期：	前期
授業時数：	60 時間
単 位：	2 単位
■科目概要：	・著名なプロダクトデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れ、事例を通じてデザイン意図、コンセプトを考え、クライアントの 要望や与条件からなぜそのようなデザインに至り、どのようにそれを実現したかグループで考える。・半透明な樹脂シートを用いて、照明のシェードの製作を目指す。照明という機能を満たしつつ、頭でイメージしたものを形にするというデザインの基礎を学ぶ。
■到達目標：	・事例研究のグループ作業を通じて、協働で作業することの大切さ、人前で自分の意見を言い、他人の意見を尊重するという社会人としてのマナーを身につける。・照明器具の製作を通じて、イメージを形にする難しさと形にできたときの達成感を学び、デザインすることの楽しさ、言葉を使わずに意図することを伝えるというデザインの役割を体験する。
■授業計画：	
第1回	事例分析1:デザインすることとはデザインの意味、役割について考える。著名なプロダクトデザイナーの紹介、課題説明。業界のトップランナーの仕事に触れる。
第2回	事例分析2:デザイナー分析。デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習。資料収集。
第3回	事例分析3:中間発表 グループごとにデザイナーのデザインに対する姿勢、考え方について、
第4回	事例分析4:デザイナーの作品事例を通じて、デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析する。合わせてクライアントや与条件についてまとめる。
第5回	事例分析5:最終発表 事例分析で得た結果をA4用紙にプレゼンテーションし発表する。ひとを惹きつけるプレゼンテーション、発表の仕方を工夫する。
第6回	照明器具の製作1:照明の果たす役割、種類について。世の中にある照明器具、動向を知る。
第7回	照明器具の製作2:中間発表 ファーストアイデアをプレゼンテーション 1週間という限られた時間で思いつくことを画や形で表現する。
第8回	照明器具の製作3:ペーパーモデル(S=1/3)の製作。イメージを具現化するためにケント紙を用いて検討を重ねる。また検討過程において紙の特性を学びさらにアイデアを進化させていく。
第9回	照明器具の製作4:ペーパーモデル(S=1/3)の製作 形はひとつではなく、思いつく限り試作を重ねる。手を動かすうちに見えてくるものを形にしていく。
第10回	照明器具の製作5:中間発表 試作の過程を言葉で整理して発表する。最終的に進むべき最良案について説明、方向性を決定する。
第11回	照明器具の製作6:ペーパーモデル(原寸)の製作 中間発表で得られた指摘や問題点についてさらに改良を重ねる。最終作品に向けて原寸大で検証、プロポーションやディテールを詰め
第12回	照明器具の製作7:電球器具とその取り付け 電球の役割と動向について学び、大きさ、熱、明るさについて理解を深める。
第13回	照明器具の製作8:中間発表 夏休み明けに作業の進捗状況を報告。最終作品に向けて修正点などを議論。
第14回	照明器具の製作9:最終モデルの製作 実際の素材を用い、材質の違いによる問題点を洗い出す。ステー類など補助部材の製作。
第15回	照明器具の製作10:最終発表 消灯時、点灯時の照明としての役割、造形、デザイン意図を発表。作業工程で感じたことなどを議論し、総合的に評価する。
■教科書：	指定なし
■参考書：	指定なし
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	
■履修上の留意点：	

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：高野 克也（非常勤講師）
実務経験：自然活動のNPO法人勤務を経て、札幌まるやま自然学校を主宰。自然活動のほか、木育、地域活動など未就学児童から企業研修など企画し、幅広く能力開発、人材育成を行っている。

科目名	環境デザイン
-----	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：環境デザインの領域は幅広く、アート、デザイン、エコロジー、テクノロジー等を包含している。立体制作には、デザイン力や造形力のみならず、ものの見方、素材背景の知識が必要とされる。活動を通して与えられた問題、あるいは自ら見つけた問題を解決して行くことで、「作る」という推進力を養うことが目的ではあるが、最も大事なことは、制作品の役目や価値を見出すことが、自身の役割や責任の投影であるという理解である。企業連携授業
- 到達目標：小学生向けの工作アクティビティを研究（関わり合いの意識）、考案（状況把握の意識）、実施（協働の意識）、振り返りを行い、活動態度、プログラムの構成を講師から評価を受ける。

- 授業計画：
- | | |
|------|---|
| 第1回 | ステップ1関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第2回 | ステップ2関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第3回 | ステップ3関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第4回 | ステップ4関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第5回 | ステップ5状況把握の意識：自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第6回 | ステップ6状況把握の意識：自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第7回 | ステップ7状況把握の意識：自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。中間発表 |
| 第8回 | ステップ8状況把握の意識：中間発表後、ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第9回 | ステップ9状況把握の意識：ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第10回 | ステップ10状況把握の意識：ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第11回 | ステップ11協働の意識：グループ発表。実施に向けて模擬活動。 |
| 第12回 | ステップ12協働の意識：振り返りを行い。準備品などの用意。 |
| 第13回 | ステップ13協働の意識：振り返りを行い。準備品などの用意。 |
| 第14回 | ステップ14協働の意識：実施 |
| 第15回 | ステップ15協働の意識：振り返り。 |

- 教科書：指定なし
- 参考書：指定なし
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：須田 修司（非常勤講師）
実務経験：木工家 旭川の家具工房勤務を経て、工房旅する木 代表 内装施工、特注家具、木製品の製造販売を行う。

科目名：専門技術演習(木工演習Ⅲ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：脚もの課題として椅子制作を行う。木取り、部材加工、組み立て指導。随時、木材加工に不可欠な「刃物（鑿、鉋、鋸）」の基本的な使用法、刃砥ぎ、を覚えることにより、素材への理解、大型機械、電動工具による木材加工への理解も深め、応用力を高める。
- 到達目標：大型機械の実践的な使用、治具制作、旋盤加工を学ぶ。課題 1：椅子課題 2：小物制作

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス 仕事紹介:実践例として家具納品、内装施工仕事の紹介をスライドショーにて解説。 |
| 第2回 | デザイン:図面解説 |
| 第3回 | 加工①:図面を基に木取り加工。手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導 |
| 第4回 | 加工②:図面を基に木取り加工。手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導 |
| 第5回 | 部材加工①:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 |
| 第6回 | 部材加工②:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 旋盤加工 |
| 第7回 | 部材加工③:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 旋盤加工 |
| 第8回 | 部材加工④:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 旋盤加工 |
| 第9回 | 仕上げ・組み立て①:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。 |
| 第10回 | 仕上げ・組み立て②:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。 |
| 第11回 | 仕上げ・組み立て③:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。 |
| 第12回 | 小物づくり①:デザイン考案 |
| 第13回 | 小物づくり②:加工・仕上げ |
| 第14回 | 小物づくり③:仕上げ・塗装 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：木工技術シリーズ(産調出版)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：下沢 敏也（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 円山陶房 主宰 北海道陶芸協会の教室で代表講師を務めている。札幌文化奨励賞受賞

科目名：	専門技術演習(陶芸演習Ⅲ)
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：陶芸制作における成形から焼成までの一連の工程の習得。演習Ⅲは企業連携の授業形態で、陶芸展作品作り、屋外型の窯作業を行いながら、様々な陶芸表現とその仕事の内容を学び、自らのスキルアップが狙いである。
- 到達目標：陶芸の応用演習として、様々な場面に沿った素材選び、成形、作品管理、焼成方法や、施釉塗装色など考察力を身に着ける。展覧会に出品を行う。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | スライドレクチャー：現代陶芸の在り方、伝統と前衛を解説。 |
| 第2回 | デザイン 素材選び：大型作品、造形作品のデザインを考える。 |
| 第3回 | 模型づくり①：試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える |
| 第4回 | 模型づくり②：試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える |
| 第5回 | 模型づくり③：試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える |
| 第6回 | 制作①：粘土成形 |
| 第7回 | 制作②：粘土成形 |
| 第8回 | 制作③：粘土成形 |
| 第9回 | 制作④：粘土成形 |
| 第10回 | 焼成：焼成作業 |
| 第11回 | 展示準備：展示台、題材などの準備を行い、出品（北海道陶芸展） |
| 第12回 | 登り窯活動①：デザイン考案 |
| 第13回 | 登り窯活動②：器など粘土成形（耐火度のある土を使用） |
| 第14回 | 登り窯活動③：登り窯準備 |
| 第15回 | 登り窯活動④：焼成作業 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：阿部 秀行（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社製造勤務を経て 秀工房（貴金属・宝飾製造業） 代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名：専門技術演習（鑄造演習Ⅲ）

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

■科目概要：企業連携授業。シルバーの地金を使った様々なアクセサリーの加工方法や、石の大きさ・形・カットによる石留方法を知る。各制作課題による加工方法の違いから、適した作業順序や工程の必要性を理解し、技術向上を目指す。

■到達目標：道具の使い方を理解し、より高い質の仕上がりを目指す。作りたいデザインの製作工程を自ら考え、重さや使いやすさ、耐久性や見せ方など実用性を考慮したアクセサリーが実際に制作できる技術を養う。

- 授業計画：
- 第1回

石入り平打リング加工（ミル留め）：石留め用平打リングの作成。幅は4.5mm、サイズ、厚さ、重さなどを決め、その寸法で正確に仕上げる。仕上がり良くするため、なまし方（熱したあと3秒数えてから水に入れて冷ます）や各道具の手入れ（ヤスリの手入れ、ヘラ・キサゲの砥ぎ方）について学ぶ。
- 第2回

穴開け・石のセッティング：石留めの順序や意味を理解する。径2.5mmのキュービックジルコニアを石留めするため、ドリル径1.2mm、丸ギリ径1.8mm、2.5mmのポイントを使って穴を開ける。石をセッティングしながら、留められる深さになるまで穴を開ける。
- 第3回

ミル留め・仕上げ：ミルたがねを使って石を留める。傷ができればヘラで消し、仕上げる。ミル留め平打リング完成。
- 第4回

石入り縄目リング加工（サラ留め）：幅4.5mmの平打リングを作成し、縄目模様にする。平打リングの表面に糸ノコを使って8等分の筋を入れる。糸ノコは押切りと引切りがあるが、引切りは主に透かし模様を切るときに使うため、押切りで筋を入れる。
- 第5回

縄目加工：筋に数種類の精密ヤスリを使用して削り、縄目模様を作っていく。ある程度削れたら、ブラシなどのポイントを使って縄目部分をさらに仕上げる。
- 第6回

穴開け・石のセッティング：ドリル、丸ギリで穴を開ける。サラ留めは石に負担がかかるので、径2mmの硬いメレダイヤを使う。メレダイヤをセッティングしながら、留められる深さになるまで穴を開ける。
- 第7回

サラ留め・仕上げ：ヘラを使って石を留める。開けた穴の周りの地金を寄せるように留めていく。傷ができればヘラで消し、さらに仕上げる。サラ留め縄目リング完成。
- 第8回

ペンダントトップ石枠加工 石座（八巻）加工：10mm×12mmの小判型の石をペンダントトップに加工する。板状の地金を作り、石の大きさに合わせた石座を作る。石の外周に沿って板状の地金をヤットコを使って丸める。切り口をロー付けし、ヤットコで形を整える。石が座るようにヤスリで削り、仕上げる。
- 第9回

爪立て・パチカン加工：石座に石留めするための爪を立てる。爪は角線を引いて作り、石枠に対角線になるよう4本ロー付けする。その際、石座のロー材よりも低温のロー材を使用する。爪の長さを調整し削り、爪の形を整える。チェーンを通すしずく型のパチカンを作る。
- 第10回

外付け縄目装飾作り：針金版を使って丸線をひき、縄目の線を作る。その線で石座を自由に装飾し、ロー付けする。
- 第11回

石留め・仕上げ：石枠にパチカンを通した丸管をロー付けする。石の座り具合を見ながらヤットコを使って石留めをする。パフをかけて仕上げる。ペンダントトップ完成。
- 第12回

角石リング枠加工：4mm×6mmオクタゴンカットの石をリングに加工する。石枠用の板状の地金を作る。
- 第13回

石枠・爪立て加工：石の辺に合わせた長方形の石座を作り、石が座るようにヤスリですり合わせる。石座に角線を立てロー付けする。爪は4本爪にする。爪の長さを調整し削り、爪の形を整える。
- 第14回

腕部分地金作成：腕用の角棒の地金を作る。地金の側面を金槌でたたき、地金を締める。地金の端部分は腕にするため厚くする。地金を両端から徐々に丸めていき、リング状に丸める。真円にしたあと、変形させないようにヤスリがけし表面を整え仕上げる。
- 第15回

石枠と腕を合わせる 石留め・仕上げ：石枠と腕を組み立てる。4本爪の石枠を加工した腕にはさんでロー付けする。形を整えて仕上げる。石の座り具合を見ながらヤットコを使って石留めをする。パフをかけて仕上げる。角石リング完成。

■教科書：指定なし

■参考書：宝飾クラフトの実際（美術出版社） ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名：専門技術演習（金工演習Ⅲ）

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：金属の特性を理解し、しぼり、銀ロー付け、溶接等基本的技術を向上する。デザインコンセプトの核を明確にし、生活工芸品制作とする。
- 到達目標：金属の加工法、鍛金の応用技術（変形しぼり）、金属の特性を活かした接合法の技術を習得をし、照明器具の制作を行う。シェードのほか、照明の仕組みも考え、持続的に使用可能な作品を完成させる。

■授業計画：

- 第1回 課題説明：金属製品の解説。あかり、照明の事例を解説。デザインラフ案を作成。
- 第2回 デザイン：模型制作を行い、照明の設計を行う。光の機能、人や空間との関わり方を考える。
- 第3回 デザイン：中間発表 形のデザイン、素材の選定。
- 第4回 デザイン：形態を決定。図面制作し、部材加工計画を立てる。
- 第5回 加工練習：TIG溶接機の練習。酸素とプロパンのバーナーワークを練習。
- 第6回 成形①：アルミニウム、銅（真鍮）、鉄、それぞれの素材加工を把握。非鉄は焼きなまし、酸洗い、鍛金を繰り返す。鉄は赤めながら鍛金を行う。
- 第7回 成形②
- 第8回 成形③
- 第9回 成形④
- 第10回 成形⑤
- 第11回 成形⑥
- 第12回 仕上げ：鉄は油焼きを施し、黒い仕上げにする/鍍を施し、茶色の仕上げにする。銅（真鍮）は、酸洗いをし、硫化硫黄で着色。着色を施した後、蜜蝋を塗布。
- 第13回 仕上げ：アルミニウムは表面加工を施し、クリアラッカー仕上げ。＊素材によって異なる仕上がりになる。
- 第14回 組み立て：ケーブルなど照明器具と接合。
- 第15回 合評

■教科書：指定なし

■参考書：鍛金の実際（美術出版社）あかりの魔法（エクスナレッジムック）ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：専門技術演習(木工演習Ⅳ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：箱ものの構造と形（デザイン）の関係を理解し、素材への理解を深め、デザインの目的を意識する。箱ものは取り合い（合わせる箇所）が多いので「素材が木材であること」「計算して合わせるところ」「自由に加工可能なところ」等の判断力を高める。素材への理解、大型機械、電動工具、手工具による木材加工への理解、応用力を高める。
- 到達目標：家具や木製品の制作。複合的な技法を用いた課題制作を行う。課題：箱もの制作

■授業計画：

- 第1回 課題説明・手工具管理：刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。
- 第2回 刃物砥や手工具の管理：木刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。仕上げや面取りについても先に触れておく。
- 第3回 箱ものの構造と形（デザイン）：実例をあげて構造と形の関係を説明。使用目的、使用環境を考慮して、デザインを考える。ラフ案、模型制作。
- 第4回 製図：デザイン画、模型をもとに図面作成。第三者にもわかるように、丁寧な作図を心がける(1/2,1/5可)。作品の形大きさが決まったらパーツリストを作成する。
- 第5回 中間発表：模型、図面のチェック
- 第6回 木取加工：デザイン画、図面、パーツリストをもとに木取りを行う。・木取りを行う際にバンドソー、横切り盤を用いるので、その使用法と安全指導を行う。
- 第7回 基準面加工：手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導
- 第8回 仕口加工、形状加工：組立に必要な仕口継手（ホゾ、ダボ穴加工）の加工を行う。形状の加工においてルーター、トリマーなどの電動機械の取り扱い方の説明、安全指導。
- 第9回 仕口加工：木材加工のイメージができない、または理解しにくい場合は必ず端材などで練習をする。
- 第10回 仕口加工：※丁番やキャッチ、スライドレールなどを使用する場合はその取り付け方の指導。
- 第11回 仕口加工：※鑿、カンナ等刃物の研ぎ方は一度では覚えられないので、随時行う
- 第12回 組み立て・仕上げ：手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。
- 第13回 組み立て・仕上げ：組立の際に、クランプ、はたがね等を使用するので、組立に必要な道具の使い方と安全指導。
- 第14回 仕上げ：水性ウレタン塗料、オイル塗料、ステイン等で塗装、仕上。
- 第15回 合評

■教科書：指定なし

■参考書：木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：下沢 敏也（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 円山陶房 主宰 北海道陶芸協会の教室で代表講師を務めている。札幌文化奨励賞受賞

科目名：専門技術演習(陶芸演習Ⅳ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：プランから完成まで制作演習を通してデザイン力、加工技術を深める。複合的な技法を用いた課題制作を行う。

■到達目標：電動ロクロ成形を中心に技法や道具の使い方を学ぶ。組物では同型の作品作りの取り組み、中鉢や注器ではパーツの大小にともなう制作技術の向上、粘土の性質を利用した様々な制作法に触れ、スキルアップを目的とする。

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス：作陶を中心に行うが、焼成毎、施釉・装飾の指導を行う。
- 第2回 組物・5個組 茶碗、小鉢：形、大きさを揃えたセットものの成形。茶碗や小鉢を棒引きでの成形。トンボ、コテなどの使い方を覚える。
- 第3回 組物・6個組 茶碗、小鉢：削り作業。高台の大きさ、高さを揃える。トースカン、カンナの使い方を覚える。
- 第4回 組物・5個組 カップ・タンブラー：形、大きさを揃えたセットものの成形。茶碗や小鉢を棒引きでの成形。トンボ、コテなどの使い方を覚える。
- 第5回 組物・6個組 カップ・タンブラー：削り作業
- 第6回 中鉢：中鉢制作。2kg以上の粘土を使用。カメ板の使い方を覚える。カメ板での中心の取り方。
- 第7回 中鉢：中鉢制作。高台削り。シッタなどの使い方を覚える。
- 第8回 装飾：化粧土を使った描き落とし技法。飛びカンナ、三島手、イチチンの装飾方法。
- 第9回 注器：急須、ポットの制作。各2個以上。注器の各パーツ成型後、組み合わせ。全体のバランスのとり方を覚える。
- 第10回 注器：削り作業。本体、蓋の削り方。茶漉し、取っ手、口のバランスやカットの仕方。
- 第11回 仕上げ：取っ手、注ぎ口、茶漉しの接着方法。バランスのとり方。
- 第12回 筒もの：筒もの（花器）制作。1～2kgの土を筒状にろくろ挽きする。中心のブレがでないように挽く。前半課題の焼成後合評会
- 第13回 土の再生：土練機の使い方を覚える。粘土の再生方法。
- 第14回 展開図制作：たたみ技法で展開図を使った立体制作。自由な発想での制作。
- 第15回 展開図制作：よりしろをつかった接着方法。組み立て。仕上げ。

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burni ng John(シルバーアクセサリー工房) 代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名	専門技術演習(鋳造演習Ⅳ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

- 科目概要： 模刻やセット物制作の課題を通して、複合的な技法を用いた制作を行う。
- 到達目標： 鋳造技法による制作を行う。ベーシックなアイテム（リング、ネックレス、ブレスレット）を講師による指定サンプル通りに制作する取り組みと、オリジナル作品を制作。

■授業計画：

- 第1回 ベーシックアイテム制作 石止め、透かし彫りを施したリングサンプルから選ぶ。サンプルの制作手順を解説
- 第2回 模刻①：ワックス成形
- 第3回 模刻②：ワックス成形 厚み、立体感、細部の作りこみを中間チェック。
- 第4回 模刻③：ワックス成形
- 第5回 鋳造仕上げ作業：鋳込み作業から研磨を行い、提出。
- 第6回 オリジナル制作：セットものの制作。銀主体で、ネックレス(チョーカーやペンダント)リング、ブレスレット(バングル等)ピアス(イヤリング、イヤークフ等)から2アイテムのセットものを制作。
- 第7回 デザイン①：ラフ案から製図作成
- 第8回 デザイン②：中間チェック ワックス制作
- 第9回 試作①：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
- 第10回 試作②：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
- 第11回 成形①：ワックス原型作り チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。
- 第12回 成形②：ワックス原型作り チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。
- 第13回 成形③：ワックス原型作り チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。
- 第14回 埋没・鋳込み：仕上げ、研磨作業。石留め。
- 第15回 合評：デザイン、仕上げ等の寸評、考察。

- 教科書： 指定なし
- 参考書： 指定なし
- 成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名：	専門技術演習（金工演習Ⅳ）
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：伝統工芸品の制作とし、彫金技法の修得を目指す。
- 到達目標：金属の加工法、彫金の応用技術の中で、象嵌技法、杢目金の技法に取り組む。金属の特性を活かした接合法（鍛接）の技術を習得。

- 授業計画：
- | | |
|------|---|
| 第1回 | 象嵌・地金制作：ささぶきを溶解し、純銀、四分一の地金を制作。バーナーを使用し、ささぶきを溶解。ささぶきの様子を見ながら塊になった銀をローラーを使い線状にして行く。 |
| 第2回 | 象嵌・デザイン：箱のふたを画面とし、線と点、面で構成をする。 |
| 第3回 | 象嵌・毛彫り：使用する道具とその手入れ法の説明。使い方のデモンストレーション。彫る練習とともに、ケン先たがねの刃を正しく、研ぐ。 |
| 第4回 | 象嵌・毛彫り：けがいた線に沿い彫る。 |
| 第5回 | 象嵌実制作①：銀線、または面材を嵌め込む。銀線をなます。毛彫りの均一の深さ。 |
| 第6回 | 象嵌実制作②：銀線、または面材を嵌め込む。 |
| 第7回 | 象嵌実制作③：銀線、または面材を嵌め込む。 |
| 第8回 | 象嵌・着色前の下処理：ヤスリで磨く#1000番まで表面を均一にする。 |
| 第9回 | 象嵌・着色：煮色技法で着色。薬品の調合、着色作業。何回か行う。 |
| 第10回 | 杢目金・地金準備：赤銅と純銀の板材を指定した面積、枚数にカット。研磨。 |
| 第11回 | 杢目金・接合：交互に重ねた板を器具に挟み、バーナーで接合。 |
| 第12回 | 杢目金・彫り：接合したブロックを板状に叩きのばす。しゃくり鑿、毛彫り鑿、ドリルで穴やへこみを作りさらに叩きのばすことで木目の柄になる。 |
| 第13回 | 木目金・成形①：杢目金を材にしてリング、ペンダントトップ、バングルなど、装飾品、小物を制作。 |
| 第14回 | 木目金・仕上げ②：研磨。着色。 |
| 第15回 | 合評：象嵌作品、杢目金さ作品の提出 |

- 教科書：指定なし
- 参考書：杢目金の教科書（日本杢目金研究所）ほか
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：	専門技術演習(木工演習Ⅴ)
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：成形合板、曲木など技法へのチャレンジ制作。より技術の向上を図る。課題：曲げわっぱ（シェーカー様式）薄単板使用。
- 到達目標：曲げわっぱにおいては素材の柔軟性などを体感して素材に対しての理解を深める。伝統工芸品でもあるが、もともと道具としての側面が強い生活工芸品であり、機能性と形態の関係も学ぶ。

■授業計画：

- 第1回 課題説明・手工具管理：刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。
- 第2回 木取り、曲げ木①：曲げわっぱの制作説明、曲げ木の手法説明。曲木の部材作り。
- 第3回 木取り、曲げ木②：曲木の部材作り。バンドソー、昇降盤など木工機械の取り扱いの確認、安全指導。
- 第4回 木取り、曲げ木③：曲木の部材作り。
- 第5回 成形練習①：単板の曲げ加工。蒸した板を治具に沿わせる。
- 第6回 成形練習②：単板の曲げ加工。蒸した板を治具に沿わせる。
- 第7回 成形練習③：銅釘を使った組み立て。
- 第8回 成形①：曲木の部材作り。
- 第9回 成形②：単板の曲げ加工。蓋と本体を制作
- 第10回 成形③：単板の曲げ加工。蓋と本体を制作
- 第11回 成形④：単板の曲げ加工。蓋と本体を制作
- 第12回 仕上げ①：細部の処理。縁のやすり掛け。
- 第13回 仕上げ②：細部の処理。縁のやすり掛け。
- 第14回 仕上げ③：人体に影響のない塗装（オイル塗装）
- 第15回 合評

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burning John（シルバーアクセサリー工房）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名	専門技術演習（鑄造演習Ⅴ）
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：演習課題を通して、応用的な技術習得を目指す。現代のジュエリー、アクセサリーの幅の広さを学ぶ。完成した作品は札幌貴金属組合の主催する展覧会に出品し、鑑賞者やプロの職人、作家など外部からの評価も得ることができる。ただし成績に関しては授業担当の講師が評定するものとする。
- 到達目標：現代のジュエリー、アクセサリー制作は、どの時代風にもデザインが可能であり、新素材の使用など多様な変容を遂げている。この授業では、異素材を用いて装身具製作を行うものとするが、狙い通りに完成するか、制作を通して実験、研究の成果を分析し、卒業制作へのステップとする

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 異素材の装身具製作：課題の概要説明 銀＋αでの考え方。 |
| 第2回 | 校外学習：異素材のアイデアをフィールドワークにて学習。自然素材の観察、ホームセンターにある素材や部品の見学 |
| 第3回 | デザイン①：ワックスでの試作 異素材の使用により、重心やバランス、接合の仕方など吟味する |
| 第4回 | デザイン②：ワックスでの試作 コンセプトを異素材の組み合わせをチェック |
| 第5回 | デザイン③：ワックスでの試作 中間発表 |
| 第6回 | 試作①：一回目の鑄造を行い、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味 |
| 第7回 | 試作②：引き続き、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味 |
| 第8回 | 試作③：引き続き、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味 |
| 第9回 | 本制作①：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。 |
| 第10回 | 本制作②：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。 |
| 第11回 | 埋没・鑄込み |
| 第12回 | 仕上げ①：仕上げ、研磨作業。石留め。 |
| 第13回 | 仕上げ②：仕上げ、研磨作業。石留め。 |
| 第14回 | 仕上げ③：仕上げ、研磨作業。石留め。 |
| 第15回 | 合評：デザイン、仕上げ等の寸評、考察。完成、提出の後、展覧会出品の準備 |

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| ■教科書： | 指定なし |
| ■参考書： | 指定なし |
| ■成績評価： | 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。 |
| ■関連科目： | |
| ■履修上の留意点： | |

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフトデザイン専攻
担当教員: 菱野 史彦 (非常勤講師)
実務経験: 造形作家 金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表 住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名	専門技術演習(金工演習Ⅴ)
-----	---------------

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 金属の溶接技法を用いて鉄素材ではミニチュアハウスを制作。銅素材では器を製作。様々な溶接方法の理解を深める。
■到達目標: 鉄、アルミニウムやステンレスと銅と身近にある金属素材の溶接技術を身につけそれぞれの金属の特性を知る。溶接技術の習得。多様な製作方法があることを知る。

■授業計画:

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 溶接技法について・溶接演習①:溶接機の種類、一般的な溶接の用途のほか素材別溶接技術の違いなどを知る。コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。被覆アーク溶接機を使い鉄の溶接練習。 |
| 第2回 | 溶接技法について・溶接演習②:コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。TIG溶接機を使い鉄・ステンレスの溶接練習。 |
| 第3回 | 溶接技法について・溶接演習③:コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。TIG溶接機を使い銅、アルミニウムの溶接練習。 |
| 第4回 | ミニチュアハウスデザイン:溶接技術を踏まえ架空の家を建てるイメージでデザインを起こす。資料等を使い製作方法を考えながらデザイン画、製図を作成。 |
| 第5回 | 制作演習①:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。 |
| 第6回 | 制作演習②:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。 |
| 第7回 | 制作演習③:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。 |
| 第8回 | 仕上げ:溶接に夜焼けや溶接後の処理をデザインに応じて仕上げる。必要であれば塗装加工、錆付け加工などを検討し仕上げを行う。 |
| 第9回 | 制作演習・講評:仕上げ加工。最終的に着色、磨き加工などを施し完成度を高める。合評による振り返り。 |
| 第10回 | 銅器デザイン:形をデザインし展開図を考える。 |
| 第11回 | 制作演習①:必要な材料を切り出し成型加工。成型後つなぎ目を溶接加工。 |
| 第12回 | 制作演習②:鍛金加工(当て金を使い金槌で成型加工)で成型する。 |
| 第13回 | 制作演習③:(当て金を使い金槌で成型加工)で成型する。 |
| 第14回 | 仕上げ:仕上げ加工、均し加工、表面処理、色上げなど。 |
| 第15回 | 合評:それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。 |

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい溶接の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名：	専門技術演習(造形演習Ⅰ)
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：異素材の組み合わせを行った造形作品の制作。昔からある素材、新素材と、現代では様々なものがあり、新しい造形を探るとともに、特殊な環境ではない場でも作ることのできる加工法の研究。
- 到達目標：異素材の組み合わせで小物制作。また新素材であるジェスモナイトを使った小物制作を行いアイデアや可能性を拡げる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 課題説明：木材以外の素材を実際の作品を紹介しながら授業の説明する。 |
| 第2回 | デザイン①：素材の決定、作品のデザイン画を描く。 |
| 第3回 | デザイン②：中間チェック。異素材の組み合わせの試作。 |
| 第4回 | 試作：組み合わせの試作。 |
| 第5回 | 本制作①：加工、組み立て。 |
| 第6回 | 本制作②：加工、組み立て。 |
| 第7回 | 本制作③：加工、組み立て。 |
| 第8回 | 本制作④：仕上げ。提出。 |
| 第9回 | ジェスモナイト研究：立体造形用素材ジェスモナイトの使用方法的説明。
素材を使用して作品作りを行う。 |
| 第10回 | デザイン：ジェスモナイトのみもしくは他の素材と組み合わせたデザインを考える。 |
| 第11回 | 試作：ジェスモナイトの実験 |
| 第12回 | 制作①：流し込みに使用する型を制作する。 |
| 第13回 | 制作②：加工 |
| 第14回 | 制作③：研磨 |
| 第15回 | 異素材の作品と合わせて合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名	専門技術演習(造形演習Ⅱ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：組み木の木製品制作に取り組む。合板の種類、特性を知り、造形表現の可能性を探る。
- 到達目標：課題 1 として合板から玩具、オブジェを制作し材料の特性を把握。課題 2 として、からくり作品を制作。動的な要素を研究し、作品として発表。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 組み木：合板と無垢材との違い、形状の安定、加工についての強みを解説。 |
| 第2回 | デザイン：組み木を生かしたデザイン。ラフ画から図面作成。 |
| 第3回 | デザイン：中間チェック 材料選定。 |
| 第4回 | 造形：木取り、部材加工 |
| 第5回 | 造形：組み立て |
| 第6回 | 造形：仕上げ、塗装 |
| 第7回 | 合評 |
| 第8回 | からくり作り：動力の仕組みを研究 チームに分かれて歯車等の制作。 |
| 第9回 | からくり作り：動力の仕組みを発表 |
| 第10回 | からくり作り：デザインを行う。動く、揺れる、回転などワンアクションを入れる。 |
| 第11回 | からくり作り：造形作業 木材、金属素材などの選定 |
| 第12回 | からくり作り：造形作業 部材加工 |
| 第13回 | からくり作り：仕上げ、研磨 |
| 第14回 | からくり作り：仕上げ、塗装 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：摩訶不思議図鑑(有馬玩具博物館)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：桂 充子（専任教員）
実務経験：北海道教育大学美術科卒業 彫刻家 道展・会員 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。

科目名	専門技術演習(素材研究Ⅰ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要： 素材理解を深める授業。課題としては実験的な制作、素材の加工を行い、そこから得られる気づきや発見を発表する。
- 到達目標： 能動的学習形態として、対象の調査、表現の工夫を自ら構築できる演習課題に取り組む。調査では表現に伴う幅広い収集への取り組み、表現の工夫では情報の優先順位付け、意見交換をすることで、研究成果（制作状況と成果物）の客観性を享受する。

- 授業計画：
- | | |
|------|---|
| 第1回 | 染色について①: 染色についての基本知識を講義 絞り染め、ろうけつ染めから選択し、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。 |
| 第2回 | 染色について②: 染色液の製造。木材チップから煮だして色素液を抽出 |
| 第3回 | 染色について③: 染色液の媒染材の調査 |
| 第4回 | 染色について④: 絞り染めによる染色。 |
| 第5回 | 染色について⑤: 研究発表 |
| 第6回 | 染色について⑥: 振り返りを行いデータ資料化する。 |
| 第7回 | 腐食について①: 腐食についての基本知識を講義 。薬品や素材、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。 |
| 第8回 | 腐食について②: 真鍮の腐食を行う。板材にマスキングを施し、薬品に浸す。経過時間を観察し取り出す。 |
| 第9回 | 腐食について③: 腐食された金属を研磨、着彩。 |
| 第10回 | 腐食について④: 研究発表 |
| 第11回 | 腐食について⑤: 振り返りを行いデータ資料化する。 |
| 第12回 | 低温度鋳造について①: 錫やホワイトメタルなど低温融点を利用した鋳造についての基本知識を講義。技法や素材、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。 |
| 第13回 | 低温度鋳造について②: 鋳造作品の型作りを行い、鋳造作業。 |
| 第14回 | 低温度鋳造について③: 研磨仕上げ。 |
| 第15回 | 低温度鋳造について④: 振り返りを行い、データ資料化する。 |

- 教科書： 指定なし
- 参考書： 指定なし
- 成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：桂 充子（専任教員）
実務経験：北海道教育大学美術科卒業 彫刻家 道展・彫刻部会員 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。

科目名：	専門技術演習(素材研究Ⅱ)
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：立体造形のなかで、彫刻的要素の強い、ブロンズ鑄造と野焼き（やきもの・テラコッタ）の取り組みから素材の特性を学ぶ。
- 到達目標：研究活動。作品の原型を蠟材で制作後、耐火石膏の型に埋没し、融解したブロンズを鑄込む一連の制作をおこない、作品の成り立ちにおいて、実材だけではなく様々な物質や素材の役割を知る。野焼きでは原始的な焼成を通して土だけではなくもみ殻や炭なども含めた熱変する物質の特性を知る。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | ブロンズ鑄造①：イタリア式鑄造の解説。精密鑄造との違い。 |
| 第2回 | ブロンズ鑄造②：蠟材づくり。松脂、パラフィン、蜜蠟をブレンド。 |
| 第3回 | ブロンズ鑄造③：蠟材で原型制作。 |
| 第4回 | ブロンズ鑄造④：湯道、湯口など、型の仕組みを解説。 |
| 第5回 | ブロンズ鑄造⑤：湯道付け。イタドリといった植物素材も使用。 |
| 第6回 | ブロンズ鑄造⑥：耐火石膏埋没作業 石膏とシャモットを使用し耐火石膏を製造。 |
| 第7回 | ブロンズ鑄造⑦：鑄込み |
| 第8回 | ブロンズ鑄造⑧：湯道を工具ではずし、仕上げる。 |
| 第9回 | ブロンズ鑄造⑨：研究のまとめ。振り返りを行い資料化する。 |
| 第10回 | 野焼き・テラコッタ①：野焼き・テラコッタについて解説。 |
| 第11回 | 野焼き・テラコッタ②：粘土成形。シャモット混合の土を素材とする。 |
| 第12回 | 野焼き・テラコッタ③：乾燥 野焼き準備 |
| 第13回 | 野焼き・テラコッタ④：焼成活動 石狩浜で焼成 |
| 第14回 | 野焼き・テラコッタ⑤：作品の振り返り |
| 第15回 | 研究資料をまとめ、データ資料化 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 宮崎昭人 (非常勤講師)
実務経験: Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務(観光・ビジネス・科学・法務分野等)
 海外との遣取代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名 : **英語**

履修形態: 必修
授業形態: 講義
履修学年: 1 年次
開講学期: 前期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

- 科目概要:** 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する
■到達目標: 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画:

- 第1回 はじめに:仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語:会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎:日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解:辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①:名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止:作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②:動詞(be動詞、一般動詞)、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止:作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント③:接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳:翻訳の種類(直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する)
- 第11回 翻訳:自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語:住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書: プリント配布

■参考書: 辞書があれば望ましい

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 フラワーデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
フラワーデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
フラワーデザイン演習	○		1年・後期	30
フラワーデザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
コーディネート基礎	○		1年・前期	60
コーディネートⅠ	○		1年・後期	30
コーディネートⅡ	○		2年・前期	60
グリーンコーディネート	○		1年・前期	60
フローラルアートⅠ	○		1年・後期	30
フローラルアートⅡ	○		2年・前期	60
ディスプレイ演習Ⅰ	○		1年・前期	60
ディスプレイ演習Ⅱ	○		1年・後期	30
スペースデザイン演習	○		2年・前期	60
いけばな基礎演習	○		1年・後期	60
いけばな演習	○		2年・前期	60
クリエイティブワークⅠ	○		1年・後期	30
クリエイティブワークⅡ	○		2年・前期	60
植物学	○		1年・前期	60
ブライダルフラワー	○		2年・前期	60
フラワービジネス	○		2年・前期	60
キャリアプランニング	○		1年・後期	30
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP演習	○		1年・後期	30
プレゼンテーションⅠ	○		2年・前期	30
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
デザイン基礎Ⅱ	○		1年・後期	30
販売実務	○		1年・前期	30
造形演習	○		2年・前期	60
英語	○		1年・前期	30
合 計				1350

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 谷内恵 （非常勤講師）
実務経験： 1級フラワーデザイナーNFD本部講師。1級フラワー装飾技能士。

科目名：	フラワーデザイン基礎演習
------	---------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： (公社)日本フラワーデザイナー協会〔NFD〕のデザイン理論に基づいて、フラワーの技術と知識の基礎を学び、季節の花やグリーンをデザインする

■到達目標： 植物をよく観察し、形態や植生を考えたデザインが出来るテクニックと知識を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | フラワーデザインの基礎知識：フラワーデザインの構成理論 花の主張度、特徴、役割、水揚げ等 用具と資材 ワイヤリングやリボンワークなどの基礎テクニック |
| 第2回 | スワンアレンジメント：生花で白鳥を作る テーブルデコレーションやギフトに |
| 第3回 | トピアリーアレンジメント：アーティフィシャルフラワーを使ったトピアリー |
| 第4回 | 並行—装飾的：垂直な並行配置によって装飾感を表現する構成 |
| 第5回 | リースアレンジメント：リース状に構成するテーブルデコレーション |
| 第6回 | トライアングュラーアレンジメント：二等辺三角形に構成されたアレンジメント |
| 第7回 | 丸い花束：スパイラルに組み丸く束ねる花束 |
| 第8回 | モダン—装飾的ブーケ：ブーケホルダーを用いて円錐形に構成する花嫁の花束 |
| 第9回 | フラワーカーペット：SAPPOROフラワーカーペット（校外学習） |
| 第10回 | スプレイシェイプアレンジメント：花束を横に置いたようなアレンジメント |
| 第11回 | 共同形態：わずかな主張の植物を群生させることで表現する構成 |
| 第12回 | 器を作る：グラスチューブをデコパージュし、一輪挿しを作る |
| 第13回 | プティデザイン①：22.5cm四方以内でアレンジするデザインを考える。器、デザイン、花材を考えデッサンする |
| 第14回 | プティデザイン②：22.5cm四方以内でアレンジするデザインを考える。前回のデッサン画に基づいて制作 |
| 第15回 | カフスブーケ：花のふち周りを囲い装飾をしたブーケ |

■教科書： フラワーデザイナー資格検定試験テキスト

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：清水さくら（非常勤講師）
実務経験：生花店チーフデザイナー。フローリスト。ハナトリウム主宰。北海道デザイン協議会会員。ジャパンカップ1位受賞、アジアカップ日本代表など

科目名	コーディネーション基礎
-----	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：植物の特性をよく観察し、アートとして花材の基礎を学びデザインする

■到達目標：植物の持つ特性を深く観察し、理解を深めた上でデザインとテクニックの基礎を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 春のデザイン：春の花で作るブーケ |
| 第2回 | 植物とフルーツ野菜：フルーツや野菜を使ってアレンジする |
| 第3回 | 母の日ギフト：BOXアレンジ |
| 第4回 | 複数の器：3～5個の器にデザインする |
| 第5回 | スワッグ 壁の花：ドライになる花でデザインする |
| 第6回 | 身につけるコサージュ：コサージュ、ブレスかアレンジする |
| 第7回 | 父の日ギフト：プレゼントと植物 |
| 第8回 | ブライダルデザイン：デッサンとプラン |
| 第9回 | ウェディングディスプレイ：飾花メインテーブル |
| 第10回 | ブライダルブーケ：ナチュラルブーケ |
| 第11回 | 夏のデザイン：トロピカルアレンジ |
| 第12回 | フューネラルデザイン：1対の花（葬儀花） |
| 第13回 | 美術館見学：美術館見学 |
| 第14回 | 植物1種類：コンテスト形式で半数ずつ制作する。 |
| 第15回 | 秋のコラージュ：実と葉のデザイン |

■教科書：自作資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：江尻 陽子（非常勤講師）
実務経験：生花店勤務、店内業務全般を担当

科目名：グリーンコーディネート

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：花材の処理など実践スキルを身につける。
テーマに合ったデザインの引き出しを増やす。様々な素材を使用し発想の幅を広げる。
- 到達目標：花材の処理の基本を身につけ、デザインの可能性を広げ、作品作りに生かす能力を養う

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション ワイヤリング①：年間の授業説明 生花の処理の基礎を学ぶ
- 第2回 ワイヤリング②：前回の続き。反復練習で身につける。
- 第3回 押し花アート：事前に生花の花びらを押し花処理してもらい、一枚絵を制作する。
- 第4回 寄せ植え①：チームを作り、各自テーマや使用する材料、植物の選定。デザイン画を描く
- 第5回 寄せ植え②：前回の続き。事前に準備できるものはする
- 第6回 寄せ植え③：実際にデザイン画を元に植物を植える。
- 第7回 ローズウィンドウ①：切り絵のようなステンドグラスを紙で表現する。デザインをおこす。
- 第8回 ローズウィンドウ②：前回の続き。デザインを元に色用紙を切る。
- 第9回 ローズウィンドウ③：前回の続き。完成。プレゼン、評論会。
- 第10回 モービル・ガーランド制作①：壁面や吊り下げる作品の制作。デザインを起こす。
- 第11回 モービル・ガーランド制作②：前回の続き。デザインを元に制作
- 第12回 モービル・ガーランド制作③：前回の続き。完成。時間があれば評論会。
- 第13回 花冠制作：花壇のお花を使って花冠を制作。
- 第14回 学校祭に向けて①：1、2年合同で学校祭に向けて販売商品とディスプレイ提案
- 第15回 学校祭に向けて②：前回の続き。事前に準備できるものは制作。

■教科書：アートフラワー、制作に必要な素材

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: フラワーデザイン専攻
担当教員: 柳瀬 勇佑 (非常勤講師)
実務経験: フライダル業務、装花業務、店内業務全般を経験後フローリストとしてデザイナー担当。

科目名 :	ディスプレイ演習Ⅰ
-------	------------------

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** テキストと実践の両面から、花材の水揚げの基本と、花材別の様々な水揚げ方法を学ぶ。花材の特性を学んだうえで、特性を生かしディスプレイ装飾の基本を学ぶ
■到達目標: ①テキスト「水揚げ&花のケア切り花の鮮度保持マニュアル 単行本」に掲載している水揚げ方法を一通り経験している。同テキストの「4 品目別水揚げ」の知識を習得し、確認テストに合格する。②フラワーディスプレイの考え方の基礎を養う

■授業計画:

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション 呼吸と光合成 実践…水揚げ実習、小作品制作1 |
| 第2回 | 維管束と水揚げ作業 実践…水揚げ実習、小作品制作2 |
| 第3回 | バクテリア対策 実践…水揚げ実習、小作品制作3 |
| 第4回 | 栄養補給剤 実践…水揚げ実習、小作品制作4 |
| 第5回 | エチレングスとSTS1 |
| 第6回 | エチレングスとSTS2 実践…水揚げ実習、小作品制作5 |
| 第7回 | 生産者が行う「前処理」 実践…水揚げ実習、小作品制作6 |
| 第8回 | 流通段階での鮮度保持 実践…水揚げ実習、小作品制作7 |
| 第9回 | テキスト内容を実践で確認する(品質保持剤使用実験、身の回りの物での実験) |
| 第10回 | 筆記による確認テスト、実践による確認テストを両方行う。 |
| 第11回 | ダリアの摘芯、追肥、園芸用竿の交換(長いものに)ダリア展で校内展示に使用できるように、ダリアを長時間、美しく咲かせるよう手入れをする |
| 第12回 | ダリアの花壇メンテナンス、追肥 |
| 第13回 | ダリア展のデザインおこし(校内展示のアレンジメント、百合が原公園展示のディスプレイ1年生担当箇所) |
| 第14回 | ダリア展作品の土台制作1(校内展示のアレンジメント、百合が原公園展示のディスプレイ1年生担当箇所) |
| 第15回 | ダリア展作品の土台制作2(校内展示のアレンジメント、百合が原公園展示のディスプレイ1年生担当箇所) |

■教科書: フラワーデザイナーのためのハンドブック増補改訂版
 水揚げ&花のケア切り花の鮮度保持マニュアル 単行本
 アレンジ花図鑑 花屋さんの花材がすべてわかる

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアート ディレクションからデザイン制作、DTP 作成等を担当。

科目名：DTP基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：●PCの基本操作、illustrator、Photoshopの基本操作を習得する。
●名刺を作成し入稿データを作成を目指す。
●将来的に、プレゼンテーションボードやチラシのデザインをできる技能の習得を目指す。

■到達目標：①Adbe illustructor/Photoshopの基礎操作を習得する。
②コンセプトを立て、文字、図や画像などの情報を的確にデザインし表現する。
③簡潔に分かりやすいイメージを作成する能力の向上

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | DTPとは、その効果と重要性。 |
| 第2回 | illustrator、Photoshopの違い。操作方法説明 |
| 第3回 | illustrator、Photoshop検定問題① |
| 第4回 | illustrator、Photoshop検定問題② |
| 第5回 | 自分のロゴマークを作る① |
| 第6回 | 自分のロゴマークを作る② |
| 第7回 | 自分のロゴマークを作る③ |
| 第8回 | 自分のロゴマークを作る④ |
| 第9回 | フライヤーのデザイン① |
| 第10回 | フライヤーのデザイン② |
| 第11回 | フライヤーのデザイン③ |
| 第12回 | フライヤーのデザイン④ |
| 第13回 | ポストカードのデザイン① |
| 第14回 | ポストカードのデザイン② |
| 第15回 | ポストカードのデザイン③ |

■教科書：プロジェクターの投影中心、世界一わかりやすいillustrator、&Photoshop

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 孫田 敏 (非常勤講師)
実務経験： 林業や造園緑化会社、建設コンサルタント 会社を経て起業、代表取締役。

科目名： 植物学

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 植物に関する諸知識を、より実践に結びつけるため、育つ環境との関わりや植物の根の成長に必要な土壌や菌との関わり、具体的に植物が育てられる過程、植物の形はどうやって決まるか、さらに植物の名前はどうか名付けられてきたか、植物と文化、作品の表現等を知る。
- 到達目標： 植物が「生き物」であることを理解するとともに、植物を多様な視点から見つめ、取り扱う上での基礎知識を身につける。

■授業計画：

- 第1回 植物とは何か？〔生物・植物に関する定義の議論〕
- 第2回 植物はなぜ枯れるか？〔鉢植え・戸外の植物の生育不良観察〕
- 第3回 植物の形〔葉・茎・花などの植物器官の観察/矮性ヒマワリ栽培準備〕
- 第4回 植物の細部を見つめる(1)〔季節の植物の花などの観察と記録〕
- 第5回 植物の細部を見つめる(2)〔季節の植物の花などの観察と記録〕
- 第6回 さつぼろの植物について知る〔北大植物園見学〕
- 第7回 植物の分類〔似たもの同士を探す〕〔矮性ヒマワリの観察〕
- 第8回 植物の構造と働き(1)…根と茎〔矮性ヒマワリの観察〕
- 第9回 公園と植物〔大通公園花フェスタ見学〕
- 第10回 植物の構造と働き(2)…葉と花〔矮性ヒマワリの観察〕
- 第11回 植物が育つ基盤を知る〔土壌標本の触診と根系の観察〕
- 第12回 植物の名前〔レポートの書き方と課題〕
- 第13回 ヒトは花とどうつきあってきたか〔人間の文化と植物について調べスケッチ〕
- 第14回 植物が育てられる過程を知る〔苗畑見学〕
- 第15回 植物の一生〔果実と種子の観察〕

■教科書： パワーポイント・プリント(自製)・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：宮崎昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：	英語
------	----

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。
- 到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く |
| 第2回 | 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味 |
| 第3回 | 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ |
| 第4回 | 品詞の理解：辞書の使い方 |
| 第5回 | 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方 |
| 第6回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第7回 | 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方 |
| 第8回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第9回 | 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方 |
| 第10回 | 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する） |
| 第11回 | 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得 |
| 第12回 | 自己紹介 |
| 第13回 | 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン |
| 第14回 | 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現 |
| 第15回 | まとめ |

■教科書：プリント配布

■参考書：辞書があれば望ましい

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：谷内 恵（非常勤講師）
実務経験：1級フラワーデザイナーNFD本部講師。1級フラワー装飾技能士。

科目名：	フラワーデザイン演習
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：（公社）日本フラワーデザイナー協会〔NFD〕のデザイン理論に基づいて、フラワーの技術と知識の基礎を学び、季節の花やイベントに合わせデザインする
- 到達目標：花に関連する行事を理解し、植物をよく観察して形態や植生を考えたデザインが出来る技術と知識を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 秋の花束：枝物を入れたシュトラウス(花束) |
| 第2回 | バードケージアレンジメント：鳥かご風デザイン |
| 第3回 | 植生的：植物の自然の植生をイメージして、生えているかのように理想化する構成 |
| 第4回 | ハロウィンアレンジメント：ファーガスなどを使用したハロウィンのデザイン |
| 第5回 | ラウンドブーケ：ワイヤーテクニックにより円形に構成する花嫁の花束 |
| 第6回 | 巻きバラと冬のリース：リボンで巻きバラを作り、毛糸やアーティフィシャルフラワーと合わせて制作① |
| 第7回 | 巻きバラと冬のリース：リボンで巻きバラを作り、毛糸やアーティフィシャルフラワーと合わせて制作② |
| 第8回 | 進級制作について：進級制作のアレンジデザインを考える① |
| 第9回 | 進級制作について：進級制作のアレンジデザインを考える② |
| 第10回 | 進級制作について：進級制作のアレンジデザインを考える③ |
| 第11回 | クリスマスデザイン①：プラスチックダンボールをデコパージュし、アレンジベースを制作 |
| 第12回 | クリスマスデザイン②：前回制作したベースに、アーティフィシャルフラワーをアレンジ |
| 第13回 | 正月飾り：アーティフィシャルフラワーで制作する正月飾り |
| 第14回 | 大型デザインの制作補助：卒業制作活け込みのアシスタント作業、見学① |
| 第15回 | 大型デザインの制作補助：卒業制作活け込みのアシスタント作業、見学② |

■教科書：フラワーデザイナー資格検定試験テキスト

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：清水さくら（非常勤講師）
実務経験：生花店チーフデザイナー。フローリスト。ハナトリウム主宰。北海道デザイン協議会会員。ジャパンカップ1位受賞、アジアカップ日本代表など

科目名：	コーディネートⅠ
------	----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：自然素材から着想を得てオンリーワンの表現を目指す。
アレンジメントの基礎復習から応用技術を学ぶ

■到達目標：自然素材の特徴を理解し、それをデザインに生かす発想ができるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | ステージの花：ディスプレイ |
| 第2回 | グリーンディスプレイ：色々なグリーンでアレンジする |
| 第3回 | 秋のブーケ：秋色の実や花でアレンジ① |
| 第4回 | 秋のブーケ：秋色の実や花でアレンジ② |
| 第5回 | 空間ディスプレイ：校内をデザイン① |
| 第6回 | 空間ディスプレイ：校内をデザイン② |
| 第7回 | DVD 花屋：フランスのフローリスト |
| 第8回 | フラワーコンテスト：ディスプレイと花束① |
| 第9回 | フラワーコンテスト：ディスプレイと花束② |
| 第10回 | クリスマスリース：リース制作① |
| 第11回 | クリスマスリース：リース制作② |
| 第12回 | 卒制アシスト① |
| 第13回 | 卒制アシスト② |
| 第14回 | 正月飾り：お正月飾り① しめ飾り |
| 第15回 | 正月飾り：お正月飾り② |

■教科書：自作資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 柏葉弥生 (非常勤講師)
実務経験： 華道家元池坊師範 准華督

科目名： いけばな基礎演習

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 日本の伝統文化として伝えられているいけばなの原点である池坊の起源・基礎・応用環境・時代の変化にも対応してきた池坊の四季草木の美しさ、色彩、自然との関りを実技にて表現
- 到達目標： いけばなの基礎を習得すると共に理解を深める、授業終了時まで免許を取得する（初等科）

■授業計画：

- 第1回 講義 伝統文化としてのいけばな：「伝統」とは・・・いけばな池坊の発祥を略年表を使って講義 いけばなの由来、日本風土といけばなの出発点
- 第2回 校外学習：いけばな展 いけばな各流派の作品を鑑賞
- 第3回 いけばなの原点：講義：現代のいけばなとフラワーアレンジ
- 第4回 実技：教材・道具についての説明、自由花の道具について ハサミ・剣山・器他
テキストABC：自由花の特質：原型的なフォルムと基本形態
- 第5回 自由花 実技：発想について作品制作にあたり、明確な発想とインスピレーションを持つ
- 第6回 校外学習：いけばな展 鑑賞
- 第7回 実技 自由花：植物の美と季節の草木。自由花構成に関わる用語の説明。点・線・面・マッス
- 第8回 実技 自由花：植物の裏表、左右、上中下段。生花（しょうか）に関わる用語説明
- 第9回 実技 自由花：各自の自由発想で自由花作品制作と作品説明
- 第10回 実技 自由花：各自の自由発想で自由花作品制作と作品説明
- 第11回 実技 自由花：各自の自由発想で自由花作品制作と作品説明
- 第12回 生花正風体（しょうかしょうふうたい）：葉蘭を使って生花（しょうか）について説明
種類、用語、伝統的日本家屋における日本間と床の間。飾る際の注意点：陰陽について
- 第13回 実技 生花正風体：生花正風体 一種生 本勝手
- 第14回 実技 生花正風体：生花正風体 一種生（リアトリス）
- 第15回 講義 まとめ：いけばなの講義を受けた感想をレポート作成

■教科書： IKENOBO ABC、いけばな略年表

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 江尻 陽子 (非常勤講師)
実務経験： 生花店勤務、店内業務全般を担当

科目名：	フローラルアートⅠ
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

- 科目概要： 様々な素材を使用し、フラワーアレンジとフラワーデザインの引き出しを増やす。
- 到達目標： 身近なものからも着想を得てデザインの可能性を広げ、フラワーアレンジに生かせるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 箱を使って空間を生かしたデザイン①: 木材で箱を制作し、アートフラワーなどを使い作品を制作。 |
| 第2回 | 箱を使って空間を生かしたデザイン②: 前回の続き。作品制作。 |
| 第3回 | 箱を使って空間を生かしたデザイン③: 前回の続き。完成。プレゼンと評論会。 |
| 第4回 | リース制作①: 外に落ちている枝や葉を集め、リースを制作。 |
| 第5回 | リース制作②: 前回の続き。 |
| 第6回 | リース制作③: 前回の続き。作品完成。 |
| 第7回 | 花束用の器、ブーケアシスト制作①: 花束用のブーケアシスト、器を制作。デザインをおこす。 |
| 第8回 | 花束用の器、ブーケアシスト制作②: 前回の続き。作品制作。 |
| 第9回 | 花束用の器、ブーケアシスト制作③: 前回の続き。作品完成。プレゼンと評論会 |
| 第10回 | オータムジャーポット制作①: 瓶の中に秋らしいものを入れて1つの作品にする。 |
| 第11回 | オータムジャーポット制作② |
| 第12回 | オータムジャーポット制作③: 前回の続き。作品完成。 |
| 第13回 | 押し花フォトフレーム制作①: 押し花にした花びらを使い、作品制作。デザインをおこ |
| 第14回 | 押し花フォトフレーム制作②: 前回の続き |
| 第15回 | 押し花フォトフレーム制作③: 前回の続き。完成 |

■教科書： アートフラワー、制作に必要な素材

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：柳瀬 勇佑（非常勤講師）
実務経験：ブライダル業務、装花業務、店内業務全般を経験後フローリストとしてデザイナー担当。

科目名：	ディスプレイ演習Ⅱ
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：設定されたコンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。
- 到達目標：パースの基本を学ぶ。デザインおこしの経験を、進級制作に繋げる
簡単なパースを描ける。空間装飾の役割を理解し、設定された共通テーマやコンセプトにそってデザインを起案し、空間を生かす作品を制作できる。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、導入：パースの基本1 |
| 第2回 | パースの基本2 |
| 第3回 | パースの基本3 |
| 第4回 | 模型製作1 |
| 第5回 | 模型製作2 |
| 第6回 | 模型製作3 |
| 第7回 | フラワーカフェのプレゼンテーション |
| 第8回 | フラワーカフェ(1SC教室の一角に制作すると仮定)使用花材、他材料を選定。 |
| 第9回 | フラワーカフェ制作 |
| 第10回 | フラワーカフェ 振り返り |
| 第11回 | 卓上アレンジメントのデザインおこし1 |
| 第12回 | 卓上アレンジメントのデザインおこし2 |
| 第13回 | 進級制作のデザインおこし1 |
| 第14回 | 進級制作のデザインおこし2 |
| 第15回 | 進級制作のデザインおこし3 |

■教科書：	フラワーデザイナーのためのハンドブック 増補改訂版 アレンジ花図鑑 花屋さんの花材がすべてわかる
-------	---

■参考書：

■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
--------	------------------------------------

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 中村 晃 (非常勤講師)
実務経験： 生花店店舗業務全般経験後、ゼネラルマネージャーとして勤務。札幌カップ
ゴールド賞、デザイナーズウィークアレンジコンテスト優勝など

科目名：	クリエイティブワークⅠ
------	--------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 花の植生の基本知識を身につけさせ、素材を生かすデザインを学ばせる

■到達目標： 花の植生の基本知識をもとに素材を生かすデザインを生み出す姿勢を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | ギフト:基本(アレンジ) |
| 第2回 | ギフト:基本(花束) |
| 第3回 | ギフト:開店(アレンジ) |
| 第4回 | ギフト:フューネラル(アレンジ) |
| 第5回 | ギフト:花束色々なデザイン |
| 第6回 | ギフト:花束色々なデザイン |
| 第7回 | 生け込み:投げ入れ |
| 第8回 | 生け込み:投げ入れ2 |
| 第9回 | ディスプレイ1:アートフラワー(オブジェ) |
| 第10回 | ディスプレイ2:アートフラワー(オブジェ) |
| 第11回 | レッスン:フリーデザイン(アレンジ) |
| 第12回 | レッスン:フリーデザイン(ディスプレイ) |
| 第13回 | レッスン:フリーデザイン(ブーケ) |
| 第14回 | コンテスト アキラカップ |
| 第15回 | コンテスト アキラカップ2 |

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	販売実務
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：●店舗内における効果的なPOPやギフトラッピングの基本。その役割など
●自分の理想の花屋をブランディングする

■到達目標：①店舗内における効果的なPOPを理解し、実際に作成する ②
ロゴマーク作成や店舗のブランディングの流れを知り、店舗理解を深める

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 理想の花屋を考える。店舗内広告の効果や役割 |
| 第2回 | 自分の理想の花屋をブランディングする① |
| 第3回 | 自分の理想の花屋をブランディングする② |
| 第4回 | 自分の理想の花屋をブランディングする③ |
| 第5回 | 自分の理想の花屋をブランディングする④ |
| 第6回 | 自分の理想の花屋をブランディングする⑤ |
| 第7回 | 店内販促POP① |
| 第8回 | 店内販促POP② |
| 第9回 | 店内販促POP③ |
| 第10回 | 店内販促POP④ |
| 第11回 | ギフトデザイン① |
| 第12回 | ギフトデザイン② |
| 第13回 | ギフトデザイン③ |
| 第14回 | ギフトデザイン④ |
| 第15回 | ギフトデザイン⑤ |

■教科書：自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：小泉 笑美子（非常勤講師）
実務経験：結婚式場アシスタント 経験後フリーアナウンサーとして活動、その後(株)エデュースを設立、代表取締役

科目名：

キャリアプランニング

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：ワークシートで接遇の基本を学び、ペアワークやグループワークを取り入れ知識にとどめず行動に表し、気づきを見出す。
- 到達目標：コミュニケーション＆マナーを位につけて、社会の第一線で活躍できる能力を身につける

■授業計画：

- 第1回 人の心を動かす声と言葉で挨拶：ノンバーバルコミュニケーションの確認（表情・態度・立ち振る舞い・言葉遣い）
- 第2回 声を作る（発音・滑舌チェック）・映像で自己チェック
- 第3回 心技体を表現：・第一印象と初頭効果・接客用語で挨拶
- 第4回 お辞儀の大切さ・笑顔トレーニング
- 第5回 身だしなみ
- 第6回 ビジネスマナー：・お客様対応を考える
- 第7回 言葉遣いと敬語・来客対応（ご案内・席次～お見送りまで）
- 第8回 物の指し示しと物の授受
- 第9回 顧客満足とプロのサービス：・接客プロセスを学ぶ・サービスに必要な「S」
- 第10回 トラブル対応の基本・話し方と聞き方・傾聴
- 第11回 電話対応のマナー：・電話の受け方と掛け方の基本（取次から不在時まで）
- 第12回 電話対応ロールプレイング（録音とフィードバック）
- 第13回 企業が求める人材とは
- 第14回 コミュニケーション能力と葉（企業は何を、どこを見るのか）
- 第15回 面接時のポイント・面接ロールプレイング

■教科書：内容に沿ってワークシート使用

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：デザイン基礎Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：●illustrator、Photoshopの基本操作を復習し、応用技術を学ぶ ●花の画像を用いたデジタルコラージュ作品を制作する。 ●コンペ出展作品を制作する。
- 到達目標：①illustrator、Photoshopの操作に慣れ、応用できるようになる。 ②デジタル画としてのフラワーデザインの感覚を養う ③コンペへの作品制作によってコンセプトメイクを大切にする姿勢を養う

■授業計画：

- 第1回 基本操作の復習、デジタルコラージュの鑑賞
- 第2回 素材研究：ダンボールアート①
- 第3回 素材研究：ダンボールアート②
- 第4回 素材研究：ダンボールアート③
- 第5回 素材研究：ダンボールアート④
- 第6回 素材研究：ワイヤーアート①
- 第7回 素材研究：ワイヤーアート②
- 第8回 素材研究：ワイヤーアート③
- 第9回 素材研究：ワイヤーアート①
- 第10回 花のデフォルメイラスト①
- 第11回 花のデフォルメイラスト②
- 第12回 花のデフォルメイラスト③
- 第13回 ポストカードデザイン①
- 第14回 ポストカードデザイン②
- 第15回 ポストカードデザイン③

■教科書：自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 山間 香綾 (専任教員)
実務経験： 店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	DTP演習
------	--------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 文字の扱いとバランス、レイアウトが持つ意味を理解させ、意図を感じるものづくりの意識の定着を図る。魅力的なポートフォリオとは何か。

■到達目標： ①伝えるべき情報の優先順位を的確にとらえ、自由な発想でデザインを作ることができる。②文字組など細部にまで気を使えるようになる③illustrator、Photoshop検定3級合格を目指す

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 魅力的なポートフォリオを考える |
| 第2回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード① |
| 第3回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード② |
| 第4回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード③ |
| 第5回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード④ |
| 第6回 | ポートフォリオの作成① |
| 第7回 | ポートフォリオの作成② |
| 第8回 | ポートフォリオの作成③ |
| 第9回 | ポートフォリオの作成④ |
| 第10回 | illustrator、Photoshop検定問題① |
| 第11回 | illustrator、Photoshop検定問題② |
| 第12回 | illustrator、Photoshop検定問題③ |
| 第13回 | illustrator、Photoshop検定問題④ |
| 第14回 | illustrator、Photoshop検定問題⑤ |
| 第15回 | illustrator、Photoshop検定問題⑥ |

■教科書： プロジェクターの投影中心、世界一わかりやすいillustrator、&Photoshop

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：谷内 恵（非常勤講師）
実務経験：1級フラワーデザイナーNFD本部講師。1級フラワー装飾技能士。

科目名： **フラワーデザイン演習Ⅱ**

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：（公社）日本フラワーデザイナー協会〔NFD〕のデザイン理論に基づいて、基礎の上に十分な技術と知識を学び、季節の花やグリーンなどをデザインする

■到達目標：植物形態を理解し、植生やテクスチュアを考えたデザインが出来るテクニックと知識を身につける

■授業計画：

- 第1回 並行-植生的：垂直な並行配置によって植生（自然感）を表現する構成
- 第2回 バッグブーケ①：プラスチックダンボールをデコパージュし、ベースとなるハンドバッグ型を制作
- 第3回 バッグブーケ②：前回制作したバッグ型に、アーティフィシャルフラワーを使ったブーケ
- 第4回 ホリゾンタルアレンジメント：水平形に構成する360度展開のアレンジメント
- 第5回 構造的（テクスチュア）：植物の材質感の違いによって表面構造を表現する構成
- 第6回 メリアブーケ：ワイヤテクニックで作るローズメリアブーケ
- 第7回 水平の花束：水平に構成した土台を用いて、水平に束ねる花束
- 第8回 絵のような：植物素材によって絵を描くように表現する構成
- 第9回 ほぐれた装飾的花束：ゆるやかにほぐれた装飾的な花束
- 第10回 交差：植物素材の交差によって空間を表現する構成
- 第11回 ドームアレンジメント：半円球体に構成する360度展開のアレンジメント
- 第12回 キャスケードブーケ：ブーケホルダーを用いて小さな滝のような懸垂形にまとめたブーケ
- 第13回 自然的：植生の異なる植物素材のキャラクターをいかして自然な感じを表現する構成
- 第14回 非対称形のブーケ：ブーケホルダーを用いて非対称形に構成する花嫁の花束
- 第15回 枝物のデザイン：枝物を用いて構成するアレンジメント

■教科書：フラワーデザイナー資格検定試験テキスト

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：清水 さくら（非常勤講師）
実務経験：生花店チーフデザイナー。フローリスト。ハナトリウム主宰。北海道デザイン協議会会員。ジャパンカップ1位受賞、アジアカップ日本代表など

科目名：	コーディネートⅡ
------	----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：様々な自然素材から着想を得て、フラワーアレンジに生かす。コンテストやフラワーディスプレイに挑戦する
- 到達目標：自然素材から発想するデザイン力を培い、コンテストに挑戦する姿勢を養う

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 春のデザイン：春らしく桜の枝でアレンジする |
| 第2回 | 植物と野菜：花と野菜の提案 |
| 第3回 | 母の日ギフト：BOXギフト 好きな色を選ぶ |
| 第4回 | スワッグ（壁の花）：ドライになる花材で花束を作る |
| 第5回 | 父の日ギフト：プレゼントと花束 |
| 第6回 | ブライダル：グループデザイン 空間ディスプレイ |
| 第7回 | ブライダルブーケ：ナチュラルブーケ |
| 第8回 | キャンドルアレンジ：テーブル飾り |
| 第9回 | リースブーケ：リング状にデザインしたブーケ |
| 第10回 | フラワーコンテスト：びっくり箱で花材をテーマに合わせてデザインする |
| 第11回 | 美術館見学 |
| 第12回 | 植物一種類：1種の花でデザインする |
| 第13回 | 器を植物で作る：造形デザイン |
| 第14回 | 秋のディスプレイ：校内アレンジをする |
| 第15回 | 卒制デザイン：卒制のデザインを考える |

■教科書：自作資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：柏葉 弥生（非常勤講師）
実務経験：華道家元池坊師範 准華督

科目名：いけばな演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：日本の伝統文化として伝えられているいけばなの原点である池坊の起源・基礎・応用。住環境・時代の変化にも対応してきた池坊の四季草木の美しさ、色彩、自然との関りを実技にて表現
- 到達目標：授業終了時まで免許取得（中等科）
インターネット花展への応募

■授業計画：

- 第1回 講義 伝統文化としてのいけばな：「伝統」とは・・・いけばな池坊の発祥を略年表を使って講義 いけばなの由来、日本風土といけばなの出発点 実技：自由花
- 第2回 校外学習：北海道いけばな百人展 いけばな各流派の作品を鑑賞
- 第3回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第4回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第5回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第6回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第7回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第8回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第9回 講義 及び実技 自由花 インターネット花展へ向けて：季節を意識した花材と花器との構成 自由花の構成要素・用語の復習 線・点・面・マツス 池坊インターネット花展について
- 第10回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：線を主にした作品制作とまとめ、写真撮影 直線・曲線・折れ線
- 第11回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：点を主にした作品制作とまとめ、写真撮影
- 第12回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：面を主にした作品制作とまとめ、写真撮影
- 第13回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：各自の自由発想で自由花作品制作とまとめ、写真撮影 立体表現（空間）
- 第14回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：各自の自由発想で自由花作品制作とまとめ、写真撮影 空間について（奥行）
- 第15回 実技 自由花「遊心」、各自の自由発想で自由花作品制作とまとめ。写真撮影

■教科書：いけばな略年表、テキスト「IKENOBO ABC」
器・剣山・ハサミ・給水性スポンジ、ワイヤーなど

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：柳瀬 勇佑（非常勤講師）
実務経験：ブライダル業務、装花業務、店内業務全般を経験後フローリストとしてデザイナー担当。

科目名：	スペースデザイン演習
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：コンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。パースの基本を学ぶ。

■到達目標：簡単なパースを描ける。空間装飾の役割を理解し、共通テーマやコンセプトにそってデザインを起案し、空間を生かす作品を制作できる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション：空間装飾の役割、バリエーションの紹介
「街の気になる空間装飾」レポートシートを配布し説明、次回までの課題とする。 |
| 第2回 | レポート発表後、講評、意見交換、提出 |
| 第3回 | スポーツ大会の会場装飾1：2チーム（身につけるアイテムの制作チーム、会場装飾物の制作チーム）ごとにデザインを決める。 |
| 第4回 | スポーツ大会の会場装飾2：チームごとに、生花以外の材料から、使用材料を選定する。 |
| 第5回 | スポーツ大会の会場装飾3：チームごとに制作する。 |
| 第6回 | 共通テーマにそった壁面装飾のプランニング1：パースの基本を説明。教室前廊下の壁面装飾を考える。個人でデザイン画（パース）を描く。 |
| 第7回 | 共通テーマにそった壁面装飾のプランニング2：前回書いたデザイン画の講評、意見交換。 |
| 第8回 | 共通テーマにそった壁面装飾のプランニング3：全体の共通テーマとデザインを選定し、使用材料を決める。 |
| 第9回 | 共通テーマにそった壁面装飾の制作1：花材の選定とその他材料の準備 |
| 第10回 | 共通テーマにそった壁面装飾制作2：教室前廊下の壁面装飾 制作 |
| 第11回 | ダリア展制作1：ダリア展の概要、日程説明 共通テーマと分担（チーム）を決める |
| 第12回 | ダリア展制作2：チームごとに担当する場所の写真と位置図を見て、共通テーマにそって、ディスプレイのデザインを考える。 |
| 第13回 | ダリア展制作3：チームごとに担当する場所の使用花材、使用資材を選定する。各チームリーダーで協議し、会場全体のディスプレイを決定する。 |
| 第14回 | ダリア展制作4：ダリア展作品の土台制作1 |
| 第15回 | ダリア展制作5：ダリア展作品の土台制作2 |

■教科書：フラワーデザイナーのためのハンドブック増補改訂版
アレンジ花図鑑 花屋さんの花材がすべてわかる

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：中村 晃（非常勤講師）
実務経験：生花店店舗業務全般経験後、ゼネラルマネージャーとして勤務。札幌カップ
ゴールド賞、デザイナーズウィークアレンジコンテスト優勝など

科目名：	クリエイティブワークⅡ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：花の植生の基本知識を身につけさせ、素材を生かすデザインを学ばせる。常にトレンドのデザインを意識し、実践する。

■到達目標：花の植生の基本知識をもとに素材を生かすデザインを生み出す姿勢を身につける。トレンドのデザインを知り、常にアンテナを張る姿勢を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | ギフト：花束とBOXフラワー（花束アレンジ） |
| 第2回 | ギフト：スタイリッシュアレンジ（アレンジ） |
| 第3回 | ギフト：カーネーションを使ったデザイン（母の日） |
| 第4回 | ギフト：枝のアレンジ（アレンジ） |
| 第5回 | ギフト：バラのデザイン |
| 第6回 | いけばな：シャクヤクの立ち姿 |
| 第7回 | 花の仕事：自分で選ぶ花材1（アレンジ） |
| 第8回 | 花の仕事：ウェディングゲストテーブル（アレンジ） |
| 第9回 | 花の仕事：ウェディングブーケ（花束） |
| 第10回 | ギフト：花束ラッピング（花束） |
| 第11回 | ギフト：葉物ラッピング（花束） |
| 第12回 | 花の仕事：花色レッスン（アレンジ） |
| 第13回 | ギフト：シンプルデザイン（アレンジ） |
| 第14回 | 花の仕事：自分で選ぶ花材2（アレンジ） |
| 第15回 | 花の仕事：ディスプレイ投げ入れ（アレンジ） |

■教科書：自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: フラワーデザイン専攻
担当教員: 江尻 陽子 (非常勤講師)
実務経験: 生花店勤務、店内業務全般を担当

科目名 :	フローラルアートⅡ
-------	-----------

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 身近にある様々な素材を使用し、フラワーアレンジメントに生かしデザインの引き出しを増やす。
- 到達目標:** 様々な素材から着想を得てデザインの可能性を広げ、フラワーアレンジメントに生かす能力を養う。

■授業計画:

- | | |
|------|---|
| 第1回 | コサージュ、アレンジ制作①:プリザーブドフラワーを使ってコサージュやアレンジメント制作。 |
| 第2回 | コサージュ、アレンジ制作②: 前回の続き。 |
| 第3回 | 寄せ植え①:各自テーマや使用する材料、植物の選定、デザインをおこす。 |
| 第4回 | 寄せ植え②: 前回の続き。事前に準備できるものはする。 |
| 第5回 | 寄せ植え③: 前回の続き。実際にデザイン画を元に植物を植える。 |
| 第6回 | フォトフレームを使ってデザイン①: 木材でフォトフレームを2～3個制作。 |
| 第7回 | 2～3個を繋げ、1つのデザインにする
フォトフレームを使ってデザイン②: 前回の続き。作品完成。 |
| 第8回 | コサージュ制作:花壇の花を使ってコサージュを制作。 |
| 第9回 | サマージャーポット①: 瓶の中に夏らしいものを入れて1つの作品にする。素材あつめ |
| 第10回 | サマージャーポット②: 前回の続き。作品完成。 |
| 第11回 | 造花のカーペットを使った作品作り①: 造花のカーペットを使ってアートフラワーなどを使用し、作品制作。 |
| 第12回 | 造花のカーペットを使った作品作り②: 前回の続き。作品完成。プレゼンと評論会 |
| 第13回 | 学校祭に向けて①: 1、2年合同で学校祭に向けて商品提案とディスプレイ提案 |
| 第14回 | 学校祭に向けて②: 前回の続き。事前に準備できるものは制作。 |
| 第15回 | 学校祭に向けて③: 前回の続き。 |

■教科書: アートフラワー、プリザーブドフラワー、制作に必要な素材

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 中嶋 ゆうき (非常勤講師)
実務経験： 生花小売・生花業、ブライダルフラワー業マネージャー

科目名：	ブライダルフラワー
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 結婚式における花の基本知識を身につけさせ、必要なデザインを学ぶ。流行りのデザインを知り、実践する。

■到達目標： 結婚式における花の基本知識をもとに必要な商品を生み出す姿勢を身につける。トレンドを意識しデザインする能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | ブライダルフラワーとは
今年のトレンド |
| 第2回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第3回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第4回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第5回 | 新郎新婦へ商品提案 イメージ資料作成 |
| 第6回 | 前回をもとに商品制作(生花)
終了後プレゼンテーション |
| 第7回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第8回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第9回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第10回 | 会場装飾について |
| 第11回 | 店舗業務における基本知識 |
| 第12回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク① |
| 第13回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク② |
| 第14回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク③ |
| 第15回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク④ |

■教科書： 自作プリント・資料など

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：横山 仁（非常勤講師）
実務経験：生花店代表取締役。フラワー装飾技能士熟練技能者。

科目名： **フラワービジネス**

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：生花業界の仕組み、あり方、生花の流通、フローリストとしての心構え、生花店の仕事など、全般的に学ぶ。

■到達目標：フローリストとして必要なフラワービジネスの知識を身につけている。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 生花業界について：生花業界について、関連組織について |
| 第2回 | 生産と流通：生産、流通、販売について花の扱い方、手入れ、分類、種類、性質について |
| 第3回 | 生産と流通：生産と流通、販売について |
| 第4回 | 生産と流通：生産と流通、販売について 花屋の分類 |
| 第5回 | 生産と流通：花屋の分類と仕事 |
| 第6回 | 人材としての心構え1：フローリストとしての考え方と心構え |
| 第7回 | 生花店の仕事について：生花店の仕事について 常識とは、接客について、電話対応について |
| 第8回 | 生花店の仕事について：生花店の仕事について 常識とは、接客について、電話対応について |
| 第9回 | 商品と作品の違い：商品と作品の違い、花の扱い方 |
| 第10回 | 商品と作品の違い：商品と作品の違い、花の扱い方 |
| 第11回 | フラワーデザインの知識・安全について：フラワーデザインの知識・安全についての確認1 |
| 第12回 | フラワーデザインの知識・安全について：フラワーデザインの知識・安全についての確認2 |
| 第13回 | スタンド装花の制作：葬儀スタンド制作 |
| 第14回 | 市場見学：市場見学、市場内容説明会 |
| 第15回 | 市場見学振り返り：市場見学のレポート作成 |

■教科書：自作プリント

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：造形演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要： ●コンペティションへ向けた作品制作によって創造性を高める。 ●ランドアート、アースアートの鑑賞

■到達目標： ①就職活動の際に使える作品集を制作する。
②コンペへの作品制作におけるコンセプトメイクを大切にする姿勢を養う。③
現代アートの作品に触れ、卒業制作のインスピレーションを高める。④
illustrator、Photoshop検定3級合格を目指す

■授業計画：

- 第1回 ランドアート、アースアートの鑑賞
- 第2回 ランドアート制作①
- 第3回 ランドアート制作②
- 第4回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー①
- 第5回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー②
- 第6回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー③ 一輪挿し
- 第7回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー④ 一輪挿し
- 第8回 デザインを意識した写真撮影
- 第9回 作品の画像編集、加工とは
- 第10回 コンペティションデザイン①
- 第11回 コンペティションデザイン②
- 第12回 コンペティションデザイン③
- 第13回 コンペティションデザイン④
- 第14回 illustrator、Photoshop検定問題①
- 第15回 illustrator、Photoshop検定問題②

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：

プレゼンテーションⅠ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：
- デザインとは何か、コンセプトとは何か。
 - illustratorとPhotoshopの基本操作の指導と撮影によるデザイン制作の実践。
 - 文字の扱いとバランス、レイアウトが持つ意味を理解させ、意図を感じるものづくりの意識の定着。
 - 提出の際にはプレゼンを行い、考え方を相手にしっかりと伝わるよう訓練する。
- 到達目標：
- ①伝えるべき情報の優先順位を的確にとらえ、自由な発想でデザインを作ることが出来る。
 - ②文字組など細部にまで気を使えるようになる。現場で役立つ基本スキルを身につける。
 - ③プレゼンに慣れ、伝わりやすい話し方を考えられるようになる。

■授業計画：

- 第1回 DTPとは、その効果と重要性
- 第2回 分かりやすいプレゼンとは
- 第3回 魅力的なポートフォリオを考える
- 第4回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作①
- 第5回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作②
- 第6回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作③
- 第7回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作④
- 第8回 より良いポートフォリオにするためには
- 第9回 プレゼンテーション練習
- 第10回 グループワーク：プレゼンテーション①
- 第11回 グループワーク：プレゼンテーション②
- 第12回 グループワーク：プレゼンテーション③
- 第13回 グループワーク：プレゼンテーション④
- 第14回 グループディスカッション①
- 第15回 グループディスカッション②

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 山間 香綾 (専任教員)
実務経験： 店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	プレゼンテーションⅡ
------	-------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： ●illustrator、Photoshopを用いてプレゼンテーションボードの作成をする。
●PowerPointを用いて作品の効果的なプレゼンを考える

■到達目標： ①卒業制作を引き立て、より完成度を高める効果のあるボードを作成する。
②PowerPointによるプレゼンテーションを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | プレゼンボードの役割とデザイン |
| 第2回 | 販売イベントのプレゼンテーション① |
| 第3回 | 販売イベントのプレゼンテーション② |
| 第4回 | 販売イベントのプレゼンテーション③ |
| 第5回 | 販売イベントのプレゼンテーション④ |
| 第6回 | ラフスケッチやデザインを効果的に使う方法 |
| 第7回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成① |
| 第8回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成② |
| 第9回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成③ |
| 第10回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成④ |
| 第11回 | プレゼン用資料作成① |
| 第12回 | プレゼン用資料作成② |
| 第13回 | プレゼン用資料作成③ |
| 第14回 | 発表用原稿、資料作成 |
| 第15回 | プレゼン発表練習、講評 |

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

【理事(役員)の名簿】

職名	氏 名	常勤・非常勤 の別	現職又は前職	任期	備考
理事長	増田 涼平	常勤	学校法人美専学園理事長	令和2年～令和6年	
理事	若林 利行	常勤	北海道芸術デザイン専門学校長 北海道医薬専門学校長	令和2年～令和6年	
理事	館山 昭	非常勤	私立学校法人前校長	令和2年～令和6年	学外者
理事	佐藤 大介	非常勤	民間企業職員	令和2年～令和6年	学外者
理事	安保 雅博	非常勤	弁護士事務所所長	令和2年～令和6年	学外者
理事	関 孝則	非常勤	司法書士事務所所長	令和2年～令和6年	学外者
理事	増田 香織	非常勤	私立学校法人理事	令和2年～令和6年	学外者

令和元年度 学年末 第1学年 成績の分布

客観的な指標の算出方法

履修科目の5段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。
 秀→5.0 優→4.0 良→3.0 可→2.0 不可→1.0
 GPAは次の計算式に従い算出する。

$$GPA = (GP \times \text{科目の単位数}) / \text{履修科目の単位数の合計}$$

 ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目はGP=1.0とする。

学科名	産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)	学年	1	学生数	35
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	8	8	13	6	0
下位1／4に該当する人数 9人 下位1／4に該当する指標 GPA 3.00以下					

学科名	産業デザイン学科 (イラストレーション専攻)	学年	1	学生数	70
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	11	10	28	18	3
下位1／4に該当する人数 18人 下位1／4に該当する指標 GPA 3.46以下					

学科名	マルチメディアデザイン学科 (CG・Webデザイン専攻)	学年	1	学生数	7
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	0	1	2	4	0
下位1／4に該当する人数 2人 下位1／4に該当する指標 GPA 3.93以下					

学科名	マルチメディアデザイン学科 (アニメ・ゲームクリエイター専攻)	学年	1	学生数	9
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	1	2	2	3	1
下位1／4に該当する人数 3人 下位1／4に該当する指標 GPA 3.30以下					

学科名	建築デザイン学科 (建築士専攻)	学年	1	学生数	16
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	1	2	7	5	1
下位1／4に該当する人数 4人					
下位1／4に該当する指標 GPA 3.58以下					

学科名	環境デザイン学科 (インテリアデザイン専攻)	学年	1	学生数	15
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	2	3	4	4	2
下位1／4に該当する人数 3人					
下位1／4に該当する指標 GPA 3.40以下					

学科名	環境デザイン学科 (インテリアコーディネーション専攻)	学年	1	学生数	5
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	1	1	1	1	1
下位1／4に該当する人数 2人					
下位1／4に該当する指標 GPA 3.38以下					

学科名	環境デザイン学科 (クラフトデザイン専攻)	学年	1	学生数	18
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	3	1	7	6	1
下位1／4に該当する人数 3人					
下位1／4に該当する指標 GPA 3.45以下					

学科名	環境デザイン学科 (フラワーデザイン専攻)	学年	1	学生数	15
成績の分布					
指標の数値	GPA3.0未満	GPA3.0以上 3.5未満	GPA3.5以上 4.0未満	GPA4.0以上 4.5未満	GPA4.5以上
人数	0	1	6	7	1
下位1／4に該当する人数 4人					
下位1／4に該当する指標 GPA 3.70以下					

実務経験のある教員等による授業科目の一覧とシラバス

産業デザイン学科

グラフィックデザイン専攻

イラストレーション専攻

マルチメディアデザイン学科

CG・Webデザイン専攻 / Web・動画クリエイター専攻

アニメ・ゲームクリエイター専攻

建築デザイン学科

建築士専攻

環境デザイン学科

インテリアデザイン専攻

インテリアコーディネーション専攻

クラフトデザイン専攻

フラワーデザイン専攻

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 産業デザイン学科 グラフィックデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・ 学期	授業時数
	必修	選択		
デザイン概論	○		1年・前期	30
基礎造形Ⅰ	○		1年・前期	30
基礎造形Ⅱ	○		1年・後期	30
コンセプトメイキング	○		1年・前期	60
デッサン	○		1年・前期	60
グラフィック基礎Ⅰ	○		1年・前期	60
グラフィック基礎Ⅱ	○		1年・前期	60
印刷・レイアウト基礎	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・前期	60
基礎デザインⅠ	○		1年・前期	60
ビジュアル表現	○		1年・前期	60
グラフィック演習	○		1年・後期	60
基礎デザインⅡ	○		1年・後期	30
広告デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	60
印刷・レイアウト演習	○		1年・後期	60
DTP演習Ⅱ	○		1年・後期	30
WebデザインⅠ	○		1年・後期	30
撮影基礎	○		1年・後期	30
パッケージデザインⅠ	○		1年・後期	30
グラフィック表現テクニック	○		2年・前期	60
インフォメーションデザイン	○		2年・前期	60
コミュニケーションデザイン	○		2年・前期	60
広告デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅲ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅳ	○		2年・前期	60
WebデザインⅡ	○		2年・前期	60
専門技術演習A				
ブランディングデザイン		○	2年・前期	60
アートディレクション				
撮影テクニック				
専門技術演習B				
パッケージデザインⅡ		○	2年・前期	60
広告プランニング				
シルクスクリーン				
英語	○		1年・前期	30
合 計				1470

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：	デザイン概論
------	--------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているのか、各種事例研究を通じて理解するとともに、アートとデザインの違い、広告制作をはじめとした何らかの情報伝達を行う際に、クリエイターとして留意すべき点等について学ぶ。

■到達目標：1: 社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているか理解している。
2: 課題制作において「誰に」「何を」「どう伝えるか」を意識して取り組むことができる。
3: リサーチやブレンストーミング・プレゼンテーションなど、他者との協働による作業ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、デザインの代表的な分野・領域 |
| 第2回 | デザインとアート、情報の伝達 |
| 第3回 | 広告とは（新聞広告等を用いた事例研究） |
| 第4回 | 企画とは（アイデアを出すための視点） |
| 第5回 | グループワーク①（第三者へモノ・コトの魅力を伝える） |
| 第6回 | グループワーク①（第三者へモノ・コトの魅力を伝える） |
| 第7回 | グループワーク①（プレゼンテーション・講評） |
| 第8回 | 関係性の可視化②（視点の動かし方、他者の視点を知る） |
| 第9回 | 関係性の可視化②（視点の動かし方、他者の視点を知る） |
| 第10回 | 関係性の可視化②（プレゼンテーション・講評） |
| 第11回 | グループワーク③（作業マニュアル作り） |
| 第12回 | グループワーク③（作業マニュアル作り） |
| 第13回 | グループワーク③（プレゼンテーション・講評） |
| 第14回 | グループワーク④（フラッシュアップ） |
| 第15回 | グループワーク④（フラッシュアップ） |

■教科書：

■参考書：現代デザイン事典、図とイラストで伝わるデザイン

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：新明 史子（非常勤講師）
実務経験：オリジナル絵本の制作ユニットを主催し、本の企画提案・グラフィックデザイン・テキスト制作・製本等に携わっている。

科目名：基礎造形Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：前半は検定試験公式テキストを使用し色彩理論の基礎を学ぶ。後半は基礎的な平面構成課題を通して構成力・イメージの抽象表現力・実用的な色彩感覚等を養う。

■到達目標：1: 色彩士検定取得に向けて、演習を通して色彩理論の基礎が身に付いている。
2: 色彩及び構成の基礎を学び、用途やデザインに適した配色が出来る。
3: 積極的に課題に取り組み、より完成度の高い作品を目指す向上心を発揮できる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション・色彩の基礎①（色の成り立ち・混色）
- 第2回 色彩の基礎②（色の三属性・色相環）
- 第3回 色彩の基礎②（色の三属性・色相環）
- 第4回 色彩の基礎③（PCCSトーン）
- 第5回 色彩の基礎④（明度・彩度とPCCSトーン）
- 第6回 色彩の基礎⑤（対比効果）
- 第7回 色彩の基礎⑥（視認性・色の連想とイメージ）
- 第8回 配色の研究（実例リサーチ）
- 第9回 色彩と表現⑦（感情・季節感の表現）
- 第10回 色彩と表現⑦（感情・季節感の表現）
- 第11回 色彩と構成⑧（パターンデザイン）
- 第12回 色彩と構成⑧（パターンデザイン）
- 第13回 色彩と構成⑨（パターンを用いた糸綴じノートブックのデザイン）
- 第14回 色彩と構成⑨（パターンを用いた糸綴じノートブックのデザイン）
- 第15回 色彩と構成⑨（パターンを用いた糸綴じノートブックのデザイン）

■教科書：カラーマスターBASIC 配色カード158b

■参考書：配色デザイン見本帳

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
 対象専攻：グラフィックデザイン専攻
 担当教員：新明 史子（非常勤講師）
 実務経験：オリジナル絵本の制作ユニットを主催し、本の企画提案・グラフィックデザイン・テキスト制作・製本等に携わっている。

科目名：基礎造形Ⅱ

履修形態：必修
 授業形態：講義＋演習
 履修学年：1年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要：平面から立体へ展開しながら、紙という材料の基本的な加工方法や、その特性、紙を使った造形の可能性を学ぶ。素材や資料の研究、アイデアを形にするための積極的な実行力や企画力、的確な計画性などの重要性を理解する。

■到達目標：1: 紙の基本的な加工方法・紙の目・厚さ・種類等の特性を知り適切な紙を選べる。
 2: オリジナルの本作りを通して企画力・表現力を高め、基本的な製本技術を理解している。
 3: もの作りの本質を考え、表現の幅を広げながら丁寧な手作業が出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 紙の造形①(モビール) |
| 第2回 | 紙の造形①(モビール) |
| 第3回 | 紙の造形②(カードデザイン) |
| 第4回 | 紙の造形②(カードデザイン) |
| 第5回 | 紙の造形②(カードデザイン) |
| 第6回 | 造本③-1(文庫本のハードカバー製本) |
| 第7回 | 造本③-2(和綴じ・折帖) |
| 第8回 | ブックデザイン④-1(紙を活かした視覚的に美しいデザインの本を考える) |
| 第9回 | ブックデザイン④-2(ページ数・大きさ・製本方法等を考え試作を作る) |
| 第10回 | ブックデザイン④-3(試作をもとに本文を制作) |
| 第11回 | ブックデザイン④-3(試作をもとに本文を制作) |
| 第12回 | ブックデザイン④-3(試作をもとに本文を制作) |
| 第13回 | ブックデザイン④-4(美しさと強度を両立させた製本) |
| 第14回 | ブックデザイン④-4(美しさと強度を両立させた製本) |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：デザイナーズハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：後藤 精二（非常勤講師）
実務経験：広告代理店で、広告のデザイン・アートディレクション・TVCMプロデュース等を担当したのち、
広告制作会社を経営。

科目名：	コンセプトメイキング
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：モノ・コト作りの根源であるコンセプトの概念とその作り方を体験的な学習で理解し、グループ学習でコンセプトの共有とチームワークの大切さを学ぶ。後半は企画立案から実制作まで実践課題を通じて2年間課題をやり抜くための基礎を身に付ける。

■到達目標：1: デザインとは何か？を理解している。
2: デザインに不可欠な論理的思考とコンセプトメイキングを理解している。
3: 論理の見える化と表現のアイディア化(5W1H)ができる。
4: グループ討論の中で結論に至る合意形成や協調性を身に付けている。
5: プレゼンテーションを通じて、発表・自己表現・コミュニケーションができる。

■授業計画：

第1回	概念の理解(デザインとは何か？コンセプトメイキングとは何か？)
第2回	広告コンセプトの発見と理解①
第3回	コンセプトの発見と理解(フィールドワーク)
第4回	コンセプトの発見と理解(コンセプトチャートの作成)
第5回	コンセプトの発見と理解(プレゼンテーション)
第6回	広告コンセプトの発見と理解②
第7回	広告コンセプトの発見と理解③
第8回	広告表現の基礎知識
第9回	広告表現の基礎知識と応用
第10回	レイアウトの応用
第11回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第12回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第13回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第14回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)
第15回	コンセプトの制作と広告表現(見える化)

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：中原 宣孝（非常勤講師）
実務経験：美術研究所を主催し、各種画材の研究開発および大学・高校・各種スクール等で美術の実技指導に携わっている。日本美術科連盟会員・大学美術教育学会会員。

科目名：デッサン

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：過去から今日までの絵画理論から得られた空間認識や稜線と面による構築の意識等の理論を総合的に理解しながら制作することで、構造化された理論と技術との連関が生む相乗効果を最大限に描き出しながら、基本的・本質的なデッサン力を習得する。

■到達目標：1: 量感、質感、空間感、プロポーションなどによる自然で的確な表現がどのようにしたら可能であるかの理論的な裏付けを認識して製作できる。
2: 表現力の幅を広げ各自が追求したい表現スタイルを深めていくことができる。
3: グラフィックデザイナーとして求められるカンパ作成能力が身に付いている。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 絵画理論（線遠近法・透視図法・重畳法・空気遠近法、稜線と面による構築、空間感） |
| 第2回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第3回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第4回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第5回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第6回 | 基本構造の静物①（構図・プロポーションの取り方・面による量感の構築・コントラストによる空間感の描出・透視図法・質感の出し方） |
| 第7回 | 人体解剖学（人体構造の基礎知識・表現法、構図・プロポーション・ムーヴマン） |
| 第8回 | 静物クロッキー②（モチーフの構成力・構図・プロポーション・量感・コントラスト） |
| 第9回 | 基本構造の静物③（構図・プロポーション・透視図法・楕円・面と量感・コントラスト） |
| 第10回 | 基本構造の静物③（構図・プロポーション・透視図法・楕円・面と量感・コントラスト） |
| 第11回 | 基本構造の静物③（構図・プロポーション・透視図法・楕円・面と量感・コントラスト） |
| 第12回 | 室内空間デザイン（空間理論と表現・技法） |
| 第13回 | 静物クロッキー④（モチーフの構成力・構図・プロポーション・量感・コントラスト） |
| 第14回 | 裸婦クロッキー⑤（人体構造の理解と表現法） |
| 第15回 | 人物クロッキー⑥（人体構造の基礎知識と表現法） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：山本 睦子（非常勤講師）
実務経験：広告制作プロダクションでアートディレクター・グラフィックデザイナーとして全国展開のファッションビル・企業・高等教育機関等のアドバタイジングデザインを担当。

科目名：グラフィック基礎Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：各種トレーニング課題を行いながら、様々なデザイン用具の基本的な使い方・デザインの基礎知識を習得し、デザインの魅力や表現する楽しさを体験するとともに、文字情報の扱い方のスキルを身に付ける。

■到達目標：1: 情報やメッセージを伝える方法を3点以上発想することができ、アイデアを可視化することができる。
2: デザインを表現、定着させるための基礎的手作業を行うことができる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 デザイン道具を使ってみる①(ペーパークラフトによるアドカーの制作)
- 第3回 デザイン道具を使ってみる②(コラージュによる平面構成)
- 第4回 デザインの基礎知識にふれる③(コラージュによる平面構成)
- 第5回 デザインの基礎知識にふれる③(コラージュによる平面構成)
- 第6回 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作)
- 第7回 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作)
- 第8回 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作)
- 第9回 基礎的表現力と技術力をつける④(文字をアイコン化したカフェブランドのスリーブ制作)
- 第10回 プレゼンテーション、講評
- 第11回 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作)
- 第12回 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作)
- 第13回 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作)
- 第14回 基礎的表現力と技術力をつける⑤
(ビジュアルと文字の構成・媒体を意識したポスター制作)
- 第15回 プレゼンテーション、講評

■教科書：デザイナーズハンドブック、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：堀 じゅん子（非常勤講師）
実務経験：グラフィックデザイナー・イラストレーターとして広告代理店に勤務後独立し、デザイン制作会社経営

科目名：グラフィック基礎Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：造形要素の特性を把握し、プロポーションやコンポジション、シンメトリー等造形要素がもたらす秩序と配色調和について学ぶ。後半では制作物の目的やターゲット層を意識しながら、前半の学びを応用した課題制作に取り組む。

■到達目標：1: 点・線・面など造形の基本的な構成要素について理解している。
2: 黄金比を活用した面分割による画面構成の効果について理解している。
3: 与えられたテーマについて目的や伝える相手を意識しながらイメージを可視化する方法を工夫出来る。
4: 制作物と提案内容についてわかりやすくまとめ、第三者へプレゼンテーションできる。

■授業計画：

第1回	構成の要素①(点・線による構成)
第2回	構成の要素①(点・線による構成)
第3回	構成の要素②(面による構成)
第4回	構成の要素②(面による構成)
第5回	構成の秩序③(リズムとルール)
第6回	構成の秩序③(リズムとルール)
第7回	イメージの可視化④(ポスター制作)
第8回	イメージの可視化④(ポスター制作)
第9回	イメージの可視化④(ポスター制作)
第10回	クライアントワーク⑤(コンペ課題A)
第11回	クライアントワーク⑤(コンペ課題A)
第12回	PRポスター⑥(コンペ課題B)
第13回	PRポスター⑥(コンペ課題B)
第14回	PRポスター⑥(コンペ課題B)
第15回	PRポスター⑥(コンペ課題B)

■教科書：

■参考書：構成学のデザイントレーニング、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：佐々木 律子（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社でグラフィックデザイナーとして広告や雑誌制作に従事したのち独立。主に雑誌媒体のエディトリアルデザインに携わっている。

科目名：	印刷・レイアウト基礎
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：単色印刷からフルカラー印刷まで、演習課題を通じて文字組とレイアウトの基礎テクニックを習得しながら、ひとつの印刷物が出来上がるまでのワークフローを理解する。

■到達目標：
1: ビジュアルと文字を組み合わせながら、全体をバランス良く配置できる。
2: 印刷の基礎知識を身に付けると共に、印刷物制作のワークフローに係るスタッフの関係性を理解している。
3: 必要に応じてアプリケーションを選択し、アナログ作業も活かしたデザインができる。

■授業計画：

第1回	オリエンテーション、自己紹介・イメージトレーニング
第2回	印刷概論 レイアウト基礎①(1C印刷による名刺制作)
第3回	印刷概論 レイアウト基礎①(1C印刷による名刺制作)
第4回	印刷概論 レイアウト基礎②(多色特殊印刷によるブックカバー制作)
第5回	印刷概論 レイアウト基礎②(多色特殊印刷によるブックカバー制作)
第6回	印刷概論 レイアウト基礎②(多色特殊印刷によるブックカバー制作)
第7回	印刷概論 プリンターの機能実習(手差し両面印刷)
第8回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面)
第9回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面)
第10回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作)
第11回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作)
第12回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作)
第13回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作)
第14回	レイアウト基礎③(4C印刷によるCDジャケット・ブックレット・ディスク面制作)
第15回	プレゼンテーション、講評

■教科書：デザイナーズハンドブック、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：DTP演習 I

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：パソコンに慣れ親しみながら、OSやアプリケーション（Illustrator/Photoshop）の操作法・データ管理等の基礎知識を学ぶ。課題制作を通して検定試験合格に必要な知識と技術の習得を目指す。

■到達目標：1：印刷を前提としたデジタルデータを制作できる。
2：作業手順を段取良く組み立てることができる。
3：第三者が閲覧・操作しても分かりやすいデータ制作・データ管理ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション・DTP概論
システム・MacOS・アプリケーション、教室内設備の確認とルール、ネットワーク環境 |
| 第2回 | DTP概論・Illustrator
新規ドキュメント作成・主要ツールの操作レッスン |
| 第3回 | Illustrator/Photoshop
Illustrator基本操作の復習・スキャナ練習・Photoshopでの画像補正・トレース練習 |
| 第4回 | Illustrator
レイヤー・色設定・各種ツール練習 |
| 第5回 | Illustrator
グラデーション・パターン設定・オブジェクト合成・クリッピングマスク・線設定・文字設定 |
| 第6回 | Illustrator
プリントアウトについて（レーザーとインクジェットの違い等）・PDFデータへの変換・出力実習 |
| 第7回 | Illustrator
文字の扱い（入力・編集・特殊文字・レイアウト・段落スタイル等）と演習 |
| 第8回 | Illustrator
オブジェクトの効果、印刷・出力用データ作成、トリムマーク、裁ち落とし他 |
| 第9回 | Illustrator/Photoshop
画像配置（ルール・リンク・埋め込み・トリミング他）、Illustrator機能・操作の復習 |
| 第10回 | Photoshop
基礎知識・画像解像度・主要ツールの操作レッスン・各機能の演習 |
| 第11回 | Photoshop
各機能の演習（画像マスク・切り抜き・レタッチ・色補正・調整レイヤー等） |
| 第12回 | Photoshop
フィルター機能・作画技法・スキャニング・画像補正・合成・保存 |
| 第13回 | Photoshop
背景と切り抜き画像との合成演習 |
| 第14回 | Photoshop/Illustrator
入稿用データ作成（合成画像の配置・レイアウト・文字情報等） |
| 第15回 | Photoshop/Illustrator
入稿用データ作成（合成画像の配置・レイアウト・文字情報等） |

■教科書：『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』
『入稿データのつくりかた』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 里菜（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にポスター・パンフレット・雑誌等の紙媒体を中心に制作業務を担当。

科目名：基礎デザインⅠ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：グラフィックデザインの重要な構成要素である「文字」について演習を通して基礎知識から実践まで理解する。文字の歴史やレタリング、タイポグラフィの基礎知識や技術、書体の種類とイメージについて広く学び、フィールドワークでリサーチ力と応用力を身に付ける。
- 到達目標：1:グラフィックデザインによる「文字」の重要性や多様性について理解している。
2:基本的な造形力や書体の選択力を身に付け、タイポグラフィを活かした紙面構成ができる。
3:プレゼンテーションを通じて相手に制作意図を的確に伝えることができる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション・自己表現
- 第2回 文字・レタリング基礎、レタリング（和文書体）
- 第3回 レタリング（和文書体）、書体イメージの分類と分析
- 第4回 レタリング（欧文書体）
- 第5回 レタリング（欧文書体）
- 第6回 タイポグラフィ基礎、タイポグラフィ（文字あそび）
- 第7回 タイポグラフィ（文字あそび）
- 第8回 タイポグラフィ（文字あそび）
- 第9回 タイポグラフィ（文字あそび）
- 第10回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第11回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第12回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第13回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第14回 タイポグラフィ（オリジナル書体）
- 第15回 タイポグラフィ（オリジナル書体）

- 教科書：
- 参考書：
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 ルリ子（非常勤講師）
実務経験：フリーランスイラストレーターとして、パンフレット・ポスター・装丁等広告物のイラストレーション制作を手掛ける。

科目名：	ビジュアル表現
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：各種画材（水性色鉛筆、パステル、ガッシュ、マーカー）の基礎的な知識と使い方を学び、その中からそれぞれの画材の持つ印象を理解し、イメージに合わせた画材選びを工夫する。デジタルとは異なる表現方法を研究し、様々な課題制作に応用できる自由な発想力を身に付ける。

■到達目標：1: 画材の基本的な使い方とそれぞれの画材が与える印象を理解している。
2: 手作業の持つ面白さや表現の強さを感じ取り、デジタルとは違う魅力を理解している。
3: 道具の扱い方や後始末など、丁寧な作業が習慣的にできる。

■授業計画：

第1回	課題①（水彩色鉛筆による表現）
第2回	課題①（水彩色鉛筆による表現）
第3回	課題②（パステルによる表現）
第4回	課題②（パステルによる表現）
第5回	課題②（パステルによる表現）
第6回	課題③（アクリルガッシュによる表現と絵本制作）
第7回	課題③（アクリルガッシュによる表現と絵本制作）
第8回	課題③（アクリルガッシュによる表現と絵本制作）
第9回	課題④（マーカーを用いたキャラクターデザイン）
第10回	課題④（マーカーを用いたキャラクターデザイン）
第11回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第12回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第13回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第14回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）
第15回	課題⑤（紙粘土を用いたキャラクターデザインの立体化）

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：山本 睦子（非常勤講師）
実務経験：広告制作プロダクションでアートディレクター・グラフィックデザイナーとして全国展開のファッションビル・企業・高等教育機関等のアドパタイジングデザインを担当。

科目名：グラフィック演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：前期で身に付けた基礎的表現力や技術力を更に高め、文字情報の扱い方のスキルアップと制作プロセスの自己管理能力向上を目指す。

■到達目標：1: 情報やメッセージを伝達するための工夫ができる。
2: ビジュアル・文字・色彩・レイアウト等を考えデジタル・アナログ両面で定着できる。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第2回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第3回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第4回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第5回 | 演習①(タイポグラフィがメインのイベントポスター制作) |
| 第6回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第7回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第8回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第9回 | 演習②(1コピー1ビジュアルのメッセージポスター制作) |
| 第10回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第11回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第12回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第13回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第14回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |
| 第15回 | 進級制作課題(イベント告知ポスター) |

■教科書：デザイナーズハンドブック、デザイナーズハンドブックレイアウト編

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 里菜（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にポスター・パンフレット・雑誌等の紙媒体を中心に制作業務を担当。

科目名：	基礎デザインⅡ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：前期で習得した「文字」の基礎知識と技術を踏まえ、基本エレメントを意識したデザインへ展開する。グラフィックデザインにおける記号（単化形成、ピクトグラム、シンボルマーク等）の社会的な役割・必要性や制作プロセスを理解し、演習課題を通じて表現力を強化する。
- 到達目標：1:「文字」の基礎知識や柔軟な発想力を発揮し、完成度の高い作品を仕上げられる。
2:プレゼンテーションで相手に制作意図を的確に伝えることが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | グラフィックデザインにおける記号（単化形成） |
| 第2回 | グラフィックデザインにおける記号（単化形成） |
| 第3回 | グラフィックデザインにおける記号（単化形成） |
| 第4回 | グラフィックデザインにおける記号（アイコン化） |
| 第5回 | グラフィックデザインにおける記号（アイコン化） |
| 第6回 | グラフィックデザインにおける記号（アイコン化） |
| 第7回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第8回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第9回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第10回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第11回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第12回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第13回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第14回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |
| 第15回 | シンボルマークとタイポグラフィ表現（オリジナルブランドの企画とロゴの制作） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：木野村 博人（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社、印刷会社デザイン部にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にグラフィックデザイン・ブックエディトリアル・パッケージ・CI・サイン等を手掛けている。

科目名	広告デザイン演習Ⅰ
-----	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：感覚的なものも大事にしつつ、基本的なルールを踏まえつつ、情報の整理やレイアウトの効果を意識して、見る人に働きかける広告物について考察する。また企業連携によるクライアントワークに取り組み、入稿用データの作り方等、実践的なスキルを高める。

■到達目標：1: コピー・文字情報・色・書体等の細かな作業を丁寧に行うことができる。
2: パターンやルールを覚え、どのような環境でも素早く作業を進められる。
3: 入稿用データの基本的なルールを理解してDTP作業ができる。

■授業計画：

第1回	企業連携課題：イベント告知ポスター（クライアントによるオリエンテーション）
第2回	企業連携課題：イベント告知ポスター（アイデア出しと打合せ）
第3回	企業連携課題：イベント告知ポスター（実制作）
第4回	企業連携課題：イベント告知ポスター（実制作）
第5回	企業連携課題：イベント告知ポスター（デザインチェック）
第6回	企業連携課題：イベント告知ポスター（デザイン最終チェック）
第7回	企業連携課題：イベント告知ポスター（デザイン最終修正、仕上げ）
第8回	企業連携課題：イベント告知ポスター（プレゼンテーション）
第9回	演習課題（新聞広告制作）
第10回	演習課題（新聞広告制作）
第11回	演習課題（新聞広告制作）
第12回	演習課題（新聞広告制作）
第13回	演習課題（新聞広告制作）
第14回	演習課題（新聞広告制作）
第15回	プレゼンテーション、講評

■教科書：『デザイナーズハンドブック』
『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：佐々木 律子（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社でグラフィックデザイナーとして広告や雑誌制作に従事したのち独立。主に雑誌媒体のエディトリアルデザインに携わっている。

科目名：	印刷・レイアウト演習
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：デジタル入稿による小冊子制作演習を通じて、文字組とレイアウトの強化を図り、正しい情報の選択とリサーチや取材力を身に付ける。校正記号や入稿プロセスを学習し、適切な入稿用データを作れるようにする。広告ツール制作では、立体的な構図と効果的な表現を目指す。

■到達目標：
1: 印刷物の制作プロセスを理解しデジタル入稿に必要なスキルが身に付いている。
2: チーム作業を通じて、最後まで責任をもって担当作業に臨むことができる。
3: ビジュアルや文字をバランス良くレイアウトできる。
4: クライアントやターゲットに沿った企画立案ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 演習①広告ツール制作
(前期「ビジュアル演習」で制作した立体物を撮影し、広告物のビジュアルに使用) |
| 第2回 | 演習①広告ツール制作 |
| 第3回 | 演習①広告ツール制作 |
| 第4回 | 演習①広告ツール制作 |
| 第5回 | 演習②小冊子制作(チームミーティング) |
| 第6回 | 演習②小冊子制作(ラフ制作・企画とレイアウトのチェック) |
| 第7回 | 演習②小冊子制作(情報収集・取材・撮影) |
| 第8回 | 演習②小冊子制作(情報収集・取材・撮影・データ制作) |
| 第9回 | 演習②小冊子制作(データ制作・デザインチェック) |
| 第10回 | 演習②小冊子制作(データ制作・デザインチェック・初校) |
| 第11回 | 演習②小冊子制作(初校戻し・データ修正) |
| 第12回 | 演習②小冊子制作(データ修正・チェック・再校) |
| 第13回 | 演習②小冊子制作(再校戻し・最終修正) |
| 第14回 | 演習②小冊子制作(最終修正・校正) |
| 第15回 | 演習②小冊子制作(入稿用データ完成・出力紙とデータを提出) |

■教科書：デザイナーズハンドブックレイアウト編、入稿データのつくりかた

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：DTP演習Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単位：1単位

■科目概要：前期に引き続きIllustratorとPhotoshopの操作とデザイン作業を意識したデータ制作を行う。検定試験合格に向けて基礎知識と技術のスキルアップを目指すとともに、習得したスキルを応用できるようにする。

■到達目標：1: 進級制作に向けて使用アプリケーションの選択や表現に合わせた作業ができる。
2: セルフチェックしながら入稿データを作成できる。
3: 12月の検定試験合格。

■授業計画：

- 第1回 Illustrator・Photoshopの復習。Photoshopの重要機能や弱点部分の強化
- 第2回 Illustrator・Photoshopの復習。Photoshopの重要機能や弱点部分の強化
- 第3回 Illustrator・Photoshopの復習。Photoshopの重要機能や弱点部分の強化
- 第4回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第5回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第6回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第7回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第8回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第9回 演習課題(画像と文字を配置したレイアウト・文字情報のまとめ方・表紙・タイトルロゴ・ビジュアルの表現方法・入稿用データ制作・データチェック)
- 第10回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第11回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第12回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第13回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第14回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング
- 第15回 検定試験問題集を使用した各操作のトレーニング

■教科書：『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』
『入稿データのつくりかた』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 朋代（非常勤講師）
実務経験：Web制作会社にWebデザイナー・ディレクターとして勤務したのち独立。主にUI設計・デザイン・WordPress構築に携わっている他、入門者向け書籍の執筆活動も行っている。

科目名：	Webデザイン I
------	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：HTML/CSSを使ったコーディングの基礎を習得する。また、様々なWebサイトに触れ、Webデザインならではの仕組みや特徴を理解し、目的に合ったWebサイトの構成を考える。PCやスマートフォン、タブレット等の様々なデバイスに対応したWebデザインの考え方も学ぶ。

■到達目標：1: 様々なWebサイトに触れ、その目的や仕組み・構成への理解を深める。
2: HTML/CSSコーディングの基礎を理解し、簡単なコーディングができる。
3: 様々なデバイスの画面サイズや解像度を理解し、PhotoshopでWeb用画像を作成できる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | インターネット・Webの仕組み、Webサイトの役割 |
| 第2回 | Webサイトの目的・HTMLの基本と枠組み |
| 第3回 | Webサイトでの画像の扱い |
| 第4回 | Webサイトの構成と制作の流れ |
| 第5回 | Webサイトの構成と制作の流れ |
| 第6回 | Webページの装飾とCSSの基本 |
| 第7回 | Webページの装飾とCSSの基本 |
| 第8回 | Webサイト用バナー画像作成 |
| 第9回 | class・id属性を利用したCSS装飾、ボックスモデル |
| 第10回 | class・id属性を利用したCSS装飾、ボックスモデル |
| 第11回 | 様々なCSSプロパティ・テクニック |
| 第12回 | 様々なCSSプロパティ・テクニック |
| 第13回 | マルチデバイス(スマートフォン・タブレット)対応 |
| 第14回 | マルチデバイス(スマートフォン・タブレット)対応 |
| 第15回 | Webサイトの公開 |

■教科書：スラスラわかるHTML & CSSのきほん

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：小森 学（非常勤講師）
実務経験：カメラマンとして商業写真撮影スタジオ勤務数社を経て独立。主に広告写真撮影、人物写真撮影等を手掛けている。

科目名：	撮影基礎
------	------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：一眼レフカメラの基本操作と撮影の基礎を学び、各自のクリエイティブワークへ活かす。写真をヴィジュアルとする場合の画面構成や人物の配置、表情の重要性を学びより実践的な表現力を習得する。

■到達目標：
1: 一眼レフカメラの基本操作と簡易的な照明を用いた撮影ができる
2: 自分の求めるクリエイティブワークに写真表現を取り入れ表現領域を広げる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 撮影基礎①(露出・シャッタースピード・絞り、自由撮影) |
| 第2回 | 撮影基礎②(人物撮影) |
| 第3回 | 撮影基礎③(応用操作) |
| 第4回 | 撮影基礎④(自然光・ストロボ・ランプ・レフ板) |
| 第5回 | 写真表現①(ディスカッション・自由撮影・Photoshopを用いたレタッチ) |
| 第6回 | 写真表現②(ライティング・構成・背景) |
| 第7回 | 写真表現③(商品撮影とPhotoshopを用いたレタッチ) |
| 第8回 | プレゼンテーション、ディスカッション |
| 第9回 | 写真表現①(人物撮影、スタイリング・背景) |
| 第10回 | 写真表現②(人物撮影とPhotoshopを用いたレタッチ) |
| 第11回 | プレゼンテーション、ディスカッション |
| 第12回 | 写真表現①(自由撮影) |
| 第13回 | 写真表現②(自由撮影) |
| 第14回 | 写真表現③(自由撮影、キャッチコピー・レイアウト) |
| 第15回 | プレゼンテーション、ディスカッション |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 美絵（専任教員）
実務経験：大手印刷会社の包装開発部門で、ディレクターとして勤務。商品企画およびパッケージデザインのアートディレクションに携わる。JPDA（日本パッケージデザイン協会）会員。

科目名：	パッケージデザインⅠ
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：市場に出回っているパッケージにはどのような種類（構造・包装材料・印刷方式等）と機能（情報伝達・商品保護・可搬性等）があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について理解する。

■到達目標：1: 代表的なパッケージの種類について身の回りにある商品から事例を探すことが出来る。
2: パッケージデザインが果たす店頭広告効果、イメージ戦略的效果を理解している。
3: 既存商品・競合商品をリサーチし、消費者ニーズを踏まえた商品企画を提案できる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | パッケージの種類と機能（事例研究） |
| 第2回 | 商品企画とデザイン①（マーケットリサーチ） |
| 第3回 | 商品企画とデザイン②（企画立案） |
| 第4回 | 商品企画とデザイン③（実制作） |
| 第5回 | 商品企画とデザイン④（プレゼンテーション） |
| 第6回 | 地域の商品とデザイン①（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第7回 | 地域の商品とデザイン②（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第8回 | 地域の商品とデザイン③（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第9回 | 地域の商品とデザイン④（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第10回 | 地域の商品とデザイン⑤（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第11回 | 地域の商品とデザイン⑥（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第12回 | 地域の商品とデザイン⑦（コンペ課題：地元企業の商材をもとにパッケージデザインを提案） |
| 第13回 | 季節感とデザイン①（企画立案：パターンを用いた店舗用パッケージ） |
| 第14回 | 季節感とデザイン②（実制作：パターンを用いた店舗用パッケージ） |
| 第15回 | 季節感とデザイン③（実制作、プレゼンテーション） |

■教科書：

■参考書：パッケージデザインの教科書、デザイン歳時記

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：菊地 和広（非常勤講師）
実務経験：大手印刷会社・広告代理店・デザインプロダクションでアートディレクター・グラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。グラフィックデザイン全般に携わっている。

科目名：グラフィック表現テクニック

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：アートディレクター・グラフィックデザイナーにとって重要視される「独創性」「着眼点」に対し、「表現」というフィルターを通して感性を磨くと共に、各自が秘めている可能性を見つけ出す。

■到達目標：1: 様々な表現に見る・触れることで、作り手の着眼点を発見できる。
2: オリジナルの表現を作る・見せることで、新たな可能性を引き出すことが出来る。

■授業計画：

- 第1回 JAGDA学生グランプリ 応募作品制作①(B1ポスター)
- 第2回 JAGDA学生グランプリ 応募作品制作②
- 第3回 JAGDA学生グランプリ 応募作品制作③
- 第4回 JAGDA学生グランプリ 応募作品制作④
- 第5回 JAGDA学生グランプリ プレゼンテーション
- 第6回 学外展示用グラフィック制作(ガリ版作品①)
- 第7回 学外展示用グラフィック制作(ガリ版作品②)
- 第8回 学外展示用グラフィック制作(ポスター①)
- 第9回 学外展示用グラフィック制作(ポスター②)
- 第10回 学外展示用グラフィック制作(ポスター③)
- 第11回 学外展示用グラフィック制作(ZINE①)
- 第12回 学外展示用グラフィック制作(ZINE②)
- 第13回 学外展示 会場搬入・展示作業
- 第14回 マイ・ノベルティ制作①(自己を宣伝・アピールする販促ツール)
- 第15回 マイ・ノベルティ制作②

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：浅野 里菜（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にポスター・パンフレット・雑誌等の紙媒体を中心に制作業務を担当。

科目名：	インフォメーションデザイン
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：コトバだけでは伝わりにくい情報を視覚化することで、より分かりやすく伝えるのがインフォメーションデザインである。この科目では実在する公共の場所を題材とし、情報を視覚化する方法と、情報を整理・編集・レイアウトすることによって効果的に伝達する方法を総合的に学ぶ。

■到達目標：1: ダイアグラム、表、グラフ、ピクトグラム、マップ等の制作を通じて、インフォグラフィックスの手法を習得する。
2: それらの要素を用いた広報物を制作することにより、情報を整理・編集する工夫と方法を理解している。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | グラフ・ダイアグラム・ピクトグラム①
インフォグラフィックスとは何か。グラフの作成(カテゴリによってどのグラフが適しているかを考える) |
| 第2回 | グラフ・ダイアグラム・ピクトグラム②
ピクトグラムを使った4コマの作成(ストーリーに適した表現を考え、全体のデザイントーンの統一を学ぶ) |
| 第3回 | グラフ・ダイアグラム・ピクトグラム③
ピクトグラムを使った4コマの作成(ストーリーに適した表現を考え、全体のデザイントーンの統一を学ぶ) |
| 第4回 | 企画と情報収集①
イラストマップのコンセプトメイキング(情報の収集・構成の方法を学び、取材の方針を立てる) |
| 第5回 | 企画と情報収集②
現地取材と撮影 |
| 第6回 | 企画と情報収集③ |
| 第7回 | ピクトグラムとイラストマップ①
施設全体のイメージ統一を考慮したピクトグラムの制作 |
| 第8回 | ピクトグラムとイラストマップ②
施設全体のイメージ統一を考慮したピクトグラムの制作 |
| 第9回 | ピクトグラムとイラストマップ③
施設全体のイメージ統一を考慮したピクトグラムの制作 |
| 第10回 | ピクトグラムとイラストマップ④
イラストマップの制作 |
| 第11回 | ピクトグラムとイラストマップ⑤
イラストマップの制作 |
| 第12回 | 情報の整理と編集①
パンフレットの編集とレイアウト |
| 第13回 | 情報の整理と編集②
パンフレットの編集とレイアウト |
| 第14回 | 情報の整理と編集③
パンフレットの編集とレイアウト |
| 第15回 | プレゼンテーション |

■教科書：『たのしいインフォグラフィックス入門』
『わかりやすく情報を伝えるための図とデザイン』

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：碓井 雅博（非常勤講師）
実務経験：広告代理店でクリエイティブ・ディレクターとして勤務。多くの企業、自治体等のTVCM、CI、広告キャンペーンを手掛ける。

科目名：	コミュニケーションデザイン
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：企業からのオリエンテーションを受け、課題を解決するための最適なソリューションを提案する。企業と消費者、企業と社会とのコミュニケーションはどうあるべきかを根本的かつ総合的に考え、形にしていけるプロセスを学ぶ。

■到達目標：1: 今、この時代にデザインを学ぶことの意味を再認識することが出来る。
2: グラフィックのみならず、デザインという仕事の広範性を理解し、社会における価値を見出すことができるような視点とマインドを持てるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 課題1：自己紹介ツール（名刺） |
| 第3回 | 課題2：ピンクリボンデザイン大賞 応募作品制作 |
| 第4回 | 課題2：ピンクリボンデザイン大賞 応募作品制作 |
| 第5回 | 課題2：ピンクリボンデザイン大賞 応募作品制作 |
| 第6回 | 企業連携課題へ向けての準備（オリエンテーション、課題解決の考え方など） |
| 第7回 | 企業連携課題（クライアントによるオリエンテーション） |
| 第8回 | 企業連携課題（コンセプトの構築） |
| 第9回 | 企業連携課題（発想と表現） |
| 第10回 | 企業連携課題（表現の展開） |
| 第11回 | 企業連携課題（展開の集成・仕上げ） |
| 第12回 | 企業連携課題（クライアントへのプレゼンテーション） |
| 第13回 | 課題3：グラフィックデザインからコミュニケーションデザインへ（情報収集・制作） |
| 第14回 | 課題3：グラフィックデザインからコミュニケーションデザインへ（制作・ブラッシュアップ） |
| 第15回 | 課題3：グラフィックデザインからコミュニケーションデザインへ（プレゼンテーション） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：曾澤 浩一（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社を経営し、自身もグラフィックデザイナーとして広告制作を手掛けている。

科目名：

広告デザイン演習Ⅱ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：課題制作を通じて、広告制作の現場が今必要としている人材を育成していく。広告とは何か？ということを改めてしっかりと理解し、実際の仕事におけるデザイナー・アートディレクターとして制作プロセスを学ぶ。
- 到達目標：1:コピーライティング・タイポグラフィ・撮影等、総合的な広告制作のノウハウやスキルが身に付いている。
2:1つの着地点に対して多面的なアプローチが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト①(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第2回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト②(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第3回 | 特別授業:ラジオCMコンテスト応募にむけて |
| 第4回 | 特別授業:ラジオCMコンテスト応募にむけて |
| 第5回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト③(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第6回 | 課題1:nepiaコラボプロジェクト④(5個パックパッケージ・B1ポスターの企画制作) |
| 第7回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト①(クライアントによるオリエンテーション) |
| 第8回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト①(クライアントによるオリエンテーション) |
| 第9回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト②(イベントPRポスターの制作) |
| 第10回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト③(イベントPRポスターの制作) |
| 第11回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト④(イベントPRポスターの制作) |
| 第12回 | 課題2:地域自治体連携プロジェクト⑤「(クライアントへのプレゼンテーション) |
| 第13回 | 課題3:nepiaコラボプロジェクト①(パッケージを用いたB1ポスターへの展開) |
| 第14回 | 課題3:nepiaコラボプロジェクト②(パッケージを用いたB1ポスターへの展開) |
| 第15回 | 課題3:nepiaコラボプロジェクト③(パッケージを用いたB1ポスターへの展開) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：佐々木 律子（非常勤講師）
実務経験：デザイン会社でグラフィックデザイナーとして広告や雑誌制作に従事したのち独立。主に雑誌媒体のエディトリアルデザインに携わっている。

科目名：DTP演習Ⅲ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：制作演習を通じてInDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。小冊子制作では企画力の向上も図り、現場に即した制作のワークフローを学びながら、InDesignによる入稿を行う。

■到達目標：1: 各アプリケーションの応用技術を身に付け、制作物に応じたソフトの選択ができる。
2: InDesignの基本操作と実践的なフィニッシュワークを理解し、オペレーション出来る。
3: 冊子制作の企画立案・取材・協働作業・校正の技術を身に付けている。
4: これまで身に付けた知識と技術を活かし、制作物の完成度を高めることが出来る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | アプリケーション基礎①
(InDesignの基本操作・他のアプリケーションとの相違点・DTPのワークフロー) |
| 第2回 | アプリケーション基礎②(ドキュメント設定と文字入力) |
| 第3回 | アプリケーション基礎③(書式設定とスタイル設定) |
| 第4回 | アプリケーション基礎④(画像配置と編集) |
| 第5回 | アプリケーション基礎⑤(カラーと効果・オブジェクトの操作) |
| 第6回 | アプリケーション基礎⑥(表の制作と応用) |
| 第7回 | アプリケーション基礎⑦(復習と入稿時の諸注意点) |
| 第8回 | ブックレット制作①(チームミーティング) |
| 第9回 | ブックレット制作②(チーム企画立案・ページネーションとタイトル決定) |
| 第10回 | ブックレット制作③(実制作作業) |
| 第11回 | ブックレット制作④(実制作作業) |
| 第12回 | ブックレット制作⑤(データ仕上げ・初校) |
| 第13回 | ブックレット制作⑥(校正・データ修正) |
| 第14回 | ブックレット制作⑦(再校・データ修正) |
| 第15回 | ブックレット制作⑧(アウトライン化・データ確認・入稿データ提出) |

■教科書：世界一わかりやすいInDesign操作とデザインの教科書

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：長谷川 かおり、和田 夏美（専任教員）
実務経験：長谷川：広告制作会社にグラフィックデザイナーとして勤務。
和田：広告制作会社、印刷会社にグラフィックデザイナーとして勤務。

科目名：	DTP演習Ⅳ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：1年次で習得した各種デジタルアプリケーションの応用的使い方、卒業制作等大型作品の入稿用データ制作方法、就職活動に用いる作品ファイルの制作等について学ぶ。オフセット方式を主とした印刷に関する知識を深めるとともに、検定試験受験に対応した学習を通じてスキルの定着を目指す。

■到達目標：1：最終形態が印刷物となるデジタルデータについて制作上の注意点をセルフチェックできる。
2：制作物に応じて各種アプリケーションを組み合わせる使用ができる。
3：卒業制作や就職後の業務に対応できる技術力・デザイン力・表現力が身に付いている。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション、コンペ課題（アイデアチェック） |
| 第2回 | コンペ課題①（データ制作）、就職活動用ツール制作 |
| 第3回 | コンペ課題①（データ制作）、就職活動用ツール制作 |
| 第4回 | コンペ課題①（データ制作）、就職活動用ツール制作 |
| 第5回 | コンペ課題①（データ仕上げ）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第6回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第7回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第8回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第9回 | コンペ課題②（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第10回 | コンペ課題②（データ仕上げ）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第11回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第12回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第13回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第14回 | コンペ課題③（データ制作）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |
| 第15回 | コンペ課題③（データ仕上げ）、検定試験対策（Illustrator/Photoshop） |

■教科書：

■参考書：『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書』
『世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書』
『入稿データのつくりかた』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 朋代（非常勤講師）
実務経験：Web制作会社にWebデザイナー・ディレクターとして勤務したのち独立。主にUI設計・デザイン・WordPress構築に携わっている他、入門者向け書籍の執筆活動も行っている。

科目名：	WebデザインⅡ
------	----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

■科目概要：・PC・スマートフォンの画面サイズを意識したバナーを作成する
・IllustratorおよびPhotoshopを使って、PC向け・スマートフォン向けのデザインカンパを作成する
・DTPデザインとWebデザインの違いを知る

■到達目標：1:IllustratorおよびPhotoshopでHTML/CSSコーディングに配慮したデザインデータを制作出来る。
2:Webサイトの制作ワークフローを理解し、目的に合わせたデザイン提案ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | IllustratorによるWebデザインカンパ作成基礎 |
| 第2回 | Webサイトの画面サイズとグリッドシステム、色表現 |
| 第3回 | Webデザイントフォントの扱いと見出しの作り方 |
| 第4回 | バナー制作 |
| 第5回 | ガイドの利用方法とシェイプ作成のコツ |
| 第6回 | HTMLの文書構造とCSSの特徴、レスポンシブデザイン |
| 第7回 | スマートフォン用デザインカンパ作成 |
| 第8回 | Webデザインのレイヤー構造 |
| 第9回 | 画像の書き出し |
| 第10回 | Webサイトの背景画像、ベクター形式の画像 |
| 第11回 | デザインカンパ課題作成実習① |
| 第12回 | デザインカンパ課題作成実習② |
| 第13回 | デザインカンパ課題作成実習③ |
| 第14回 | デザインカンパ課題作成実習④ |
| 第15回 | 課題提出と講評 |

■教科書：いちばんよくわかるWebデザインの基本きちんと入門

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：引地 幸生（非常勤講師）
実務経験：広告代理店クリエイティブディレクターとして勤務後独立。現在Design Administrator（デザイン管理者）として企業ブランドに関わる商品開発やパッケージデザイン、コミュニケーションデザインなどを手掛ける。

科目名：専門技術演習A(ブランディングデザイン)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：ブランドという概念やデザインがブランドに果たす重要な役割について理解してもらうと同時に、ブランディングデザインの考え方や手順、発信方法について課題を通して学習する。
- 到達目標：1: 商品やサービスの価値や目的を理解し、魅力的に見せるための企画立案が出来る。
2: ブランディングの手法を通して幅広い発想力や表現力、企画力、プレゼンテーション力を養う。

- 授業計画：
- 第1回 ブランディングデザインとは？
 - 第2回 ブランディングの手法を学ぶ①
(ブランド・ファウンデーションとROISプリングボードを活用した方法)
 - 第3回 ブランディングの手法を学ぶ②
(ブランド・ファウンデーション(リサーチと分析)ブランド・アイデンティティの策定)
 - 第4回 ブランディングの手法を学ぶ③
(ROISプリングボード(コンセプトづくり)ブランド・ビジョンの策定)
 - 第5回 ブランディングの手法を学ぶ④
(提出・プレゼンテーション・講評)
 - 第6回 商品ブランディング①(Reデザイン)
 - 第7回 商品ブランディング②(Reデザイン)
 - 第8回 商品ブランディング③(Reデザイン)
 - 第9回 商品ブランディング④(Reデザイン)
 - 第10回 商品ブランディング⑤(プレゼンテーション・講評・提出)
 - 第11回 トータルブランディング①(企画書提出・プレゼンテーション)
 - 第12回 トータルブランディング②(実制作)
 - 第13回 トータルブランディング③(実制作)
 - 第14回 トータルブランディング④(実制作)
 - 第15回 トータルブランディング⑤(企画書提出・プレゼンテーション)

- 教科書：
- 参考書：
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 幸子（非常勤講師）
実務経験：フリーランスのアートディレクター・グラフィックデザイナー。主にアーティストやバンドのツアーグッズ等の商品企画およびアートディレクション・グラフィックデザインを担当。

科目名	専門技術演習A(アートディレクション)
-----	---------------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：トーン＆マナーの分析・考察・表現を経て、実践課題では任意の企業・商品等を設定して効果的な広告媒体やツールを考察・選定・制作するセールスプロモーション課題、応用課題ではグループワークを交えてイベントの企画立案・ビジュアル制作等、アートディレクターとして必要な考え方を段階的に学ぶ。

■到達目標：1: 属性や世界観を伝える際に重要な、トーン＆マナーを言語化・可視化することが出来る。
2: クライアントのニーズと多様な広告媒体の特性を理解し、コンセプト・ターゲットに沿ったビジュアルで表現することが出来る。
3: プロジェクトを多面的に捉え、他者に伝えるコミュニケーション力が身に付いている。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、課題1：自己紹介コラージュ① |
| 第2回 | 課題1：自己紹介コラージュ②(プレゼンテーション) |
| 第3回 | 課題2：トーン＆マナーの分析・考察・表現(雑誌媒体の表2対向見開き制作①) |
| 第4回 | 課題2：トーン＆マナーの分析・考察・表現(雑誌媒体の表2対向見開き制作②) |
| 第5回 | 課題2：トーン＆マナーの分析・考察・表現(雑誌媒体の表2対向見開き制作③) |
| 第6回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション①) |
| 第7回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション②) |
| 第8回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション③) |
| 第9回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション④) |
| 第10回 | 課題3：アートディレクション実践(セールスプロモーション⑤) |
| 第11回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション①) |
| 第12回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション②) |
| 第13回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション③) |
| 第14回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション④) |
| 第15回 | 課題4：アートディレクション応用(イベント企画とプロモーション⑤) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：小森 学（非常勤講師）
実務経験：カメラマンとして商業写真撮影スタジオ勤務数社を経て独立。主に広告写真撮影、人物写真撮影等を手掛けている。

科目名	専門技術演習A(撮影テクニック)
履修形態： 授業形態： 履修学年： 開講学期： 授業時数： 単 位：	選択 演習 2 年次 前期 6 0 時間 2 単位
■科目概要：	一眼レフカメラの基本操作・撮影方法(シャッタースピード・絞りの設定・操作等)の基礎を習得し、簡易的なライティング・レフ板・自然光の使い方などの撮影技法の応用を学び、広告制作へ使用する写真撮影の実践と写真表現への理解を深める。
■到達目標：	1: 基本技術を体得し各自のクリエイティブワークへ活かすことができる。 2: 写真をビジュアルとする場合のシチュエーション・画面構成・人物や商品の配置・表情の重要性を理解し、それらを意識した表現ができる。
■授業計画：	
第1回	撮影基礎(カメラの基本操作・フレーミング)
第2回	写真表現実習(基本操作を踏まえた表現およびスローシャッター・流し撮り等の実践)
第3回	ライティング基礎①(ストロボ1灯と各種ディフューザーを使用した効果的なライティング)
第4回	ライティング基礎②(撮影データの適切な作成とPhotoshopでのレタッチ実習)
第5回	ライティング基礎③(多灯ライティングによるライトの役割とその効果、レタッチ実習)
第6回	料理写真撮影(見せ方・シズル感・構成)
第7回	写真表現実習(ストロボ・各種ディフューザーを使用した商品撮影)
第8回	人物撮影基礎(屋外でのレフやストロボを使用したロケーション撮影、背景の選び方)
第9回	人物撮影応用(屋外ロケーションでの人物撮影)
第10回	人物撮影基礎 (スタジオライティングでの人物撮影とモデルとのコミュニケーションの取り方・気遣い)
第11回	人物撮影基礎(撮影データの適切な作成とPhotoshopでのレタッチ実習)
第12回	人物撮影応用(各自のテーマによるスタジオライティングでの人物撮影)
第13回	広告物制作(写真をメインビジュアルとした広告物の制作①)
第14回	広告物制作(写真をメインビジュアルとした広告物の制作②)
第15回	広告物制作(プレゼンテーション・講評)
■教科書：	
■参考書：	
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	
■履修上の留意点：	

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：高橋 美絵（専任教員）
実務経験：大手印刷会社包装開発部門で、ディレクターとして商品企画提案およびパッケージデザインの
アートディレクション等を担当

科目名	専門技術演習B(パッケージデザインⅡ)
-----	---------------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：市場に出回っているパッケージにはどのような種類（構造・材料・印刷方式・表面加工等）があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について、情報伝達・商品保護・販売促進等の観点から考察する。演習課題ではマーケットリサーチ・企画立案・実制作・プレゼンテーションまで行う。

■到達目標：
1: パッケージの代表的種類とその名称・構造・材料・用途を理解している。
2: パッケージが果たしている情報伝達機能について考察し実際の商品デザインに応用できる。
3: 与えられたテーマについて消費者ニーズを踏まえた企画アイデアを立案できる。
4: 制作物と提案内容についてわかりやすくまとめ、第三者へプレゼンテーションできる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・概論①(パッケージの代表的種類) |
| 第2回 | 軟包装のデザイン①(情報収集と分析) |
| 第3回 | 軟包装のデザイン②(企画立案、ラフ案制作) |
| 第4回 | 軟包装のデザイン③(データおよびダミー制作) |
| 第5回 | 軟包装のデザイン④(仕上げとプレゼンテーション) |
| 第6回 | リニューアルデザイン①(テーマ商品と競合他社についてリサーチ・分析) |
| 第7回 | リニューアルデザイン②(デザインコンセプト、ラフ案制作) |
| 第8回 | リニューアルデザイン③(データおよびダミー制作) |
| 第9回 | リニューアルデザイン④(データおよびダミー制作) |
| 第10回 | リニューアルデザイン⑤(仕上げとプレゼンテーション) |
| 第11回 | 概論②(紙器の構造・用紙・展開図・組立・表面加工) |
| 第12回 | 紙器のギフト商品企画①(地元商材を活用したギフト商品の企画立案) |
| 第13回 | 紙器のギフト商品企画②(図面と試作) |
| 第14回 | 紙器のギフト商品企画③(データおよびダミー制作) |
| 第15回 | 紙器のギフト商品企画④(仕上げとプレゼンテーション) |

■教科書：

■参考書：パッケージデザインマーケティング、箱の設計

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：どこで、誰が、どんな商品を買っているのか、作り手と消費者をつなぐために必要な情報は何か、売り場へ積極的に足を運び、多くの事例を通して探求し、試行錯誤することを求めます。

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：木野村 博人（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社、印刷会社デザイン部にグラフィックデザイナーとして勤務したのち独立。主にグラフィックデザイン・ブックエディトリアル・パッケージ・CI・サイン等を手掛けている。

科目名：	専門技術演習B(広告プランニング)
------	-------------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

■科目概要：コピーライティング・セールスプロモーション・キャンペーンプランニング等、広告プランニングの基本的な考え方と総合的なノウハウとテクニックを身に付け、成功へ導くためには誰にどのようなものを届けるのがベストなのか、リーダーシップが取れる人材を育成する。

■到達目標：1: アートとデザインの違いを理解し、人に喜んでもらうことの重要性を理解している。
2: 一人で作ること、チームで作ることの意味を理解し、話し合いをまとめる力が身に付いている。
3: 説得力のある企画書とプレゼン力が身に付いている。
4: 従来の物事に捉われない自由な発想ができる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション、グループワーク(様々な広告媒体の特性を考える) |
| 第2回 | 課題1: 商品開発とパッケージ①(チーム会議とアイディア出し) |
| 第3回 | 課題1: 商品開発とパッケージ②(コピーとネーミング) |
| 第4回 | 課題2: ワンコピー・ワンビジュアル広告①(コピーワーク・アイディア出し) |
| 第5回 | 課題2: ワンコピー・ワンビジュアル広告②(発想・表現・制作) |
| 第6回 | 課題2: ワンコピー・ワンビジュアル広告③(仕上げ・提出) |
| 第7回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備①(アイディア出し・企画書作成) |
| 第8回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備②(発想・表現・制作) |
| 第9回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備③(発想・表現・制作) |
| 第10回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備④(発想・表現・制作) |
| 第11回 | 課題3: 新店舗開店に向けた全準備⑤(仕上げ・提出・プレゼンテーション) |
| 第12回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング①(アイディア出し・企画書作成) |
| 第13回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング②(発想・表現・制作) |
| 第14回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング③(発想・表現・制作) |
| 第15回 | 課題4: キャンペーン広告プランニング④(仕上げ・提出・プレゼンテーション) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：グラフィックデザイン専攻
担当教員：種村 美穂（非常勤講師）
実務経験：デザイン工房を主催し、デザイナーおよび職人として主にサインデザイン・シルクスクリーン印刷等を手掛ける。北海道美術協会・北海道版画協会会員。

科目名：専門技術演習B(シルクスクリーン)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：水性インクを用いて布にパターンデザインを展開する・油性インクを用いて紙に多色刷りを展開する等、シルクスクリーンの基本技術の習得および印刷特性を踏まえた効果的表現について考察する。また多色刷り中型作品は公募展への出品を想定。
- 到達目標：1:リピータ性を活かしたオリジナリティーのあるパターンデザインと配色の工夫ができる。
2:グラデーションや版の位置合わせができ、構図や配色のバランスを考えた表現ができる。
3:公募展出品に向け、伸びやかさとオリジナリティーのある表現を工夫できる。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題1：布にパターンを刷る①(手ぬぐいのデザイン・製版準備)
- 第3回 課題1：布にパターンを刷る②(製版・調色)
- 第4回 課題1：布にパターンを刷る③(刷り・落版・提出)
- 第5回 課題2：紙に多色で刷る①(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第6回 課題2：紙に多色で刷る②(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第7回 課題2：紙に多色で刷る③(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第8回 課題2：紙に多色で刷る④(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第9回 課題2：紙に多色で刷る⑤(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第10回 課題2：紙に多色で刷る⑥(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第11回 課題2：紙に多色で刷る⑦(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第12回 課題2：紙に多色で刷る⑧(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第13回 課題2：紙に多色で刷る⑨(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第14回 課題2：紙に多色で刷る⑩(公募展出品に向けた中型作品の制作)
- 第15回 課題2：紙に多色で刷る⑪(作品仕上げ・提出)

- 教科書：
- 参考書：
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 産業デザイン学科 イラストレーション専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
デザイン演習Ⅰ	○		1年・前期	60
デザイン演習Ⅱ	○		1年・後期	60
デザイン演習Ⅲ	○		2年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅱ	○		1年・後期	60
DTP演習Ⅲ	○		2年・前期	60
デジタルイラストⅠ	○		1年・前期	60
デジタルイラストⅡ	○		1年・後期	30
イラストレーション演習	○		1年・前期	60
キャラクターデザイン	○		2年・前期	60
英語	○		1年・前期	30
合計				600

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：後藤 精二、渡邊 智美（非常勤講師）
実務経験：後藤：デザイナー・アートディレクターとして広告代理店勤務後、広告制作会社を経営。
渡邊：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとして広告制作を担当

科目名：	デザイン演習Ⅰ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：大別すると、デザインとは他者支援（誰かのためにモノ・コトを丁寧に作り上げること）、芸術とは自己表現（自分の満足のためにモノ・コトを丁寧に作り上げること）を理解しイラストレーションを基礎造形的な観点から考え、その後コンセプトからアイデアへの転換。構成学的な論理性を基本に、さまざまなイラストレーションを描くことの基本を学修する。

■到達目標：①誰に、何を、どう伝えるかなど論理的に考えること、デザイン及びイラストレーションコンセプトの理解
②グリット・比例分割などを使ったイラストレーションの構成を考える力の醸成。
③平面構成から立体構成への論理的な理解。
④完成作品発表によるプレゼンテーション能力の醸成。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 概念の理解 |
| 第2回 | 伝える＜文例を図解する＞ |
| 第3回 | 点・線・面の表現Ⅰ-1＜奥行き・リズム・整列・集中・流れ・空間＞ |
| 第4回 | 点・線・面の表現Ⅰ-2＜奥行き・リズム・整列・集中・流れ・空間＞ |
| 第5回 | 点・線・面の表現Ⅱ-1＜面により立体を感じさせる表現＞ |
| 第6回 | 点・線・面の表現Ⅱ-2＜面により立体を感じさせる表現＞ |
| 第7回 | 単化形成＜ピクトグラムの作成＞ |
| 第8回 | 単化形成＜ピクトグラムの作成＞ |
| 第9回 | グリット構成(1)＜プロポーショングリットを使ったイラスト構成＞ |
| 第10回 | グリット構成(2)＜プロポーショングリットを使ったイラスト構成＞ |
| 第11回 | グリット構成(3)＜プロポーショングリットを使ったイラスト構成＞ |
| 第12回 | 図解Ⅰ-2＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |
| 第13回 | 図解Ⅰ-2＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |
| 第14回 | 図解Ⅰ-3＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |
| 第15回 | 図解Ⅰ-4＜イラストレーション・文字・情報の組み合わせ＞ |

■教科書：2020授業資料：How to Graphic design & Illustration

■参考書：Illustrator操作とデザインの教科書Photoshop操作とデザインの教科書、配色アイデア手帳、あるあるデザイン

■成績評価：出席状況・取り組み姿勢・提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP演習Ⅰ・色彩演習

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：後藤 精二、渡邊 智美（非常勤講師）
実務経験：後藤：デザイナー・アートディレクターとして広告代理店勤務後、広告制作会社を経営。
渡邊：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとして広告制作を担当

科目名	デザイン演習Ⅱ
-----	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要： 広告制作の基本を実践に即した形で行う。頭脳でイメージする事に見える化・PC作業による具現化をするための資料集め・アイディア出し・コンセプトメイキング・ラフレイアウト・PCによるレイアウト・効果的なフォント選びなど、基本的な技術を学修。
同時に進級制作に必要なプレゼンテーション能力も醸成。

■到達目標： ①PC環境に慣れ現場に近い技術の習得。
②広告作りに必要な、論理的にイラストレーションとタイポグラフィの構成を考える力の醸成。
③タイポグラフィの感性的理解・論理的理解。
④課題完成作品発表によるプレゼンテーション能力の醸成。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 広告・コンセプトについてⅠ（グループ学習） |
| 第2回 | タイポグラフィⅠ（グループ学習） |
| 第3回 | タイポグラフィⅡ＜テキストツールの使い方＞ |
| 第4回 | グリット構成(4)＜プロポーショングリットを使った写真と文字の構成＞ |
| 第5回 | グリット構成(5)＜プロポーショングリットを使った写真と文字の構成＞ |
| 第6回 | 雑誌広告A4全頁(1) |
| 第7回 | 雑誌広告A4全頁(2) |
| 第8回 | 雑誌広告A4全頁(3) |
| 第9回 | 雑誌広告A4全頁(4) |
| 第10回 | 進級制作課題(1) |
| 第11回 | 進級制作課題(2) |
| 第12回 | 進級制作課題(3) |
| 第13回 | 進級制作課題(4) |
| 第14回 | 進級制作課題(5) |
| 第15回 | 進級制作課題(6) |

■教科書： 2020授業資料:How to Graphic design & Illustration

■参考書： Illustrator操作とデザインの教科書 Photoshop操作とデザインの教科書、配色アイディア手帳、あるあるデザイン

■成績評価： 出席状況・取り組み姿勢・提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目： DTP演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：重泉 正紀、渡邊 智美（非常勤講師）
実務経験：重泉：大手ゲーム開発企業、デザイン事務所等に所属。現在はWeb制作企業代表取締役。
渡邊：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとして広告制作を担当

科目名：	デザイン演習Ⅲ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：
- ・アイデアの出し方、さまざまな連想法を学び、ラフスケッチからPC作業で具現化できるよう指導する。
 - ・「何のために、何を、誰に、どう伝えたいか」を考えながら制作に向き合えるよう訓練する。
 - ・コンセプト、レイアウト、ビジュアルの考え方や作り方、適したフォント選びなど、PC作業（主にIllustrator）のスキルが上がるよう促す。
 - ・提出する際にはプレゼンを行い、物怖じせずにコンセプトやデザインの考え方をしっかりと伝えるよう訓練する。
- 到達目標：
- ・どのような条件でもアイデアを出せる柔軟な発想を身につける。
 - ・何を伝えるのが一番大切なのかを的確にとらえ、自由な発想でデザインすることができる。
 - ・アイデアだけに満足せず、文字組みなど細部まで気を使えるようになる。即戦力として現場でも役立つスキルを身につける。
 - ・プレゼンに慣れ、どう話せば伝わりやすいのかを考えられるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・課題1 雑誌広告(1) |
| 第2回 | 課題1 雑誌広告(2) |
| 第3回 | 課題1 雑誌広告(3) |
| 第4回 | 課題2 ロゴマーク(1) |
| 第5回 | 課題2 ロゴマーク(2) |
| 第6回 | 課題2 ロゴマーク(3) |
| 第7回 | 課題2 ロゴマーク(4) |
| 第8回 | 課題3 新生活応援マップ(1) |
| 第9回 | 課題3 新生活応援マップ(2) |
| 第10回 | 課題3 新生活応援マップ(3) |
| 第11回 | 課題4 新生活のキャンペーンチラシ(1) |
| 第12回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(2) |
| 第13回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(3) |
| 第14回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(4) |
| 第15回 | 課題4 携帯会社のキャンペーンチラシ(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：吉岡 彰、小守 芹奈、成田 千尋（非常勤講師）
実務経験：吉岡：大手印刷会社にてデザイン・イラストの仕事に携わった後、デザイン事務所で広告や官公庁・教育機関向けの漫画などを制作。退職後はフリーランスとして学習漫画の制作も手がける。日本漫画家協会会員。
小守：アニメーション会社にてアニメーション・イラストの仕事に携わった後、ゲーム会社でUIデザインなどのデザイン制作を担当、退職後フリーランスとして活躍。
成田：大手ゲーム会社でデザイナーとしてキャラクター制作を担当、退職後フリーランスとしてwebコミック制作を担当。

科目名	デジタルイラストⅠ
-----	-----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：イラストレーション制作において現場での利用率が高まっているPC、ペンタブレットを用いたデジタルイラストについて基礎から応用まで実際に制作しながら習得を図る。ゲームキャラクター、背景イラスト、電子コミック、コミックキャラクターなど幅広い課題に取り組む。

■到達目標：ペンタブレット・クリップスタジオの基本操作。
人物の描き分け、基本的なパースを理解した作画。
専門課題A（吉岡） デフォルメを生かした擬人化キャラクターの作画

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | CLIP STUDIO PAINT チュートリアル① / ペンタブレット チュートリアル |
| 第2回 | CLIP STUDIO PAINT チュートリアル② |
| 第3回 | CLIP STUDIO PAINT チュートリアル③ /プレゼンテーション |
| 第4回 | 人物描き分け①:年齢差、体格の異なる4～5名を配置し描き分ける |
| 第5回 | 人物描き分け② |
| 第6回 | 人物描き分け③ |
| 第7回 | 人物描き分け④ |
| 第8回 | 風景とパース①:クリスタのパース定規の訓練 建物を描き、前景に人物を配置 |
| 第9回 | 風景とパース② |
| 第10回 | 風景とパース③ |
| 第11回 | 風景とパース④ |
| 第12回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)①: |
| 第13回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)② |
| 第14回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)③ |
| 第15回 | 専門課題A コミックイラスト(擬人化とデフォルメ)④ |

■教科書：360度どんな角度もカンペキマスター! マンガキャラデッサン入門(西東社)

■参考書：必修CLIPSTUDIOPAINTマスター(株式会社オブラゴン)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 産業デザイン学科
対象専攻: イラストレーション専攻
担当教員: 吉岡 彰、小守 芹奈、成田 千尋 （非常勤講師）
実務経験: 吉岡：大手印刷会社にてデザイン・イラストの仕事に携わった後、デザイン事務所で広告や官公庁・教育機関向けの漫画などを制作。退職後はフリーランスとして学習漫画の制作も手がける。日本漫画家協会会員。
 小守：アニメーション会社にてアニメーション・イラストの仕事に携わった後、ゲーム会社でUIデザインなどのデザイン制作を担当、退職後フリーランスとして活躍。
 成田：大手ゲーム会社でデザイナーとしてキャラクター制作を担当、退職後フリーランスとしてwebコミック制作を担当。

科目名：

デジタルイラストⅡ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 後期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

■科目概要： デジタルイラスト専門課題に取り組み、デジタル描画力をつける。

■到達目標： 専門課題B（高橋） パース定規を用いた建物を作画し風景描画力をつける。または、カードゲームキャラクターをデザインし描画する。
 専門課題C（成田） webマンガcomicoと企業連携し、ストーリーまで含めた「ネーム賞」またはデジタル作画のみ行う「作画賞」いずれかにエントリーし学内コンペとして競う。

■授業計画：

第1回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター①:
第2回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター②
第3回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター③
第4回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター④
第5回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター⑤
第6回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター⑥
第7回	専門課題B 風景 または カードゲームキャラクター⑦
第8回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞①
第9回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞②
第10回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞③
第11回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞④
第12回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑤
第13回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑥
第14回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑦
第15回	専門課題C comicoネーム賞 または comico作画賞⑧

■教科書： 360度どんな角度もカンペキマスター! マンガキャラデッサン入門(西東社)

■参考書： comico デジタル漫画のテクニック 2nd (comico編集部)

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：ゴトウ マキエ（非常勤講師）
実務経験：印刷会社にてイラストレーター、編集デザインを担当。退社後はフリーイラストレーターとして活動。

科目名：	DTP演習 I
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：デザイン制作で必要不可欠となったデジタル技術をDTPの知識やアプリケーションとともに学習する。前半はillustratorを使用してグラフィック技術を学びながらデジタルの操作感に慣れていくことを基本とし、後半はDTPの知識やルール、Photoshopによる画像生成の基本を学ぶことや印刷物制作を通して実務的なDTPワークフローを実習する。その他にPC以外のDTP関連の周辺機器の正しい取り扱いと操作を実習し制作に活用できるようにする。

■到達目標：

- ・DTP、印刷工程の知識の習得
- ・DTPアプリケーション（illustratorおよびPhotoshop）の基本操作の習得
- ・アプリケーションとデジタル機器類の連携操作を理解したデザイン制作ができる

■授業計画：

第1回	DTP概要・デジタル基礎
第2回	illustrator基礎(1)
第3回	illustrator基礎(2)
第4回	illustrator基礎(3)
第5回	illustrator基礎(4)
第6回	illustrator基礎(5)
第7回	illustrator基礎(6)
第8回	illustrator基礎(7)
第9回	illustrator基礎(8)
第10回	illustrator基礎(9)
第11回	illustrator基礎(10)
第12回	illustrator基礎(11)
第13回	文字デザイン課題(1)
第14回	文字デザイン課題(2)
第15回	文字デザイン課題(3)

■教科書：Illustrator操作とデザインの教科書 Photoshop操作とデザインの教科書

■参考書：配色アイディア手帳、あるあるデザイン

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：五十嵐 志保子（非常勤講師）
実務経験：企業にてCGソフトのテクニカルサポートやオペレーターを経てフリーのCGオペレーターとして活動。

科目名：	DTP演習Ⅱ
------	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：前期で習得したDTP知識、Illustrator基礎操作を踏まえた上でPhotoshopの基礎を学ぶことでDTPワークフローでのそれぞれの役割を把握し円滑な印刷媒体制作ができるようになる。印刷セミナーを通して印刷行程の理解を深めたり、カメラ撮影実習を通しデジタル画像の作成操作などをDTP制作に活用できるようにする。

■到達目標：・Photoshopの基礎の習得 ・Illustrator とPhotoshopの連携や他の機器類の操作を通じてDTPワークフローの理解を深めスキルアップする ・媒体制作やポートフォリオ素材用の画像撮影方法や補正などの画像制作ワークフローの理解と習得

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 印刷・入稿 |
| 第2回 | Photoshop基礎1 |
| 第3回 | Photoshop基礎2 |
| 第4回 | Photoshop基礎3 |
| 第5回 | 撮影実習(2-1) |
| 第6回 | 撮影実習(2-2) |
| 第7回 | Photoshop基礎4(2-1) |
| 第8回 | Photoshop基礎4(2-2) |
| 第9回 | 印刷物実践(4-1) |
| 第10回 | 印刷物実践(4-2) |
| 第11回 | 印刷物実践(4-3) |
| 第12回 | 印刷物実践(4-4) |
| 第13回 | 印刷実習(2-1) |
| 第14回 | 印刷実習(2-2) |
| 第15回 | 課題講評 |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 世界一わかりやすいPhotoshop操作とデザインの教科書、デザイン。知らないと困る現場の新100のルール、あるあるデザイン 他

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：五十嵐 志保子（非常勤講師）
実務経験：企業にてCGソフトのテクニカルサポートやオペレーターを経てフリーのCGオペレーターとして活動。

科目名：DTP演習Ⅲ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：1年時で得たスキルをベースに課題制作で実践的に使用して自己スキルの確認をしながら、実務で求められる知識やスキルの充足を計る。媒体制作に使用できるクオリティのあるモチーフ画像の撮影や補正など画像作成ワークフローの実践。InDesignの基礎を学び、ページレイアウトの概念及びDTPの制作環境の理解を深める。

■到達目標：・正確な印刷媒体のデータ作成の知識と各アプリケーション操作の確実な定着
・印刷媒体ごとの規格の違いやポイントを掴み、進路につながる自己表現、技術を追求した制作ができる

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | InDesign基礎1 |
| 第2回 | InDesign基礎2 |
| 第3回 | InDesign基礎3 |
| 第4回 | InDesign基礎4 |
| 第5回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-1) |
| 第6回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-2) |
| 第7回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-3) |
| 第8回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-4) |
| 第9回 | デジタルワーク1 プロモーションツール①(5-5) |
| 第10回 | デジタルワーク2 プロモーションツール②(2-1) |
| 第11回 | デジタルワーク2 プロモーションツール②(2-2) |
| 第12回 | デジタルワーク3 カタログ(4-1) |
| 第13回 | デジタルワーク3 カタログ(4-2) |
| 第14回 | デジタルワーク3 カタログ(4-3) |
| 第15回 | デジタルワーク3 カタログ(4-4) |

■教科書：世界一わかりやすい操作とデザインの教科書
デザイン。知らないと困る現場の新・100のルール 他

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：池田 蔵人（非常勤講師）
実務経験：広告制作会社にてグラフィックデザイナーとしてキャラクター・イラストレーションの作画を担当、現在はフリーランスとして雑誌カット、絵本、広告イラスト、グッズ制作を行う。

科目名：イラストレーション演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：
- ・新聞、雑誌、ポスター、パンフレット等の広告媒体で使用するイラストレーションの役割を理解し、表現方法や技術を習得。
 - ・独りよがりではない、受け手にメッセージがしっかりと届くイラスト表現を身につける。
 - ・アイデア出しやイメージの膨らませ方をトレーニングする。
 - ・クライアントや読み手を意識したイラストを制作。

- 到達目標：
- ・Illustratorを使用したデジタルイラストの技術を習得。
 - ・クライアントが求める様々な要望を理解し、オリジナリティのあるイラストを制作できるようになる。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(1) |
| 第3回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(2) |
| 第4回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(3) |
| 第5回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(4) |
| 第6回 | ひろおサンタメール第3回イラスト公募(5) |
| 第7回 | 円山動物園ポストカードデザイン(1) |
| 第8回 | 円山動物園ポストカードデザイン(2) |
| 第9回 | 円山動物園ポストカードデザイン(3) |
| 第10回 | 円山動物園ポストカードデザイン(4) |
| 第11回 | 円山動物園ポストカードデザイン(5) |
| 第12回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(1) |
| 第13回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(2) |
| 第14回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(3) |
| 第15回 | ユーザーに意識したタッチの描きわけ(4) |

■教科書：

■参考書：心おどるイラスト×伝わるデザイン(PIE)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：藤岡 照也、ゴトウ マキエ（非常勤講師）
実務経験：藤岡：広告代理店でアートディレクターとして印刷物全般のデザインの他、市町村要覧やご当地キャラクターを担当
ゴトウ：印刷会社にてイラストレーター、編集デザインを担当。退社後はフリーイラストレーターとして活動。

科目名：キャラクターデザイン

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：キャラクターの基本的な概要を理解し、個性的で広く一般に受け入れられるバランスの良いキャラクターを追求し、多数のアイデアの中から作成する。さらに、商品化、広告やグッズ展開など、お客様のニーズに合わせたバリエーションゆたかなキャラクターを最終的に企画書レベルで設定、制作し、コンペなどにも積極的に参加する。

■到達目標：クライアントが何を望んでいるかを理解でき、それをスピーディーに形に出来る。
キャラクターをどのような手順で展開して媒体化するか、理解する。
キャラクターをさらに効果的に見せるポーズやアクション、紙面での見せ方を理解できる。

■授業計画：

- 第1回 基礎知識と授業の最終目標
- 第2回 取材→テーマパークキャラクター制作(1)
- 第3回 制作(2)
- 第4回 制作(3)
- 第5回 制作(4)・提出
- 第6回 プレゼンテーション
- 第7回 上川町キャラクター制作(1)
- 第8回 上川町市町村キャラクター制作(2)
- 第9回 上川町市町村キャラクター制作(3)
- 第10回 上川町市町村キャラクター制作(4)
- 第11回 取材→企画→制作
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 キャラクターコンペ課題制作(1)リサーチ→市場把握
- 第14回 取材→企画→制作(2)
- 第15回 商品化

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：産業デザイン学科
対象専攻：イラストレーション専攻
担当教員：宮崎 昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：英語

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。

■到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む。

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書：プリント配布

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 マルチメディアデザイン学科
CG・Webデザイン専攻 / Web・動画クリエイター専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
ベーシックデザイン	○		1年・前期	60
Photoshop基礎	○		1年・前期	60
デザイン概論 I	○		1年・前期	60
Webコーディング基礎 I	○		1年・前期	30
Webコーディング基礎 II	○		1年・前期	60
映像制作基礎	○		1年・前期	60
Photoshop応用	○		1年・後期	30
UIデザイン	○		1年・後期	30
デザイン概論 II	○		1年・後期	60
Webコーディング応用 I	○		1年・後期	60
Webコーディング応用 II	○		1年・後期	30
映像制作応用	○		1年・後期	60
専門技術演習 I				
モーショングラフィックス		○	2年・前期	60
デジタルエフェクト				
専門技術演習 II				
CMS演習		○	2年・前期	60
ゲームエンジン演習				
専門技術演習 III				
Webインタラクティブ I		○	2年・前期	60
3DCGビジュアライゼーション I				
専門技術演習 IV				
Webインタラクティブ II		○	2年・前期	60
3DCGビジュアライゼーション II				
英会話	○		1年・前期	30
合 計				870

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 山本 睦子 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作プロダクション勤務を経て、現在はアートディレクター。
企業、高等教育機関等のアドバタイジングデザイン等を担当。

科目名： **ベーシックデザイン**

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： 鉛筆や定規など、デザイン道具の正しい使い方の学習
平面構成の演習を通じ情報やメッセージを伝達する基礎的手段を身につける
- 到達目標： 伝達したい事柄に対し、その手段について考えを巡らせることができる
デザインの道具を正しく使い、思考を目に見える形に表すことができる

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション／授業内容 日程 進め方 自己紹介 |
| 第2回 | 道具紹介／道具について |
| 第3回 | デザイン道具を使ってみる ペーパークラフトの組み立て |
| 第4回 | デザイン基礎知識① コラージュ技法を使い平面構成を体験 |
| 第5回 | デザイン基礎知識② ビジュアル表現方法とレイアウトを学ぶ |
| 第6回 | デザイン基礎技術力① 作品制作 |
| 第7回 | デザイン基礎技術力② カラーコピーを理解 |
| 第8回 | デザイン基礎技術力③ 文字をレイアウトするスキルの必要性和理解 |
| 第9回 | デザイン基礎技術力④ 円山動物園オリジナルグッズトートバッグをつくる |
| 第10回 | デザイン基礎技術力⑤ 作品制作 |
| 第11回 | デザイン基礎技術力⑥ 講評会 |
| 第12回 | デザイン基礎技術力① 校外学習 クロッキー |
| 第13回 | デザイン基礎技術力② 水彩色えんぴつを使ったモダンアート技法を学ぶ |
| 第14回 | デザイン基礎技術力③ 講評会 |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名：	Photoshop基礎
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： Photoshop操作の基本を学習
ワークフローの構築、必要な作業時間の見積、スケジュール立ての習得
- 到達目標： 基本操作の理解・習得
ワークフロー・スケジュールを意識した制作ができるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション／本講義の概要と今後の課題と提出方法などの説明 |
| 第2回 | レイヤー操作・編集・仕上げ① 概念、操作法 |
| 第3回 | レイヤー操作・編集・仕上げ② 作品完成までの流れを実践 |
| 第4回 | 写真合成・加工 基本 ①写真合成の基本操作 |
| 第5回 | 写真合成・加工 基本 ②各種選択範囲コマンドとマスクの概念 |
| 第6回 | 写真合成・加工 応用①各自解釈でファンタジー世界のリアルな風景を作る |
| 第7回 | 写真合成・加工 応用②マスク・調整レイヤー・フィルターの理解 |
| 第8回 | 写真合成・加工 応用③レンズやライティングなどの仕上げ作業を掘り下げ |
| 第9回 | 写真合成・加工 応用④仕上げ プレゼン・講評 |
| 第10回 | 広告ビジュアル①レイヤースタイル・テクスチャの使い分け |
| 第11回 | 広告ビジュアル②フィルタ・アピアランスの使い分け |
| 第12回 | 広告ビジュアル③ビジュアル＋テキストで広告を製作する |
| 第13回 | 広告ビジュアル④アイコン・テキスト制作 |
| 第14回 | 広告ビジュアル⑤ゲーム画面(ビジュアル)も制作 |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名：	デザイン概論 I
------	----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Webデザインの基本的なレイアウト、様々な表現方法を学習

■到達目標： Webデザインにおける基本的な知識と技術を習得

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／デザインの目的について解説。
- 第2回 Webデザイン基礎①バナー広告の研究
- 第3回 Webデザイン基礎②WEBデザインの研究
- 第4回 Webデザイン基礎③サイト制作フロー
- 第5回 Webデザイン基礎④文字で変わるデザインの印象
- 第6回 練習課題① 既存PCサイトのスマホ版レイアウトを計画
- 第7回 練習課題② ワイヤフレーム作成
- 第8回 練習課題③ 実データ作成
- 第9回 練習課題④ バリエーション作成
- 第10回 広告制作① テーマ、ターゲットの設定
- 第11回 広告制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作
- 第12回 広告制作③ デザイン性とユーザビリティを兼ね備えたレイアウトを検討
- 第13回 広告制作④ 仕上げ
- 第14回 広告制作⑤ プレゼンテーション 講評
- 第15回 授業のまとめ

■教科書： いちばんよくわかるWebデザインの基本(SBCreative)

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング基礎 I
------	----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： テーマに沿ったWebサイトを自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する

■到達目標： HTMLとCSSで構成されたWebサイトデータ制作
「Webクリエイター能力認定試験」(9月予定)の合格

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／インターネットとWebサイトの理解
- 第2回 HTML・CSSコーディングの基礎① HTMLのタグ、CSSのプロパティを学習
- 第3回 HTML・CSSコーディングの基礎② カラーコードについての解説
- 第4回 HTML・CSSコーディングの基礎③ 簡単な装飾画像を制作
- 第5回 Webサイトのデザイン制作① 装飾用画像の制作・取り込みなどを体験
- 第6回 Webサイトのデザイン制作② HTMLとCSSの関係を理解
- 第7回 Webサイトのデザイン制作③ ファイルのディレクトリ構造を正しく認識
- 第8回 Webサイトのデザイン制作④ Webサイトに最適な画像データの取得を理解
- 第9回 サイトデザイン評価① 良質なWebデザインを調査・分析
- 第10回 サイトデザイン評価② 評価レポート作成
- 第11回 サイトデザイン評価③ プレゼンテーション
- 第12回 Webクリエイター能力認定試験①
- 第13回 Webクリエイター能力認定試験②
- 第14回 Webクリエイター能力認定試験③
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書： Webクリエイター能力認定試験HTML5対応 スタンダード公式テキスト

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング基礎 II
------	-----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： テーマに沿ったWebサイトを自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する

■到達目標： HTMLとCSSで構成されたWebサイトデータ制作
「Webクリエイター能力認定試験」(9月予定)の合格

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／インターネットとWebサイトの理解
- 第2回 HTML・CSSコーディングの基礎① HTMLのタグ、CSSのプロパティを学習
- 第3回 HTML・CSSコーディングの基礎② カラーコードについての解説
- 第4回 HTML・CSSコーディングの基礎③ 簡単な装飾画像を制作
- 第5回 Webサイトのデザイン制作① 装飾用画像の制作・取り込みなどを体験
- 第6回 Webサイトのデザイン制作② HTMLとCSSの関係を理解
- 第7回 Webサイトのデザイン制作③ ファイルのディレクトリ構造を正しく認識
- 第8回 Webサイトのデザイン制作④ Webサイトに最適な画像データの取得を理解
- 第9回 サイトデザイン評価① 良質なWebデザインを調査・分析
- 第10回 サイトデザイン評価② 評価レポート作成
- 第11回 サイトデザイン評価③ プレゼンテーション
- 第12回 Webクリエイター能力認定試験①
- 第13回 Webクリエイター能力認定試験②
- 第14回 Webクリエイター能力認定試験③
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書： Webクリエイター能力認定試験HTML5対応 スタンダード公式テキスト

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作基礎
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： AfterEffectsの基本操作を学ぶ

■到達目標： キーフレームアニメーションの基本を理解する
エフェクトを効果的に使用した映像を作成できるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | AfterEffectsの基礎 AfterEffectsについての解説。各パネルの役割について。 |
| 第2回 | トランスフォーム(1) トランスフォームの把握。 |
| 第3回 | トランスフォーム(2) アンカーポイントを用いたモーション。 |
| 第4回 | トランジション |
| 第5回 | マスク・パスアニメーション |
| 第6回 | パスのトリミング |
| 第7回 | 音楽にあわせた編集 |
| 第8回 | 文字のオフセット |
| 第9回 | 文字アニメーション編集 |
| 第10回 | エフェクトの解説 |
| 第11回 | 手書き風アニメーション |
| 第12回 | 3Dレイヤー(1) |
| 第13回 | 3Dレイヤー(2) |
| 第14回 | アイキャッチ(1) |
| 第15回 | アイキャッチ(2) |

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名：	Photoshop応用
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： レイアウト・見せ方・伝えることの意識を知る
様々なデザイン・イラストの構成や加工を学ぶ
- 到達目標： 自ら考え学び、それを作品に落とし込むことができるようになる
Photoshopクリエイター能力認定試験合格相当の知識と技術を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 写真合成・加工 発展① |
| 第2回 | 写真合成・加工 発展② |
| 第3回 | 写真合成・加工 発展③ |
| 第4回 | 写真合成・加工 発展④ |
| 第5回 | 写真合成・加工 発展⑤ |
| 第6回 | 広告ビジュアル2① |
| 第7回 | 広告ビジュアル2② |
| 第8回 | 広告ビジュアル2③ |
| 第9回 | 広告ビジュアル2④ |
| 第10回 | 広告ビジュアル2⑤ |
| 第11回 | 広告ビジュアル2⑥ |
| 第12回 | 検定対策① Photoshopクリエイター能力認定試験対策授業 |
| 第13回 | 検定対策② サンプル問題を活用し実技・実践問題の練習 |
| 第14回 | 検定対策③ 作業を効率的に進めることができる実践的なスキルを習得する |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書： Photoshopクリエイター能力認定試験問題集

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 重泉 正紀 (非常勤講師)
実務経験： 大手ゲーム開発企業、デザイン事務所等に所属。現在はWeb制作企業代表取締役。
雑誌広告制作、ゲームグラフィックデザイン、Webサイト企画・制作・運用等を担当。

科目名： UIデザイン

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： UIデザインの理解と活用について知る
ユーザビリティとは何かを学ぶ

■到達目標： UIデザインおよびユーザビリティを正しく理解する

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムの理解
- 第3回 タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムの理解
- 第4回 CI、VIの理解
- 第5回 アイコン表示によるUI作成(1)
- 第6回 アイコン表示によるUI作成(2)
- 第7回 アイコン表示によるUI作成(3)
- 第8回 インターフェイスの理解
- 第9回 UIによる情報表示(1)
- 第10回 UIによる情報表示(2)
- 第11回 UIによる情報表示(3)
- 第12回 UIによる情報表示(4)
- 第13回 動的画面の作成(1)
- 第14回 動的画面の作成(2)
- 第15回 動的画面の作成(3)

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名： デザイン概論 II

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Webデザインの理解 ユーザビリティを考慮したデザイン制作

■到達目標： Webデザインおよびユーザビリティへの応用力習得

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／デザイン応用概論
- 第2回 ティザーサイト化① 企画、ターゲット設定
- 第3回 ティザーサイト化② ワイヤフレーム制作
- 第4回 ティザーサイト化③ 実制作
- 第5回 ティザーサイト化④ ブラッシュアップ
- 第6回 ティザーサイト化⑤ プレゼンテーション 講評
- 第7回 デザインリニューアル① 情報収集
- 第8回 デザインリニューアル② コンセプトの決定
- 第9回 デザインリニューアル③ ワイヤフレーム作成
- 第10回 デザインリニューアル④ 実データ作成
- 第11回 デザインリニューアル⑤ 実データ作成
- 第12回 デザインリニューアル⑥ 実データ作成
- 第13回 デザインリニューアル⑦ ブラッシュアップ
- 第14回 デザインリニューアル⑧ プレゼンテーション 講評
- 第15回 授業のまとめ

■教科書： いちばんよくわかるWebデザインの基本(SBCreative)

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。
現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング応用 I
------	----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： テーマに沿ったWebサイトを生徒自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する

■到達目標： CSS(スタイルシート)を駆使した効果的なWebサイト制作の手法を身につける
HTMLとCSSの適切なコーディング技術を身につける
演出として効果的なjQuery (JavaScript) の活用方法とデータ制作を行う

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | HTML・CSSコーディングの応用① HTML・CSSの復習 |
| 第2回 | HTML・CSSコーディングの応用② HTML・CSSの応用 |
| 第3回 | jQueryの活用① 効果的な演出 |
| 第4回 | jQueryの活用② いくつかの機能 |
| 第5回 | Webサイトのデザイン制作① リニューアルデザインを企画 |
| 第6回 | Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作 |
| 第7回 | Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作 |
| 第8回 | Webサイトのデザイン制作④ 完成 |
| 第9回 | Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション |
| 第10回 | Webサイトのデザイン制作① 特設サイトデザインを企画 |
| 第11回 | Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作 |
| 第12回 | Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作 |
| 第13回 | Webサイトのデザイン制作④ 完成 |
| 第14回 | Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。
現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	Webコーディング応用 II
------	-----------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： テーマに沿ったWebサイトを生徒自身でデザイン・レイアウトしてHTML・CSSを使ってサイトデータを制作する
- 到達目標： CSS(スタイルシート)を駆使した効果的なWebサイト制作の手法を身につける
HTMLとCSSの適切なコーディング技術を身につける
演出として効果的なjQuery(JavaScript)の活用方法とデータ制作を行う

■授業計画：

- 第1回 HTML・CSSコーディングの応用① HTML・CSSの復習
- 第2回 HTML・CSSコーディングの応用② HTML・CSSの応用
- 第3回 jQueryの活用① 効果的な演出
- 第4回 jQueryの活用② いくつかの機能
- 第5回 Webサイトのデザイン制作① リニューアルデザインを企画
- 第6回 Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作
- 第7回 Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作
- 第8回 Webサイトのデザイン制作④ 完成
- 第9回 Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション
- 第10回 Webサイトのデザイン制作① 特設サイトデザインを企画
- 第11回 Webサイトのデザイン制作② ワイヤフレーム、デザインコンテンツの制作
- 第12回 Webサイトのデザイン制作③ レイアウトを検討・制作
- 第13回 Webサイトのデザイン制作④ 完成
- 第14回 Webサイトのデザイン制作⑤ プレゼンテーション
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： Web・動画クリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作応用
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Adobe Aftereffectsのより広い映像分野での活用について学ぶ。

■到達目標： Adobe Aftereffectsの応用的な使い方。
3Dレイヤーの論理的・感覚的把握。
主要エフェクトの把握。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 3Dレイヤーの応用 |
| 第2回 | アクションエフェクトの作成(1) 斬撃などのエフェクト |
| 第3回 | アクションエフェクトの作成(2) 炎などのエフェクト |
| 第4回 | アクションエフェクトの作成(3) 独自のエフェクトのデザインと作成 |
| 第5回 | アクションエフェクトの作成(4) |
| 第6回 | アクションエフェクトの作成(5) |
| 第7回 | アクションエフェクトの作成(6) |
| 第8回 | 音響効果(1) 音響効果について |
| 第9回 | 音響効果(2) アクションエフェクト動画に効果音を追加する |
| 第10回 | 音響効果(3) |
| 第11回 | 音響効果(4) |
| 第12回 | 音響効果(5) |
| 第13回 | 音響効果(6) |
| 第14回 | 実写合成(1) Live2Dアニメーションに実写背景を合成する |
| 第15回 | 実写合成(2) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	モーショングラフィックス
------	--------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Adobe AfterEffectsの高度な操作について学ぶ。
映像演出をもとに映像石器の方法の理解と作品制作を行う。

■到達目標： 映像演出および表現力を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | モーショングラフィックスについて |
| 第2回 | 親子コンポジションとカメラ—レイヤー パペットピンツール |
| 第3回 | 照明と色調補正 |
| 第4回 | オーディオスペクトラム(1) |
| 第5回 | オーディオスペクトラム(2) |
| 第6回 | アルファマット系 |
| 第7回 | 実写合成によるモーショングラフィックス(1) |
| 第8回 | 実写合成によるモーショングラフィックス(2) |
| 第9回 | 実写合成によるモーショングラフィックス(3) |
| 第10回 | グラフ・アニメーション(1) |
| 第11回 | グラフ・アニメーション(2) |
| 第12回 | モニターグラフィックス |
| 第13回 | 交通安全動画の制作(1) |
| 第14回 | 交通安全動画の制作(2) |
| 第15回 | 交通安全動画の制作(3) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名： デジタルエフェクト

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 映像作品をもとに映像の基本的な組み立て方と演出について学ぶ

■到達目標： 映像制作の把握と映像演出の習得

■授業計画：

- 第1回 ショットサイズとアングルについて(1) ショットの種類と印象の違い
- 第2回 ショットサイズとアングルについて(2) AEでのレンズ再現
- 第3回 カメラワーク
- 第4回 映像加工
- 第5回 モーショントラッキング
- 第6回 ショートムービー制作(1) アニメ、CG、実写等、得意な方法で制作
- 第7回 ショートムービー制作(2)
- 第8回 ショートムービー制作(3)
- 第9回 ショートムービー制作(4)
- 第10回 ショートムービー制作(5)
- 第11回 絵コンテを描く(1) ラフの作成
- 第12回 絵コンテを描く(2) カメラ配置図の作成
- 第13回 絵コンテを描く(3) 絵コンテのスキャン
- 第14回 絵コンテを描く(4) 動画コンテの作成
- 第15回 絵コンテを描く(5) 仕上げ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 佐々木 裕司 (非常勤講師)
実務経験： デザイン会社でDTPのディレクション業務を担当。
現在はフリーランスとしてWebデザインを中心としたグラフィックデザインに携わる。

科目名：	CMS演習
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： CMS(コンテンツ管理システム)を活用しWebサイトを総合的・動的に構築することを学習する。

■到達目標： WordpressによるWebサイト構築をして自ら運用できるようになることを目指す。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | CMSの概要 |
| 第2回 | Wordpressの構成ファイルとインストール |
| 第3回 | 固定ページによるサイト構築 |
| 第4回 | 記事の投稿・カテゴリ設定 |
| 第5回 | ダッシュボード(管理画面)の活用 |
| 第6回 | テーマのカスタマイズ(1) |
| 第7回 | テーマのカスタマイズ(2) |
| 第8回 | テーマのカスタマイズ(3) |
| 第9回 | functionのカスタマイズ(1) |
| 第10回 | functionのカスタマイズ(2) |
| 第11回 | プラグインの活用 |
| 第12回 | オリジナルテーマ構築(1) |
| 第13回 | オリジナルテーマ構築(2) |
| 第14回 | オリジナルテーマ構築(3) |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	ゲームエンジン演習
------	------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： ゲームエンジンを用いたリアルタイムグラフィックの学習

■到達目標： ゲームエンジンへモデルデータを送り適切な設定をできるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Unity、UE4、Clusterの基本操作について |
| 第2回 | Unityの基本操作とVRMファイルについて |
| 第3回 | アバターデザインとモデル制作(1) |
| 第4回 | アバターデザインとモデル制作(2) |
| 第5回 | アバターデザインとモデル制作(3) |
| 第6回 | アバターデザインとモデル制作(4) |
| 第7回 | アバターデザインとモデル制作(5) |
| 第8回 | アバターデザインとモデル制作(6) |
| 第9回 | ワールドのデザインと制作(1) |
| 第10回 | ワールドのデザインと制作(2) |
| 第11回 | ワールドのデザインと制作(3) |
| 第12回 | ワールドのデザインと制作(4) |
| 第13回 | UnrealEngine4について(1) 基本操作について |
| 第14回 | UnrealEngine4について(2) モデルの読み込みとマテリアルノード |
| 第15回 | UnrealEngine4について(3) カメラの設定とレンダリング |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名：	Webインタラクティブ I
------	----------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： インタラクティブコンテンツ制作の基本を学び、幅広いWEBサイトの表現方法に触れる。
- 到達目標： javascript, jQueryの基本的な知識の習得。
様々なインタラクティブコンテンツの表現を学ぶ。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／WEB基礎概論
- 第2回 javascript基礎①
- 第3回 javascript基礎②
- 第4回 javascript基礎③
- 第5回 jQuery基礎
- 第6回 練習問題①
- 第7回 練習問題②
- 第8回 ランディングページ①
- 第9回 ランディングページ②
- 第10回 ランディングページ③
- 第11回 デジタルポートフォリオ①
- 第12回 デジタルポートフォリオ②
- 第13回 デジタルポートフォリオ③
- 第14回 デジタルポートフォリオ④
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 中田 千亜姫 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Webデザイン、コーディング、DTP等を手掛ける。

科目名：	Webインタラクティブ II
------	-----------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： インタラクティブコンテンツ制作の基本を学び、幅広いWEBサイトの表現方法に触れる。
- 到達目標： javascript, jQueryの基本的な知識の習得。
様々なインタラクティブコンテンツの表現を学ぶ。

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／WEB基礎概論
- 第2回 javascript基礎①
- 第3回 javascript基礎②
- 第4回 javascript基礎③
- 第5回 jQuery基礎
- 第6回 練習問題①
- 第7回 練習問題②
- 第8回 ランディングページ①
- 第9回 ランディングページ②
- 第10回 ランディングページ③
- 第11回 デジタルポートフォリオ①
- 第12回 デジタルポートフォリオ②
- 第13回 デジタルポートフォリオ③
- 第14回 デジタルポートフォリオ④
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション I
------	-----------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション I
------	-----------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： CG・Webデザイン専攻
担当教員： 宮崎 昭人 (非常勤講師)
実務経験： Just English Press Ltd.代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名： 英会話

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

- 科目概要： 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する
- 到達目標： 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書： プリント配布

■参考書： 辞書があれば望ましい

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 マルチメディアデザイン学科 アニメ・ゲームクリエイター専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
ベーシックデザイン	○		1年・前期	60
Photoshop基礎	○		1年・前期	60
人物作画	○		1年・前期	60
作画技法基礎	○		1年・前期	60
blender基礎	○		1年・前期	60
映像制作基礎	○		1年・前期	60
Photoshop応用	○		1年・後期	30
動画制作	○		1年・後期	30
作画技法応用	○		1年・後期	30
blender応用 I	○		1年・後期	60
blender応用 II	○		1年・後期	30
映像制作応用	○		1年・後期	60
Live2D基礎	○		1年・後期	30
映像制作 II	○		2年・前期	60
デジタルエフェクト	○		2年・前期	60
ゲームエンジン演習	○		2年・前期	60
3Dビジュアライゼーション I	○		2年・前期	60
3Dビジュアライゼーション II	○		2年・前期	60
英会話	○		1年・前期	30
合 計				960

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 山本 睦子 (非常勤講師)
実務経験： 広告制作プロダクション勤務を経て、現在はアートディレクター。
企業、高等教育機関等のアドバタイジングデザイン等を担当。

科目名：	ベーシックデザイン
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 鉛筆や定規など、デザイン道具の正しい使い方の学習
表現の楽しさを知りデザインの魅力を実感する

■到達目標： 伝達したい事柄に対し、その手段について考えを巡らせることができる
デザインの道具を正しく使い、思考を目に見える形に表すことができる

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション／授業内容 日程 進め方 自己紹介 |
| 第2回 | 道具紹介／道具について |
| 第3回 | デザイン制作① ペーパークラフトの組み立て |
| 第4回 | デザイン制作② コラージュ技法を使い平面構成を体験 |
| 第5回 | デザイン基礎知識① ビジュアル表現方法とレイアウトを学ぶ |
| 第6回 | デザイン基礎知識② 作品制作 |
| 第7回 | デザイン基礎知識③ カラーコピーを理解 |
| 第8回 | デザイン基礎技術① 文字をレイアウトするスキルの必要性和理解 |
| 第9回 | デザイン基礎技術② オリジナル名刺制作 |
| 第10回 | デザイン基礎技術③ 文字詰め、レイアウト技術の習得 |
| 第11回 | デザイン基礎技術④ 名刺交換会実施 ビジネスマナーレクチャー |
| 第12回 | デザイン基礎技術⑤ 校外学習 クロッキー |
| 第13回 | デザイン基礎技術⑥ スケッチをもとにキャラクターデザイン |
| 第14回 | デザイン基礎技術⑦ オリジナル雑貨制作 |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名： Photoshop基礎

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Photoshop操作の基本を学習
ワークフローの構築、必要な作業時間の見積、スケジュール立ての習得

■到達目標： 基本操作の理解・習得
ワークフロー・スケジュールを意識した制作ができるようになる

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション／本講義の概要と今後の課題と提出方法などの説明
- 第2回 レイヤー操作・編集・仕上げ① 概念、操作法
- 第3回 レイヤー操作・編集・仕上げ② 作品完成までの流れを実践
- 第4回 写真合成・加工① 写真合成の基本操作
- 第5回 写真合成・加工② 写真合成の応用
- 第6回 写真合成・加工③ マスク・調整レイヤー・フィルターの理解
- 第7回 選択範囲・マスク① 各種選択範囲コマンドとマスクの概念
- 第8回 選択範囲・マスク② 画像による選択範囲の選び方・操作方法
- 第9回 レイヤースタイル・エフェクト① 類似手法との使い分け
- 第10回 カードイラスト① 差分含めたカードイラストを制作
- 第11回 カードイラスト② エフェクトの使用
- 第12回 ゲーム画面・インターフェース① テーマ・コンセプトの思案
- 第13回 ゲーム画面・インターフェース② 世界観・ジャンルの設定
- 第14回 ゲーム画面・インターフェース③ 画面制作
- 第15回 講評／授業のまとめ

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 菊池 有騎 (非常勤講師)
実務経験： アニメーション制作会社所属。アニメーション作品の動画、原画、プロップデザイン等を担当。

科目名： 人物作画

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 人体の構造とバランスを学ぶ
透視図法について学習する

■到達目標： 奥行のある立体的な空間を想定し、そこに人物を配置した作画ができる
人体の正確なプロポーション、骨格および筋肉の構造を理解する

■授業計画：

- 第1回 考えて描くこと(1)感性まかせではなく理詰めの作画を行う
- 第2回 考えて描くこと(2)観察すること
- 第3回 考えて描くこと(3)余白、完成のバランス、対比について
- 第4回 人体構造基礎(1)頭部を中心に筋骨についての解説
- 第5回 人体構造基礎(2)身体を中心に筋骨についての解説
- 第6回 三面図の作成(1)人体基礎構造の応用
- 第7回 三面図の作成(2)
- 第8回 表情集作成 頭部を中心に様々な角度と表情で描く
- 第9回 ポーズと構図(1) より動きのあるポーズと魅力的な構図を考える
- 第10回 ポーズと構図(2)
- 第11回 ポーズと構図(3)
- 第12回 空間想像と対比(1) パースと対比、背景・空間の描き方
- 第13回 空間想像と対比(2) アイレベルと透視図法について
- 第14回 空間想像と対比(3)
- 第15回 空間想像と対比(4)

■教科書： ソッカの美術解剖学ノート

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 中島 敏文 (非常勤講師)
実務経験： 広告代理店、印刷会社勤務等を経て、現在はフリーのイラストレーター。
広告、パッケージ等のイラストレーション、企業カレンダー等を手掛ける。

科目名：	作画技法基礎
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 人物クロッキーなどの基礎的なトレーニングを通してデッサン力の向上を図る
コピック、色鉛筆の使い方を学び表現力を身に付ける

■到達目標： 人物のプロポーションを理解し様々なポーズを描けるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 人体のプロポーション(1) 手のひらと顔 |
| 第2回 | 人体のプロポーション(2) 男性、女性、子供 |
| 第3回 | 人体のプロポーション(3) 6～7頭身の全身 |
| 第4回 | 人体のプロポーション(4) 中心線と重心 |
| 第5回 | 人体のプロポーション(5) 人形で見る単純化した人体 |
| 第6回 | 人体のプロポーション(6) 人形で見る単純化した人体 |
| 第7回 | 人体のプロポーション(7) 身体の中線と傾き |
| 第8回 | 人体のプロポーション(8) 輪郭線と筋肉 |
| 第9回 | 上半身を描く(1) 写真を基に作画、コピック着彩 |
| 第10回 | 上半身を描く(2) 写真を基に作画、コピック着彩 |
| 第11回 | 上半身を描く(3) 写真を基に作画、コピック着彩 |
| 第12回 | 人物を描く(1) クラスメイトを描く |
| 第13回 | 人物を描く(2) クラスメイトを描く |
| 第14回 | 人物を描く(3) クラスメイトを描く |
| 第15回 | 人物を描く(4) クラスメイトを描く |

■教科書： ソッカの美術解剖学ノート

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名： blender基礎

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 3Dモデリングの習得、静止画の撮影

■到達目標： Blenderを用いて、3DCGの制作工程を学び、扱えるようになる。

■授業計画：

- 第1回 blender基礎(1) ダウンロードとプリミティブモデリング
- 第2回 blender基礎(2) ペアレントと原点
- 第3回 blender基礎(3) ライトとカメラ
- 第4回 blender基礎(4) Cyclesについて
- 第5回 モデリング基礎(1) 編集モードで建物を作る
- 第6回 モデリング基礎(2) モディファイアを使う
- 第7回 モデリング基礎(3) UV展開とテクスチャペイント
- 第8回 モデリング基礎(4) マテリアルについて
- 第9回 モデリング練習(1) 再現モデリング
- 第10回 モデリング練習(2)
- 第11回 モデリング練習(3) マテリアル設定
- 第12回 モデリング練習(4)
- 第13回 モデリング練習(5) ライティングとレンダリング
- 第14回 スカルプトモデリング(1)
- 第15回 スカルプトモデリング(2) レンダリングして提出

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作基礎
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： AfterEffectsの基本操作を学ぶ
汎用性の高いものを中心にエフェクトの扱い方を知る。

■到達目標： Adobe AfterEffectsの基本的な操作の習得

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | AfterEffects基礎 基本的な操作方法と各パネルの役割について |
| 第2回 | トランスフォーム(1) トランスフォームの把握 |
| 第3回 | トランスフォーム本(2) アンカーポイントを用いたモーション |
| 第4回 | トランジション スライドショーの作成 |
| 第5回 | マスク・パスアニメーション |
| 第6回 | 音楽に合わせた編集 |
| 第7回 | 文字のオフセット |
| 第8回 | 文字アニメーション編集 |
| 第9回 | エフェクトの解説 |
| 第10回 | 手描き風アニメーション |
| 第11回 | 3Dレイヤー |
| 第12回 | アイキャッチ作成(1) |
| 第13回 | アイキャッチ作成(2) |
| 第14回 | 映像加工(1) |
| 第15回 | 映像加工(2) |

■教科書： 教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小原 拓之 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム制作企業、広告制作企業等を経て、現在はフリーランス。
イラストレーション制作、DTPデザイン等を請け負う。

科目名：	Photoshop応用
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： レイアウト・見せ方・伝えることの意識を知る
様々なデザイン・イラストの構成や加工を学ぶ

■到達目標： 自ら考え学び、それを作品に落とし込むことができるようになる
Photoshopクリエイター能力認定試験合格相当の知識と技術を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 写真合成・加工(1) マットペイントの作成 |
| 第2回 | 写真合成・加工(2) コンセプトアートの作成 |
| 第3回 | 写真合成・加工(3) |
| 第4回 | 写真合成・加工(4) |
| 第5回 | 写真合成・加工(5) プレゼンテーション 講評 |
| 第6回 | 広告ビジュアル(1) 写真素材をアニメ用背景画に加工 |
| 第7回 | 広告ビジュアル(2) フィルタによる色調補正 |
| 第8回 | 広告ビジュアル(3) ライティングとパースの調整 |
| 第9回 | 広告ビジュアル(4) 映画ポスターの作成 |
| 第10回 | 広告ビジュアル(5) |
| 第11回 | 広告ビジュアル(6) 仕上げ・プレゼン・講評 |
| 第12回 | 検定対策① Photoshopクリエイター能力認定試験対策授業 |
| 第13回 | 検定対策② サンプル問題を活用し実技・実践問題の練習 |
| 第14回 | 検定対策③ 作業を効率的に進めることができる実践的なスキルを習得する |
| 第15回 | 講評／授業のまとめ |

■教科書： Photoshopクリエイター能力認定試験問題集

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 菊池 有騎 (非常勤講師)
実務経験： アニメーション制作会社所属。
アニメーション作品の動画、原画、プロップデザイン等を担当。

科目名： 動画制作

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 2Dアニメーション制作を通して絵作りに関する考えを養う
平面内での奥行きを認知させる表現技術を養う

■到達目標： 作画技術の向上および動画制作において一瞬の印象を意識できる感性を身に付ける

■授業計画：

- 第1回 アニメーション制作基礎 フレームレートについて
- 第2回 振り向き動画(1) 清書作業
- 第3回 振り向き動画(2) 中割り
- 第4回 振り向き動画(3) 回転起動と奥行き
- 第5回 振り向き動画(4) 回転起動と奥行き
- 第6回 回転動作(1) 回転、円軌道、奥行き移動
- 第7回 回転動作(2) 回転、円軌道、奥行き移動
- 第8回 回転動作(3) 回転、円軌道、奥行き移動
- 第9回 回転動作(4) 回転、円軌道、奥行き移動
- 第10回 2Dアニメーション制作(1) 原画制作
- 第11回 2Dアニメーション制作(2) 動画制作
- 第12回 2Dアニメーション制作(3) 動画制作
- 第13回 2Dアニメーション制作(4) 着色
- 第14回 2Dアニメーション制作(5) 撮影
- 第15回 2Dアニメーション制作(6) 撮影

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 中島 敏文 (非常勤講師)
実務経験： 広告代理店、印刷会社勤務等を経て、現在はフリーのイラストレーター。
広告、パッケージ等のイラストレーション、企業カレンダー等を手掛ける。

科目名：	作画技法応用
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 人物クロッキーなどの基礎的なトレーニングを通してデッサン力の向上を図る
コピック、色鉛筆の使い方を学び表現力を身に付ける

■到達目標： 人物のプロポーションを理解し様々なポーズを描けるようになる
動物の特徴を捉えて生き活きと描けるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 動物の特徴を捉える(1) 写真の模写とクロッキー |
| 第2回 | 動物の特徴を捉える(2) |
| 第3回 | 動物の特徴を捉える(3) 色鉛筆による着彩 |
| 第4回 | 動物の特徴を捉える(4) |
| 第5回 | 動物の特徴を捉える(5) |
| 第6回 | アニメのキャラクタを作る(1) キャラクタと動物のイラストを制作 |
| 第7回 | アニメのキャラクタを作る(2) |
| 第8回 | アニメのキャラクタを作る(3) |
| 第9回 | アニメのキャラクタを作る(4) |
| 第10回 | アニメのキャラクタを作る(5) |
| 第11回 | アニメのキャラクタを作る(6) |
| 第12回 | 動きのある人物を描く(1) 様々なアスリートを描く |
| 第13回 | 動きのある人物を描く(2) 力強さとスピード感の表現 |
| 第14回 | 動きのある人物を描く(3) |
| 第15回 | 動きのある人物を描く(4) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名： blender応用 I

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： より実践的なblenderの使い方について学ぶ
リアルで精確なモデリング技術を習得する

■到達目標： 3DCGにおける質感の設定について理解し、再現できるようになる
正しい形を効率良くモデリングできるようになる

■授業計画：

- 第1回 blenderの機能を知る(1) キーフレームアニメーション
- 第2回 blenderの機能を知る(2) キーフレームアニメーション
- 第3回 blenderの機能を知る(3) キーフレームアニメーション
- 第4回 写実的なモデリング(1)
- 第5回 写実的なモデリング(2)
- 第6回 写実的なモデリング(3)
- 第7回 現実的な質感設定について(1) 物理ベースレンダリングとはなにか
- 第8回 現実的な質感設定について(2) モデルにリアルな質感を設定する
- 第9回 現実的な質感設定について(3)
- 第10回 精確なモデリング(1)
- 第11回 精確なモデリング(2)
- 第12回 精確なモデリング(3)
- 第13回 精確なモデリング(4)
- 第14回 精確なモデリング(5)
- 第15回 精確なモデリング(6)

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	blender応用 II
------	---------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： より実践的なblenderの使い方について学ぶ
リアルで精確なモデリング技術を習得する

■到達目標： 3DCGにおける質感の設定について理解し、再現できるようになる
正しい形を効率良くモデリングできるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | blenderの機能を知る(1) キーフレームアニメーション |
| 第2回 | blenderの機能を知る(2) キーフレームアニメーション |
| 第3回 | blenderの機能を知る(3) キーフレームアニメーション |
| 第4回 | 写実的なモデリング(1) |
| 第5回 | 写実的なモデリング(2) |
| 第6回 | 写実的なモデリング(3) |
| 第7回 | 現実的な質感設定について(1) 物理ベースレンダリングとはなにか |
| 第8回 | 現実的な質感設定について(2) モデルにリアルな質感を設定する |
| 第9回 | 現実的な質感設定について(3) |
| 第10回 | 精確なモデリング(1) |
| 第11回 | 精確なモデリング(2) |
| 第12回 | 精確なモデリング(3) |
| 第13回 | 精確なモデリング(4) |
| 第14回 | 精確なモデリング(5) |
| 第15回 | 精確なモデリング(6) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名：	映像制作応用
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Adobe Aftereffectsのより広い映像分野での活用について学ぶ。

■到達目標： Adobe Aftereffectsの応用的な使い方。
3Dレイヤーの論理的・感覚的把握。
主要エフェクトの把握。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 3Dレイヤーの応用 |
| 第2回 | アクションエフェクトの作成(1) 斬撃などのエフェクト |
| 第3回 | アクションエフェクトの作成(2) 炎などのエフェクト |
| 第4回 | アクションエフェクトの作成(3) 独自のエフェクトのデザインと作成 |
| 第5回 | アクションエフェクトの作成(4) |
| 第6回 | アクションエフェクトの作成(5) |
| 第7回 | アクションエフェクトの作成(6) |
| 第8回 | 音響効果(1) 音響効果について |
| 第9回 | 音響効果(2) アクションエフェクト動画に効果音を追加する |
| 第10回 | 音響効果(3) |
| 第11回 | 音響効果(4) |
| 第12回 | 音響効果(5) |
| 第13回 | 音響効果(6) |
| 第14回 | 実写合成(1) Live2Dアニメーションに実写背景を合成する |
| 第15回 | 実写合成(2) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： カワナミ (非常勤講師)
実務経験： 映像制作企業、Web制作企業勤務を経て、現在はフリーランス。
Live2Dによるアニメーション制作を中心に、映像制作全般を手掛ける。

科目名： **Live2D基礎**

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： Live2Dの特性と使用される場面を知る
Live2Dモデルの制作方法とアニメーションを学ぶ

■到達目標： オリジナルデザインのLive2Dモデルを完成させる

■授業計画：

- 第1回 Live2Dとは？ 基本の動作と使われ方について
- 第2回 Live2D基礎制作(1) サンプルデータを使いモデリングの流れを理解する
- 第3回 Live2D基礎制作(2) 首の角度と目の表情
- 第4回 Live2D基礎制作(3) 表情と揺れもの
- 第5回 Live2D基礎制作(4) 身体の動き
- 第6回 Live2D基礎制作(5) 顔の動き
- 第7回 Live2D基礎制作(6) アニメーションの作成
- 第8回 Live2D基礎制作(7) 完成したモデルでアニメーションを作る
- 第9回 Live2Dモデル制作(1) オリジナルデザインでモデルを作る
- 第10回 Live2Dモデル制作(2)
- 第11回 Live2Dモデル制作(3)
- 第12回 Live2Dモデル制作(4)
- 第13回 Live2Dモデル制作(5)
- 第14回 Live2Dアニメーション制作(1) 制作したモデルを使用してアニメーションを作成する。
- 第15回 Live2Dアニメーション制作(2)

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 菊池 有騎 (非常勤講師)
実務経験： アニメーション制作会社所属。
アニメーション作品の動画、原画、プロップデザイン等を担当。

科目名： 映像制作 II

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 映像制作の企画から実制作、最終的な仕上げまでを行う

■到達目標： 人に求められる映像を企画立案する発想力を身に付ける
得意とする映像制作技術を伸ばし自分の武器とする

■授業計画：

- 第1回 フリーテーマによる映像制作1(1) 企画立案
- 第2回 フリーテーマによる映像制作1(2) 実制作作業
- 第3回 フリーテーマによる映像制作1(3) 仕上げ作業
- 第4回 フリーテーマによる映像制作1(4) プレゼンテーション
- 第5回 フリーテーマによる映像制作2(1) 企画立案 得意な技術を活かした企画
- 第6回 フリーテーマによる映像制作2(2) 実制作作業
- 第7回 フリーテーマによる映像制作2(3) 仕上げ作業
- 第8回 フリーテーマによる映像制作2(4) プレゼンテーション
- 第9回 フリーテーマによる映像制作3(1) 企画立案 新しい技術に挑戦する
- 第10回 フリーテーマによる映像制作3(2) 実制作作業
- 第11回 フリーテーマによる映像制作3(3) 仕上げ作業
- 第12回 フリーテーマによる映像制作4(1) 企画立案 集大成としての作品
- 第13回 フリーテーマによる映像制作4(2) 実制作作業
- 第14回 フリーテーマによる映像制作4(3) 仕上げ作業
- 第15回 フリーテーマによる映像制作4(4) プレゼンテーション

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 小野寺 圭介 (非常勤講師)
実務経験： ディレクター、プロデューサーとして広告映像制作を手掛ける。
TVCM制作、WebCM制作、ショートフィルム制作等。

科目名： デジタルエフェクト

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 映像作品をもとに映像の基本的な組み立て方と演出について学ぶ

■到達目標： 映像制作の把握と映像演出の習得

■授業計画：

- 第1回 ショットサイズとアングルについて(1) ショットの種類と印象の違い
- 第2回 ショットサイズとアングルについて(2) AEでのレンズ再現
- 第3回 カメラワーク
- 第4回 映像加工
- 第5回 モーショントラッキング
- 第6回 ショートムービー制作(1) アニメ、CG、実写等、得意な方法で制作
- 第7回 ショートムービー制作(2)
- 第8回 ショートムービー制作(3)
- 第9回 ショートムービー制作(4)
- 第10回 ショートムービー制作(5)
- 第11回 絵コンテを描く(1) ラフの作成
- 第12回 絵コンテを描く(2) カメラ配置図の作成
- 第13回 絵コンテを描く(3) 絵コンテのスキャン
- 第14回 絵コンテを描く(4) 動画コンテの作成
- 第15回 絵コンテを描く(5) 仕上げ

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	ゲームエンジン演習
------	------------------

履修形態： 選択
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： ゲームエンジンを用いたリアルタイムグラフィックの学習

■到達目標： ゲームエンジンへモデルデータを送り適切な設定をできるようになる

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Unity、UE4、Clusterの基本操作について |
| 第2回 | Unityの基本操作とVRMファイルについて |
| 第3回 | アバターデザインとモデル制作(1) |
| 第4回 | アバターデザインとモデル制作(2) |
| 第5回 | アバターデザインとモデル制作(3) |
| 第6回 | アバターデザインとモデル制作(4) |
| 第7回 | アバターデザインとモデル制作(5) |
| 第8回 | アバターデザインとモデル制作(6) |
| 第9回 | ワールドのデザインと制作(1) |
| 第10回 | ワールドのデザインと制作(2) |
| 第11回 | ワールドのデザインと制作(3) |
| 第12回 | ワールドのデザインと制作(4) |
| 第13回 | UnrealEngine4について(1) 基本操作について |
| 第14回 | UnrealEngine4について(2) モデルの読み込みとマテリアルノード |
| 第15回 | UnrealEngine4について(3) カメラの設定とレンダリング |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション I
------	-----------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 大澤 龍一 (非常勤講師)
実務経験： ゲーム開発企業を経て、現在はフリーランス。
3DCGデザイナーとしてゲーム用CGモデル制作、映像制作、技術書執筆等を行う。

科目名：	3Dビジュアライゼーション II
------	------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： Blenderを用いたフォトリアルCG作品の制作

■到達目標： 観察力を鍛えてより精度の高いフォトリアルCGの制作技術を身に付ける

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | SubstancePainterの基本操作 |
| 第2回 | SubstancePainter応用(1) モデリング |
| 第3回 | SubstancePainter応用(2) |
| 第4回 | SubstancePainter応用(3) 観察と質感の作り分け |
| 第5回 | SubstancePainter応用(4) |
| 第6回 | ライティングとカメラ(1) |
| 第7回 | ライティングとカメラ(2) |
| 第8回 | 静止画作品制作(1) |
| 第9回 | 静止画作品制作(2) |
| 第10回 | 静止画作品制作(3) |
| 第11回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(1) |
| 第12回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(2) |
| 第13回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(3) |
| 第14回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(4) |
| 第15回 | スカルプトモデリングとリトポロジー(5) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： マルチメディアデザイン学科
対象専攻： アニメ・ゲームクリエイター専攻
担当教員： 宮崎 昭人 (非常勤講師)
実務経験： Just English Press Ltd.代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：	英会話
------	-----

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 30時間
単 位： 1単位

■科目概要： 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。

■到達目標： 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く |
| 第2回 | 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味 |
| 第3回 | 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ |
| 第4回 | 品詞の理解：辞書の使い方 |
| 第5回 | 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方 |
| 第6回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第7回 | 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方 |
| 第8回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第9回 | 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方 |
| 第10回 | 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する） |
| 第11回 | 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得 |
| 第12回 | 自己紹介 |
| 第13回 | 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン |
| 第14回 | 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現 |
| 第15回 | まとめ |

■教科書： プリント配布

■参考書： 辞書があれば望ましい

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 宮崎昭人 (非常勤講師)
実務経験： Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務(観光・ビジネス・科学・法務分野等)、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名： 英語

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。

■到達目標： 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む。

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 建築デザイン学科 建築士専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
設計製図Ⅰ	○		1年・前期	60
設計製図Ⅱ	○		2年・前期	60
建築設計デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	60
建築設計デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
建築CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	60
建築CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
住宅・店舗設計演習	○		2年・前期	60
建築計画Ⅰ	○		1年・前期	60
建築計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住空間計画	○		1年・後期	60
建築設備計画	○		1年・後期	60
建築構造力学Ⅰ	○		1年・後期	60
建築構造力学Ⅱ	○		2年・前期	60
建築構法	○		1年・後期	30
木構造	○		1年・前期	60
鉄筋コンクリート構造	○		1年・後期	60
鋼構造	○		2年・後期	60
建築生産	○		1年・前期	60
建築施工	○		2年・前期	60
建築法規Ⅰ	○		1年・後期	60
建築法規Ⅱ	○		2年・前期	60
建築概論	○		1年・前期	60
造形演習Ⅰ	○		1年・後期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
建築プレゼンテーションⅠ	○		1年・前期	30
建築プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
パースペクティブ演習	○		1年・前期	30
都市デザイン	○		2年・後期	60
英語	○		1年・前期	30
合 計				1680

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 湊谷みち代 （非常勤講師）
実務経験： 公共建築を主たる設計事務所で高齢者施設やコミセンなどの設計に携わり、その後アトリエ系事務所にて住宅等の設計担当。独立後、住宅及び店舗の設計監理を担当

科目名： 基礎製図

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築設計製図の基礎、表現、技法を習得するとともに、デザインすることの意義を学ぶ。

■到達目標： 建築設計製図の基礎的知識、技法の習得を踏まえ、演習課題を通じ、建築製図の基礎的能力を身につける。

■授業計画：

- 第1回 基本製図(平面図・立面図・断面図・透視図の表現)
- 第2回 基本製図(製図の技法・表現)
- 第3回 基礎製図1 平面図トレース作業 軀体構成(柱幅, 壁厚)
- 第4回 基礎製図2 平面図トレース作業 開口部, 建具, 階段
- 第5回 基礎製図3 立面図トレース作業
- 第6回 基礎製図4 立面図トレース作業
- 第7回 基礎製図5 断面図トレース作業
- 第8回 基礎製図6 断面図トレース作業
- 第9回 基礎製図7 設備機器、家具、外構、寸法、室名、仕上げ
- 第10回 建築基礎製図 課題説明
- 第11回 建築基礎製図 エスキス(敷地条件、形態規制)、設計主旨、面積表
- 第12回 建築基礎製図 配置図、基準線(通り芯、柱芯、壁芯、間仕切り壁芯)
- 第13回 建築基礎製図 平面図作図、立面図作図
- 第14回 建築基礎製図 断面図作図
- 第15回 建築基礎製図 制作完成、プレゼンテーション、講評会

■教科書：

■参考書： 最新建築設計製図／井上書院、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 石塚和彦 (非常勤講師)
実務経験： 大手建設株式会社設計部門で、主に商業施設の建築設計・監理を担当。退社後、一級建築士事務所を設立し、主に個人住宅・商業施設の設計に携わる。

科目名：	設計製図Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1年次
開講学期： 前期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： 建築設計（住宅）における知識と技術を理論的に学習し、演習を通して基礎的設計技術を身につける。

■到達目標： 基本科目（ゾーニング、動線、建築構成要素等）の習得を踏まえ、演習課題を通して建築空間の構成を学ぶと共に、設計技術の基本を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 建築設計の概要 |
| 第2回 | 設計の基礎1（住宅設計におけるエスキースの要領と手順） |
| 第3回 | 設計の基礎2（住宅設計における配置計画、ゾーニング、グルーピング、動線計画） |
| 第4回 | 設計の基礎3（住宅設計におけるコアパターンと配置、外構施設） |
| 第5回 | 構造の種類と関係 木・S・RC・SRC 軸組み・壁式 |
| 第6回 | 基礎の種類と躯体の書き方 |
| 第7回 | 工法別、柱と梁のスパン、ピッチ |
| 第8回 | DS・PS設備 建物の位置と作図 |
| 第9回 | 住宅設計演習（敷地調査、状況分析、計画における資料収集） |
| 第10回 | 住宅設計演習（敷地調査、状況分析、資料収集のまとめ） |
| 第11回 | 住宅設計演習（設計コンセプト立案、アイデア展開） |
| 第12回 | 住宅設計演習（制作－1）通り芯・壁厚さ・内外壁の仕上げ |
| 第13回 | 住宅設計演習（制作－2）窓の作図法、納まり |
| 第14回 | 住宅設計演習（制作－3）立面図・軒先、パラペットの書き方 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： 最新建築設計製図／井上書院、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名：	設計製図Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 設計製図Ⅰで習得した理論、知識、技術を発展させる為に、様々な建築用途の演習を通して建築を学ぶ。

■到達目標： 建築の構成にいて理解すると共に設計製図の手法、技法、表現力を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 設計演習1（居住空間）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第2回 | 設計演習1（居住空間）制作1 |
| 第3回 | 設計演習1（居住空間）制作2 |
| 第4回 | 設計演習1（居住空間）制作3 |
| 第5回 | 設計演習1（居住空間）プレゼンテーション、講評会 |
| 第6回 | 設計演習2（商業施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第7回 | 設計演習2（商業施設）制作1 |
| 第8回 | 設計演習2（商業施設）制作2 |
| 第9回 | 設計演習2（商業施設）制作3 |
| 第10回 | 設計演習2（商業施設）プレゼンテーション、講評会 |
| 第11回 | 設計演習3（公共施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第12回 | 設計演習3（公共施設）制作1 |
| 第13回 | 設計演習3（公共施設）制作2 |
| 第14回 | 設計演習3（公共施設）制作3 |
| 第15回 | 設計演習3（公共施設）プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： 最新建築設計製図／井上書院、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 建築デザイン学科
対象専攻: 建築士専攻
担当教員: 今井正樹 (非常勤講師)
実務経験: ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として、住宅・店舗等の設計管理が業務

科目名	建築設計デザイン演習Ⅰ
-----	--------------------

履修形態: 必修
授業形態: 講義＋演習
履修学年: 1年次
開講学期: 後期
授業時数: 60時間
単 位: 2単位

- 科目概要:** デザイン基礎科目（デザイン論、建築史、色彩設計論等）を踏まえ、建築設計デザインの在り方と課題について具体的に理解し、演習を通して、建築設計デザインを行う意義と有用性について学ぶ。
- 到達目標:** 建築設計デザインについて哲学、倫理、技術から建築的な思考を行い、空間をデザインする基礎力を養う。
 建築を設計しデザインする上で必要な条件、プロセスを理解する。

■授業計画:

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 建築設計デザインの哲学 |
| 第2回 | 建築設計デザイン1(住居作品のDVD視聴) |
| 第3回 | 建築設計デザイン2(階段の空間～機能と演出効果) |
| 第4回 | 建築設計デザイン3(家具～家具の歴史、かたち、機能) |
| 第5回 | 建築設計デザイン4(照明～光と闇、照度と色温度、照明計画) |
| 第6回 | 演習課題1(住宅)コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第7回 | // 制作1 住宅の特性と計画・エスキス |
| 第8回 | // 制作2 平面図・立面図 開口部のバランスとファサード |
| 第9回 | // 制作3 細部構成、家具の書き方 |
| 第10回 | プレゼンテーション、講評会 |
| 第11回 | 演習課題2(二世帯住宅)コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第12回 | // 制作1 二世帯の関係性と配置の作図 |
| 第13回 | // 制作2 二世帯の断熱計画と生活時間帯(平面・断面図) |
| 第14回 | // 制作3 植栽の書き方と面積表・駐車場 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書:

■参考書: コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 湊谷みち代 （非常勤講師）
実務経験： 公共建築を主たる設計事務所で高齢者施設やコミセンなどの設計に携わり、その後アトリエ系事務所にて住宅等の設計担当。独立後、住宅及び店舗の設計監理を担当

科目名：	建築設計デザイン演習Ⅱ
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築設計デザイン演習Ⅰを踏まえ、様々な用途の演習を通して、的確な空間把握、用途に応じた設計デザインをする能力を養う。

■到達目標： 建築設計デザインにおける表現力、空間構成力を身につける。自分のアイデアをデザインする方法論（設計手法）の具現化を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 演習課題1（オフィスビル）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第2回 | 演習課題1 法規（集団規定、単体規定、避難計画） |
| 第3回 | 演習課題1 構造計画（構造グリッド、各部位の寸法） |
| 第4回 | 演習課題1 プレゼンテーション、講評会 |
| 第5回 | 演習課題2（児童福祉施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第6回 | 演習課題2 周辺環境、所要室、機能図の検討、動線計画 |
| 第7回 | 演習課題2 細部構造（階段、地下室、大空間） |
| 第8回 | 演習課題2 プレゼンテーション、講評会 |
| 第9回 | 演習課題3（商業施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第10回 | 演習課題3 細部計画（空間ユニット、階段、外部空間） |
| 第11回 | 演習課題3 給排水、衛生、搬送設備 |
| 第12回 | 演習課題3 プレゼンテーション、講評会 |
| 第13回 | 演習課題4（コミュニティ施設）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第14回 | 演習課題4 高齢者、身障者への配慮（バリアフリー新法） |
| 第15回 | 演習課題4 プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書： 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック／彰国社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 飯塚哉子（専任教員）
実務経験： ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：	建築CAD演習 I
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築CADの概要、2次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する。

■到達目標： CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 基本操作1（作図環境の設定、2次元図形の基本的な作図、CAD製図のJIS規格） |
| 第2回 | 基本操作2（レイヤー、クラス、縮尺、寸法） |
| 第3回 | 配置図の作図 線種表現（境界線、点景、方位、駐車場） |
| 第4回 | 住宅の平面図 画面情報を利用した効率的な作図技術（柱、壁、開口部） |
| 第5回 | 住宅の平面図 線分と面を利用した作図の概念（建具、設備機器） |
| 第6回 | 住宅の平面図 図形登録を利用した効率的な作図技術、ハッチング、
タイルパターン、出力方法 |
| 第7回 | 住宅の断面図 レイヤの概念と利用法、床高、天井高、軒高、最高高さ |
| 第8回 | 住宅の断面図 腰高、内法高、見えがかり |
| 第9回 | 住宅の立面図 平面図からの投影下書き線 |
| 第10回 | 住宅の立面図 軒高、基礎高、開口部内法、屋根勾配 |
| 第11回 | かなばかり図 材料構造表示記号、仕上材名称 |
| 第12回 | 天井伏図 換気口、点検口、天井埋込照明器具 |
| 第13回 | 床伏図 土台、大引、火打、根太 |
| 第14回 | 面積表、全体レイアウト |
| 第15回 | まとめ、ポートフォリオ（課題作品集）作成 |

■教科書： プリント配布

■参考書： Vector Works 建築設計ガイド、コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 今井正樹 (非常勤講師)
実務経験： ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として、住宅・店舗等の設計管理が業務

科目名	建築CAD演習Ⅱ
-----	----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う。
- 到達目標： 設計に必要な技術と表現（CAD：製図、CG：プレゼン）を実践的な課題と関連付けながら学び、知識を深める。

■授業計画：

- 第1回 敷地図作図 フロアプラン、CADによる簡易3Dモデリング
- 第2回 ボリュームスタディによる建物の大きさ、バランス検討、適性配置
- 第3回 ブロックプラン、ダイアグラム、動線
- 第4回 基本設計 配置図兼平面図 ラフ3D
- 第5回 構造・設備コア、耐震壁
- 第6回 複写機能による各階平面図、画層作成、編集機能
- 第7回 平面詳細図 オブジェクトの階層構造と作業環境
- 第8回 屋根の形状作成と壁高の調整
- 第9回 外観のCG作成 マテリアルの作成とマッピング
- 第10回 立面図修正
- 第11回 室内空間のCG（美しく質感豊かな透視図を作成）
- 第12回 展開図修正
- 第13回 イメージ（光源・背景等）の仕上げ
- 第14回 照明計画図作図
- 第15回 まとめ、合評

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 鈴木理 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、オフィス、ホテル、公共施設などを担当し、独立後、住宅、店舗などの設計監理に従事。

科目名：	住宅・店舗設計演習
------	------------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 住宅・店舗設計に係る基本科目等の基礎的な知識、技術、工法を踏まえ、演習課題を通して住宅・店舗設計に関する知識と技術を学ぶ。

■到達目標： 住宅の基本設計及び商業施設の基本設計に必要な知識、技術手法を学び、作図表現する能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 住宅における人間工学と単位空間 |
| 第2回 | 住宅における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第3回 | 木造の特性と2×4・RCの壁量 |
| 第4回 | 住宅設計演習 敷地調査、状況分析、エスキース |
| 第5回 | 住宅設計演習 柱・寸法線・間仕切り壁中心線の記入 |
| 第6回 | 住宅設計演習 壁厚・開口部・設備器具・家具 |
| 第7回 | 住宅設計演習 合評 |
| 第8回 | 商業施設における人間工学と単位空間 |
| 第9回 | 商業施設における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第10回 | 照明計画(光の表現の検討) |
| 第11回 | 内部仕上げ材と下地の関係 |
| 第12回 | 異素材のつなぎ目と納まり(ガラス・石・木・モルタル)、内部造作の書き方 |
| 第13回 | 店舗設計デザインの計画方法(調査、分析、計画)、エスキース(単位空間・物品距離の確認) |
| 第14回 | 平面図、立面図、断面図 展開図の作図と、仕上げ表 |
| 第15回 | プレゼンテーション 講評会 |

■教科書： プリント配布

■参考書： コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 伊達昌広（非常勤講師）
実務経験： 設計事務所に勤務後、一級建築士事務所を設立。北海道を中心に住宅からビルディング
特殊建築、地域活性化事業など、建築計画に関わる仕事に従事。

科目名：	建築計画Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う。

■到達目標： 建築計画の概念及び設計プロセスの修得。条件（立地、予算、法規、機能）を整理・検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。また、人間の知覚や行動を理解し、空間の構成や配置を設計に反映できる事を目的とする。

■授業計画：

- | | | |
|------|------|-----------------------|
| 第1回 | 建築計画 | 地理的環境・機能と形態 |
| 第2回 | 建築計画 | 安全性・美しさ・象徴性・法規と形態 |
| 第3回 | 建築計画 | 人間の知覚と行動、歩行空間、建物の配置 |
| 第4回 | 建築計画 | 寸法と規模の計画、単位空間と建築部位 |
| 第5回 | 建築計画 | 空間構成技法（仕切りと連結） |
| 第6回 | 住宅計画 | 住宅を形づくる要因（気候風土） |
| 第7回 | 住宅計画 | 住宅の種類と作品 |
| 第8回 | 住宅計画 | ライフスタイル、高齢化 |
| 第9回 | 住宅計画 | 住まいの性能 |
| 第10回 | 住宅計画 | デザイン上の解法 |
| 第11回 | 地域計画 | 地域の産業、経済、社会的背景を踏まえた立案 |
| 第12回 | 地域計画 | まちづくり、交通計画 |
| 第13回 | 地域計画 | 公園緑地計画 |
| 第14回 | 地域計画 | エネルギー共生型の地域づくり |
| 第15回 | 地域計画 | 総括、レポート報告・講評会 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 図説 やさしい建築計画／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 伊達昌広 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所に勤務後、一級建築士事務所を設立。北海道を中心に住宅からビルディング
特殊建築、地域活性化事業など、建築計画に関わる仕事に従事。

科目名：	建築計画Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 住居系・非住居系の建築を通して、建築の計画と設計を理解する。

■到達目標： 建築の計画・設計に求められる基本的な素養と問題意識を身につけることを目的とする。

■授業計画：

- | | | |
|------|---------|--|
| 第1回 | 集合住宅の計画 | 集合住宅計画の概論、集合住宅の目的と種類 |
| 第2回 | 集合住宅の計画 | 敷地計画、住棟計画 |
| 第3回 | 集合住宅の計画 | 平面計画、計画事例 |
| 第4回 | 集合住宅の計画 | 居間、寝室、台所等の各部計画 |
| 第5回 | 集合住宅の計画 | 外構計画 |
| 第6回 | 福祉施設の計画 | 福祉施設の役割 |
| 第7回 | 福祉施設の計画 | 福祉施設の空間的要件 |
| 第8回 | 福祉施設の計画 | 心身状況と環境の関係 |
| 第9回 | 福祉施設の計画 | バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン1 |
| 第10回 | 福祉施設の計画 | バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン2 |
| 第11回 | 公共施設の計画 | 公共図書館のサービスのあり方(開かれた図書館) |
| 第12回 | 公共施設の計画 | 図書館建築の考え方(ユニバーサルデザイン) |
| 第13回 | 公共施設の計画 | スペースの機能、構成および配置
(必要なスペースの機能、設備、資料、構成) |
| 第14回 | 公共施設の計画 | 規模計画 (開架冊数、蔵書冊数、規模の計画) |
| 第15回 | 公共施設の計画 | 運営計画 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 図説 やさしい建築計画／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 伊達昌広 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所に勤務後、一級建築士事務所を設立。北海道を中心に住宅からビルディング特殊建築、地域活性化事業など、建築計画に関わる仕事に従事。

科目名： 住空間計画

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 住宅を対象に住宅が成り立たせる背景を学ぶ。建築設計、計画における幅広い視野を習得する。

■到達目標： 住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する。住宅の計画、設計することの特殊性とその方法を理解する。

■授業計画：

- 第1回 住宅について 住宅建築の位置付け、多様な住宅
- 第2回 住宅の要素Ⅰ 外的環境(自然、地形、立地条件)
- 第3回 住宅の要素Ⅱ 人的環境(建築技術、生業体系、防犯、社会形態)
- 第4回 住宅の要素Ⅲ 文化形態、住宅の多様性
- 第5回 建築計画 建築計画の理論と方法
- 第6回 住生活と生活構造 住宅は住生活の為の空間、住生活内容の成員、生活行為
- 第7回 団欒・食事空間 居間、食事室の意義と要求条件、計画の要点
- 第8回 家事空間 台所を中心に社会・技術の発展に伴う家事空間の変遷と求められる要点
- 第9回 就寝空間 日本における就寝に係る特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件
- 第10回 生理・衛生空間 浴室、洗面所、WCの計画上の要点
- 第11回 連絡空間、屋外空間 玄関、廊下、階段、庭、サービスヤードの計画上の要点
- 第12回 計画の手法 配置計画上の要点、平面計画を行う上でのゾーニング、動線分離の解説
- 第13回 日本の住宅 日本住宅における構成上の特色
- 第14回 世界の住宅 世界の住宅における構成上の特色
- 第15回 今後の住宅課題 現在の住宅に至るまでの移り変わり、今後の住宅の在り方

■教科書： プリント配布

■参考書： 図説 やさしい建築計画／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 鈴木理 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、オフィス、ホテル、公共施設などを担当し、独立後、住宅、店舗などの設計監理に従事。

科目名：	都市デザイン
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 私達の生活する都市を、どのようにつくるのか。そもそも、都市とは何かを具体例に即して考察する。

■到達目標： 近代の都市設計理念は何を作り出し、今どのような問題に直面しているか。今日の都市に求められているものは何か。それを解決するための方法は何かを学ぶ。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 都市とは何か 都市計画の目的と方法について考察する |
| 第2回 | 都市のかたち① 京都と江戸 |
| 第3回 | 都市のかたち② 古代と中世ヨーロッパ |
| 第4回 | 都市のかたち③ ルネサンスとバロック |
| 第5回 | 近代の都市デザイン理念① 庭園都市 |
| 第6回 | 近代の都市デザイン理念② 塔の都市 |
| 第7回 | 近代の日本の都市デザイン① 文明開化と西欧化 |
| 第8回 | 近代の日本の都市デザイン② 戦災復興と再開発 |
| 第9回 | 新しい都市デザイン理念① 再開発批判～住区再生 |
| 第10回 | 新しい都市デザイン理念② 「親近性」を求めて |
| 第11回 | 都市デザインの要素① 通り |
| 第12回 | 都市デザインの要素② 広場 |
| 第13回 | 都市デザインの要素③ 水と緑 |
| 第14回 | 都市デザインの要素④ 都市住居 |
| 第15回 | 都市をいかにつくるか |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 嶋津哲也 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、意匠設計・構造設計・設計監理に従事し、退職後、ゼネコンにて施工管理を担当

科目名：	建築設備計画
------	--------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する。
- 到達目標： 建築と設備の整合性と維持管理の重要性が把握できると共に、給排水・衛生設備計画手法を知る。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 各種エネルギーの利用技術 省エネルギーのための各種技術 |
| 第2回 | 冷暖房設備 暖房設備の分類、コールドドラフト |
| 第3回 | 冷暖房設備 冷凍機、ヒートポンプ、冷却塔 |
| 第4回 | 空気調和設備 各種空調方式、熱負荷計算 |
| 第5回 | 空気調和設備 換気設備 |
| 第6回 | 電気設備 配電方式、配線方式、避雷設備 |
| 第7回 | 電気設備・ガス設備 |
| 第8回 | 給水給湯設備 給水方式、給水量、必要圧力 |
| 第9回 | 給水給湯設備 水質汚染防止、中水 |
| 第10回 | 排水通気設備 排水方式、トラップ、通気管 |
| 第11回 | 衛生設備 衛生器具、パイプスペース |
| 第12回 | 消火防災設備 警報、防火、排煙、非難誘導 |
| 第13回 | ごみ処理設備 基本的な設計提案 |
| 第14回 | 情報通信設備 UPS、CVCF、PBX、LAN、電磁シールドルーム |
| 第15回 | 設備融合 保守管理、LC計画、中央管制、各種建築物の設備容量と機械室面積 |

■教科書：

■参考書： 図説 やさしい建築設備／学芸出版社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一 (専任教員)
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名：	建築構造力学Ⅰ
------	---------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： 本講義では構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形を理解する。
- 到達目標： 安全な構造物を設計するための基礎として、力と変形の関係について学び、簡単な構造物の変形や応力の解析を行える能力を演習を通して養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス、基礎数理、構造の役割と構成 |
| 第2回 | 力の合成と分解、力のつり合い、使用単位 |
| 第3回 | 構造物のモデル化、構造物に作用する荷重、支点と反力 |
| 第4回 | 構造物の安定・不安定、静定構造物の反力の算定 |
| 第5回 | 静定ばりの応力算定：片持ち梁、単純梁、跳ね出し梁 |
| 第6回 | 静定ばりの応力算定：ゲルバー梁、重ね合わせの原理 |
| 第7回 | 静定ラーメンの応力算定：応力図(M,N,Q) |
| 第8回 | 片持ちばり系、単純ばり系、3ピンラーメン |
| 第9回 | 静定トラスの応力算定：トラスの種類、トラスの解法 |
| 第10回 | 静定トラスの応力算定：節点法、切断法 |
| 第11回 | 断面の性質、断面一次モーメント、断面二次モーメント |
| 第12回 | 断面係数、断面2次半径、断面極2次モーメント |
| 第13回 | 垂直・せん断応力度、曲げ応力度、許容応力度 |
| 第14回 | 部材の変形、 σ - ε 曲線、たわみ |
| 第15回 | 座屈、期末テスト |

■教科書： First Stageシリーズ 建築構造設計概論／実教出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 飯塚哉子（専任教員）
実務経験： ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：	建築構造力学Ⅱ
------	---------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 各種構造物が力学的にどのような構造になっているか、構造力学の原理を理解させ不静定構造に関する基礎理論を体系的に解説し、演習を交えて理解を深める。
- 到達目標： 構造力学Ⅰの知識をもとに力のつり合い条件のみでは解くことができない不静定構造物について、部材に生じる応力を算定する方法を習得する。

■授業計画：

- 第1回 仮想仕事の原理と構造物の変形
- 第2回 仮想仕事の原理による静定トラスの変形の解法
- 第3回 応力法による不静定トラスの解法
- 第4回 静定梁の変形
- 第5回 応力法による不静定ばりの解法
- 第6回 カステリアーノの定理による不静定梁の解法
- 第7回 固定端力
- 第8回 たわみ角法によるラーメンの解法（節点移動無）
- 第9回 たわみ角法によるラーメンの解法（節点移動有）
- 第10回 固定モーメント法の原理
- 第11回 固定法による連続梁の解法
- 第12回 固定法による連ラーメンの解法（節点移動無）
- 第13回 固定法による連ラーメンの解法（節点移動有）
- 第14回 構造物の振動、固有周期
- 第15回 座屈、期末テスト

■教科書： First Stageシリーズ 建築構造設計概論／実教出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名：	建築構法
------	------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する。

■到達目標： 木質構法・鉄筋コンクリート構法・鉄骨構法を中心に、その役割・構成を理解する。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 建築構法の概説(建築物の構成、構造方式の種類、構法の変遷) |
| 第2回 | 主体構法(建築物への荷重・外力、水平構面とねじれ) |
| 第3回 | 木質構法: 木質構法の特徴、木質材料 |
| 第4回 | 木質構法: 軸組構法 |
| 第5回 | 木質構法: 枠組壁構法 |
| 第6回 | 木質構法: 大断面集成材構法 |
| 第7回 | 鉄筋コンクリート構法: 構造形式、材料 |
| 第8回 | 鉄筋コンクリート構法: ラーメン |
| 第9回 | 鉄筋コンクリート構法: 壁式、PC、SRC |
| 第10回 | 鉄骨構法: 構造形式と特徴、鋼材 |
| 第11回 | 鉄骨構法: 接合方法、架構、建方 |
| 第12回 | 過去の地震被害に見られる構法上の教訓 |
| 第13回 | 形態と構法 |
| 第14回 | 性能と構法 |
| 第15回 | 総括、テスト |

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名： 木構造

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 日本建築の特徴である木構造の基本を理解し、施工の概要、構造の特徴、木材の性質、構造設計に必要な構造計画を学ぶ。

■到達目標： 各種木質構造の特徴、力学的性質を理解し、圧縮材・引張材・曲げ材、接合部の設計法を習得する。

■授業計画：

- 第1回 木質材料(危険温度、許容応力度、構造用製材の基準強度)
- 第2回 木材の性質(ヤング係数、含水率、クリープ)
- 第3回 軸組と基礎・土台・床組
- 第4回 柱と横架材(はり・胴差し・けた)、筋かい、火打ち、方づえ
- 第5回 小屋組(洋風小屋組・和風小屋組・ひねり金物)
- 第6回 耐力壁の配置と選定、所要有効長さ、見付面積
- 第7回 部材の設計(引張材、圧縮材、曲げ材)
- 第8回 大断面集成材による木造建築物
- 第9回 枠組壁工法(ツーバイフォー工法)、生産の要点
- 第10回 部材の接合法(継手、仕口、補助材)
- 第11回 防腐、防蟻
- 第12回 木造の耐震計算、変形性能
- 第13回 日本住宅性能表示基準
- 第14回 住宅設計例
- 第15回 期末テスト

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 五十嵐雄祐 (非常勤講師)
実務経験： 東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立

科目名：	鉄筋コンクリート構造
------	------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 鉄筋コンクリートとしての部材の力学的挙動を正しく理解する能力を養う。

■到達目標： 鉄筋コンクリート構造における許容応力度設計法の概念を理解し、コンクリートと鉄筋の材料的な特徴および鉄筋コンクリートとしての構造特性を学ぶ。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | RC造の特徴、構造形式(ラーメン・壁式・フラットスラブ・シェル) |
| 第2回 | 材料(セメントの種類、骨材、コンクリート) |
| 第3回 | 材料の性質と許容応力度 |
| 第4回 | はりの許容応力度設計、断面算定、終局曲げモーメント |
| 第5回 | はりのせん断補強 |
| 第6回 | 柱の軸方向力と曲げに対する断面算定 |
| 第7回 | 柱のせん断補強 |
| 第8回 | 柱梁接合部のせん断補強 |
| 第9回 | 柱の終局圧縮耐力 |
| 第10回 | 床スラブの構造、スラブの応力分布と配筋 |
| 第11回 | 耐震壁の挙動と設計(設計上の留意点、開口部補強) |
| 第12回 | 基礎(フーチング、基礎ばりの設計) |
| 第13回 | 定着、継手及び付着(フック、あき、かぶり厚さ) |
| 第14回 | コンクリートのひび割れと破壊性状 |
| 第15回 | 鉄筋コンクリート造の耐震設計、テスト |

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名： 鋼構造

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 鋼構造の建築空間構成に果たす役割、材料としての鋼材の性質、空間構成の方法と設計の基礎となる変形・力の伝達と耐力等を体系的に理解することを目標とする。
- 到達目標： 鉄骨構造の特質及び許容応力度の理解。各部構造の骨組名称と役割、引張材・圧縮材の断面算定、接合の特徴と許容耐力について理解する。

■授業計画：

- 第1回 鉄骨構造の特性
- 第2回 構造材料の材質規格、機械的性質、許容応力度
- 第3回 鋼材の力学的特性、腐食、その他の鋼材・非鉄金属
- 第4回 構造形式(トラス・ラーメン)、各部構造
- 第5回 はり材(横座屈、局部座屈、たわみ)、柱、筋かい
- 第6回 部材の設計(引張材)
- 第7回 部材の設計(圧縮材)
- 第8回 細長比、座屈、板要素幅厚比
- 第9回 接合部設計(継手、仕口)
- 第10回 ダイアフラム、崩壊型
- 第11回 高力ボルト・リベット・ボルト接合(縁端距離、摩擦)
- 第12回 溶接接合(溶接継目、溶接欠陥、溶接記号)
- 第13回 鉄骨造の耐震設計(許容応力度、局部座屈)
- 第14回 耐火被覆、保有水平耐力、変形能力
- 第15回 まとめ、テスト

■教科書： 改訂版 初めての建築一般構造／学芸出版社

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 嶋津哲也 (非常勤講師)
実務経験： 設計事務所にて、意匠設計・構造設計・設計監理に従事し、退職後、ゼネコンにて施工管理を担当

科目名： 建築生産

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について事例に基づき解説する。

■到達目標： 建築物が生産される過程に関する広範な知識を習得し、構造種別にしたがった各種技術の知識、建築物の性能（安全性、経済性、生産性、環境性等）について総合的に評価する能力を身につける。

■授業計画：

- 第1回 建築生産のプロセス
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 工程管理・原価管理・品質管理
- 第4回 建築施工における安全管理
- 第5回 木造の施工技術①
- 第6回 木造の施工技術②
- 第7回 RC造の施工技術①
- 第8回 RC造の施工技術②
- 第9回 鉄骨造の施工技術
- 第10回 組積造の施工技術
- 第11回 維持保全と建築ストックの活用
- 第12回 建物の運用・維持管理
- 第13回 建物の解体とリサイクル
- 第14回 住宅リノベーション
- 第15回 建築生産の持続性と将来展望、テスト

■教科書： 図説 はじめての建築施工／学芸出版社

■参考書： 2級建築施工管理技士学科テキスト／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 本間健一（専任教員）
実務経験： 大手建設会社でマンション・公共施設などの構造設計を担当し、退職後、設計事務所に
て木造住宅の設計を担当。

科目名： 建築施工

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築が完成にいたるまでの手順・プロセスを知り、同時に安全管理や設備など、実際に建築士として役立つための知識を習得する。
- 到達目標： 現場の写真やDVDを用いて、施工というものをイメージさせるとともに、演習などを通して、施工のプロセスなどを理解してもらう。

■授業計画：

- 第1回 施工業務・施工計画
- 第2回 施工監理・仮設工事・足場
- 第3回 地盤調査・土工事・山留め工事
- 第4回 基礎・地業工事
- 第5回 鉄筋工事
- 第6回 型枠工事
- 第7回 コンクリート工事
- 第8回 鉄骨工事
- 第9回 プレキャストコンクリート工事・ALC・パネル工事、カーテンウォール工事
- 第10回 中間テスト
- 第11回 メーソンリー工事・木工事・屋根工事
- 第12回 防水工事
- 第13回 左官工事・仕上げ工事
- 第14回 設備工事
- 第15回 期末テスト

■教科書： 図説 はじめての建築施工／学芸出版社

■参考書： 2級建築施工管理技士学科テキスト／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 弘田亨一（非常勤講師）
実務経験： ハウスメーカーにて設計業務（住宅・集合住宅）に従事した後、設計事務所にて店舗・医療施設・住宅の設計・監理業務を行う

科目名：	建築法規Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

- 科目概要： 建築基準法及び建築基準法施行令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、都市計画区域等における主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用すべく能力を養う。
- 到達目標： 建築基準法を正しく解釈し、建築法令集を適切に参照して、法規的問題を解決できるようにする事を目的とする。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 建築基準法の概要、建築関連の法体系 |
| 第2回 | 用語の定義（建築物に関する用語）準用工作物、特殊建築物 |
| 第3回 | 用語の定義（防火関係の用語）耐火、準耐、防火構造、性能 |
| 第4回 | 都市計画区域等における建築制限（集団規定）道路 |
| 第5回 | 用途地域（用途地域の指定、建築物の用途制限） |
| 第6回 | 面積算定（敷地面積、建築面積、延べ面積） |
| 第7回 | 面積制限（容積率、前面道路、建ぺい率） |
| 第8回 | 高さ等の算定（建築物の高さ、軒の高さ、階数、避難階） |
| 第9回 | 道路斜線、隣地斜線、北側斜線、天空率、日影規制 |
| 第10回 | 建築手続（建築主、確認済証、確認申請、各種届出） |
| 第11回 | 建築物自体の技術基準（単体規定）一般構造（階段、便所） |
| 第12回 | 居室の採光、有効開口部面積の算定、換気、シックハウス |
| 第13回 | 居室の天井・床の高さ、共同住宅の界壁 |
| 第14回 | 建築設備（避雷設備、給排水設備、昇降機設備） |
| 第15回 | 総括、期末テスト |

■教科書： 二級建築士試験合格セミナー 建築法規／オーム社

■参考書： 建築基準法関係法令集／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 弘田亨一（非常勤講師）
実務経験： ハウスメーカーにて設計業務（住宅・集合住宅）に従事した後、設計事務所にて店舗・医療施設・住宅の設計・監理業務を行う

科目名：	建築法規Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 建築法規Ⅰで得た知識をもとに、法を踏まえた上での建築設計・デザインの表現を知る。

■到達目標： 設計のプランニングやデザインなど課題を用いて学習することで、法律がどんな場面でどのようにして必要とされるか、実際に行うことで身につけてもらう。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 構造強度 |
| 第2回 | 防火関係規定 法22条で規定する区域内の防火措置 |
| 第3回 | 防火関係規定 大規模の木造建築物の外壁等(25条) |
| 第4回 | 防火関係規定 耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物 |
| 第5回 | 防火関係規定 防火地域、準防火地域内の防火規定① |
| 第6回 | 防火関係規定 防火地域、準防火地域内の防火規定② |
| 第7回 | 防火関係規定 防火区画 |
| 第8回 | 避難規定 廊下、避難階段及び出入り口① |
| 第9回 | 避難規定 廊下、避難階段及び出入り口② |
| 第10回 | 中間テスト |
| 第11回 | バリアフリー新法・建築士法・建設業法・消防法 |
| 第12回 | 法規をふまえたプランニング① |
| 第13回 | 法規をふまえたプランニング② |
| 第14回 | 法規をふまえたプランニング③ |
| 第15回 | 期末テスト |

■教科書： 二級建築士試験合格セミナー 建築法規／オーム社

■参考書： 建築基準法関係法令集／建築資料研究社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、テスト、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 大塚裕介（専任教員）
実務経験： 設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、設計競技のプレゼンテーションを手掛けるデザイン事務所を主宰。

科目名：	建築概論
------	------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 建築を学び始めるにあたって、人間の生活環境としての建築空間を創造する理論、方法を概観することを目的とする。これから始まる建築に関する種々の専門分野の相互関係を理解する。
- 到達目標： 建築の理念や職能範囲を知り、建築学の概略を捉える。建築物に作用する荷重の構造原理を理解する。建築をつくるにあたって、計画的アプローチがどのように関わるかを理解する。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 建築について、建築における職能について |
| 第2回 | 建築学における計画系の位置づけ |
| 第3回 | 歴史の中の建築①(建築史) |
| 第4回 | 歴史の中の建築②(") |
| 第5回 | 建物をつくる①(計画・設計) |
| 第6回 | 建物をつくる②(") |
| 第7回 | 都市をつくる(街並み・都市計画・建築法規) |
| 第8回 | VTR(建築設計の実際) |
| 第9回 | 建築の構造(荷重外力・構造原理)、シェル・空間構造 |
| 第10回 | 地盤・基礎 |
| 第11回 | 各種構造①(木構造) |
| 第12回 | 各種構造②(鉄骨構造) |
| 第13回 | 各種構造③(鉄筋コンクリート構造) |
| 第14回 | 各種構造④(その他のコンクリート系構造) |
| 第15回 | 各部構造(屋根・床・壁・天井) |

■教科書：

■参考書： 世界で一番美しい建築デザインの教科書／エクスナレッジ

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	造形演習Ⅰ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 作品制作を通じて建築設計に必要なプレゼンテーションテクニック及び建築の3次元形態の把握方法を理解する。

■到達目標： 建築模型とパースが正確に作成でき、建築物を立体的に表現する能力を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 導入、課題説明 |
| 第2回 | 【住宅模型の制作】 エスキース |
| 第3回 | 【住宅模型の制作】 模型用図面の製図 |
| 第4回 | 【住宅模型の制作】 外部展開図 |
| 第5回 | 【住宅模型の制作】 モデルボードの性質、カット法 |
| 第6回 | 【住宅模型の制作】 部材切り出し |
| 第7回 | 【住宅模型の制作】 組み立て |
| 第8回 | 【住宅模型の制作】 スタディモデルによる発想と展開 |
| 第9回 | 【住宅模型の制作】 図面修正 |
| 第10回 | 【外観パースの作成】 二点透視図法による作図(SP,HL,VP) |
| 第11回 | 【外観パースの作成】 二点透視図法による作図(SP,HL,VP) |
| 第12回 | 【外観パースの作成】 壁面、屋根の描画 |
| 第13回 | 【外観パースの作成】 原図の転写 |
| 第14回 | 【外観パースの作成】 着色仕上げ |
| 第15回 | 合評 |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	造形演習Ⅱ
------	-------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する。

■到達目標： 構造模型制作を通して、部材構成および部材名称を理解し、組立図から基礎伏図、小屋組図を読み取る能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、図面確認(平面図、伏図、軸組図) |
| 第2回 | 【木造在来構法】 基礎伏図(敷地、基礎、束石) |
| 第3回 | 【木造在来構法】 床束、根がらみ、土台(継手・仕口)、火打ち |
| 第4回 | 【木造在来構法】 床伏図(大引き、根太、根太掛け) |
| 第5回 | 【木造在来構法】 建て方(通し柱、管柱、木材の元口と末口) |
| 第6回 | 【木造在来構法】 大梁、胴差し、火打ち梁、小ばり、2階床組 |
| 第7回 | 【木造在来構法】 小屋ばり、軒桁、小屋組(棟木、母屋) |
| 第8回 | 【木造在来構法】 垂木、まぐさ、窓台、間柱、筋かい |
| 第9回 | 【桢組壁工法】 ツーバイフォー工法に使用される材料特性 |
| 第10回 | 【桢組壁工法】 基礎、土台、1階床組 |
| 第11回 | 【桢組壁工法】 1階壁組(はり間方向) 隅柱、かい木 |
| 第12回 | 【桢組壁工法】 1階壁組(けた方向) ころび止め、頭つなぎ |
| 第13回 | 【桢組壁工法】 2階床組、2階壁組 |
| 第14回 | 【桢組壁工法】 小屋組、仕上げ |
| 第15回 | 合評(工法の違いによる構造的特長) |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	建築プレゼンテーションⅠ
------	--------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 建築を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う。

■到達目標： パースペクティブ、3DやCGなどの表現方法を用いて、建築を表現するための技術を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | プレゼンテーションの概要 |
| 第2回 | 建築の企画からプレゼンテーション |
| 第3回 | 建築の企画① コンセプトの考え方 |
| 第4回 | 建築の企画② コンセプト表現と構成 |
| 第5回 | 建築の企画③ コンセプトのプレゼンテーション |
| 第6回 | 建築デザイン① 平面図・立面図の表現方法 |
| 第7回 | 建築デザイン② 面積表・方位・枠等の表現方法 |
| 第8回 | 建築デザイン③ 全体のバランスと中心となるコンセプト |
| 第9回 | プレゼンテーションの建築作品例の収集 |
| 第10回 | 建築コンセプトの理解と図面のプレゼン発表 |
| 第11回 | 各自建築材料の収集(建築図面・スキャン取り込み) |
| 第12回 | 建築プレゼンテーションの作成① 図面表現 |
| 第13回 | 建築プレゼンテーションの作成② 透視図 |
| 第14回 | 建築プレゼンテーションの作成③ レイアウト |
| 第15回 | 合評 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック／彰国社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 島田佳孝 (非常勤講師)
実務経験： 北海道の設計事務所で意匠系の実務を経験後、不動産と設計の会社を設立

科目名：	建築プレゼンテーションⅡ
------	--------------

履修形態： 必修
授業形態： 講義
履修学年： 2 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝達するビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ。

■到達目標： 建築CAD演習Ⅰ・Ⅱ及び建築プレゼンテーションⅠで学習した基礎技術をもとに、建築空間をより一層明確に表現・伝達する技術を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 図面のレイアウトとバランス |
| 第2回 | 図面表現、製図基準 |
| 第3回 | 平面図・配置図の表現と種類 |
| 第4回 | 立面図・樹木の表現と種類 |
| 第5回 | 断面図の表現と種類 |
| 第6回 | コンセプト及び基本設計、マスタープラン |
| 第7回 | エスキース、スタディ模型 |
| 第8回 | 基本建築図の作図(平面図、立面図等) |
| 第9回 | ドローイング |
| 第10回 | アクソメ |
| 第11回 | 外観パース作成 |
| 第12回 | リアスティックな内観パースの作成(エレメントの配置) |
| 第13回 | アクソメ |
| 第14回 | モデリング |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書： プリント配布

■参考書： 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック／彰国社

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 建築デザイン学科
対象専攻： 建築士専攻
担当教員： 松原祐子 (非常勤講師)
実務経験： 大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務。オフィスデザイン・設計監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ演習
------	-------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

- 科目概要： 設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する。
- 到達目標： パースを通して空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 透視図の基本と用語 SPの距離と見え方、HL、ELの高さと見え方 |
| 第2回 | 基本プランニング・エスキース |
| 第3回 | 平面計画 イメージパース(一消点透視図) |
| 第4回 | 基本設計 イメージパース(一消点透視図) |
| 第5回 | 平面図 イメージパース(二消点透視図) |
| 第6回 | 平面図 イメージパース(二消点透視図) |
| 第7回 | 展開図 リアスティックな内観パース(エレメントの配置) |
| 第8回 | 天井伏図 照明計画・俯瞰図 |
| 第9回 | 断面図 アイソメ |
| 第10回 | 断面図 アイソメ |
| 第11回 | 立面図 外観パース(ファサード・テクスチャ) |
| 第12回 | 立面図 外観パース(窓・ミラーの表現) |
| 第13回 | 完成予想パース |
| 第14回 | 鳥瞰図 樹木の表現と種類 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書： プリント配布

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 インテリアデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
住宅設計演習	○		2年・前期	60
CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	30
CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
インテリア計画Ⅰ	○		1年・前期	60
インテリア計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住まいと環境	○		1年・前期	30
設備計画	○		2年・前期	60
基礎力学	○		1年・後期	30
建築一般	○		2年・前期	30
インテリア構法	○		1年・後期	60
インテリアエレメント	○		1年・前期	60
インテリア施工	○		1年・後期	30
インテリア法規	○		2年・前期	30
造形演習Ⅰ	○		1年・前期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
パースペクティブ基礎演習	○		1年・前期	60
インテリア概論	○		1年・前期	30
インテリア設計演習	○		1年・後期	30
住空間計画	○		1年・後期	30
インテリアデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
インテリアデザイン応用演習	○		2年・前期	60
プレゼンテーションⅠ	○		1年・後期	60
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
3Dデザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
3Dデザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
商業施設デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
商業施設デザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP応用演習	○		2年・後期	30
インテリアディテール	○		1年・後期	30
インテリア装備	○		2年・前期	30
インテリア模型	○		1年・後期	30
英語	○		1年・前期	30
合 計				1560

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネーター業務。その後フリーにて活動。日本パーステック協会会員

科目名：	インテリア概論
------	---------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：インテリアデザイン、コーディネーションボード等の作成を中心にもの創りの楽しさを学ぶ。また、コンペ等に積極的に取り組む
- 到達目標：インテリアデザイナー、コーディネーターとして必要な知識、技術を身に付け、実践する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(インテリアデザイン、コーディネーターの仕事について) |
| 第2回 | インテリアの歴史・インテリア計画 |
| 第3回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第4回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第5回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第6回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第7回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第8回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第9回 | インテリア構造 |
| 第10回 | インテリア構法 |
| 第11回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(設計図書について) |
| 第12回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第13回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第14回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |
| 第15回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネート業務。その後フリーにて活動。設計から入るインテリアデザインを行う

科目名	住まいと環境
-----	--------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する
- 到達目標：熱・空気・音・光環境のメカニズムとこれらの測定技術、制御技術を理解し、人間が建物内で快適な生活を送る為の室内環境整備の基準や方法を学ぶ

■授業計画：

- 第1回 熱環境Ⅰ：室内環境と温熱感覚、熱損失と熱取得
- 第2回 熱環境Ⅱ：熱伝導、熱貫流率、熱損失係数、遮熱
- 第3回 熱環境Ⅲ：室温と熱負荷、不快指数、快適域
- 第4回 光環境Ⅰ：日照と日射、日影線図、日影時間の検討
- 第5回 光環境Ⅱ：採光上有効な窓、光の単位と法則、採光計画
- 第6回 光環境Ⅲ：室内照度分布、照明計画
- 第7回 空気環境Ⅰ：空気質と換気、必要換気量、換気方式
- 第8回 空気環境Ⅱ：換気と通風の力学、圧力差、圧力損失
- 第9回 空気環境Ⅲ：通風、室内気流と温度分布
- 第10回 湿気Ⅰ：水蒸気量、空気線図、露点温度
- 第11回 湿気Ⅱ：壁体の結露、（表面結露と内部結露）
- 第12回 音環境Ⅰ：音の伝搬と減衰、室内音響
- 第13回 音環境Ⅱ：吸音・遮音特性、住宅内装計画
- 第14回 音環境Ⅲ：騒音・振動の計測とその評価、環境基準
- 第15回 電磁環境：電磁環境とその障害、電磁シールド技術

■教科書：

■参考書：学芸出版社 専門士課程 建築計画

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：日常生活の中で室内照明や音響効果、室内気流と空気、温度や湿度等に関心を持ち、周辺環境を注意深く観察し、疑問を持って講義に臨んでほしい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮崎昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：英語

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する

■到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント③：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書：プリント配布

■参考書：辞書があれば望ましい

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	インテリア計画Ⅰ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う

■到達目標：建築計画の概念および設計プロセスの習得。条件（立地、予算、法規、機能）を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。常用寸法やヒューマンスケールを身に付ける。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 地理的環境・機能と形態 |
| 第2回 | 安全性・美しさ・象徴性・法規と形態 |
| 第3回 | 人間の知覚と行動、歩行空間、建物の配置 |
| 第4回 | 寸法と規模の計画、単位空間と建築部位 |
| 第5回 | 空間構成技法（仕切りと連結） |
| 第6回 | 住宅を形づくる要因（気候風土） |
| 第7回 | 住宅の種類と作品 |
| 第8回 | ライフスタイル、高齢化 |
| 第9回 | 住まいの性能 |
| 第10回 | デザイン上の解法 |
| 第11回 | リフォーム計画：リフォームの種類と内容 |
| 第12回 | リフォーム計画：計画上の留意点 |
| 第13回 | リフォーム計画：住宅性能の維持 |
| 第14回 | リフォーム計画：快適性の向上 |
| 第15回 | リノベーション |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅱ

■履修上の留意点：日常生活の中にある空間や物の寸法、素材、納まり等を興味を持って観察して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立

科目名：	インテリア計画Ⅱ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅空間に焦点を当て、その実例等を等を通してディテール、建築手法、計画における幅広い知識を習得する

■到達目標：住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する

■授業計画：

- 第1回 住宅について：住宅建築の位置付け、多様な住宅
- 第2回 住宅の要素Ⅰ：外的環境（自然、地形、立地条件）
- 第3回 住宅の要素Ⅱ：人的環境（建築技術、生業体系、防犯、社会形態）
- 第4回 住宅の要素Ⅲ：文化形態、住宅の多様性
- 第5回 建築計画：建築計画の理論と方法
- 第6回 住生活と生活構造：住宅は住生活の為の空間、住生活内容の成員、生活行為
- 第7回 団欒・食事空間：居間、食事室の意義と要求条件、計画の要点
- 第8回 家事空間：台所を中心に社会・技術の発展に伴う家事空間の変遷と求められる要点
- 第9回 就寝空間：日本における特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件
- 第10回 生理・衛生空間：浴室、洗面所、WCの計画上の要点
- 第11回 連絡空間、屋外空間：玄関、廊下、階段、庭、サービスヤードの計画上の要点
- 第12回 計画手法：配置計画上の要点、平面計画を行う上でのゾーニング、動線分離の解説
- 第13回 日本の住宅：日本住宅における構成上の特色
- 第14回 世界の住宅：世界の住宅における構成上の特色
- 第15回 今後の住宅課題：現在の住宅に至るまでの移り変わり、今後の住宅の在り方

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：	インテリアデザイン基礎演習
------	----------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：著名なインテリアデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れる。照明器具のシェード製作を通して機能とデザインの基礎を学ぶ

■到達目標：グループ作業を通じて協働で作業することの大切さ、他人の意見を尊重するという社会人としてのマナーを身に付ける。照明製作を通じてイメージを形にする難しさと達成感を学び言葉を使わずに意図を伝えるというデザインの役割を体験する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 事例分析1: デザインの意味、役割について考える。著名なインテリアデザイナーの紹介 |
| 第2回 | 事例分析2: デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習 |
| 第3回 | 事例分析3: 中間発表を通して最初の自分の考え方との差異を議論 |
| 第4回 | 事例分析4: デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析 |
| 第5回 | 事例分析5: 最終発表、プレゼンテーション |
| 第6回 | 照明器具の製作1: 照明の果たす役割、種類について |
| 第7回 | 照明器具の製作2: ファーストアイデアをプレゼンテーション |
| 第8回 | 照明器具の製作3: ペーパーモデル(S=1/3)の製作(デザイン意図と形の整合性) |
| 第9回 | 照明器具の製作4: 試作を重ね、アイデアの進化、改良 |
| 第10回 | 照明器具の製作5: プロポーション、ディテールを詰める |
| 第11回 | 照明器具の製作6: ペーパーモデル(原寸)の製作 |
| 第12回 | 照明器具の製作7: 電球器具の取り付け(熱、大きさ、明るさ) |
| 第13回 | 照明器具の製作8: ペーパーモデル(原寸)の発表。修正点洗い出し |
| 第14回 | 照明器具の製作9: 最終モデルの製作(材質の違いによる問題点) |
| 第15回 | 照明器具の製作10: 最終発表(消灯、点灯時の照明としての役割、造形、意図を議論) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰

科目名：	インテリアデザイン応用演習
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：既存シティホテルの改修課題。実際の物件を対象に現地視察を行い周辺状況の確認から課題条件を読み解き、各自で課題対象範囲に対してテナントの設定とインテリアの提案を行う
- 到達目標：与えられた時間内にアイディアをまとめ、それを実際のクライアントを想定して見る人に分かるレベルとし、更にプロとして責任をもって説明できることを目指す

■授業計画：

- 第1回 図面の解説と条件把握。事前に問題点を論議整理
- 第2回 現地見学、情報収集
- 第3回 中間発表（実現可能性について論議）
- 第4回 模型製作及び事例情報の収集①
- 第5回 模型製作及び事例情報の収集②
- 第6回 中間発表（白模型の提出とアイディアスケッチ）
- 第7回 空間造形①（平面図、断面図）
- 第8回 空間造形②（平面図、断面図）
- 第9回 中間発表（図面と模型の提出）プレゼンテーション
- 第10回 フィードバック（発表で指摘された部分の修正作業）
- 第11回 詳細検討（素材、什器、照明etc.）
- 第12回 中間発表（図面と模型の提出）修正点の説明
- 第13回 模型及び図面の仕上げ①
- 第14回 模型及び図面の仕上げ②
- 第15回 最終発表

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	基礎製図
------	------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築図面の描き方やルールを学び、各種図面を理解しながら作図出来る基礎的能力を身につける

■到達目標：建築製図の基礎的知識、技法を学び、演習課題を通じて製図の手法、技法のみならず、部材名、構造、納まり等を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 建築製図の基本（製図用具、製図のルール、JIS） |
| 第2回 | 線と文字の練習 |
| 第3回 | 立体の理解（正投影図、アイソメ、アクソメ） |
| 第4回 | 立体の理解（展開図） |
| 第5回 | 木造平面図（グリッド、柱、大壁、真壁） |
| 第6回 | 木造平面図（建具：窓、戸、造付け設備、タイル等割付線） |
| 第7回 | 木造平面図（室名、出入口表示、寸法線） |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 配置図・屋根伏図 |
| 第11回 | 矩計図 |
| 第12回 | 基礎伏図（フーチング、床下換気口、土間コン） |
| 第13回 | 床伏図（土台、大引、根太、束、火打ち） |
| 第14回 | 小屋伏図（棟木、母屋、軒桁、梁、垂木、小屋束） |
| 第15回 | 平面詳細図 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ基礎演習
------	---------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する
- 到達目標：パースを通して空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 透視図の基本と用語。SPの距離と見え方、HL、ELの高さと見え方 |
| 第2回 | 基本プランニング・エスキース |
| 第3回 | 平面計画：イメージパース（一消点透視図） |
| 第4回 | 基本設計：イメージパース（一消点透視図） |
| 第5回 | 平面図：イメージパース（二消点透視図） |
| 第6回 | 平面図：イメージパース（二消点透視図） |
| 第7回 | 展開図：リアスティックな内観パース（エレメントの配置） |
| 第8回 | 天井伏図：照明計画・俯瞰図 |
| 第9回 | 断面図、アイソメ |
| 第10回 | 断面図、アクソメ |
| 第11回 | 立面図、外観パース（ファサード・テクスチャ） |
| 第12回 | 立面図、外観パース（窓・ミラーの表現） |
| 第13回 | 完成予想パース |
| 第14回 | 鳥瞰図、樹木の表現と種類 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：インテリア構法

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの構造・構法と仕上げに関する知識を解説。建築の技術用語、基礎的な構造形式を習得する

■到達目標：建築構造の基礎的な技術用語、納まりを理解し、習得した技術用語をベースに専門性の深掘りが行えるようにする

■授業計画：

- 第1回 木構造と木材
- 第2回 鉄骨構造と鋼材
- 第3回 鉄筋コンクリート構造とコンクリート
- 第4回 その他の構造
- 第5回 プレハブ構法
- 第6回 床の構法（下地と仕上げ） 演習課題1
- 第7回 壁の構法（下地と仕上げ） 演習課題2
- 第8回 開口部（下地と仕上げ） 演習課題3
- 第9回 天井の構法（下地と仕上げ）
- 第10回 スペースユニット
- 第11回 造作と造作材、建具
- 第12回 断熱材料
- 第13回 吸音材と遮音材
- 第14回 防火材料
- 第15回 防水材料・シール材・接着剤

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：基礎力学

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形の関係を理解する

■到達目標：安全な構造物を設計するための基礎として力と変形の関係について学び、簡単な構造物の変形や応力の解析を行える能力を演習を通して養う

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス、基礎数理、構造の役割と構成
- 第2回 力の合成と分解、力のつり合い、使用単位
- 第3回 構造物のモデル化、構造物に作用する荷重、支点と反力
- 第4回 構造物の安定・不安定、静定構造物の反力の算定
- 第5回 静定ばりの応力算定：片持ち梁、単純梁
- 第6回 静定ばりの応力算定：跳ね出し梁
- 第7回 静定ラーメンの応力算定：応力図(M,N,Q)
- 第8回 片持ちばり系、単純ばり系、3ピンラーメン
- 第9回 静定トラスの応力算定：トラスの種類、トラスの解法
- 第10回 静定トラスの応力算定：節点法、切断法
- 第11回 断面の性質、断面一次モーメント、断面二次モーメント
- 第12回 断面係数、断面2次半径、断面極2次モーメント
- 第13回 垂直・せん断応力度、曲げ応力度、許容応力度
- 第14回 部材の変形、 σ - ε 曲線、たわみ
- 第15回 座屈、期末テスト

■教科書：実教出版株式会社 最新建築構造設計入門 -力学から設計まで-

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築構造

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：高等学校における数学と物理学(特に力学)の履修を前提としている為、各自の理解を確認して問題集等に取り組んで欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアエレメント
------	------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う

■到達目標：室内を構成する要素である建具等の材料特性、加工方法、仕組みについて理解する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | エレメントの分類と特性：製品の規格・性能、選定、発注、設置 |
| 第2回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：内装仕上げ部材、建具部材） |
| 第3回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（構造や下地の基礎知識） |
| 第4回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：間仕切、収納部材、階段） |
| 第5回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：給排水、換気・空調設備機器） |
| 第6回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：水回り、照明電機設備機器） |
| 第7回 | 生活行為をサポートする用具系エレメント |
| 第8回 | 生活環境を整えるエレメント（ウインドートリートメント） |
| 第9回 | 関連エレメント |
| 第10回 | メーカーのショールーム見学（実物確認）コーディネーションボードの作成 |
| 第11回 | 建具（内部建具、外部建具、建築金物） |
| 第12回 | 床（木質系、プラスチック系、石・タイル系、繊維系） |
| 第13回 | 壁（塗壁、タイル、壁装、間仕切） |
| 第14回 | 天井（直天井、吊り天井） |
| 第15回 | 照明（照明方法、照明方式、建築化照明、昼光率） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：インテリア施工

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について実例に基づき解説する

■到達目標：建築物が生産される過程に関する広範な知識を習得し、構造種別にしたがった各種技術、建築物の性能（安全性、経済性、生産性、環境性等）について総合的に評価する能力を身に着ける

■授業計画：

- 第1回 工事管理(工程管理・原価管理・品質管理)
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 内装各種工事①(軽量鉄骨下地、左官工事、タイル工事)
- 第4回 内装各種工事②(建具・ガラス工事、塗装工事)
- 第5回 内装各種工事③(金属工事、張り石工事、床工事)
- 第6回 仮設工事・土工事・基礎工事
- 第7回 鉄筋・型枠工事
- 第8回 コンクリート工事①(材料、調合、品質管理、試験)
- 第9回 コンクリート工事②(運搬、養生、各種コンクリート)
- 第10回 鉄骨工事(鋼材、接合、建方、耐火被覆)
- 第11回 木工事(材料、加工、造作、在来、2×4)
- 第12回 組積工事(コンクリートブロック、ALC、れんが)
- 第13回 防水・断熱工事
- 第14回 設備工事、施工機器
- 第15回 積算、工事請負契約

■教科書：

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築施工

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア構法

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計（CADによる作図）を担当

科目名：	CAD演習Ⅰ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築CADの概要、二次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する

■到達目標：CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 基本操作1（作図環境の設定、2次元図形の基本的な作図）CAD製図のJIS規格 |
| 第2回 | 基本操作2（レイヤー、クラス、縮尺、寸法） |
| 第3回 | 配置図の作図：線種表現（境界線、点景、方位、駐車場） |
| 第4回 | 住宅の平面図：画面情報を利用した効率的な作図技術（柱、壁、開口部） |
| 第5回 | 住宅の平面図：線分と面を利用した作図の概念（建具、設備機器） |
| 第6回 | 住宅の平面図：図形登録を利用した効率的な作図技術（ハッチング、タイルパターン） |
| 第7回 | 住宅の断面図：レイヤの概念と利用法（床高、天井高、軒高、最高高さ） |
| 第8回 | 住宅の断面図：腰高、内法高、見えがかり |
| 第9回 | 住宅の立面図：平面図からの投影下書き線 |
| 第10回 | 住宅の立面図：軒高、基礎高、開口部内法、屋根勾配 |
| 第11回 | 矩計図：材料構造表示記号、仕上材名称 |
| 第12回 | 天井伏図：換気口、点検口、天井埋込照明器具 |
| 第13回 | 床伏図：土台、大引、火打、根太 |
| 第14回 | 面積表、全体レイアウト |
| 第15回 | まとめ、ポートフォリオ（課題作品集）作成 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：今井正樹（非常勤講師）
実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	CAD演習Ⅱ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う
- 到達目標：設計に必要な技術と表現（CAD：製図、CG：プレゼン）を実践的な課題と関連付けながら学び、知識を深める

■授業計画：

- 第1回 敷地図作図：フロアプラン、CADによる簡易3Dモデリング
- 第2回 ボリュームスタディによる建物の大きさ、バランス検討
- 第3回 ブロックプラン、ダイアグラム、動線
- 第4回 基本設計 配置図兼平面図 ラフ3D
- 第5回 構造・設備コア、耐震壁
- 第6回 複写機能による各階平面図、画層作成、編集機能
- 第7回 平面詳細図 オブジェクトの階層構造と作業環境
- 第8回 屋根の形状作成と壁高の調整
- 第9回 外観のCG作成 マテリアルの作成とマッピング
- 第10回 立面図修正
- 第11回 室内空間のCG（美しく質感豊かな透視図を作成）
- 第12回 展開図修正
- 第13回 イメージ（光源・背景等）の仕上げ
- 第14回 照明計画図作図
- 第15回 まとめ、合評

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	住空間計画
------	-------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：前期で学んだ建築知識を総合的に活用し、快適で美しい建築物を設計する実務的能力を養う

■到達目標：現地調査を行い、プランから設計まで、住宅設計に係る一連の流れを習得し、プレゼンシートとしてまとめる

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 設計事例紹介、設計条件の確認（用途地域、高さ制限） |
| 第2回 | 現地調査（周辺環境、近隣との関係）、エスキース |
| 第3回 | 設計主旨と配置プラン |
| 第4回 | ボリューム模型 |
| 第5回 | 配置図、平面プラン |
| 第6回 | 採光・換気・設備に関する法規制 |
| 第7回 | 平面図 |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 面積表 |
| 第11回 | 模型 |
| 第12回 | 内観パース |
| 第13回 | 外観パース |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅰ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：作品製作を通じて建築設計に必要なヒューマンスケール、三次元形態の把握方法を理解する

■到達目標：建築模型が正確に作成出来、建築物を立体的に表現する能力を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | 教室模型の制作1:課題説明、実測 |
| 第2回 | 教室模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第3回 | 教室模型の制作3:展開図 |
| 第4回 | 教室模型の制作4:モデルボードの性質、カット法 |
| 第5回 | 教室模型の制作5:部材切り出し |
| 第6回 | 教室模型の制作6:組み立て |
| 第7回 | 住宅模型の制作1:エスキース |
| 第8回 | 住宅模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第9回 | 住宅模型の制作3:外部展開図 |
| 第10回 | 住宅模型の制作4:部材切り出し |
| 第11回 | 住宅模型の制作5:開口部 |
| 第12回 | 住宅模型の制作6:組み立て |
| 第13回 | 住宅模型の制作7:スタディモデルによる発想と展開 |
| 第14回 | 住宅模型の制作8:図面修正 |
| 第15回 | 合評:プレゼンテーション |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅱ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する

■到達目標：構造模型制作を通して、部材構成および部材名称を理解し、組立図から基礎伏図、小屋組図を読み取る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、図面確認（平面図、伏図、軸組図） |
| 第2回 | 【木造在来構法】基礎伏図（敷地、基礎、束石） |
| 第3回 | 〃 床束、根がらみ、土台（継手・仕口）、火打ち |
| 第4回 | 〃 床伏図（大引き、根太、根太掛け） |
| 第5回 | 〃 建て方（通し柱、管柱、木材の元口と末口） |
| 第6回 | 〃 大梁、胴差し、火打ち梁、小ばり、2階床組 |
| 第7回 | 〃 小屋ばり、軒桁、小屋組（棟木、母屋） |
| 第8回 | 〃 垂木、まぐさ、窓台、間柱、筋かい |
| 第9回 | 【桢組壁工法】ツーバイフォー工法に使用される材料特性 |
| 第10回 | 〃 基礎、土台、1階床組 |
| 第11回 | 〃 1階壁組（はり間方向）隅柱、かい木 |
| 第12回 | 〃 1階壁組（けた方向）ころび止め、頭つなぎ |
| 第13回 | 〃 2階床組、2階壁組 |
| 第14回 | 〃 小屋組、仕上げ |
| 第15回 | 合評（工法の違いによる構造的特長） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：DTP基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：プレゼンテーションを作成する上で必要なイラストレーター・フォトショップの基礎知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う

■到達目標：演習課題を通してIllustrator/photoshopスタンダード認定試験の合格を目指す

■授業計画：

- 第1回 プレゼンテーション概要：様々な業界のCG事例を紹介
- 第2回 イラストレーター基礎①：イラストレーター作業環境を知る。用紙サイズ・カラーモード
- 第3回 イラストレーター基礎②：主に使用するツールパレットの説明。ベジェ曲線演習
- 第4回 イラストレーター基礎③：練習問題を通じて作図演習
- 第5回 イラストレーター基礎④：フィルタ・効果の説明
- 第6回 フォトショップ基礎①：フォトショップの作業環境を知る。画像サイズ・カラーモード
- 第7回 フォトショップ基礎②：主に使用するツールパレットの説明、選択範囲
- 第8回 フォトショップ基礎③：色調・レベル補正概要の説明、画像加工演習を行う
- 第9回 フォトショップ基礎④：フィルタ効果等説明、作業演習
- 第10回 イラストレーター演習①：学校祭ポスター・旗の作成
- 第11回 イラストレーター演習②：学校祭ポスター・旗の作成
- 第12回 イラストレーター演習③：個人名刺作成
- 第13回 フォトショップ演習①：CDジャケット作成①資料収集、分析
- 第14回 フォトショップ演習②：CDジャケット作成②、画像加工
- 第15回 フォトショップ演習③：CDジャケット作成③、仕上

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：Illustrator能力認定試験問題集、Photoshop能力認定試験問題集

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアデザイン専攻
 担当教員：大塚裕介（専任教員）
 実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、設計競技のプレゼンテーションを手掛けるデザイン事務所を主宰。

科目名：	DTP応用演習
------	----------------

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：2年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要： 複数のグラフィックスアプリケーションを用い、文字やグラフィックを自在に操る技術と知識を実践的に修得する

■到達目標： イメージング技術、デジタル環境下におけるレイアウト技術について、実務的な作品の制作工程を通じて展開力を身につける。適切に思考を表現し、第三者へ伝えることができる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | テーマからコンセプト |
| 第2回 | コンセプト案を可視化するたのエスキース |
| 第3回 | 基本設計 |
| 第4回 | スタディ模型にてボリューム検討、ダイアグラムの作成 |
| 第5回 | 基本設計図の作成(平面図、立面図、断面図) |
| 第6回 | 画像加工①CG加工：内観パースモデリング |
| 第7回 | 画像加工②CG加工：内観パーステクスチャ |
| 第8回 | 画像加工③CG加工：外観パース |
| 第9回 | 画像加工①模型写真加工 |
| 第10回 | 画像加工②模型写真加工 |
| 第11回 | レイアウト(コンセプト、ダイアグラム、図面、パース) |
| 第12回 | カラーバランス |
| 第13回 | レイアウト調整、再構成 |
| 第14回 | 仕上、高解像度レンダリング、校正チェック |
| 第15回 | 出力 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目： DTP基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	インテリア模型
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：本授業ではインテリア模型作成の応用技法を学び、プレゼンテーションツールとしての活かし方を身につけることを目指す

■到達目標：コンセプトを端的に伝えられる模型構成、カメラアングル、Photoshopスキルを身につける。必要とされる模型表現と作業時間のバランスを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | アトリエの建築模型達 |
| 第2回 | 模型の道具と材料 |
| 第3回 | 材料加工のテクニック：切る |
| 第4回 | 材料加工のテクニック：削る |
| 第5回 | 材料加工のテクニック：曲げる |
| 第6回 | 材料加工のテクニック：接着 |
| 第7回 | 材料加工のテクニック：塗装 |
| 第8回 | 細密表現、素材の質感 |
| 第9回 | 植栽の作り方 |
| 第10回 | 人、車の作り方 |
| 第11回 | 模型撮影：セッティング、ライティング |
| 第12回 | 画像加工、補正 |
| 第13回 | 背景合成 |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：今井正樹（非常勤講師）
実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	3Dデザイン演習Ⅰ
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：効果的なプレゼンテーションに不可欠な製図技法、表現技法の一つとして、Vectorworks やRender WorksなどのCADソフトの習得を目指す
- 到達目標：家具、室内3D空間の作成、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 3D基本操作、柱状体の作成を通じて3Dの基礎を学ぶ |
| 第2回 | 回転体の作成、3Dパス、3Dツール操作練習 |
| 第3回 | 3D図形の加工（噛み合わせ、削り取り）、3D視点操作（投影、アングル設定） |
| 第4回 | テクスチャーの取り込み、マッピング練習 |
| 第5回 | レンダリングの使い分け、照明計画（太陽光、直接光、間接光） |
| 第6回 | 家具のモデリング（椅子） |
| 第7回 | 家具のモデリング（テーブル） |
| 第8回 | インテリア空間のモデリング、レイヤとクラスの設定、下図作成 |
| 第9回 | 床、壁の作成、シートレイヤ、画面登録、ビューポート |
| 第10回 | 天井の作成、シートレイヤ、画面登録、ビューポート |
| 第11回 | テクスチャー |
| 第12回 | 光源調整、アングル調整、レンダリング |
| 第13回 | イメージ、テキスト入力、レイアウト |
| 第14回 | プレゼンボードレイアウト調整、プリントアウト |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：3Dデザイン演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアデザイン専攻
 担当教員：今井正樹（非常勤講師）
 実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	3Dデザイン演習Ⅱ
------	------------------

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：2年次
 開講学期：前期
 授業時数：60時間
 単 位：2単位

■科目概要：3Dデザイン演習Ⅰにて学んだ技術を基に、より高度なモデリングテクニックを習得する

■到達目標：家具、室内3D空間の作成、プレゼンテーションの作成まで、CAD/CGテクニックを習得。Vectorworks Designerの機能を使い、外構のデザイン等、トータルのプレゼンテーションを目指す

■授業計画：

- 第1回 多層階のモデリングの作成：初期設定、基本ツール、コマンド練習
- 第2回 多層階のモデリングの作成：ストーリーの作成、基礎の設定
- 第3回 多層階のモデリングの作成：1階の柱、壁、床の作成
- 第4回 多層階のモデリングの作成：ハイブリッドシンボル、プラグインオブジェクトの配置
- 第5回 多層階のモデリングの作成：2階の作成、2階バルコニー、屋上塔屋の作成
- 第6回 多層階のモデリングの作成：外構の作成、パースの作成、ビューポート設定
- 第7回 多層階のモデリングの作成：各階平面図、立面図、断面図、パースの取り出し
- 第8回 エスキス：建築ボリューム・配置の検討、外構検討
- 第9回 エスキス：平面計画の検討
- 第10回 壁の設定、壁の自動生成、床、天井の設定
- 第11回 プラグインオブジェクトの挿入、各階の屋根等作成、ハイブリッドオブジェクトの作成
- 第12回 図面枠、表題欄、プレゼンテーションの作成フロー、配置図、平面図等の取り出し
- 第13回 断面図、立面図等取り出し
- 第14回 パースの作成、取り出し
- 第15回 シートレイヤの変更調整、プリントアウト

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：3Dデザイン演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアディテール
------	------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：『良いデザインは良いディテールの積み重ねで出来ている』ディテールの重要性を実物や素材に触れる機会を通して体験し学ぶ

■到達目標：インテリアディテールの基礎知識、デザイン、プレゼンテーション、素材知識、納まりを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 校内探索(仕上げ材、工法、納まり) |
| 第2回 | 校外学習①(ウィンドウトリートメント) |
| 第3回 | 光のさまざまな表情を暮らしに生かす |
| 第4回 | 空間を光でつなぐ心理効果 |
| 第5回 | 暮らしを豊かにする天窓 |
| 第6回 | 心地好さを生む風の動線計画 |
| 第7回 | 校外学習②(住宅) |
| 第8回 | 一工夫で「使う場所」から「過ごす場所」に |
| 第9回 | 利便性を高める動線 |
| 第10回 | 飾るスペースの提案(階段、廊下)、収納計画 |
| 第11回 | 気配と光を伝える建具のスリット、空間に風穴を開ける |
| 第12回 | 家具収納で空間を緩やかに仕切る |
| 第13回 | 建具の開閉で開放感と落ち着きをコントロール |
| 第14回 | 意匠的な魅力もある室内壁の穴 |
| 第15回 | 将来変化に対応するディテール |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	インテリア設計演習
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：デッサンの基礎を交えながら、空間の把握、造形やデザイン感覚の育成、レイアウト図簡易図法で表現する力を養いクイックパースを習得する。平面詳細図を通して寸法の押さえを再確認する
- 到達目標：インテリアコーディネーター資格試験、インテリアプランナー資格試験の実技合格を目標とする

■授業計画：

- 第1回 簡易図法（一消点透視図）平面図を読み解き空間構成を完成させる
- 第2回 一消点透視図のグリッドシートを作成しトレースダウン
- 第3回 着彩、提出
- 第4回 IP資格試験設計製図：問題読解、設計条件の確認
- 第5回 IP資格試験設計製図：エスキース（計画・構成）
- 第6回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第7回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第8回 IP資格試験設計製図：床・壁・天井の仕上げ記入
- 第9回 IP資格試験設計製図：平面図の意図を反映させた透視図の作図
- 第10回 IP資格試験設計製図：トレースダウン
- 第11回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（形状）
- 第12回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（材質感）
- 第13回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（仕上げ）
- 第14回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（主要寸法）
- 第15回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（着彩、仕上げ）

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	商業施設デザイン演習Ⅰ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：商業施設の設計図トレースを通じ、コンクリート造軽量鉄骨仕上げの下地、内部仕上げ、建具等のディテール、納まりを理解する。第三角法による什器図の作図
- 到達目標：オフィス・マンション・商業施設等のビル内部におけるインテリアの設計技術、家具・什器の製図技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 製図規約の再確認と応用 |
| 第2回 | 線種表現、基準線と寸法線、表示記号 |
| 第3回 | RC造、計量鉄骨間仕切り壁の理解 |
| 第4回 | 内部開口部、外部開口部 |
| 第5回 | 平面詳細提出 |
| 第6回 | 展開図の作図（高さの基準、CH） |
| 第7回 | 展開図の作図（窓の位置、仕上げの記入） |
| 第8回 | 展開図提出 |
| 第9回 | 天井伏図（仕上げ、組み天井下地の理解） |
| 第10回 | 天井伏図（照明計画） |
| 第11回 | 天井伏図提出 |
| 第12回 | 什器図（正投影法） |
| 第13回 | 什器図（平面図・正面図・断面図・側面図） |
| 第14回 | 什器図提出 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	商業施設デザイン演習Ⅱ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：カフェレストランのデザインをモデルとして設計工程、調査・資料収集、構想、設計、プレゼンテーションまでを順を追って学習する。商業施設計画に必要な設計図書、関連法規を理解する
- 到達目標：業態・消費者の動向、デザイン傾向、立地環境等を分析把握し立案、基本設計及びプレゼンテーションとしてまとめる能力を習得

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 商業施設デザイン概論：カフェレストラン構想と資料収集 |
| 第2回 | カフェレストランの形態と概要：デザイン設計のアウトラインと設計図書 |
| 第3回 | 立地環境・消費者動向・デザインの傾向を踏まえ計画 |
| 第4回 | コンセプト、テーマの決定 |
| 第5回 | デザイン計画（エスキス） |
| 第6回 | 店舗構成、機能の配置と動線計画 |
| 第7回 | 平面図作図 |
| 第8回 | 断面・展開位置の決め方、記号の記入 |
| 第9回 | 展開図作図 |
| 第10回 | 動態寸法 |
| 第11回 | 天井伏図（配灯図）作図 |
| 第12回 | サイン計画 |
| 第13回 | 什器図 |
| 第14回 | レイアウト、プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：商業施設デザイン演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。住宅や店舗の設計・デザインを手掛ける。

科目名：インテリア装備

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：各部の構法・材料・エレメント・防災安全・サイン計画について演習課題を通して学ぶ

■到達目標：インテリアプランナー試験（学科：装備）の分野の習得を目指す

■授業計画：

- 第1回 住宅における壁、床等の取り合い
- 第2回 床構法
- 第3回 階段
- 第4回 木製天井下地
- 第5回 開口部
- 第6回 窓、カーテン、ブラインド、シェード
- 第7回 和風造作
- 第8回 名作椅子、ベッド
- 第9回 照明器具、照明光源
- 第10回 カーペット（種類と工法）
- 第11回 建具、錠、家具金物
- 第12回 壁紙、塗壁、壁装
- 第13回 サイン計画
- 第14回 内装材
- 第15回 安全対策、火災安全」計画、煙制御

■教科書：インテリアプランナーガイドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：石塚和彦（非常勤講師）
実務経験：大手建設株式会社設計部門で、主に商業施設の建築設計・監理を担当。退社後、一級建築士事務所を設立し、主に個人住宅・商業施設の設計に携わる。

科目名：	住宅設計演習
------	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅設計に係る基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して住空間をデザインする基礎力を養う

■到達目標：ゾーニング、動線、建築構成要素等を学び、作図表現する能力、設計技術の基本を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 住宅における人間工学と単位空間 |
| 第2回 | 住宅における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第3回 | 木造の特性と2×4・RCの壁量 |
| 第4回 | 住宅設計課題1（敷地調査、状況分析、エスキース） |
| 第5回 | 〃 制作1 平面図（通り芯・壁厚・内外壁の仕上げ） |
| 第6回 | 〃 制作2 敷地・配置図 |
| 第7回 | 〃 制作3 立面図開口部のバランスとファサード |
| 第8回 | 〃 制作4 細部構成・設備器具・家具 |
| 第9回 | プレゼンテーション、講評会 |
| 第10回 | 住宅設計課題2（二世帯住宅）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第11回 | 〃 制作1 二世帯の関係性と配置の作図 |
| 第12回 | 〃 制作2 二世帯の断熱計画と生活時間帯（平面・断面図） |
| 第13回 | 〃 制作3 階段～機能と演出効果、照明～光と影 |
| 第14回 | 〃 制作4 植栽の書き方と面積表・駐車場 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：設備計画

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する

■到達目標：建築と設備の整合性と維持管理の重要性が把握できると共に、給排水・衛生設備計画手法を知る

■授業計画：

- 第1回 各種エネルギーの利用技術、省エネルギーのための各種技術
- 第2回 冷暖房設備：暖房設備の分類、コールドドラフト
- 第3回 冷暖房設備：冷凍機、ヒートポンプ、冷却塔
- 第4回 空気調和設備：各種空調方式、熱負荷計算
- 第5回 空気調和設備：換気設備、自然エネルギーの利用
- 第6回 電気設備：配電方式、配線方式、避雷設備
- 第7回 照明設備・ガス設備
- 第8回 給水給湯設備：給水方式、給水量、必要圧力
- 第9回 給水給湯設備：水質汚染防止、中水
- 第10回 排水通気設備：排水方式、トラップ、通気管
- 第11回 衛生設備：衛生器具、パイプスペース
- 第12回 消化防災設備：警報、防火、排煙、非難誘導
- 第13回 ごみ処理設備：基本的な設計提案
- 第14回 情報通信設備：UPS、CVCF、PBX、LAN、電磁シールドルーム
- 第15回 設備融合：保守管理、LC計画、中央管制、各種建築物の設備容量と機械室面積

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書：『建築設備学教科書』／建築設備教科書研究会編著(彰国社)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：建築一般

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する

■到達目標：木質構法・鉄筋コンクリート構法・鉄骨構法を中心に、その役割・構成を理解する

■授業計画：

- 第1回 建築構法の概説(建築物の構成、構造方式の種類、構法の変遷)
- 第2回 主体構法(建築物への荷重・外力、水平構面とねじれ)
- 第3回 木質構法:木質構法の特徴、材料、木材の性質(ヤング係数、含水率、防腐防蟻)
- 第4回 木質構法:軸組構法、部材の接合法(継手、仕口)
- 第5回 木質構法:枠組壁構法、ツーバイフォー工法、生産の要点
- 第6回 木質構法:大断面集成材構法、大断面集成材による木造建築物
- 第7回 鉄筋コンクリート構法:構造形式、材料(セメントの種類、骨材)
- 第8回 鉄筋コンクリート構法:ラーメン、材料の性質と許容応力度
- 第9回 鉄筋コンクリート構法:壁式、PC、SRC
- 第10回 鉄骨構法:構造形式と特徴、鋼材の力学的特性
- 第11回 鉄骨構法:接合方法、架構、建方
- 第12回 過去の地震被害に見られる構法上の教訓
- 第13回 形態と構法
- 第14回 性能と構法
- 第15回 総括、テスト

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計を担当

科目名：インテリア法規

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用する能力を養う
- 到達目標：建築基準法を正しく解釈し、建築法令集を適切に参照して法規的問題を解決できるようにする事を目的とする

■授業計画：

- 第1回 建築基準法の概要、建築関連の法体系
- 第2回 用語の定義（建築物に関する用語）準用工作物、特殊建築物
- 第3回 用語の定義（防火関係の用語）耐火、準耐、防火構造、性能
- 第4回 都市計画区域等における建築制限（集団規定）道路
- 第5回 用途地域（用途地域の指定、建築物の用途制限）
- 第6回 面積算定（敷地面積、建築面積、延べ床）
- 第7回 面積制限（容積率、前面道路、建ぺい率）
- 第8回 高さ等の算定（建築物の高さ、軒の高さ、階数、避難階）
- 第9回 内装制限、消防法、防災物品
- 第10回 建築手続（建築主、確認済証、確認申請、各種届出）
- 第11回 建築物自体の技術基準（単体規定）一般構造（階段、便所）
- 第12回 居室の採光、有効開口部面積の算定、換気、シックハウス
- 第13回 居室の天井・床の高さ、共同住宅の界壁
- 第14回 建築設備（避雷設備、給排水設備、昇降機設備）
- 第15回 建設業法、景観法、バリアフリー法、建築士法、品確法、省エネ法

■教科書：建築基準法関係法令集（建築資料研究社／日建学院 編）

■参考書：学芸出版社 やさしい建築法規

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：法令集をつねに開き確認することを身につける

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅠ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：インテリア空間を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う
- 到達目標：パースペクティブ、3DやCGなどの表現方法を用いて、空間を表現するための技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | プレゼンテーションの概要 |
| 第2回 | 建築設計競技プレゼンテーション例の紹介と解説 |
| 第3回 | 設計主旨及びエスキース |
| 第4回 | 基本設計 |
| 第5回 | 図面表現① |
| 第6回 | 図面表現② |
| 第7回 | 外観パース作成、モデリング |
| 第8回 | 外観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第9回 | 外観パース作成、ヒューマンスケール、外構、植栽、背景合成 |
| 第10回 | 内観パース作成、モデリング |
| 第11回 | 内観パース作成、光源設定 |
| 第12回 | 内観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第13回 | エレメントの取り込み |
| 第14回 | レイアウト、校正 |
| 第15回 | 最終調整、仕上げ、プリントアウト |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅡ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアデザイン専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅡ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝えるビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ

■到達目標：プレゼンテーションⅠで学習した基礎技術をもとに、建築、インテリア空間をより一層明確に表現・伝える技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 図面のレイアウトとバランス |
| 第2回 | 図面表現、製図基準 |
| 第3回 | 平面図・配置図の表現と種類 |
| 第4回 | 立面図・樹木の表現と種類 |
| 第5回 | 断面図の表現と種類 |
| 第6回 | コンセプト及び基本設計、マスタープラン |
| 第7回 | エスキース、スタディ模型 |
| 第8回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第9回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第10回 | ドローイング |
| 第11回 | リアスティックな内観パースの作成（エレメントの配置） |
| 第12回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第13回 | 外観パース作成 |
| 第14回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第15回 | レイアウト調整、プレゼンテーション、講評 |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅠ

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 インテリアコーディネーション専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
基礎製図	○		1年・前期	60
住宅設計演習	○		2年・前期	60
CAD演習Ⅰ	○		1年・前期	30
CAD演習Ⅱ	○		2年・前期	60
インテリア計画Ⅰ	○		1年・前期	60
インテリア計画Ⅱ	○		2年・前期	60
住まいと環境	○		1年・前期	30
設備計画	○		2年・前期	60
基礎力学	○		1年・後期	30
建築一般	○		2年・前期	30
インテリア構法	○		1年・後期	60
インテリアエレメント	○		1年・前期	60
インテリア施工	○		1年・後期	30
インテリア法規	○		2年・前期	30
造形演習Ⅰ	○		1年・前期	60
造形演習Ⅱ	○		2年・前期	60
パースペクティブ基礎演習	○		1年・前期	60
インテリア概論	○		1年・前期	30
インテリア設計演習	○		1年・後期	30
住空間計画	○		1年・後期	30
インテリアデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
インテリアデザイン応用演習	○		2年・前期	60
プレゼンテーションⅠ	○		1年・後期	60
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
インテリアコーディネーション演習	○		1年・後期	30
インテリアコーディネーター資格試験講座	○		2年・前期	60
商業施設デザイン演習Ⅰ	○		1年・後期	30
パースペクティブ応用演習	○		2年・前期	60
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP応用演習	○		2年・後期	30
インテリアディテール	○		1年・後期	30
インテリア装備	○		2年・前期	30
インテリア模型	○		1年・後期	30
英語	○		1年・前期	30
合 計				1560

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネーター業務。その後フリーにて活動。日本パーステック協会会員

科目名：	インテリア概論
------	---------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：インテリアデザイン、コーディネーションボード等の作成を中心にもの創りの楽しさを学ぶ。また、コンペ等に積極的に取り組む
- 到達目標：インテリアデザイナー、コーディネーターとして必要な知識、技術を身に付け、実践する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(インテリアデザイン、コーディネーターの仕事について) |
| 第2回 | インテリアの歴史・インテリア計画 |
| 第3回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第4回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第5回 | コーディネーション、インテリアデザイン計画(コーディネーションボード制作) |
| 第6回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第7回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第8回 | インテリアエレメント・関連エレメント(インテリアエレメントボード作成) |
| 第9回 | インテリア構造 |
| 第10回 | インテリア構法 |
| 第11回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(設計図書について) |
| 第12回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第13回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(デザインのためのクイックパース) |
| 第14回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |
| 第15回 | インテリアコーディネーション・デザインの表現(プレゼンテーション) |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：宮崎昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：英語

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する

■到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- 第1回 はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解：辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント③：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する）
- 第11回 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書：プリント配布

■参考書：辞書があれば望ましい

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネート業務。その後フリーにて活動。設計から入るインテリアデザインを行う

科目名：	住まいと環境
------	--------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する
- 到達目標：熱・空気・音・光環境のメカニズムとこれらの測定技術、制御技術を理解し、人間が建物内で快適な生活を送る為の室内環境整備の基準や方法を学ぶ

■授業計画：

- 第1回 熱環境Ⅰ：室内環境と温熱感覚、熱損失と熱取得
- 第2回 熱環境Ⅱ：熱伝導、熱貫流率、熱損失係数、遮熱
- 第3回 熱環境Ⅲ：室温と熱負荷、不快指数、快適域
- 第4回 光環境Ⅰ：日照と日射、日影線図、日影時間の検討
- 第5回 光環境Ⅱ：採光上有効な窓、光の単位と法則、採光計画
- 第6回 光環境Ⅲ：室内照度分布、照明計画
- 第7回 空気環境Ⅰ：空気質と換気、必要換気量、換気方式
- 第8回 空気環境Ⅱ：換気と通風の力学、圧力差、圧力損失
- 第9回 空気環境Ⅲ：通風、室内気流と温度分布
- 第10回 湿気Ⅰ：水蒸気量、空気線図、露点温度
- 第11回 湿気Ⅱ：壁体の結露、（表面結露と内部結露）
- 第12回 音環境Ⅰ：音の伝搬と減衰、室内音響
- 第13回 音環境Ⅱ：吸音・遮音特性、住宅内装計画
- 第14回 音環境Ⅲ：騒音・振動の計測とその評価、環境基準
- 第15回 電磁環境：電磁環境とその障害、電磁シールド技術

■教科書：

■参考書：学芸出版社 専門士課程 建築計画

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：日常生活の中で室内照明や音響効果、室内気流と空気、温度や湿度等に関心を持ち、周辺環境を注意深く観察し、疑問を持って講義に臨んでほしい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	インテリア計画Ⅰ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う

■到達目標：建築計画の概念および設計プロセスの習得。条件（立地、予算、法規、機能）を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる為の基本的な考え方を学ぶ。常用寸法やヒューマンスケールを身に付ける。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 地理的環境・機能と形態 |
| 第2回 | 安全性・美しさ・象徴性・法規と形態 |
| 第3回 | 人間の知覚と行動、歩行空間、建物の配置 |
| 第4回 | 寸法と規模の計画、単位空間と建築部位 |
| 第5回 | 空間構成技法（仕切りと連結） |
| 第6回 | 住宅を形づくる要因（気候風土） |
| 第7回 | 住宅の種類と作品 |
| 第8回 | ライフスタイル、高齢化 |
| 第9回 | 住まいの性能 |
| 第10回 | デザイン上の解法 |
| 第11回 | リフォーム計画：リフォームの種類と内容 |
| 第12回 | リフォーム計画：計画上の留意点 |
| 第13回 | リフォーム計画：住宅性能の維持 |
| 第14回 | リフォーム計画：快適性の向上 |
| 第15回 | リノベーション |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅱ

■履修上の留意点：日常生活の中にある空間や物の寸法、素材、納まり等を興味を持って観察して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立

科目名：	インテリア計画Ⅱ
------	-----------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅空間に焦点を当て、その実例等を等を通してディテール、建築手法、計画における幅広い知識を習得する

■到達目標：住宅に係る要素を学び、それぞれの関係性の比重によって住宅の形態が多様であることを理解する

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 住宅について：住宅建築の位置付け、多様な住宅 |
| 第2回 | 住宅の要素Ⅰ：外的環境（自然、地形、立地条件） |
| 第3回 | 住宅の要素Ⅱ：人的環境（建築技術、生業体系、防犯、社会形態） |
| 第4回 | 住宅の要素Ⅲ：文化形態、住宅の多様性 |
| 第5回 | 建築計画：建築計画の理論と方法 |
| 第6回 | 住生活と生活構造：住宅は住生活の為の空間、住生活内容の成員、生活行為 |
| 第7回 | 団欒・食事空間：居間、食事室の意義と要求条件、計画の要点 |
| 第8回 | 家事空間：台所を中心に社会・技術の発展に伴う家事空間の変遷と求められる要点 |
| 第9回 | 就寝空間：日本における特殊性と個室としての就寝空間の課題と計画条件 |
| 第10回 | 生理・衛生空間：浴室、洗面所、WCの計画上の要点 |
| 第11回 | 連絡空間、屋外空間：玄関、廊下、階段、庭、サービスヤードの計画上の要点 |
| 第12回 | 計画手法：配置計画上の要点、平面計画を行う上でのゾーニング、動線分離の解説 |
| 第13回 | 日本の住宅：日本住宅における構成上の特色 |
| 第14回 | 世界の住宅：世界の住宅における構成上の特色 |
| 第15回 | 今後の住宅課題：現在の住宅に至るまでの移り変わり、今後の住宅の在り方 |

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア計画Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：	インテリアデザイン基礎演習
------	----------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：著名なインテリアデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れる。照明器具のシェード製作を通して機能とデザインの基礎を学ぶ

■到達目標：グループ作業を通じて協働で作業することの大切さ、他人の意見を尊重するという社会人としてのマナーを身に付ける。照明製作を通じてイメージを形にする難しさと達成感を学び言葉を使わずに意図を伝えるというデザインの役割を体験する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 事例分析1: デザインの意味、役割について考える。著名なインテリアデザイナーの紹介 |
| 第2回 | 事例分析2: デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習 |
| 第3回 | 事例分析3: 中間発表を通して最初の自分の考え方との差異を議論 |
| 第4回 | 事例分析4: デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析 |
| 第5回 | 事例分析5: 最終発表、プレゼンテーション |
| 第6回 | 照明器具の製作1: 照明の果たす役割、種類について |
| 第7回 | 照明器具の製作2: ファーストアイデアをプレゼンテーション |
| 第8回 | 照明器具の製作3: ペーパーモデル(S=1/3)の製作(デザイン意図と形の整合性) |
| 第9回 | 照明器具の製作4: 試作を重ね、アイデアの進化、改良 |
| 第10回 | 照明器具の製作5: プロポーション、ディテールを詰める |
| 第11回 | 照明器具の製作6: ペーパーモデル(原寸)の製作 |
| 第12回 | 照明器具の製作7: 電球器具の取り付け(熱、大きさ、明るさ) |
| 第13回 | 照明器具の製作8: ペーパーモデル(原寸)の発表。修正点洗い出し |
| 第14回 | 照明器具の製作9: 最終モデルの製作(材質の違いによる問題点) |
| 第15回 | 照明器具の製作10: 最終発表(消灯、点灯時の照明としての役割、造形、意図を議論) |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰

科目名：	インテリアデザイン応用演習
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：既存シティホテルの改修課題。実際の物件を対象に現地視察を行い周辺状況の確認から課題条件を読み解き、各自で課題対象範囲に対してテナントの設定とインテリアの提案を行う
- 到達目標：与えられた時間内にアイディアをまとめ、それを実際のクライアントを想定して見る人に分かるレベルとし、更にプロとして責任をもって説明できることを目指す

■授業計画：

- 第1回 図面の解読と条件把握。事前に問題点を論議整理
- 第2回 現地見学、情報収集
- 第3回 中間発表（実現可能性について論議）
- 第4回 模型製作及び事例情報の収集①
- 第5回 模型製作及び事例情報の収集②
- 第6回 中間発表（白模型の提出とアイディアスケッチ）
- 第7回 空間造形①（平面図、断面図）
- 第8回 空間造形②（平面図、断面図）
- 第9回 中間発表（図面と模型の提出）プレゼンテーション
- 第10回 フィードバック（発表で指摘された部分の修正作業）
- 第11回 詳細検討（素材、什器、照明etc.）
- 第12回 中間発表（図面と模型の提出）修正点の説明
- 第13回 模型及び図面の仕上げ①
- 第14回 模型及び図面の仕上げ②
- 第15回 最終発表

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリアデザイン基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	基礎製図
------	------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築図面の描き方やルールを学び、各種図面を理解しながら作図出来る基礎的能力を身につける

■到達目標：建築製図の基礎的知識、技法を学び、演習課題を通じて製図の手法、技法のみならず、部材名、構造、納まり等を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 建築製図の基本（製図用具、製図のルール、JIS） |
| 第2回 | 線と文字の練習 |
| 第3回 | 立体の理解（正投影図、アイソメ、アクソメ） |
| 第4回 | 立体の理解（展開図） |
| 第5回 | 木造平面図（グリッド、柱、大壁、真壁） |
| 第6回 | 木造平面図（建具：窓、戸、造付け設備、タイル等割付線） |
| 第7回 | 木造平面図（室名、出入口表示、寸法線） |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 配置図・屋根伏図 |
| 第11回 | 矩計図 |
| 第12回 | 基礎伏図（フーチング、床下換気口、土間コン） |
| 第13回 | 床伏図（土台、大引、根太、束、火打ち） |
| 第14回 | 小屋伏図（棟木、母屋、軒桁、梁、垂木、小屋束） |
| 第15回 | 平面詳細図 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ基礎演習
------	---------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する
- 到達目標：パースを通して空間のスケールと形態、開口部の位置や納まりを自己確認する能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 透視図の基本と用語。SPの距離と見え方、HL、ELの高さと見え方 |
| 第2回 | 基本プランニング・エスキース |
| 第3回 | 平面計画：イメージパース（一消点透視図） |
| 第4回 | 基本設計：イメージパース（一消点透視図） |
| 第5回 | 平面図：イメージパース（二消点透視図） |
| 第6回 | 平面図：イメージパース（二消点透視図） |
| 第7回 | 展開図：リアスティックな内観パース（エレメントの配置） |
| 第8回 | 天井伏図：照明計画・俯瞰図 |
| 第9回 | 断面図、アイソメ |
| 第10回 | 断面図、アクソメ |
| 第11回 | 立面図、外観パース（ファサード・テクスチャ） |
| 第12回 | 立面図、外観パース（窓・ミラーの表現） |
| 第13回 | 完成予想パース |
| 第14回 | 鳥瞰図、樹木の表現と種類 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	パースペクティブ応用演習
------	---------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：室内のプランを考え、パース表現の演習を行う。簡易グリッドを用いてクイックパースを学び、実務に必要なスキルを身に付ける。

■到達目標：インテリアパースの着彩技術をより深める為に、様々な画材に慣れ、パースの完成度を上げる。素材表現と添景表現を学習し、表現の幅を広げる。

■授業計画：

- | | |
|------|------------|
| 第1回 | 素材表現：壁、タイル |
| 第2回 | 素材表現：塗装 |
| 第3回 | 素材表現：床、石 |
| 第4回 | 添景表現：樹木 |
| 第5回 | 添景表現：草花 |
| 第6回 | 添景表現：人物① |
| 第7回 | 添景表現：人物② |
| 第8回 | 室内パース① |
| 第9回 | 室内パース②彩色 |
| 第10回 | 家具と人物① |
| 第11回 | 家具と人物②彩色 |
| 第12回 | クイックパース① |
| 第13回 | クイックパース②彩色 |
| 第14回 | スケッチ |
| 第15回 | 寸法と仕上げ |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：吉田修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名：	インテリア構法
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの構造・構法と仕上げに関する知識を解説。建築の技術用語、基礎的な構造形式を習得する

■到達目標：建築構造の基礎的な技術用語、納まりを理解し、習得した技術用語をベースに専門性の深掘りが行えるようにする

■授業計画：

- | | | |
|------|-------------------|-------|
| 第1回 | 木構造と木材 | |
| 第2回 | 鉄骨構造と鋼材 | |
| 第3回 | 鉄筋コンクリート構造とコンクリート | |
| 第4回 | その他の構造 | |
| 第5回 | プレハブ構法 | |
| 第6回 | 床の構法（下地と仕上げ） | 演習課題1 |
| 第7回 | 壁の構法（下地と仕上げ） | 演習課題2 |
| 第8回 | 開口部（下地と仕上げ） | 演習課題3 |
| 第9回 | 天井の構法（下地と仕上げ） | |
| 第10回 | スペースユニット | |
| 第11回 | 造作と造作材、建具 | |
| 第12回 | 断熱材料 | |
| 第13回 | 吸音材と遮音材 | |
| 第14回 | 防火材料 | |
| 第15回 | 防水材料・シール材・接着剤 | |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚裁子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：基礎力学

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形を理解する

■到達目標：安全な構造物を設計するための基礎として力と変形の関係について学び、簡単な構造物の変形や応力の解析を行える能力を演習を通して養う

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス、基礎数理、構造の役割と構成
- 第2回 力の合成と分解、力のつり合い、使用単位
- 第3回 構造物のモデル化、構造物に作用する荷重、支点と反力
- 第4回 構造物の安定・不安定、静定構造物の反力の算定
- 第5回 静定ばりの応力算定：片持ち梁、単純梁
- 第6回 静定ばりの応力算定：跳ね出し梁
- 第7回 静定ラーメンの応力算定：応力図(M,N,Q)
- 第8回 片持ちばり系、単純ばり系、3ピンラーメン
- 第9回 静定トラスの応力算定：トラスの種類、トラスの解法
- 第10回 静定トラスの応力算定：節点法、切断法
- 第11回 断面の性質、断面一次モーメント、断面二次モーメント
- 第12回 断面係数、断面2次半径、断面極2次モーメント
- 第13回 垂直・せん断応力度、曲げ応力度、許容応力度
- 第14回 部材の変形、 σ - ε 曲線、たわみ
- 第15回 座屈、期末テスト

■教科書：実教出版株式会社 最新建築構造設計入門 -力学から設計まで-

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築構造

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：高等学校における数学と物理学(特に力学)の履修を前提としている為、各自の理解を確認して問題集等に取り組んで欲しい。

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアエレメント
------	------------

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：建築内部空間の「しつらえ」に関する部分について日常生活における具体例、実物を見ながら授業展開を行う

■到達目標：室内を構成する要素である建具等の材料特性、加工方法、仕組みについて理解する

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | エレメントの分類と特性：製品の規格・性能、選定、発注、設置 |
| 第2回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：内装仕上げ部材、建具部材） |
| 第3回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（構造や下地の基礎知識） |
| 第4回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント①（造作系：間仕切、収納部材、階段） |
| 第5回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：給排水、換気・空調設備機器） |
| 第6回 | 建築の一部を構成し工事を伴うエレメント②（設備系：水回り、照明電機設備機器） |
| 第7回 | 生活行為をサポートする用具系エレメント |
| 第8回 | 生活環境を整えるエレメント（ウインドトリートメント） |
| 第9回 | 関連エレメント |
| 第10回 | メーカーのショールーム見学（実物確認）コーディネーションボードの作成 |
| 第11回 | 建具（内部建具、外部建具、建築金物） |
| 第12回 | 床（木質系、プラスチック系、石・タイル系、繊維系） |
| 第13回 | 壁（塗壁、タイル、壁装、間仕切） |
| 第14回 | 天井（直天井、吊り天井） |
| 第15回 | 照明（照明方法、照明方式、建築化照明、昼光率） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：インテリア施工

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について実例に基づき解説する

■到達目標：建築物が生産される過程に関する広範な知識を習得し、構造種別にしたがった各種技術、建築物の性能（安全性、経済性、生産性、環境性等）について総合的に評価する能力を身に着ける

■授業計画：

- 第1回 工事管理(工程管理・原価管理・品質管理)
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 内装各種工事①(軽量鉄骨下地、左官工事、タイル工事)
- 第4回 内装各種工事②(建具・ガラス工事、塗装工事)
- 第5回 内装各種工事③(金属工事、張り石工事、床工事)
- 第6回 仮設工事・土工事・基礎工事
- 第7回 鉄筋・型枠工事
- 第8回 コンクリート工事①(材料、調合、品質管理、試験)
- 第9回 コンクリート工事②(運搬、養生、各種コンクリート)
- 第10回 鉄骨工事(鋼材、接合、建方、耐火被覆)
- 第11回 木工事(材料、加工、造作、在来、2×4)
- 第12回 組積工事(コンクリートブロック、ALC、れんが)
- 第13回 防水・断熱工事
- 第14回 設備工事、施工機器
- 第15回 積算、工事請負契約

■教科書：

■参考書：株式会社 学芸出版社 <専門士課程> 建築施工

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：インテリア構法

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計（CADによる作図）を担当

科目名：	CAD演習 I
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

■科目概要：建築CADの概要、二次元CADによる作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する

■到達目標：CADによる建築設計製図のスキルと基礎理論の習得を目的とし、身近な空間を題材としてスケール感を把握し、的確に図面表現が出来る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 基本操作1（作図環境の設定、2次元図形の基本的な作図）CAD製図のJIS規格 |
| 第2回 | 基本操作2（レイヤー、クラス、縮尺、寸法） |
| 第3回 | 配置図の作図：線種表現（境界線、点景、方位、駐車場） |
| 第4回 | 住宅の平面図：画面情報を利用した効率的な作図技術（柱、壁、開口部） |
| 第5回 | 住宅の平面図：線分と面を利用した作図の概念（建具、設備機器） |
| 第6回 | 住宅の平面図：図形登録を利用した効率的な作図技術（ハッチング、タイルパターン） |
| 第7回 | 住宅の断面図：レイヤの概念と利用法（床高、天井高、軒高、最高高さ） |
| 第8回 | 住宅の断面図：腰高、内法高、見えがかり |
| 第9回 | 住宅の立面図：平面図からの投影下書き線 |
| 第10回 | 住宅の立面図：軒高、基礎高、開口部内法、屋根勾配 |
| 第11回 | 矩計図：材料構造表示記号、仕上材名称 |
| 第12回 | 天井伏図：換気口、点検口、天井埋込照明器具 |
| 第13回 | 床伏図：土台、大引、火打、根太 |
| 第14回 | 面積表、全体レイアウト |
| 第15回 | まとめ、ポートフォリオ（課題作品集）作成 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習 II

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：今井正樹（非常勤講師）
実務経験：ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務。3DCGによる完成予想図を手掛ける。

科目名：	CAD演習Ⅱ
------	---------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う
- 到達目標：設計に必要な技術と表現（CAD：製図、CG：プレゼン）を実践的な課題と関連付けながら学び、知識を深める

■授業計画：

- 第1回 敷地図作図：フロアプラン、CADによる簡易3Dモデリング
- 第2回 ボリュームスタディによる建物の大きさ、バランス検討
- 第3回 ブロックプラン、ダイアグラム、動線
- 第4回 基本設計 配置図兼平面図 ラフ3D
- 第5回 構造・設備コア、耐震壁
- 第6回 複写機能による各階平面図、画層作成、編集機能
- 第7回 平面詳細図 オブジェクトの階層構造と作業環境
- 第8回 屋根の形状作成と壁高の調整
- 第9回 外観のCG作成 マテリアルの作成とマッピング
- 第10回 立面図修正
- 第11回 室内空間のCG（美しく質感豊かな透視図を作成）
- 第12回 展開図修正
- 第13回 イメージ（光源・背景等）の仕上げ
- 第14回 照明計画図作図
- 第15回 まとめ、合評

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：CAD演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：五十嵐雄祐（非常勤講師）
実務経験：東京や札幌の設計事務所で実務を経験後、各種施設・店舗及び室内空間に関する企画、デザイン、管理等を手掛ける一級建築士事務所を設立。

科目名：	住空間計画
------	-------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：前期で学んだ建築知識を総合的に活用し、快適で美しい建築物を設計する実務的能力を養う

■到達目標：現地調査を行い、プランから設計まで、住宅設計に係る一連の流れを習得し、プレゼンシートとしてまとめる

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 設計事例紹介、設計条件の確認（用途地域、高さ制限） |
| 第2回 | 現地調査（周辺環境、近隣との関係）、エスキース |
| 第3回 | 設計主旨と配置プラン |
| 第4回 | ボリューム模型 |
| 第5回 | 配置図、平面プラン |
| 第6回 | 採光・換気・設備に関する法規制 |
| 第7回 | 平面図 |
| 第8回 | 立面図 |
| 第9回 | 断面図 |
| 第10回 | 面積表 |
| 第11回 | 模型 |
| 第12回 | 内観パース |
| 第13回 | 外観パース |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅰ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：作品製作を通じて建築設計に必要なヒューマンスケール、三次元形態の把握方法を理解する

■到達目標：建築模型が正確に作成出来、建築物を立体的に表現する能力を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | 教室模型の制作1:課題説明、実測 |
| 第2回 | 教室模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第3回 | 教室模型の制作3:展開図 |
| 第4回 | 教室模型の制作4:モデルボードの性質、カット法 |
| 第5回 | 教室模型の制作5:部材切り出し |
| 第6回 | 教室模型の制作6:組み立て |
| 第7回 | 住宅模型の制作1:エスキース |
| 第8回 | 住宅模型の制作2:模型用図面の製図 |
| 第9回 | 住宅模型の制作3:外部展開図 |
| 第10回 | 住宅模型の制作4:部材切り出し |
| 第11回 | 住宅模型の制作5:開口部 |
| 第12回 | 住宅模型の制作6:組み立て |
| 第13回 | 住宅模型の制作7:スタディモデルによる発想と展開 |
| 第14回 | 住宅模型の制作8:図面修正 |
| 第15回 | 合評:プレゼンテーション |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅱ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	造形演習Ⅱ
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する

■到達目標：構造模型制作を通して、部材構成および部材名称を理解し、組立図から基礎伏図、小屋組図を読み取る能力を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、図面確認（平面図、伏図、軸組図） |
| 第2回 | 【木造在来構法】基礎伏図（敷地、基礎、束石） |
| 第3回 | 〃 床束、根がらみ、土台（継手・仕口）、火打ち |
| 第4回 | 〃 床伏図（大引き、根太、根太掛け） |
| 第5回 | 〃 建て方（通し柱、管柱、木材の元口と末口） |
| 第6回 | 〃 大梁、胴差し、火打ち梁、小ばり、2階床組 |
| 第7回 | 〃 小屋ばり、軒桁、小屋組（棟木、母屋） |
| 第8回 | 〃 垂木、まぐさ、窓台、間柱、筋かい |
| 第9回 | 【枠組壁工法】ツーバイフォー工法に使用される材料特性 |
| 第10回 | 〃 基礎、土台、1階床組 |
| 第11回 | 〃 1階壁組（はり間方向）隅柱、かい木 |
| 第12回 | 〃 1階壁組（けた方向）ころび止め、頭つなぎ |
| 第13回 | 〃 2階床組、2階壁組 |
| 第14回 | 〃 小屋組、仕上げ |
| 第15回 | 合評（工法の違いによる構造的特長） |

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：造形演習Ⅰ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：

DTP基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：プレゼンテーションを作成する上で必要なイラストレーター・フォトショップの基礎知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う

■到達目標：演習課題を通してIllustrator/photoshopスタンダード認定試験の合格を目指す

■授業計画：

- 第1回 プレゼンテーション概要：様々な業界のCG事例を紹介
- 第2回 イラストレーター基礎①：イラストレーター作業環境を知る。用紙サイズ・カラーモード
- 第3回 イラストレーター基礎②：主に使用するツールパレットの説明。ベジェ曲線演習
- 第4回 イラストレーター基礎③：練習問題を通じて作図演習
- 第5回 イラストレーター基礎④：フィルタ・効果の説明
- 第6回 フォトショップ基礎①：フォトショップの作業環境を知る。画像サイズ・カラーモード
- 第7回 フォトショップ基礎②：主に使用するツールパレットの説明、選択範囲
- 第8回 フォトショップ基礎③：色調・レベル補正概要の説明、画像加工演習を行う
- 第9回 フォトショップ基礎④：フィルタ効果等説明、作業演習
- 第10回 イラストレーター演習①：学校祭ポスター・旗の作成
- 第11回 イラストレーター演習②：学校祭ポスター・旗の作成
- 第12回 イラストレーター演習③：個人名刺作成
- 第13回 フォトショップ演習①：CDジャケット作成①資料収集、分析
- 第14回 フォトショップ演習②：CDジャケット作成②、画像加工
- 第15回 フォトショップ演習③：CDジャケット作成③、仕上

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：Illustrator能力認定試験問題集、Photoshop能力認定試験問題集

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：DTP応用演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
 担当教員：大塚裕介（専任教員）
 実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、設計競技のプレゼンテーションを手掛けるデザイン事務所を主宰。

科目名：	DTP応用演習
------	----------------

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：2年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要： 複数のグラフィックスアプリケーションを用い、文字やグラフィックを自在に操る技術と知識を実践的に修得する

■到達目標： イメージング技術、デジタル環境下におけるレイアウト技術について、実務的な作品の制作工程を通じて展開力を身につける。適切に思考を表現し、第三者へ伝えることができる

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | テーマからコンセプト |
| 第2回 | コンセプト案を可視化するたのエスキース |
| 第3回 | 基本設計 |
| 第4回 | スタディ模型にてボリューム検討、ダイアグラムの作成 |
| 第5回 | 基本設計図の作成(平面図、立面図、断面図) |
| 第6回 | 画像加工①CG加工：内観パースモデリング |
| 第7回 | 画像加工②CG加工：内観パーステクスチャ |
| 第8回 | 画像加工③CG加工：外観パース |
| 第9回 | 画像加工①模型写真加工 |
| 第10回 | 画像加工②模型写真加工 |
| 第11回 | レイアウト(コンセプト、ダイアグラム、図面、パース) |
| 第12回 | カラーバランス |
| 第13回 | レイアウト調整、再構成 |
| 第14回 | 仕上、高解像度レンダリング、校正チェック |
| 第15回 | 出力 |

■教科書：

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目： DTP基礎演習

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：大塚裕介（専任教員）
実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：	インテリア模型
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：本授業ではインテリア模型作成の応用技法を学び、プレゼンテーションツールとしての活かし方を身につけることを目指す

■到達目標：コンセプトを端的に伝えられる模型構成、カメラアングル、Photoshopスキルを身につける。必要とされる模型表現と作業時間のバランスを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | アトリエの建築模型達 |
| 第2回 | 模型の道具と材料 |
| 第3回 | 材料加工のテクニック：切る |
| 第4回 | 材料加工のテクニック：削る |
| 第5回 | 材料加工のテクニック：曲げる |
| 第6回 | 材料加工のテクニック：接着 |
| 第7回 | 材料加工のテクニック：塗装 |
| 第8回 | 細密表現、素材の質感 |
| 第9回 | 植栽の作り方 |
| 第10回 | 人、車の作り方 |
| 第11回 | 模型撮影：セッティング、ライティング |
| 第12回 | 画像加工、補正 |
| 第13回 | 背景合成 |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：

■参考書：グラフィック社『モデリングテクニック』

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：来生亜子（非常勤講師）
実務経験：インテリアデザイン事務所にて住宅、商業施設等のデザイン、コーディネーター業務。その後フリーにて活動。日本パーステック協会会員

科目名：	インテリアコーディネーション演習
------	-------------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：インテリアプレゼンテーションの重要性とインテリアコーディネーションの一連の流れを理解し、基本計画案や実施計画案、各種エレメント等のプレゼンテーションボードの作成技法を習得します。
- 到達目標：コーディネーターに必要なインテリア関連法規の知識を身につける。顧客の要望を聞き取り、インテリアコーディネーターとしての提案を行うことができる。

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | クライアント設定によるインテリアコーディネーション基本計画 |
| 第2回 | プレゼン演習：ヒアリング、エスキス |
| 第3回 | プレゼン演習：インテリア関連法規 |
| 第4回 | プレゼン演習：平面図 |
| 第5回 | プレゼン演習：家具配置図 |
| 第6回 | プレゼン演習：内装材選定 |
| 第7回 | プレゼン演習：設備選定 |
| 第8回 | プレゼン演習：インテリアエレメント選定 |
| 第9回 | プレゼン演習：インテリアパース作成 |
| 第10回 | プレゼン演習：インテリアパース作成 |
| 第11回 | プレゼン演習：プレゼンテーションボード作成 |
| 第12回 | プレゼン演習：プレゼンテーションボード作成 |
| 第13回 | プレゼン演習：レイアウト調整 |
| 第14回 | プレゼン演習：DTP処理 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアコーディネーター資格試験講座
------	----------------------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：用語や試験のポイント説明に加えて、実用での知識や商品・素材に触れる機会を交えて理解見識を深める。

■到達目標：資格対策を中心としながら、実務で役立つインテリア、建築分野の知識を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | インテリアの歴史①日本 |
| 第2回 | インテリアの歴史②西洋 |
| 第3回 | インテリアコーディネーションの計画①人間工学・寸法、生活行為と造作空間 |
| 第4回 | インテリアコーディネーションの計画②造形原理・色彩 |
| 第5回 | インテリアコーディネーションの計画③安全性・性能と評価・コストと維持管理 |
| 第6回 | インテリアエレメント①分類と特性、家具の種類、材料と金物、仕上げ、造形部品 |
| 第7回 | インテリアエレメント②ウインドウトリートメント |
| 第8回 | インテリアエレメント③カーペットその他エレメント、商品情報 |
| 第9回 | インテリアの構造・構法と仕上げ①建築構造、インテリア構法 |
| 第10回 | インテリアの構造・構法と仕上げ②造作と造作材 |
| 第11回 | インテリアの構造・構法と仕上げ③リフォーム |
| 第12回 | 環境と設備①環境工学・音・光 |
| 第13回 | 環境と設備②住宅設備（給排水・換気・冷暖房・自然エネルギー） |
| 第14回 | 環境と設備③電気設備・住宅設備機器 |
| 第15回 | インテリア関連の法規、規格、制度 |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック（上下）

■参考書：インテリアコーディネーター1次試験対策過去問題集

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：増永佳奈（非常勤講師）
実務経験：建築設計事務所・工務店勤務を経て『日々暮色舎』を設立し住宅リフォームを中心に家づくりを総合的に行っている。北海道インテリアコーディネーター協会会長

科目名：	インテリアディテール
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：『良いデザインは良いディテールの積み重ねで出来ている』ディテールの重要性を実物や素材に触れる機会を通して体験し学ぶ

■到達目標：インテリアディテールの基礎知識、デザイン、プレゼンテーション、素材知識、納まりを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 校内探索(仕上げ材、工法、納まり) |
| 第2回 | 校外学習①(ウィンドウトリートメント) |
| 第3回 | 光のさまざまな表情を暮らしに生かす |
| 第4回 | 空間を光でつなぐ心理効果 |
| 第5回 | 暮らしを豊かにする天窓 |
| 第6回 | 心地好さを生む風の動線計画 |
| 第7回 | 校外学習②(住宅) |
| 第8回 | 一工夫で「使う場所」から「過ごす場所」に |
| 第9回 | 利便性を高める動線 |
| 第10回 | 飾るスペースの提案(階段、廊下)、収納計画 |
| 第11回 | 気配と光を伝える建具のスリット、空間に風穴を開ける |
| 第12回 | 家具収納で空間を緩やかに仕切る |
| 第13回 | 建具の開閉で開放感と落ち着きをコントロール |
| 第14回 | 意匠的な魅力もある室内壁の穴 |
| 第15回 | 将来変化に対応するディテール |

■教科書：インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：松原祐子（非常勤講師）
実務経験：大手企業のインテリアデザイナーとして、戸建て住宅・マンションのモデルルーム企画デザイン及びデザイン監理業務を担当

科目名：	インテリア設計演習
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：デッサンの基礎を交えながら、空間の把握、造形やデザイン感覚の育成、レイアウト図簡易図法で表現する力を養いクイックパースを習得する。平面詳細図を通して寸法の押さえを再確認する
- 到達目標：インテリアコーディネーター資格試験、インテリアプランナー資格試験の実技合格を目標とする

■授業計画：

- 第1回 簡易図法（一消点透視図）平面図を読み解き空間構成を完成させる
- 第2回 一消点透視図のグリッドシートを作成しトレースダウン
- 第3回 着色、提出
- 第4回 IP資格試験設計製図：問題読解、設計条件の確認
- 第5回 IP資格試験設計製図：エスキース（計画・構成）
- 第6回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第7回 IP資格試験設計製図：1/50平面図兼家具配置図作図
- 第8回 IP資格試験設計製図：床・壁・天井の仕上げ記入
- 第9回 IP資格試験設計製図：平面図の意図を反映させた透視図の作図
- 第10回 IP資格試験設計製図：トレースダウン
- 第11回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（形状）
- 第12回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（材質感）
- 第13回 IP資格試験設計製図：透視図の彩色（仕上げ）
- 第14回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（主要寸法）
- 第15回 IP資格試験設計製図：部分スケッチ（着色、仕上げ）

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：宮前和生（非常勤講師）
実務経験：商業施設・公共施設・住宅などのインテリア企画・立案・設計を業務とする
インテリアデザイン会社の代表として従事

科目名：	商業施設デザイン演習Ⅰ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：商業施設の設計図トレースを通じ、コンクリート造軽量鉄骨仕上げの下地、内部仕上げ、建具等のディテール、納まりを理解する。第三角法による什器図の作図
- 到達目標：オフィス・マンション・商業施設等のビル内部におけるインテリアの設計技術、家具・什器の製図技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 製図規約の再確認と応用 |
| 第2回 | 線種表現、基準線と寸法線、表示記号 |
| 第3回 | RC造、計量鉄骨間仕切り壁の理解 |
| 第4回 | 内部開口部、外部開口部 |
| 第5回 | 平面詳細提出 |
| 第6回 | 展開図の作図（高さの基準、CH） |
| 第7回 | 展開図の作図（窓の位置、仕上げの記入） |
| 第8回 | 展開図提出 |
| 第9回 | 天井伏図（仕上げ、組み天井下地の理解） |
| 第10回 | 天井伏図（照明計画） |
| 第11回 | 天井伏図提出 |
| 第12回 | 什器図（正投影法） |
| 第13回 | 什器図（平面図・正面図・断面図・側面図） |
| 第14回 | 什器図提出 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：株式会社学芸出版社 建築製図基本の基本

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。住宅や店舗の設計・デザインを手掛ける。

科目名：	インテリア装備
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：各部の構法・材料・エレメント・防災安全・サイン計画について演習課題を通して学ぶ

■到達目標：インテリアプランナー試験（学科：装備）の分野の習得を目指す

■授業計画：

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 住宅における壁、床等の取り合い |
| 第2回 | 床構法 |
| 第3回 | 階段 |
| 第4回 | 木製天井下地 |
| 第5回 | 開口部 |
| 第6回 | 窓、カーテン、ブラインド、シェード |
| 第7回 | 和風造作 |
| 第8回 | 名作椅子、ベッド |
| 第9回 | 照明器具、照明光源 |
| 第10回 | カーペット（種類と工法） |
| 第11回 | 建具、錠、家具金物 |
| 第12回 | 壁紙、塗壁、壁装 |
| 第13回 | サイン計画 |
| 第14回 | 内装材 |
| 第15回 | 安全対策、火災安全」計画、煙制御 |

■教科書：インテリアプランナーガイドブック

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：石塚和彦（非常勤講師）
実務経験：大手建設株式会社設計部門で、主に商業施設の建築設計・監理を担当。退社後、一級建築士事務所を設立し、主に個人住宅・商業施設の設計に携わる。

科目名：	住宅設計演習
------	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：住宅設計に係る基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して住空間をデザインする基礎力を養う

■到達目標：ゾーニング、動線、建築構成要素等を学び、作図表現する能力、設計技術の基本を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 住宅における人間工学と単位空間 |
| 第2回 | 住宅における環境工学とユニバーサルデザイン |
| 第3回 | 木造の特性と2×4・RCの壁量 |
| 第4回 | 住宅設計課題1（敷地調査、状況分析、エスキース） |
| 第5回 | 〃 制作1 平面図（通り芯・壁厚・内外壁の仕上げ） |
| 第6回 | 〃 制作2 敷地・配置図 |
| 第7回 | 〃 制作3 立面図開口部のバランスとファサード |
| 第8回 | 〃 制作4 細部構成・設備器具・家具 |
| 第9回 | プレゼンテーション、講評会 |
| 第10回 | 住宅設計課題2（二世帯住宅）コンセプト立案、デザイン展開 |
| 第11回 | 〃 制作1 二世帯の関係性と配置の作図 |
| 第12回 | 〃 制作2 二世帯の断熱計画と生活時間帯（平面・断面図） |
| 第13回 | 〃 制作3 階段～機能と演出効果、照明～光と影 |
| 第14回 | 〃 制作4 植栽の書き方と面積表・駐車場 |
| 第15回 | プレゼンテーション、講評会 |

■教科書：

■参考書：コンパクト建築設計資料集成「住居」（日本建築学会）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
 担当教員：大塚裕介（専任教員）
 実務経験：設計事務所にて商業施設・公共施設・住宅などの設計に携わった後、建築設計・プロダクトデザインを手掛けるデザイン事務所を主宰

科目名：設備計画

履修形態：必修
 授業形態：講義
 履修学年：2年次
 開講学期：前期
 授業時数：60時間
 単 位：2単位

■科目概要： 建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する

■到達目標： 建築と設備の整合性と維持管理の重要性が把握できると共に、給排水・衛生設備計画手法を知る

■授業計画：

- 第1回 各種エネルギーの利用技術、省エネルギーのための各種技術
- 第2回 冷暖房設備：暖房設備の分類、コールドドラフト
- 第3回 冷暖房設備：冷凍機、ヒートポンプ、冷却塔
- 第4回 空気調和設備：各種空調方式、熱負荷計算
- 第5回 空気調和設備：換気設備、自然エネルギーの利用
- 第6回 電気設備：配電方式、配線方式、避雷設備
- 第7回 照明設備・ガス設備
- 第8回 給水給湯設備：給水方式、給水量、必要圧力
- 第9回 給水給湯設備：水質汚染防止、中水
- 第10回 排水通気設備：排水方式、トラップ、通気管
- 第11回 衛生設備：衛生器具、パイプスペース
- 第12回 消化防災設備：警報、防火、排煙、非難誘導
- 第13回 ごみ処理設備：基本的な設計提案
- 第14回 情報通信設備：UPS、CVCF、PBX、LAN、電磁シールドルーム
- 第15回 設備融合：保守管理、LC計画、中央管制、各種建築物の設備容量と機械室面積

■教科書： インテリアコーディネーターハンドブック(上・下)

■参考書： 『建築設備学教科書』／建築設備教科書研究会編著(彰国社)

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計・構造設計・積算を担当

科目名：建築一般

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する

■到達目標：木質構法・鉄筋コンクリート構法・鉄骨構法を中心に、その役割・構成を理解する

■授業計画：

- 第1回 建築構法の概説(建築物の構成、構造方式の種類、構法の変遷)
- 第2回 主体構法(建築物への荷重・外力、水平構面とねじれ)
- 第3回 木質構法:木質構法の特徴、材料、木材の性質(ヤング係数、含水率、防腐防蟻)
- 第4回 木質構法:軸組構法、部材の接合法(継手、仕口)
- 第5回 木質構法:枠組壁構法、ツーバイフォー工法、生産の要点
- 第6回 木質構法:大断面集成材構法、大断面集成材による木造建築物
- 第7回 鉄筋コンクリート構法:構造形式、材料(セメントの種類、骨材)
- 第8回 鉄筋コンクリート構法:ラーメン、材料の性質と許容応力度
- 第9回 鉄筋コンクリート構法:壁式、PC、SRC
- 第10回 鉄骨構法:構造形式と特徴、鋼材の力学的特性
- 第11回 鉄骨構法:接合方法、架構、建方
- 第12回 過去の地震被害に見られる構法上の教訓
- 第13回 形態と構法
- 第14回 性能と構法
- 第15回 総括、テスト

■教科書：

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：建築技術の全体像を把握し、専門用語を習得して欲しい

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：飯塚哉子（専任教員）
実務経験：ファブリケーターの設計部にてホテルや複合施設、庁舎等の鋼構造物の詳細設計を担当

科目名：インテリア法規

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用すべく能力を養う
- 到達目標：建築基準法を正しく解釈し、建築法令集を適切に参照して法規的問題を解決できるようにする事を目的とする

■授業計画：

- 第1回 建築基準法の概要、建築関連の法体系
- 第2回 用語の定義（建築物に関する用語）準用工作物、特殊建築物
- 第3回 用語の定義（防火関係の用語）耐火、準耐、防火構造、性能
- 第4回 都市計画区域等における建築制限（集団規定）道路
- 第5回 用途地域（用途地域の指定、建築物の用途制限）
- 第6回 面積算定（敷地面積、建築面積、延べ床）
- 第7回 面積制限（容積率、前面道路、建ぺい率）
- 第8回 高さ等の算定（建築物の高さ、軒の高さ、階数、避難階）
- 第9回 内装制限、消防法、防災物品
- 第10回 建築手続（建築主、確認済証、確認申請、各種届出）
- 第11回 建築物自体の技術基準（単体規定）一般構造（階段、便所）
- 第12回 居室の採光、有効開口部面積の算定、換気、シックハウス
- 第13回 居室の天井・床の高さ、共同住宅の界壁
- 第14回 建築設備（避雷設備、給排水設備、昇降機設備）
- 第15回 建設業法、景観法、バリアフリー法、建築士法、品確法、省エネ法

■教科書：建築基準法関係法令集（建築資料研究社／日建学院 編）

■参考書：学芸出版社 やさしい建築法規

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：法令集をつねに開き確認することを身につける

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅠ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：インテリア空間を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う
- 到達目標：パースペクティブ、3DやCGなどの表現方法を用いて、空間を表現するための技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | プレゼンテーションの概要 |
| 第2回 | 建築設計競技プレゼンテーション例の紹介と解説 |
| 第3回 | 設計主旨及びエスキース |
| 第4回 | 基本設計 |
| 第5回 | 図面表現① |
| 第6回 | 図面表現② |
| 第7回 | 外観パース作成、モデリング |
| 第8回 | 外観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第9回 | 外観パース作成、ヒューマンスケール、外構、植栽、背景合成 |
| 第10回 | 内観パース作成、モデリング |
| 第11回 | 内観パース作成、光源設定 |
| 第12回 | 内観パース作成、テクスチャ貼り付け |
| 第13回 | エレメントの取り込み |
| 第14回 | レイアウト、校正 |
| 第15回 | 最終調整、仕上げ、プリントアウト |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅡ

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：インテリアコーディネーション専攻
担当教員：島田佳孝（非常勤講師）
実務経験：北海道の設計事務所で実務を経験後、不動産と設計の会社を設立。設計競技のプレゼンテーションを手掛ける。

科目名：	プレゼンテーションⅡ
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：後期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：インテリアの基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝えるビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ

■到達目標：プレゼンテーションⅠで学習した基礎技術をもとに、建築、インテリア空間をより一層明確に表現・伝える技術を習得する

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 図面のレイアウトとバランス |
| 第2回 | 図面表現、製図基準 |
| 第3回 | 平面図・配置図の表現と種類 |
| 第4回 | 立面図・樹木の表現と種類 |
| 第5回 | 断面図の表現と種類 |
| 第6回 | コンセプト及び基本設計、マスタープラン |
| 第7回 | エスキース、スタディ模型 |
| 第8回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第9回 | 基本建築図の作図（平面図、立面図等） |
| 第10回 | ドローイング |
| 第11回 | リアスティックな内観パースの作成（エレメントの配置） |
| 第12回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第13回 | 外観パース作成 |
| 第14回 | モデリングとテクスチャ貼り付け |
| 第15回 | レイアウト調整、プレゼンテーション、講評 |

■教科書：世界一わかりやすいIllustrator/Photoshop操作とデザインの教科書（技術評論社）

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：プレゼンテーションⅠ

■履修上の留意点：

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 クラフトデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・ 学期	授業時数
	必修	選択		
工芸概論	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・後期	30
DTP演習Ⅱ	○		2年・前期	30
CAD演習	○		2年・前期	60
木工基礎演習	○		1年・前期	60
陶芸基礎演習	○		1年・前期	60
鋳造基礎演習	○		1年・前期	60
金属加工基礎演習	○		1年・前期	60
木工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅰ	○		1年・後期	30
鋳造演習Ⅰ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅱ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅱ	○		1年・後期	30
工芸研究				
木工演習Ⅱ		○	1年・後期	30
貴金属加工演習				
プランニング	○		1年・前期	60
環境デザイン	○		1年・後期	30
専門技術演習(6科目選択)				
木工演習Ⅲ		○	2年・前期	360
陶芸演習Ⅲ				
鋳造演習Ⅲ				
金工演習Ⅲ				
木工演習Ⅳ				
陶芸演習Ⅳ				
鋳造演習Ⅳ				
金工演習Ⅳ				
木工演習Ⅴ				
鋳造演習Ⅴ				
金工演習Ⅴ				
造形演習Ⅰ				
造形演習Ⅱ				
素材研究Ⅰ				
素材研究Ⅱ				
英語	○		1年・前期	30
合 計				1110

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名： 工芸概論

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：伝統工芸の技法を演習課題を通して身につける。道具の使い方、素材の使い方、先人から引き継がれてきた手仕事における知恵と工夫を直に感じ、また産地の特性も含めた日本の文化、産業の歴史を学ぶ。
- 到達目標：基本的な手工具、機械工具、火の扱い方の習得をする。課題に対して正しく加工し、組み立てにおける精度を上げ、着色技法まで一連のながれをつかむことで、金属工芸の加工法、基本的な技術の習得を目指す。

■授業計画：

- 第1回 金工三大分野におけるそれぞれの作業内容の違いと作品の違いについて解説。
- 第2回 50mmの箱を制作。ノギス、スコヤ、ケガキなど、正確に計測する道具の名前と使用法。地金からパーツを切り出す。
- 第3回 6枚の銅板の加工① 正方形を正確に手やすりで加工 断面(組み立て接合面)の精度を出す。
- 第4回 6枚の銅板の加工②
- 第5回 6枚の銅板の加工③
- 第6回 6枚の銅板の加工④
- 第7回 6枚の銅板の加工⑤
- 第8回 バーナーの取り扱いと、火力の説明、並びにロー付け技法の解説。ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立てる①
- 第9回 ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て②
- 第10回 ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て③
- 第11回 ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て④
- 第12回 蓋部の加工の説明。加工を行う。
- 第13回 内箱として真鍮の箱を制作。制作方法は銅板と同様であるがロー付けはせず板をはめ。
- 第14回 金属の仕上げについて、着色方法を解説。箱全体を研磨し、仕上げ加工を行う。
- 第15回 箱全体を研磨し、仕上げ加工を行う。 合評

■教科書： 指定なし

■参考書： 金工の伝統技法(理工学社) 工芸(武蔵野美術出版) ほか

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフトデザイン専攻
担当教員: 桂 充子 (専任教員)
実務経験: 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。店舗のリーフレット制作、店内装飾に携わる。

科目名 : DTP演習 I

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 後期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

■科目概要: Adobe社Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトの基礎操作を習得。

■到達目標: Illustrator、Photoshop（グラフィックソフト）を使い、ビジュアル表現の技能を身につける基礎演習授業。アプリケーション内のツールや各用語の把握、基本操作を学び、文字入力や作図によるグラフィックレイアウトの基礎を覚える。また、情報を取り込み、出力できるようPC周辺機器の操作を理解する。

■授業計画:

第1回	オブジェクトの作図:Illustratorの基本 操作とファイル作成、図形とペンツール使用の直線曲線の作図理解
第2回	オブジェクトの作図:線とカラーリング、オブジェクトの編集操作
第3回	オブジェクトの作図:グラデーション、パターン理解、文字の入力とレイアウト
第4回	練習課題:名刺制作
第5回	アートワーク:画像の配置と編集
第6回	アートワーク:レイヤーの理解
第7回	スキャナーとプリンター操作:下絵や手で作図した描画をスキャン、またプリント出力を理解
第8回	練習問題:Illustratorクリエイター能力試験の模擬問題にチャレンジ 実技問題
第9回	練習問題:Illustratorクリエイター能力試験の模擬問題にチャレンジ 実践問題
第10回	練習問題:Illustratorクリエイター能力試験の模擬問題にチャレンジ 実践問題解答
第11回	オブジェクトの作図:Photoshopの基本 操作とファイル作成、選択ツールの理解
第12回	オブジェクトの作図:画像の補正
第13回	オブジェクトの作図:レイヤーの理解
第14回	オブジェクトの作図:フィルターとレイヤースタイル
第15回	練習問題:DM制作。画像の配置と文字編集。

■教科書: illustrator操作とデザインの教科書(技術評論社)

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 桂 充子 (専任教員)
実務経験: 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。店舗のリーフレット 制作、店内装飾に携わる。

科目名 : DTP演習Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

- 科目概要:** Adobe社Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトを使って資料制作、ポートフォリオの編集
■到達目標: Illustrator、Photoshop（グラフィックソフト）を使い、ビジュアル表現の技能を高める演習授業。特にillustratorクリエイター能力試験3級取得を目的とする。またプレゼンテーション用の資料を作ることができ、就職活動に使用するポートフォリオの制作も行う。

■授業計画:

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説 ペンツール、グラデーション、図形作成、レイヤー、テキスト編集 |
| 第2回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実践問題 ガイド、レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集 |
| 第3回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題の練習 実践問題の解答を解説 |
| 第4回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説 ペンツール、グラデーション、図形作成、レイヤー、テキスト編集 |
| 第5回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実践問題 ガイド、レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集 |
| 第6回 | Illustratorクリエイター能力試験対策: 模擬問題の練習 実践問題の解答を解説 |
| 第7回 | Photoshoprクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説 レイヤー、色調補正、効果、選択の理解 |
| 第8回 | Photoshoprクリエイター能力試験対策: 模擬問題・実践問題 レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集、選択範囲、効果の理解 |
| 第9回 | Photoshoprクリエイター能力試験対策: 模擬問題の練習 実践問題の解答を解説 |
| 第10回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集① |
| 第11回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集② |
| 第12回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集③ |
| 第13回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集④ |
| 第14回 | ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集⑤ |
| 第15回 | ポートフォリオ制作: 提出 チェック |

■教科書: illustrator操作とデザインの教科書(技術評論社)

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 今井 正樹 (非常勤講師)
実務経験: ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務

科目名 : CAD演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 6 0 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 設計者の意志を明確に製作者に伝える為のツールである図面をC A Dシステムを使つて的確に作図及びトレースする。
■到達目標: CADスキル習得の結果として、実技検定試験の合格を目指す。

■授業計画:

- 第1回 2D基本操作: CADのセットアップと起動、2D基本描画。ツールパレット、サブメニューの解説
- 第2回 2D復習: 用紙設定、図形の編集、作図補助機能、データパレットを用いた数値入力による作図
- 第3回 3Dモデリング①Red & Blue Chair: 3次元座標の考え方、2D図形から3D図形への変換。座標軸と掃引によるオブジェクトの位置関係、レンダリング。
- 第4回 3Dモデリング②ウォールナットTable: 錐状体の作図、Z方向の移動、面取り、テクスチャの取り込み、透視投影法
- 第5回 CAD検定試験問題練習: JISの建築製図規格について、データ管理、環境設定、用紙サイズと縮尺の設定。線の太さ、線種の使い分け
- 第6回 CAD検定試験問題練習: 図面枠、レイヤー及びクラス管理、グリッド設定、基準点
- 第7回 CAD検定試験問題練習: 基準線、通り芯、方位記号、寸法、通り芯記号
- 第8回 CAD検定試験問題練習: 壁・柱、包絡処理(交点の留め、線の消去)
- 第9回 CAD検定試験問題練習: 間仕切壁、配列複製、鏡像反転、円弧、回転
- 第10回 CAD検定試験問題練習: 階段平面図、段板、踏面、ささら桁、雑線、手摺り
- 第11回 CAD検定試験問題練習: 円弧の寸法記入について、角度の入れ方、破断線
- 第12回 CAD検定試験問題練習: 建具の納まり、ドアの表現、サッシの表現
- 第13回 CAD検定試験問題練習: ドア枠、戸当たり、框、チリの取り方
- 第14回 CAD検定試験問題練習: 異なったCAD間での図面交換、線種表現確認
- 第15回 CAD検定試験問題練習: 部品や図形のライブラリ化・グループ化管理(再利用性)、採点チェックポイントの理解、図面全体イメージ

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名	製図デザイン
履修形態：	必修
授業形態：	演習
履修学年：	1 年次
開講学期：	前期
授業時数：	60 時間
単 位：	2 単位
■科目概要：	15mmシナランバーコア合板（910mm×910mm）を使用して、木製家具の基礎デザイン、製図、製作。木材組立加工を安全かつ簡略化された手法を用いて感覚をつかむ。製図の基礎から実材を用いた製作へ。
■到達目標：	・図面作成から実制作へ行うため、精度ある仕事の手順理解と、丁寧な作業の必要性を認識し、基礎技術を養う。 ・安全な木材加工を覚え、応用へつなげる。
■授業計画：	
第1回	「もの」が作り出されるまでの一般的なプロセスを木製家具の場合という具体的事例をあげて説明する。
第2回	製図：ランバーコア合板の特質、主な使われ方の説明。構造、接合法を実材サンプルを用いて説明。基本パターンを基づいて3面図(4面図)、仕口の部分詳細図作成。
第3回	製図：基本パターンを基づいて3面図(4面図)、仕口の部分詳細図作成。
第4回	製図：基本パターンを基づいて3面図(5面図)、仕口の部分詳細図作成。
第5回	制作：木取図の作成。工具、木工機械の正しく安全な使用方法の実演、説明①
第6回	木取：木取図に基づいて木取を行う。横切り盤の安全な使用法の実演、説明②
第7回	仕口加工：ボール盤による穴あけ加工をする①
第8回	仕口加工：ボール盤による穴あけ加工をする②
第9回	組み立て：木口テープを張る。サンドペーパー等を用い材料の表面を整える①
第10回	組み立て：木口テープを張る。サンドペーパー等を用い材料の表面を整える②
第11回	組み立て：サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて組立①
第12回	組み立て：サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて組立②
第13回	仕上げ：ダボでビス穴をふさぐ。水性ウレタン塗料、ステイン等で塗装、仕上①
第14回	仕上げ：ダボでビス穴をふさぐ。水性ウレタン塗料、ステイン等で塗装、仕上②
第15回	合評
■教科書：	指定なし
■参考書：	木工技術シリーズ(産調出版)
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：木工基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

- 科目概要：木工に関する工具や機械の使用方法および安全指導。木材を使用し生活道具、工芸品の制作を通して木工基礎技術を養う。
- 到達目標：木工の基礎知識を身に付け、デザインおよび制作ができるようになる。手工具と木工機械の使用方法を覚え、今後の制作で応用ができるよう繋げる。期日をまでに作品が完成できるように、計画性を持って制作に取り組む。

■授業計画：

- 第1回 ものづくりについて木材を使用した作品など例を挙げ、学生がイメージしやすいよう説明を行う。木材を使ったカトラリー、器のデザイン画を描く。
- 第2回 デザインや作りたいものの考え方や探し方について指導。引き続きデザイン画作成。
- 第3回 木材加工：木工室で使用する手工具、電動工具の名称や使い方の説明を行う。
- 第4回 木材加工：木材の種類や特徴について説明を行う。（広葉樹と針葉樹、無垢材と合板など）木取りが終わり次第、各自作業に取り組む①
- 第5回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作②
- 第6回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作③
- 第7回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作④
- 第8回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作⑤
- 第9回 木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作⑥
- 第10回 仕上げ：塗装の概要・種類の説明を行う。（オイルやウレタンなど）
- 第11回 合評
- 第12回 大型機械の使用説明。サンプルを基に作業指導。安全確認の指導。
- 第13回 ほぞ加工の練習①
- 第14回 ほぞ加工の練習②
- 第15回 手道具の手入れ、機械調整の指導。

■教科書：指定なし

■参考書：手作りする木のカトラリー 手作りする木の器（誠文堂新光社）ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：大石 俊久（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 同協会主催の陶芸教室でも講師を務めている

科目名：

陶芸基礎演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：陶芸の基礎（玉造り・紐造り・板造り等）を学ぶ。粘土・釉薬・道具の取り扱い・片付け・掃除などを覚える。

■到達目標：各制作方法を習得する。粘土・道具・釉薬の取り扱いを覚える。素材の特性から、管理する意識が必要であるため、乾燥、焼成まで、一連の作品制作の手順理解を深める。

■授業計画：

- 第1回 やきものが出来るまで：陶芸の製作工程について説明をする。土練り・玉造り：荒練・菊練（粘土を練る基本作業）を学び、玉造りでカップを作る。
- 第2回 仕上げ・高台を作る：前回制作したカップの高台を作る。（付け高台・削り高台を覚える。）取っ手をつける。
- 第3回 紐造り：ひも状にした粘土を積み上げていくことで作品を作る。（器全体とのバランスを考えて成形を目指す。）
- 第4回 組鉢：同じ寸法の器を制作する。（玉造り・小鉢等）
- 第5回 仕上げ：前回制作した作品に高台を作る。
- 第6回 釉がけ：釉薬の取り扱い方・施釉方法等を覚える。
- 第7回 板造り：板状に伸ばした粘土から形を作る。（筒型花入れ）
- 第8回 袋物：紐造りで球体を作る。（シュガーポット・花器等）
- 第9回 木材加工：前回の削り。
- 第10回 仕上げ：塗装の概要・種類の説明を行う。（オイルやウレタンなど）
- 第11回 練込角皿・象嵌：異なる粘土を混ぜ込み、器の表面に模様を出す。（赤・白）粘土を板状に伸ばし角皿のパーツを作る。
- 第12回 仕上げ：前回のパーツを組み立てて角皿を作る。
- 第13回 釉がけ：重ねがけ・撥水剤等を使った掛け分け。
- 第14回 象嵌：半乾燥状態の作品に模様を彫り、別の粘土を埋め込む・削ることで装飾を施す。
- 第15回 仕上げ：前回の仕上げ 模様を出す。線象嵌→素焼き後化粧土を施し焼成。

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
 実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burning John（シルバーアクセサリー工房）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名： 鑄造基礎演習

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1 年次
 開講学期：前期
 授業時数：60 時間
 単 位：2 単位

■科目概要： 貴金属のひとつである、銀を素材に、アクセサリーの制作を行う。基本的な工具・道具類の安全且つ適切な使用方法を演習課題によって身につける。

■到達目標： ロストワックス技法を中心にシンプルなアクセサリー制作を演習課題とし、道具・工具が使用でき、基本的な制作知識の習得を目的とする。

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス：鑄造の基本的な説明と道具類の扱い方を説明。ワックスを使って練習。
- 第2回 平打リングの制作・原型作り：スパチュラを使い、ワンポイントの模様のあるリングを制作。
- 第3回 平打リングの制作・原型作り：鑄造での制作における注意点（ガス抜き、湯道など）を指導。
- 第4回 平打リングの制作・原型作り：ポリウム（地金使用料や重さのバランスなどの細かいチェック）サイズ、ワックス原型の仕上げチェック
- 第5回 平打リングの制作・埋没：石膏の型に関する注意点の確認。真空機の使用説明。
- 第6回 平打リングの制作・鑄造（キャスト）：脱蠟の仕方の説明。6～8時間焼成の為、電気窯の管理について指導。続けて精密鑄造機の操作方法を説明後、実際に鑄造を行
- 第7回 平打リングの制作・仕上げ：巣埋めやヘラがけ、きさげの使い方を指導。 リューターによる鑄肌の仕上げとバフ掛けによる最終研磨の説明。
- 第8回 平打リングの制作・仕上げ：ロー付けの指導。 バーナーの仕組みを解説。取り扱いの安全指導。
- 第9回 平打リングの制作・合評：作品の制作工程を振り返りながら、作業との因果関係を確認。
- 第10回 オーダー品の制作・ヒアリング：ペアになってお互いに装飾品をオーダー。実際の宝飾業のようにクライアントを意識させる課題。
- 第11回 オーダー品の制作・デザイン：ヒアリングから製図、完成予想図を作成。
- 第12回 オーダー品の制作・原型作り：ワックスによる成形①
- 第13回 オーダー品の制作・原型作り：ワックスによる成形②
- 第14回 オーダー品の制作・原型作り：石留めの技法を説明。宝石（貴石、半貴石）の種類や色、カットパターンなど説明。また専用の工具の使い方を指導。
- 第15回 オーダー品の制作・合評：ワックスまでの振り返りを行い、それぞれの原型仕上がりをチェック。

■教科書： 指定なし

■参考書： 指定なし

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフトデザイン専攻
担当教員: 菱野 史彦 (非常勤講師)
実務経験: 造形作家 金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表 住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名 : 金属加工基礎演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 製造分野の中でも、素材の特性や加工方法、塗装方法（着彩）など多岐にわたる金属の基礎知識、加工技術を身につける。
■到達目標: 素材加工において、安全で的確な作業方法を身につける。金属だからこそ出来る形の成り立ちを理解し、演習課題を通して基本的な切断、組み立て、接着、仕上げができるようになる。

■授業計画:

- | | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス: 金属の身近な表現や特性などを説明することで素材に対する知識を深める。機械の加工目的ごとの操作方法を習得し、加工時の危険性や注意点を理解する。コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。機械のメンテナンスを(鋸刃の溶接)習得。 |
| 第2回 | 機械作業演習: 練習で切り出した部材をボール盤を使い指定サイズの穴を開ける。開けた穴に指定サイズのねじを切る加工のほかハンドリベッターを使い二つの部材をかしめる事でパーツの組み立て方法を理解する。 |
| 第3回 | 機械作業演習: 前回と同様に機械作業 |
| 第4回 | フィギア制作・デザイン: 実際の加工作業から得た技術を踏まえエスキースで形を検討しデザインを考える。 |
| 第5回 | フィギア制作・デザイン: デザインから適切な加工方法を検討、制作物の設計図を作 |
| 第6回 | フィギア制作・制作: 部材、材料を選定しパーツを大まかな形に切り出す。作業工程を踏まえ加工の危険性に注意をしつつ効率よく機械加工をする。 |
| 第7回 | フィギア制作・制作: 前回に続き部材、材料を選定しパーツを大まかな形に切り出す。作業工程を踏まえ加工の危険性に注意をしつつ効率よく機械加工をする。 |
| 第8回 | フィギア制作・制作: 切り出したパーツを手工具による加工でデザイン通りの形状になるように作業を進める。加工内容によっては工作機械を都度使用する。 |
| 第9回 | フィギア制作・制作: 前回と同様、切り出したパーツを手工具による加工でデザイン通りの形状になるように作業を進める。加工内容によっては工作機械を都度使用する。 |
| 第10回 | フィギア制作・制作: 前回と同様、制作を進める。 |
| 第11回 | フィギア制作・制作: 前回と同様、制作を進める。 |
| 第12回 | フィギア制作・制作: パーツの仕上げ加工。一つ一つの形をよりデザインの形に近づけ丁寧な加工をする。 |
| 第13回 | フィギア制作・制作: 前回と同様パーツの仕上げ加工 |
| 第14回 | フィギア制作・制作: 仕上げ加工。表面処理やディスプレイを考える。作品の全体的な雰囲気を考え形に合わせた仕上げをする。 |
| 第15回 | フィギア制作・合評: それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。 |

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい金属加工の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：

木工演習Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：木材の性質と、形態の関係性、制作工程の理解を深める。板材、角材から部材を成形、また木材加工の道具、工具の工程に沿った使用方を学ぶ。

■到達目標：無垢材のスツール制作に取り組み、ほぞ組みの技法を中心に加工、組み立て、塗装を行い、基本的な家具の制作を習得する。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 課題説明・木取り：木製スツールを基本の形態として脚ものの構造やバリエーションを説明する。また木製家具のデザインについて、木の性質の観点で解説。大型機械の操作練習。 |
| 第2回 | 木取り：木材の特質（木目の方向性）の説明。バンドソー、糸鋸等の取り扱い説明、安全指導。木材に墨付けをおこない、切り出す材料決めていく。木目の方向や、完成した時の木目の出方の基礎を説明。 |
| 第3回 | 木取り：木材の特質（木目の方向性）の説明。バンドソー、糸鋸等の取り扱い説明、安全指導。バンドソーによる木取り。 |
| 第4回 | 脚部製作：バンドソー、横切り盤による木取り。安全指導。 |
| 第5回 | 脚部製作：手押しカンナによる基準面出し。（スコヤ使用）自動カンナによる平面出し。（ノギス使用）安全指導。 |
| 第6回 | 仕口加工：毛引きなどを使った墨つけ（加工部分の下書き）。角のみによるぼぞ穴加工。 |
| 第7回 | 仕口加工：毛引きなどを使った墨つけ（加工部分の下書き）。角のみによるぼぞ穴加工。 |
| 第8回 | 仕口加工：仮組みを行いながらホゾ調整。（平ノミ使用）① |
| 第9回 | 仕口加工：仮組みを行いながらホゾ調整。（平ノミ使用）② |
| 第10回 | 仕口加工・組立・座面の加工：仮組みを行いながらホゾ調整。サンドペーパーによる仕上げ。 |
| 第11回 | 仕口加工・組立・座面の加工：仮組みを行いながらホゾ調整。サンドペーパーによる仕上げ。 |
| 第12回 | 座面の加工：木取り→平面だし→板はぎ。※随時木工機械使用の安全指導。 |
| 第13回 | 組み立て：カンナ、サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバ、木ネジを用いて、脚部、座面の組立。 |
| 第14回 | 仕上げ：水性ウレタン塗料、オイル塗料、ステイン等で塗装、仕上。 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：大石 俊久（非常勤講師）
 実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 同協会主催の陶芸教室でも講師を務めている

科目名：陶芸演習Ⅰ

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

- 科目概要：** 企業連携授業。窯焼きの歴史を学ぶとともに、現代でも続く登り窯の焼成方法を、作陶から窯詰め、焼成、窯出しと一連の工程を学ぶことで、窯と土、燃料につかう薪、温度（熱量をさす）の総合的な陶芸の実際を学ぶ。なお、登り窯での焼成は屋外での活動になる。
■到達目標： 登り窯の歴史の理解。登り窯の形式や特長を知り、効果的な温度管理のための燃料（薪）と焼成時間の関係性を理解する。また電気窯やガス窯とは違い、薪の利用で、作陶したものがどのような仕上がりになるかを体験的に学び、桃山時代から続く伝統技法の流れが現代の陶芸にどのような影響をもたらしているかを知る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 作陶：基礎演習での成形方法やロクロ技法で造形作品や器など制作。粘土は登り窯焼成に適した耐火度の高いものを使用。 |
| 第2回 | 作陶：制作① |
| 第3回 | 作陶：制作② |
| 第4回 | 作陶：制作③ |
| 第5回 | 作陶：制作④ |
| 第6回 | 見学：札幌芸術の森 登り窯を実際に見学し、登り窯の歴史、成り立ちを学ぶ。 |
| 第7回 | 作陶：制作⑤ |
| 第8回 | 作陶：制作⑥ |
| 第9回 | 作陶：制作⑦ |
| 第10回 | 施釉：粉引きの要領 |
| 第11回 | 乾燥と窯、薪の準備：登り窯焼成の準備を行う。薪割り、窯詰めの際の備品を整える① |
| 第12回 | 乾燥と窯、薪の準備：登り窯焼成の準備を行う。薪割り、窯詰めの際の備品を整える② |
| 第13回 | 窯詰め：札幌芸術の森 登り窯を使用し作品の窯詰め作業。 |
| 第14回 | 焼成：焼成作業 |
| 第15回 | 合評：作品の焼成状態を見て、電気窯での焼成作品と比べ分析、振り返りを行う。 |

■教科書： 指定なし

■参考書： 指定なし

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名：金工演習Ⅰ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：金属の加工法、鍛金の基本的な技術（定形しぼり）の習得をする。素材加工の工程の中で素材と向き合い、特性を知り、その可能性を探る。
- 到達目標：銅と真鍮、2つの金属を使用したフライパンの制作。テーマに沿った形を考え、鍛金の技法による成形。パンの部分と持ち手の接合を行い、仕上げとして錫挽きを施す。

■授業計画：

- 第1回 課題説明：定形しぼり、変形しぼりで制作された作品の紹介、個々の作品の参考にする。
- 第2回 デザイン：模型制作
- 第3回 デザイン：設計図作成。鍋型（パン）の内径ゲージを作る。
- 第4回 鍛金練習：使用する道具の説明。基本姿勢、金づちの正しい持ち方など、デモンストレーション
- 第5回 鍛金練習：焼き鈍しとしぼりを繰り返し、成形①
- 第6回 鍛金：成形②
- 第7回 鍛金：成形③
- 第8回 鍛金：成形④
- 第9回 鍛金：成形⑤
- 第10回 鍛金：成形⑥
- 第11回 鍛金：柄の成形①
- 第12回 鍛金：柄の成形②
- 第13回 鍛金：柄の成形③
- 第14回 リベットで柄を本体（鍋部）に接合。内側に錫挽き。
- 第15回 全体を研磨し、仕上げ。 合評

■教科書：指定なし

■参考書：金工の伝統技法（理工学社） 鍛金の実践（美術出版社） ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
 実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burning John（シルバーアクセサリー工房）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名： 鋳造演習Ⅰ

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1年次
 開講学期：後期
 授業時数：30時間
 単 位：1単位

■科目概要： 企業連携授業。基礎演習に引き続き、ロストワックス技法での演習課題を行う。基本形から装身具としての機能を持ったオリジナルデザインを制作。

■到達目標：

- ・ワックスモデリングの基本を踏まえたアクセサリー制作。
- ・美しい仕上げを前提としたデザインの展開、アレンジ能力の向上を目指す
- ・デザインの発展を目的とした個別技能の取得。（石留め、仕上げの多様な技法等）

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 石を使ったアクセサリーの原型制作：課題説明。デザインのラフ案に取り組む。 |
| 第2回 | 原型制作：石留めの説明、貴石と半貴石において石留めの技法を解説。 |
| 第3回 | 原型制作：ラフ案提出後、具体的な完成予想図を作成。立体にするときの注意点、工程を指導。 |
| 第4回 | 原型制作：引き続き具体的な完成予想図を作成。立体にするときの注意点、工程を指導。 |
| 第5回 | 原型制作：ワックスで原型作り① |
| 第6回 | 原型制作：ワックスで原型作り② |
| 第7回 | 原型制作：ワックスで原型作り③ |
| 第8回 | 原型制作：ワックスで原型作り④ ツリー立ての作業後、石膏に埋没① |
| 第9回 | 原型制作：引き続きツリー立ての作業後、石膏に埋没② |
| 第10回 | キャスト：鋳造作業 |
| 第11回 | 仕上げ・研磨：石留めの練習（ミルタガネの使用、タガネの制作 概論） |
| 第12回 | 研磨による石のダメージについての説明（洗浄方法など） |
| 第13回 | 仕上げ・石留め：研磨。銀の表面の加工を解説。鏡面磨き、白上げ、マット仕上げの説明。 |
| 第14回 | 仕上げ・石留め：研磨後、石留め。 |
| 第15回 | 仕上げ：ネックレスの場合、チェーン制作 |
| 第16回 | 合評：デザイン、仕上げ等の寸評、考察。 |

■教科書： 指定なし

■参考書： 指定なし

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：大石 俊久（非常勤講師）
 実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 同協会主催の陶芸教室でも講師を務めている

科目名：陶芸演習Ⅱ

履修形態：必修
 授業形態：演習
 履修学年：1 年次
 開講学期：後期
 授業時数：30 時間
 単 位：1 単位

- 科目概要：**ロクロ成形の習得。小品から大型作品の成形。釉薬の種類、施釉方法、装飾技術のマスター。陶芸における焼成の意味を理解する。
■到達目標：電動ロクロ技法の修得・成形、施釉、装飾の基礎技術を身につける。それぞれの土の特性、焼成時の変化を意識して考察する。釉薬の種類や焼成や湿度プログラムによる変化、素材の特性を知る。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 土練り、土殺し：菊練り-粘土の中の気泡を取り除く。土殺し-土をロクロの回転に慣らし、中心軸を出す。 |
| 第2回 | 成形(茶碗)：「器」成形の基礎となる茶碗の作り方、コテの使い方、切り糸での底の切り方、器の養生。 |
| 第3回 | 成形(湯呑)：立ち上げ方、口元の処理 |
| 第4回 | 成形(花瓶)：起伏の付け方 |
| 第5回 | 削り：削り作業におけるロクロ上での中心の出し方、高台の削り方、高台の種類を覚える。 |
| 第6回 | 施釉：施釉のかけ方、撥水剤の扱い、コンプレッサーの使用。応用としてマスキングの考え方や、スポンジングによるムラ掛けなどを学ぶ。 |
| 第7回 | 板造り：板状に伸ばした粘土から形を作る。(筒型花入れ) |
| 第8回 | 成形(中鉢)：中鉢の作り方、コテの使い方を覚える。1kgから1個を挽くこと、カメ板を使用しての大型成型から平底の作り方、仕上げ方法を学ぶ。 |
| 第9回 | 削り：削り作業における中心の出し方、高台の削り方、鉢物のバランスのとり方、仕上げ方を覚える。 |
| 第10回 | 成形(袋物)：柄ゴテの使い方、首のすぼめ方、閉じ方、袋物のバランス、厚みの見方、仕上げ方を学ぶ。 |
| 第11回 | 練込角皿・象嵌：異なる粘土を混ぜ込み、器の表面に模様を出す。(赤・白)粘土を板状に伸ばし角皿のパーツを作る。 |
| 第12回 | 削り：シッタの使い方、シッタの中心の取り方、袋物の仕上げや削りを学ぶ。 |
| 第13回 | 成形(練り込)：色素練りこみ方法：土に色顔料を混ぜ、2色以上の色土を使用し、マーブル模様を出す。混色方法や一個挽きの方法を学ぶ。 |
| 第14回 | 削り：半乾燥状態の作品に削り作業。 |
| 第15回 | 陶芸Ⅰの作品との全体講評会：登り窯と電気窯で焼成した作品を比べ、振り返りを行い、土、施釉、焼成による分析を行う。 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 菱野 史彦 (非常勤講師)
実務経験: 造形作家 金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表 住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名 : 金工演習Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 後期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

- 科目概要:** 金属加工技術である切削、研磨、接合、仕上げの技術を高める。オリジナルデザインを基に作図し完成までの作業工程を計画、実行。素材の特性を生かした加工方法を探る。
■到達目標: 金属の加工技術を応用し2種類以上の金属素材を用いて表札、サインを制作する。

■授業計画:

- 第1回 課題説明: 金属の種類などを説明しながら表現にあった形と素材を効果的に使う必要性などを実例を使って説明し理解させる。
- 第2回 デザイン: 実例を踏まえ設定を自宅や、架空の店舗、知人に送るための品物などにして目的に適したデザインを考える。
- 第3回 デザイン: デザイン上の加工方法を検討、指導しながら設計図を完成。
- 第4回 制作・部材加工 形にする上で設計上の問題をどう解決していくか、素材と組み立て方を考えながら進める①
- 第5回 制作・部材加工②
- 第6回 制作・部材加工③
- 第7回 制作・部材加工④
- 第8回 制作・部材加工⑤
- 第9回 制作: 組み立て リベット接合、ロー付け、ねじ留め①
- 第10回 制作: 組み立て リベット接合、ロー付け、ねじ留め②
- 第11回 制作: 組み立て リベット接合、ロー付け、ねじ留め③
- 第12回 制作: 仕上げ 加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する①
- 第13回 制作: 仕上げ 加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する②
- 第14回 制作: 仕上げ 加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する③
- 第15回 合評: それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい金属加工の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名： 工芸研究(木工演習Ⅱ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：製材、加工の技術力の向上。課題制作を通して接ぎ手の理解を深め、手工具、電動工具の使用方法を学ぶ。木材の性質を考え成形から金具などの取り付けまで一連の木製品づくりを学ぶ。
- 到達目標：無垢材で鍋敷き（小作品）を手加工の1つ、蟻組接ぎの技法での制作と、無垢材を利用した機械加工による小箱の制作を行う。

■授業計画：

- 第1回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。木取り。
- 第2回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。成形①
- 第3回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。成形②
- 第4回 手加工：鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。仕上げ。
- 第5回 小箱づくり：幅300mm×奥行180mm×高さ90mmの木製箱制作 なお既定のデザインを制作するが、若干の大きさの変更は認める。指定材料、指定量の中で制作する事。木取り作業。
- 第6回 木取：木取図に基づいて木取を行う。横切り盤の安全な使用法の実演、説明。
- 第7回 小箱づくり：材料カット 機械加工 治具の作り方を学ぶ①
- 第8回 小箱づくり：材料カット 機械加工②
- 第9回 小箱づくり：組み立て 箱組留接手加工①
- 第10回 小箱づくり：組み立て 箱組留接手加工②
- 第11回 小箱づくり：仮組み
- 第12回 小箱づくり：仕上げ サンダー作業
- 第13回 小箱づくり：塗装
- 第14回 小箱づくり：金具取付、塗装
- 第15回 合評

■教科書： 指定なし

■参考書： 木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：阿部 秀行（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社製造勤務を経て 秀工房（貴金属・宝飾製造業） 代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名：工芸研究(貴金属加工演習)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：企業連携授業。貴金属の種類とシルバー素材の地金の配合方法や計算について学び、実際に彫金道具や機械工具を用いた地金形成方法の演習。
- 到達目標：銀素材の特徴や性質を知り、彫金道具の使い方を理解する。基本的なリングの形成方法、ロー付けなどの特殊技術を習得する。

- 授業計画：
- 第1回

工具類の説明:ヤスリの種類、糸ノコのノコ刃の種類、ヤットコの種類、ロー材の種類、バーナーのガス圧力の調整器の使用方法、その他機械工具の説明と使用方法の説明。
- 第2回

地金の配合方法:貴金属の地金の種類を元素記号から覚え、地金配合について理論的に説明する。バーナーを使用した地金溶解方法の順序を覚える。地金の国内また、国外の刻印表示の見分け方を覚える。
- 第3回

地金の作成:溶解した地金を金床と金槌で締めてローラーを使用し、棒状ならびに板状に形成する。
- 第4回

地金の作成:さらに細く棒状ならびに板状に形成する。
- 第5回

ロー付け:地金のロー付け方法やロー材の選び方は、棒・板・線など大きさや形状などによって異なるため、それぞれ適したロー付け方法があることを理解する。
- 第6回

ロー付け:接合練習
- 第7回

平打リング加工:板状の地金を使用して平打リング加工をする。平打加工はサイズ、幅、厚さ、重さなどを決め、比重を使って計算し、正確な制作工程を学ぶ。
- 第8回

平打リング加工:加工作業
- 第9回

ヤスリの使い方:作成した平打リングを、だ円ヤスリ、平ヤスリ、両甲ヤスリを使って内側、両サイド、上部の順序で形成していく。平ヤスリは荒目、中目、細目の3種類を使用して仕上げていく。また、キサゲ、ヘラも使用しさらにリングの表面を仕上げる。
- 第10回

平打リングの仕上げ:リングの形が整ったら、リユーターを使用してセラミックポイントである程度仕上げ、バフ(板バフ・布バフ)を使用して仕上げていく。平打リング完成。
- 第11回

仕上げ・研磨:石留めの練習(ミルタガネの使用、タガネの制作 概論)
研磨による石のダメージについての説明(洗浄方法など)
- 第12回

甲丸リング加工:甲丸加工は、サイズ、幅、厚さを決めて、ローラーと溝台を使用して作成する。形成に使用するヤスリは平打リングと同様だが、削り方が違うので、ヤス甲丸リングの仕上げ:仕上げはキサゲ、ヘラを使い、その後、リユーター、布バフを使用して仕上げる。甲丸リング完成。
- 第13回

甲丸リング加工:仕上げはキサゲ、ヘラを使い、その後、リユーター、布バフを使用して仕上げる。甲丸リング完成。
- 第14回

縄目加工:作った丸線で縄目作りを行う。縄目づくりは、バーナーを使って丸線を加熱しながらひねりを入れていき作成する。縄目が出来たら丸めてロー付けしてリングを合評:3つのリングの作品講評
- 第15回

縄目加工:作った丸線で縄目作りを行う。縄目づくりは、バーナーを使って丸線を加熱しながらひねりを入れていき作成する。縄目が出来たら丸めてロー付けしてリングを合評:3つのリングの作品講評

- 教科書：指定なし
- 参考書：宝飾クラフトの実際(美術出版社) ほか
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：吉田 修（非常勤講師）
実務経験：大手ゼネコン 設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名	プランニング
履修形態：	必修
授業形態：	演習
履修学年：	1 年次
開講学期：	前期
授業時数：	60 時間
単 位：	2 単位
■科目概要：	・著名なプロダクトデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れ、事例を通じてデザイン意図、コンセプトを考え、クライアントの 要望や与条件からなぜそのようなデザインに至り、どのようにそれを実現したかグループで考える。・半透明な樹脂シートを用いて、照明のシェードの製作を目指す。照明という機能を満たしつつ、頭でイメージしたものを形にするというデザインの基礎を学ぶ。
■到達目標：	・事例研究のグループ作業を通じて、協働で作業することの大切さ、人前で自分の意見を言い、他人の意見を尊重するという社会人としてのマナーを身につける。・照明器具の製作を通じて、イメージを形にする難しさと形にできたときの達成感を学び、デザインすることの楽しさ、言葉を使わずに意図することを伝えるというデザインの役割を体験する。
■授業計画：	
第1回	事例分析1:デザインすることとはデザインの意味、役割について考える。著名なプロダクトデザイナーの紹介、課題説明。業界のトップランナーの仕事に触れる。
第2回	事例分析2:デザイナー分析。デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習。資料収集。
第3回	事例分析3:中間発表 グループごとにデザイナーのデザインに対する姿勢、考え方について、
第4回	事例分析4:デザイナーの作品事例を通じて、デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析する。合わせてクライアントや与条件についてまとめる。
第5回	事例分析5:最終発表 事例分析で得た結果をA4用紙にプレゼンテーションし発表する。ひとを惹きつけるプレゼンテーション、発表の仕方を工夫する。
第6回	照明器具の製作1:照明の果たす役割、種類について。世の中にある照明器具、動向を知る。
第7回	照明器具の製作2:中間発表 ファーストアイデアをプレゼンテーション 1週間という限られた時間で思いつくことを画や形で表現する。
第8回	照明器具の製作3:ペーパーモデル(S=1/3)の製作。イメージを具現化するためにケント紙を用いて検討を重ねる。また検討過程において紙の特性を学びさらにアイデアを進化させていく。
第9回	照明器具の製作4:ペーパーモデル(S=1/3)の製作 形はひとつではなく、思いつく限り試作を重ねる。手を動かすうちに見えてくるものを形にしていく。
第10回	照明器具の製作5:中間発表 試作の過程を言葉で整理して発表する。最終的に進むべき最良案について説明、方向性を決定する。
第11回	照明器具の製作6:ペーパーモデル(原寸)の製作 中間発表で得られた指摘や問題点についてさらに改良を重ねる。最終作品に向けて原寸大で検証、プロポーションやディテールを詰め
第12回	照明器具の製作7:電球器具とその取り付け 電球の役割と動向について学び、大きさ、熱、明るさについて理解を深める。
第13回	照明器具の製作8:中間発表 夏休み明けに作業の進捗状況を報告。最終作品に向けて修正点などを議論。
第14回	照明器具の製作9:最終モデルの製作 実際の素材を用い、材質の違いによる問題点を洗い出す。ステー類など補助部材の製作。
第15回	照明器具の製作10:最終発表 消灯時、点灯時の照明としての役割、造形、デザイン意図を発表。作業工程で感じたことなどを議論し、総合的に評価する。
■教科書：	指定なし
■参考書：	指定なし
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	
■履修上の留意点：	

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：高野 克也（非常勤講師）
実務経験：自然活動のNPO法人勤務を経て、札幌まるやま自然学校を主宰。自然活動のほか、木育、地域活動など未就学児童から企業研修など企画し、幅広く能力開発、人材育成を行っている。

科目名	環境デザイン
-----	--------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：環境デザインの領域は幅広く、アート、デザイン、エコロジー、テクノロジー等を包含している。立体制作には、デザイン力や造形力のみならず、ものの見方、素材背景の知識が必要とされる。活動を通して与えられた問題、あるいは自ら見つけた問題を解決して行くことで、「作る」という推進力を養うことが目的ではあるが、最も大事なことは、制作品の役目や価値を見出すことが、自身の役割や責任の投影であるという理解である。企業連携授業
- 到達目標：小学生向けの工作アクティビティを研究（関わり合いの意識）、考案（状況把握の意識）、実施（協働の意識）、振り返りを行い、活動態度、プログラムの構成を講師から評価を受ける。

- 授業計画：
- | | |
|------|---|
| 第1回 | ステップ1関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第2回 | ステップ2関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第3回 | ステップ3関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第4回 | ステップ4関わり合いの意識：公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物（あるいは動物）の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。 |
| 第5回 | ステップ5状況把握の意識：自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第6回 | ステップ6状況把握の意識：自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第7回 | ステップ7状況把握の意識：自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。中間発表 |
| 第8回 | ステップ8状況把握の意識：中間発表後、ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第9回 | ステップ9状況把握の意識：ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第10回 | ステップ10状況把握の意識：ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。 |
| 第11回 | ステップ11協働の意識：グループ発表。実施に向けて模擬活動。 |
| 第12回 | ステップ12協働の意識：振り返りを行い。準備品などの用意。 |
| 第13回 | ステップ13協働の意識：振り返りを行い。準備品などの用意。 |
| 第14回 | ステップ14協働の意識：実施 |
| 第15回 | ステップ15協働の意識：振り返り。 |

- 教科書：指定なし
- 参考書：指定なし
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：須田 修司（非常勤講師）
実務経験：木工家 旭川の家具工房勤務を経て、工房旅する木 代表 内装施工、特注家具、木製品の製造販売を行う。

科目名：専門技術演習(木工演習Ⅲ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：脚もの課題として椅子制作を行う。木取り、部材加工、組み立て指導。随時、木材加工に不可欠な「刃物（鑿、鉋、鋸）」の基本的な使用法、刃砥ぎ、を覚えることにより、素材への理解、大型機械、電動工具による木材加工への理解も深め、応用力を高める。
- 到達目標：大型機械の実践的な使用、治具制作、旋盤加工を学ぶ。課題 1：椅子課題 2：小物制作

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス 仕事紹介:実践例として家具納品、内装施工仕事の紹介をスライドショーにて解説。 |
| 第2回 | デザイン:図面解説 |
| 第3回 | 加工①:図面を基に木取り加工。手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導 |
| 第4回 | 加工②:図面を基に木取り加工。手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導 |
| 第5回 | 部材加工①:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 |
| 第6回 | 部材加工②:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 旋盤加工 |
| 第7回 | 部材加工③:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 旋盤加工 |
| 第8回 | 部材加工④:トリマー、ルーター加工 ボール盤、角のみ盤加工 旋盤加工 |
| 第9回 | 仕上げ・組み立て①:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。 |
| 第10回 | 仕上げ・組み立て②:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。 |
| 第11回 | 仕上げ・組み立て③:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。 |
| 第12回 | 小物づくり①:デザイン考案 |
| 第13回 | 小物づくり②:加工・仕上げ |
| 第14回 | 小物づくり③:仕上げ・塗装 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：木工技術シリーズ(産調出版)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：下沢 敏也（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 円山陶房 主宰 北海道陶芸協会の教室で代表講師を務めている。札幌文化奨励賞受賞

科目名	専門技術演習(陶芸演習Ⅲ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：陶芸制作における成形から焼成までの一連の工程の習得。演習Ⅲは企業連携の授業形態で、陶芸展作品作り、屋外型の窯作業を行いながら、様々な陶芸表現とその仕事の内容を学び、自らのスキルアップが狙いである。
- 到達目標：陶芸の応用演習として、様々な場面に沿った素材選び、成形、作品管理、焼成方法や、施釉塗装色など考察力を身に着ける。展覧会に出品を行う。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | スライドレクチャー：現代陶芸の在り方、伝統と前衛を解説。 |
| 第2回 | デザイン 素材選び：大型作品、造形作品のデザインを考える。 |
| 第3回 | 模型づくり①：試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える |
| 第4回 | 模型づくり②：試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える |
| 第5回 | 模型づくり③：試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える |
| 第6回 | 制作①：粘土成形 |
| 第7回 | 制作②：粘土成形 |
| 第8回 | 制作③：粘土成形 |
| 第9回 | 制作④：粘土成形 |
| 第10回 | 焼成：焼成作業 |
| 第11回 | 展示準備：展示台、題材などの準備を行い、出品（北海道陶芸展） |
| 第12回 | 登り窯活動①：デザイン考案 |
| 第13回 | 登り窯活動②：器など粘土成形（耐火度のある土を使用） |
| 第14回 | 登り窯活動③：登り窯準備 |
| 第15回 | 登り窯活動④：焼成作業 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：阿部 秀行（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社製造勤務を経て 秀工房（貴金属・宝飾製造業） 代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名：	専門技術演習（鑄造演習Ⅲ）
履修形態：	選択
授業形態：	演習
履修学年：	2 年次
開講学期：	前期
授業時数：	6 0 時間
単 位：	2 単位
■科目概要：	企業連携授業。シルバーの地金を使った様々なアクセサリーの加工方法や、石の大きさ・形・カットによる石留方法を知る。各制作課題による加工方法の違いから、適した作業順序や工程の必要性を理解し、技術向上を目指す。
■到達目標：	道具の使い方を理解し、より高い質の仕上がりを目指す。作りたいデザインの製作工程を自ら考え、重さや使いやすさ、耐久性や見せ方など実用性を考慮したアクセサリーが実際に制作できる技術を養う。
■授業計画：	
第1回	石入り平打リング加工（ミル留め）：石留め用平打リングの作成。幅は4.5mm、サイズ、厚さ、重さなどを決め、その寸法で正確に仕上げる。仕上がりを良くするため、なまし方（熱したあと3秒数えてから水に入れて冷ます）や各道具の手入れ（ヤスリの手入れ、ヘラ・キサゲの砥ぎ方）について学ぶ。
第2回	穴開け・石のセッティング：石留めの順序や意味を理解する。径2.5mmのキュービックジルコニアを石留めするため、ドリル径1.2mm、丸ギリ径1.8mm、2.5mmのポイントを使って穴を開ける。石をセッティングしながら、留められる深さになるまで穴を開ける。
第3回	ミル留め・仕上げ：ミルたがねを使って石を留める。傷ができればヘラで消し、仕上げる。ミル留め平打ちリング完成。
第4回	石入り縄目リング加工（サラ留め）：幅4.5mmの平打リングを作成し、縄目模様にする。平打リングの表面に糸ノコを使って8等分の筋を入れる。糸ノコは押切りと引切りがあるが、引切りは主に透かし模様を切るときに使うため、押切りで筋を入れる。
第5回	縄目加工：筋に数種類の精密ヤスリを使用して削り、縄目模様を作っていく。ある程度削れたら、ブラシなどのポイントを使って縄目部分をさらに仕上げる。
第6回	穴開け・石のセッティング：ドリル、丸ギリで穴を開ける。サラ留めは石に負担がかかるので、径2mmの硬いメレダイヤを使う。メレダイヤをセッティングしながら、留められる深さになるまで穴を開ける。
第7回	サラ留め・仕上げ：ヘラを使って石を留める。開けた穴の周りの地金を寄せるように留めていく。傷ができればヘラで消し、さらに仕上げる。サラ留め縄目リング完成。
第8回	ペンダントトップ石枠加工 石座（八巻）加工：10mm×12mmの小判型の石をペンダントトップに加工する。板状の地金を作り、石の大きさに合わせた石座を作る。石の外周に沿って板状の地金をヤットコを使って丸める。切り口をロー付けし、ヤットコで形を整える。石が座るようにヤスリで削り、仕上げる。
第9回	爪立て・パチカン加工：石座に石留めするための爪を立てる。爪は角線を引いて作り、石枠に対角線になるよう4本ロー付けする。その際、石座のロー材よりも低温のロー材を使用する。爪の長さを調整し削り、爪の形を整える。チェーンを通すしずく型のパチカンを作る。
第10回	外付け縄目装飾作り：針金版を使って丸線をひき、縄目の線を作る。その線で石座を自由に装飾し、ロー付けする。
第11回	石留め・仕上げ：石枠にパチカンを通した丸管をロー付けする。石の座り具合を見ながらヤットコを使って石留めをする。パフをかけて仕上げる。ペンダントトップ完成。
第12回	角石リング枠加工：4mm×6mmオクタゴンカットの石をリングに加工する。石枠用の板状の地金を作る。
第13回	石枠・爪立て加工：石の辺に合わせた長方形の石座を作り、石が座るようにヤスリですり合わせる。石座に角線を立てロー付けする。爪は4本爪にする。爪の長さを調整し削り、爪の形を整える。
第14回	腕部分地金作成：腕用の角棒の地金を作る。地金の側面を金槌でたたき、地金を締める。地金の端部分は腕にするため厚くする。地金を両端から徐々に丸めていき、リング状に丸める。真円にしたあと、変形させないようにヤスリがけし表面を整え仕上げる。
第15回	石枠と腕を合わせる 石留め・仕上げ：石枠と腕を組み立てる。4本爪の石枠を加工した腕にはさんでロー付けする。形を整えて仕上げる。石の座り具合を見ながらヤットコを使って石留めをする。パフをかけて仕上げる。角石リング完成。
■教科書：	指定なし
■参考書：	宝飾クラフトの実際（美術出版社） ほか
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	
■履修上の留意点：	

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名：専門技術演習（金工演習Ⅲ）

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：金属の特性を理解し、しぼり、銀ロー付け、溶接等基本的技術を向上する。デザインコンセプトの核を明確にし、生活工芸品制作とする。
- 到達目標：金属の加工法、鍛金の応用技術（変形しぼり）、金属の特性を活かした接合法の技術を習得をし、照明器具の制作を行う。シェードのほか、照明の仕組みも考え、持続的に使用可能な作品を完成させる。

■授業計画：

- 第1回 課題説明：金属製品の解説。あかり、照明の事例を解説。デザインラフ案を作成。
- 第2回 デザイン：模型制作を行い、照明の設計を行う。光の機能、人や空間との関わり方を考える。
- 第3回 デザイン：中間発表 形のデザイン、素材の選定。
- 第4回 デザイン：形態を決定。図面制作し、部材加工計画を立てる。
- 第5回 加工練習：TIG溶接機の練習。酸素とプロパンのバーナーワークを練習。
- 第6回 成形①：アルミニウム、銅（真鍮）、鉄、それぞれの素材加工を把握。非鉄は焼きなまし、酸洗い、鍛金を繰り返す。鉄は赤めながら鍛金を行う。
- 第7回 成形②
- 第8回 成形③
- 第9回 成形④
- 第10回 成形⑤
- 第11回 成形⑥
- 第12回 仕上げ：鉄は油焼きを施し、黒い仕上げにする/鍍を施し、茶色の仕上げにする。銅（真鍮）は、酸洗いをし、硫化硫黄で着色。着色を施した後、蜜蝋を塗布。
- 第13回 仕上げ：アルミニウムは表面加工を施し、クリアラッカー仕上げ。＊素材によって異なる仕上がりになる。
- 第14回 組み立て：ケーブルなど照明器具と接合。
- 第15回 合評

■教科書：指定なし

■参考書：鍛金の実際（美術出版社）あかりの魔法（エクスナレッジムック）ほか

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフトデザイン専攻
担当教員: 清水 宏晃 (非常勤講師)
実務経験: 木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名 : 専門技術演習(木工演習Ⅳ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 箱ものの構造と形（デザイン）の関係を理解し、素材への理解を深め、デザインの目的を意識する。箱ものは取り合い（合わせる箇所）が多いので「素材が木材であること」「計算して合わせるところ」「自由に加工可能なところ」等の判断力を高める。素材への理解、大型機械、電動工具、手工具による木材加工への理解、応用力を高める。
- 到達目標:** 家具や木製品の制作。複合的な技法を用いた課題制作を行う。課題：箱もの制作

■授業計画:

- 第1回 課題説明・手工具管理: 刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。
- 第2回 刃物砥や手工具の管理: 木刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。仕上げや面取りについても先に触れておく。
- 第3回 箱ものの構造と形(デザイン): 実例をあげて構造と形の関係を説明。使用目的、使用環境を考慮して、デザインを考える。ラフ案、模型制作。
- 第4回 製図: デザイン画、模型をもとに図面作成。第三者にもわかるように、丁寧な作図を心がける(1/2, 1/5可)。作品の形大きさが決まったらパーツリストを作成する。
- 第5回 中間発表: 模型、図面のチェック
- 第6回 木取加工: デザイン画、図面、パーツリストをもとに木取りを行う。・木取りを行う際にバンドソー、横切り盤を用いるので、その使用法と安全指導を行う。
- 第7回 基準面加工: 手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導
- 第8回 仕口加工、形状加工: 組立に必要な仕口継手(ホゾ、ダボ穴加工)の加工を行う。形状の加工においてルーター、トリマーなどの電動機械の取り扱い方の説明、安全指導。
- 第9回 仕口加工: 木材加工のイメージができない、または理解しにくい場合は必ず端材などで練習をする。
- 第10回 仕口加工: ※丁番やキャッチ、スライドレールなどを使用する場合はその取り付け方の指導。
- 第11回 仕口加工: ※鑿、カンナ等刃物の研ぎ方は一度では覚えられないので、随時行う
- 第12回 組み立て・仕上げ: 手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。
- 第13回 組み立て・仕上げ: 組立の際に、クランプ、はたがね等を使用するので、組立に必要な道具の使い方と安全指導。
- 第14回 仕上げ: 水性ウレタン塗料、オイル塗料、ステイン等で塗装、仕上。
- 第15回 合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 木工技術シリーズ(産調出版)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：下沢 敏也（非常勤講師）
実務経験：陶芸家 北海道陶芸協会・会員 円山陶房 主宰 北海道陶芸協会の教室で代表講師を務めている。札幌文化奨励賞受賞

科目名：専門技術演習(陶芸演習Ⅳ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：プランから完成まで制作演習を通してデザイン力、加工技術を深める。複合的な技法を用いた課題制作を行う。

■到達目標：電動ロクロ成形を中心に技法や道具の使い方を学ぶ。組物では同型の作品作りの取り組み、中鉢や注器ではパーツの大小にともなう制作技術の向上、粘土の性質を利用した様々な制作法に触れ、スキルアップを目的とする。

■授業計画：

- 第1回 ガイダンス：作陶を中心に行うが、焼成毎、施釉・装飾の指導を行う。
- 第2回 組物・5個組 茶碗、小鉢：形、大きさを揃えたセットものの成形。茶碗や小鉢を棒引きでの成形。トンボ、コテなどの使い方を覚える。
- 第3回 組物・6個組 茶碗、小鉢：削り作業。高台の大きさ、高さを揃える。トースカン、カンナの使い方を覚える。
- 第4回 組物・5個組 カップ・タンブラー：形、大きさを揃えたセットものの成形。茶碗や小鉢を棒引きでの成形。トンボ、コテなどの使い方を覚える。
- 第5回 組物・6個組 カップ・タンブラー：削り作業
- 第6回 中鉢：中鉢制作。2kg以上の粘土を使用。カメ板の使い方を覚える。カメ板での中心の取り方。
- 第7回 中鉢：中鉢制作。高台削り。シッタなどの使い方を覚える。
- 第8回 装飾：化粧土を使った描き落とし技法。飛びカンナ、三島手、イチチンの装飾方法。
- 第9回 注器：急須、ポットの制作。各2個以上。注器の各パーツ成型後、組み合わせ。全体のバランスのとり方を覚える。
- 第10回 注器：削り作業。本体、蓋の削り方。茶漉し、取っ手、口のバランスやカットの仕方。
- 第11回 仕上げ：取っ手、注ぎ口、茶漉しの接着方法。バランスのとり方。
- 第12回 筒もの：筒もの（花器）制作。1～2kgの土を筒状にろくろ挽きする。中心のブレがでないように挽く。前半課題の焼成後合評会
- 第13回 土の再生：土練機の使い方を覚える。粘土の再生方法。
- 第14回 展開図制作：たたき技法で展開図を使った立体制作。自由な発想での制作。
- 第15回 展開図制作：よりしろをつかった接着方法。組み立て。仕上げ。

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burni ng John(シルバーアクセサリー工房) 代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名	専門技術演習(鑄造演習Ⅳ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：6 0 時間
単 位：2 単位

- 科目概要： 模刻やセット物制作の課題を通して、複合的な技法を用いた制作を行う。
- 到達目標： 鑄造技法による制作を行う。ベーシックなアイテム（リング、ネックレス、ブレスレット）を講師による指定サンプル通りに制作する取り組みと、オリジナル作品を制作。

- 授業計画：
- | | |
|------|---|
| 第1回 | ベーシックアイテム制作 石止め、透かし彫りを施したリングサンプルから選ぶ。サンプルの制作手順を解説 |
| 第2回 | 模刻①：ワックス成形 |
| 第3回 | 模刻②：ワックス成形 厚み、立体感、細部の作りこみを中間チェック。 |
| 第4回 | 模刻③：ワックス成形 |
| 第5回 | 鑄造仕上げ作業：鑄込み作業から研磨を行い、提出。 |
| 第6回 | オリジナル制作：セットものの制作。銀主体で、ネックレス(チョーカーやペンダント)リング、ブレスレット(バングル等)ピアス(イヤリング、イヤークフ等)から2アイテムのセットものを制作。 |
| 第7回 | デザイン①：ラフ案から製図作成 |
| 第8回 | デザイン②：中間チェック ワックス制作 |
| 第9回 | 試作①：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。 |
| 第10回 | 試作②：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。 |
| 第11回 | 成形①：ワックス原型作り チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。 |
| 第12回 | 成形②：ワックス原型作り チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。 |
| 第13回 | 成形③：ワックス原型作り チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。 |
| 第14回 | 埋没・鑄込み：仕上げ、研磨作業。石留め。 |
| 第15回 | 合評：デザイン、仕上げ等の寸評、考察。 |

- 教科書： 指定なし
- 参考書： 指定なし
- 成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：武田 享恵（非常勤講師）
実務経験：金工家 金属品製造会社にて修行後 銅、アルミ、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名：	専門技術演習（金工演習Ⅳ）
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：伝統工芸品の制作とし、彫金技法の修得を目指す。
- 到達目標：金属の加工法、彫金の応用技術の中で、象嵌技法、杢目金の技法に取り組む。金属の特性を活かした接合法（鍛接）の技術を習得。

- 授業計画：
- | | |
|------|---|
| 第1回 | 象嵌・地金制作：ささぶきを溶解し、純銀、四分一の地金を制作。バーナーを使用し、ささぶきを溶解。ささぶきの様子を見ながら塊になった銀をローラーを使い線状にして行く。 |
| 第2回 | 象嵌・デザイン：箱のふたを画面とし、線と点、面で構成をする。 |
| 第3回 | 象嵌・毛彫り：使用する道具とその手入れ法の説明。使い方のデモンストレーション。彫る練習とともに、ケン先たがねの刃を正しく、研ぐ。 |
| 第4回 | 象嵌・毛彫り：けがいた線に沿い彫る。 |
| 第5回 | 象嵌実制作①：銀線、または面材を嵌め込む。銀線をなます。毛彫りの均一の深さ。 |
| 第6回 | 象嵌実制作②：銀線、または面材を嵌め込む。 |
| 第7回 | 象嵌実制作③：銀線、または面材を嵌め込む。 |
| 第8回 | 象嵌・着色前の下処理：ヤスリで磨く#1000番まで表面を均一にする。 |
| 第9回 | 象嵌・着色：煮色技法で着色。薬品の調合、着色作業。何回か行う。 |
| 第10回 | 杢目金・地金準備：赤銅と純銀の板材を指定した面積、枚数にカット。研磨。 |
| 第11回 | 杢目金・接合：交互に重ねた板を器具に挟み、バーナーで接合。 |
| 第12回 | 杢目金・彫り：接合したブロックを板状に叩きのばす。しゃくり鑿、毛彫り鑿、ドリルで穴やへこみを作りさらに叩きのばすことで木目の柄になる。 |
| 第13回 | 木目金・成形①：杢目金を材にしてリング、ペンダントトップ、バングルなど、装飾品、小物を制作。 |
| 第14回 | 木目金・仕上げ②：研磨。着色。 |
| 第15回 | 合評：象嵌作品、杢目金さ作品の提出 |

- 教科書：指定なし
- 参考書：杢目金の教科書（日本杢目金研究所）ほか
- 成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
 対象専攻：クラフトデザイン専攻
 担当教員：清水 宏晃（非常勤講師）
 実務経験：木工家 木の家具代表 木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名：	専門技術演習(木工演習Ⅴ)
------	---------------

履修形態：選択
 授業形態：演習
 履修学年：2年次
 開講学期：前期
 授業時数：60時間
 単 位：2単位

■科目概要： 成形合板、曲木など技法へのチャレンジ制作。より技術の向上を図る。課題：曲げわっぱ（シェーカー様式）薄単板使用。

■到達目標： 曲げわっぱにおいては素材の柔軟性などを体感して素材に対しての理解を深める。伝統工芸品でもあるが、もともと道具としての側面が強い生活工芸品であり、機能性と形態の関係も学ぶ。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 課題説明・手工具管理：刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。 |
| 第2回 | 木取り、曲げ木①：曲げわっぱの制作説明、曲げ木の手法説明。曲木の部材作り。 |
| 第3回 | 木取り、曲げ木②：曲木の部材作り。バンドソー、昇降盤など木工機械の取り扱いの確認、安全指導。 |
| 第4回 | 木取り、曲げ木③：曲木の部材作り。 |
| 第5回 | 成形練習①：単板の曲げ加工。蒸した板を治具に沿わせる。 |
| 第6回 | 成形練習②：単板の曲げ加工。蒸した板を治具に沿わせる。 |
| 第7回 | 成形練習③：銅釘を使った組み立て。 |
| 第8回 | 成形①：曲木の部材作り。 |
| 第9回 | 成形②：単板の曲げ加工。蓋と本体を制作 |
| 第10回 | 成形③：単板の曲げ加工。蓋と本体を制作 |
| 第11回 | 成形④：単板の曲げ加工。蓋と本体を制作 |
| 第12回 | 仕上げ①：細部の処理。縁のやすり掛け。 |
| 第13回 | 仕上げ②：細部の処理。縁のやすり掛け。 |
| 第14回 | 仕上げ③：人体に影響のない塗装（オイル塗装） |
| 第15回 | 合評 |

■教科書： 指定なし

■参考書： 指定なし

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフトデザイン専攻
担当教員：高橋 幸一（非常勤講師）
実務経験：宝飾職人 ジュエリー会社販売製造勤務を経て Burning John（シルバーアクセサリー工房）代表 特注装飾品の制作を行っている。

科目名	専門技術演習（鑄造演習Ⅴ）
履修形態： 授業形態： 履修学年： 開講学期： 授業時数： 単 位：	選択 演習 2 年次 前期 60 時間 2 単位
■科目概要：	演習課題を通して、応用的な技術習得を目指す。現代のジュエリー、アクセサリーの幅の広さを学ぶ。完成した作品は札幌貴金属組合の主催する展覧会に出品し、鑑賞者やプロの職人、作家など外部からの評価も得ることができる。ただし成績に関しては授業担当の講師が評定するものとする。
■到達目標：	現代のジュエリー、アクセサリー制作は、どの時代風にもデザインが可能であり、新素材の使用など多様な変容を遂げている。この授業では、異素材を用いて装身具製作を行うものとするが、狙い通りに完成するか、制作を通して実験、研究の成果を分析し、卒業制作へのステップとする
■授業計画：	
第1回	異素材の装身具製作：課題の概要説明 銀＋αでの考え方。
第2回	校外学習：異素材のアイデアをフィールドワークにて学習。自然素材の観察、ホームセンターにある素材や部品の見学
第3回	デザイン①：ワックスでの試作 異素材の使用により、重心やバランス、接合の仕方など吟味する
第4回	デザイン②：ワックスでの試作 コンセプトを異素材の組み合わせをチェック
第5回	デザイン③：ワックスでの試作 中間発表
第6回	試作①：一回目の鑄造を行い、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味
第7回	試作②：引き続き、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味
第8回	試作③：引き続き、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味
第9回	本制作①：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
第10回	本制作②：ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
第11回	埋没・鑄込み
第12回	仕上げ①：仕上げ、研磨作業。石留め。
第13回	仕上げ②：仕上げ、研磨作業。石留め。
第14回	仕上げ③：仕上げ、研磨作業。石留め。
第15回	合評：デザイン、仕上げ等の寸評、考察。完成、提出の後、展覧会出品の準備
■教科書：	指定なし
■参考書：	指定なし
■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目：	
■履修上の留意点：	

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフトデザイン専攻
担当教員: 菱野 史彦 (非常勤講師)
実務経験: 造形作家 金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表 住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名	専門技術演習(金工演習Ⅴ)
-----	---------------

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 金属の溶接技法を用いて鉄素材ではミニチュアハウスを制作。銅素材では器を製作。様々な溶接方法の理解を深める。
■到達目標: 鉄、アルミニウムやステンレスと銅と身近にある金属素材の溶接技術を身につけそれぞれの金属の特性を知る。溶接技術の習得。多様な製作方法があることを知る。

■授業計画:

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 溶接技法について・溶接演習①:溶接機の種類、一般的な溶接の用途のほか素材別溶接技術の違いなどを知る。コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。被覆アーク溶接機を使い鉄の溶接練習。 |
| 第2回 | 溶接技法について・溶接演習②:コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。TIG溶接機を使い鉄・ステンレスの溶接練習。 |
| 第3回 | 溶接技法について・溶接演習③:コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。TIG溶接機を使い銅、アルミニウムの溶接練習。 |
| 第4回 | ミニチュアハウスデザイン:溶接技術を踏まえ架空の家を建てるイメージでデザインを起こす。資料等を使い製作方法を考えながらデザイン画、製図を作成。 |
| 第5回 | 制作演習①:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。 |
| 第6回 | 制作演習②:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。 |
| 第7回 | 制作演習③:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。 |
| 第8回 | 仕上げ:溶接に夜焼けや溶接後の処理をデザインに応じて仕上げる。必要であれば塗装加工、錆付け加工などを検討し仕上げを行う。 |
| 第9回 | 制作演習・講評:仕上げ加工。最終的に着色、磨き加工などを施し完成度を高める。合評による振り返り。 |
| 第10回 | 銅器デザイン:形をデザインし展開図を考える。 |
| 第11回 | 制作演習①:必要な材料を切り出し成型加工。成型後つなぎ目を溶接加工。 |
| 第12回 | 制作演習②:鍛金加工(当て金を使い金槌で成型加工)で成型する。 |
| 第13回 | 制作演習③:(当て金を使い金槌で成型加工)で成型する。 |
| 第14回 | 仕上げ:仕上げ加工、均し加工、表面処理、色上げなど。 |
| 第15回 | 合評:それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。 |

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい溶接の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名：	専門技術演習(造形演習Ⅰ)
------	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：異素材の組み合わせを行った造形作品の制作。昔からある素材、新素材と、現代では様々なものがあり、新しい造形を探るとともに、特殊な環境ではない場でも作ることのできる加工法の研究。
- 到達目標：異素材の組み合わせで小物制作。また新素材であるジェスモナイトを使った小物制作を行いアイデアや可能性を拡げる。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 課題説明：木材以外の素材を実際の作品を紹介しながら授業の説明する。 |
| 第2回 | デザイン①：素材の決定、作品のデザイン画を描く。 |
| 第3回 | デザイン②：中間チェック。異素材の組み合わせの試作。 |
| 第4回 | 試作：組み合わせの試作。 |
| 第5回 | 本制作①：加工、組み立て。 |
| 第6回 | 本制作②：加工、組み立て。 |
| 第7回 | 本制作③：加工、組み立て。 |
| 第8回 | 本制作④：仕上げ。提出。 |
| 第9回 | ジェスモナイト研究：立体造形用素材ジェスモナイトの使用方法的説明。
素材を使用して作品作りを行う。 |
| 第10回 | デザイン：ジェスモナイトのみもしくは他の素材と組み合わせたデザインを考える。 |
| 第11回 | 試作：ジェスモナイトの実験 |
| 第12回 | 制作①：流し込みに使用する型を制作する。 |
| 第13回 | 制作②：加工 |
| 第14回 | 制作③：研磨 |
| 第15回 | 異素材の作品と合わせて合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：木村 一夢（非常勤講師）
実務経験：造形作家 画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名	専門技術演習(造形演習Ⅱ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：組み木の木製品制作に取り組む。合板の種類、特性を知り、造形表現の可能性を探る。
- 到達目標：課題 1 として合板から玩具、オブジェを制作し材料の特性を把握。課題 2 として、からくり作品を制作。動的な要素を研究し、作品として発表。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 組み木：合板と無垢材との違い、形状の安定、加工についての強みを解説。 |
| 第2回 | デザイン：組み木を生かしたデザイン。ラフ画から図面作成。 |
| 第3回 | デザイン：中間チェック 材料選定。 |
| 第4回 | 造形：木取り、部材加工 |
| 第5回 | 造形：組み立て |
| 第6回 | 造形：仕上げ、塗装 |
| 第7回 | 合評 |
| 第8回 | からくり作り：動力の仕組みを研究 チームに分かれて歯車等の制作。 |
| 第9回 | からくり作り：動力の仕組みを発表 |
| 第10回 | からくり作り：デザインを行う。動く、揺れる、回転などワンアクションを入れる。 |
| 第11回 | からくり作り：造形作業 木材、金属素材などの選定 |
| 第12回 | からくり作り：造形作業 部材加工 |
| 第13回 | からくり作り：仕上げ、研磨 |
| 第14回 | からくり作り：仕上げ、塗装 |
| 第15回 | 合評 |

■教科書：指定なし

■参考書：摩訶不思議図鑑(有馬玩具博物館)

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：桂 充子（専任教員）
実務経験：北海道教育大学美術科卒業 彫刻家 道展・会員 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。

科目名	専門技術演習(素材研究Ⅰ)
-----	---------------

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要： 素材理解を深める授業。課題としては実験的な制作、素材の加工を行い、そこから得られる気づきや発見を発表する。
- 到達目標： 能動的学習形態として、対象の調査、表現の工夫を自ら構築できる演習課題に取り組む。調査では表現に伴う幅広い収集への取り組み、表現の工夫では情報の優先順位付け、意見交換をすることで、研究成果（制作状況と成果物）の客観性を享受する。

- 授業計画：
- 第1回

染色について①：染色についての基本知識を講義 絞り染め、ろうけつ染めから選択し、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。
- 第2回

染色について②：染色液の製造。木材チップから煮だして色素液を抽出
- 第3回

染色について③：染色液の媒染材の調査
- 第4回

染色について④：絞り染めによる染色。
- 第5回

染色について⑤：研究発表
- 第6回

染色について⑥：振り返りを行いデータ資料化する。
- 第7回

腐食について①：腐食についての基本知識を講義 。薬品や素材、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。
- 第8回

腐食について②：真鍮の腐食を行う。板材にマスキングを施し、薬品に浸す。経過時間を観察し取り出す。
- 第9回

腐食について③：腐食された金属を研磨、着彩。
- 第10回

腐食について④：研究発表
- 第11回

腐食について⑤：振り返りを行いデータ資料化する。
- 第12回

低温度鋳造について①：錫やホワイトメタルなど低温融点を利用した鋳造についての基本知識を講義。技法や素材、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。
- 第13回

低温度鋳造について②：鋳造作品の型作りを行い、鋳造作業。
- 第14回

低温度鋳造について③：研磨仕上げ。
- 第15回

低温度鋳造について④：振り返りを行い、データ資料化する。

- 教科書： 指定なし
- 参考書： 指定なし
- 成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
- 関連科目：
- 履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：クラフト デザイン 専攻
担当教員：桂 充子（専任教員）
実務経験：北海道教育大学美術科卒業 彫刻家 道展・彫刻部会員 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。

科目名：専門技術演習(素材研究Ⅱ)

履修形態：選択
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：立体造形のなかで、彫刻的要素の強い、ブロンズ鑄造と野焼き（やきもの・テラコッタ）の取り組みから素材の特性を学ぶ。
- 到達目標：研究活動。作品の原型を蠟材で制作後、耐火石膏の型に埋没し、融解したブロンズを鑄込む一連の制作をおこない、作品の成り立ちにおいて、実材だけではなく様々な物質や素材の役割を知る。野焼きでは原始的な焼成を通して土だけではなくもみ殻や炭なども含めた熱変する物質の特性を知る。

■授業計画：

- 第1回 ブロンズ鑄造①：イタリア式鑄造の解説。精密鑄造との違い。
- 第2回 ブロンズ鑄造②：蠟材づくり。松脂、パラフィン、蜜蠟をブレンド。
- 第3回 ブロンズ鑄造③：蠟材で原型制作。
- 第4回 ブロンズ鑄造④：湯道、湯口など、型の仕組みを解説。
- 第5回 ブロンズ鑄造⑤：湯道付け。イタドリといった植物素材も使用。
- 第6回 ブロンズ鑄造⑥：耐火石膏埋没作業 石膏とシャモットを使用し耐火石膏を製造。
- 第7回 ブロンズ鑄造⑦：鑄込み
- 第8回 ブロンズ鑄造⑧：湯道を工具ではずし、仕上げる。
- 第9回 ブロンズ鑄造⑨：研究のまとめ。振り返りを行い資料化する。
- 第10回 野焼き・テラコッタ①：野焼き・テラコッタについて解説。
- 第11回 野焼き・テラコッタ②：粘土成形。シャモット混合の土を素材とする。
- 第12回 野焼き・テラコッタ③：乾燥 野焼き準備
- 第13回 野焼き・テラコッタ④：焼成活動 石狩浜で焼成
- 第14回 野焼き・テラコッタ⑤：作品の振り返り
- 第15回 研究資料をまとめ、データ資料化

■教科書：指定なし

■参考書：指定なし

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 宮崎昭人 (非常勤講師)
実務経験: Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務(観光・ビジネス・科学・法務分野等)
 海外との遣取代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名 : 英語

履修形態: 必修
授業形態: 講義
履修学年: 1 年次
開講学期: 前期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

- 科目概要:** 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する
■到達目標: 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画:

- 第1回 はじめに:仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く
- 第2回 身の回りの英語:会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
- 第3回 英会話基礎:日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
- 第4回 品詞の理解:辞書の使い方
- 第5回 品詞別重要ポイント①:名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
- 第6回 スペルミス防止:作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第7回 品詞別重要ポイント②:動詞(be動詞、一般動詞)、助動詞の使い方
- 第8回 スペルミス防止:作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
- 第9回 品詞別重要ポイント③:接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
- 第10回 翻訳:翻訳の種類(直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する)
- 第11回 翻訳:自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
- 第12回 自己紹介
- 第13回 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
- 第14回 日常で使用する英語:住所表記、入国カード、日本食の英語表現
- 第15回 まとめ

■教科書: プリント配布

■参考書: 辞書があれば望ましい

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程 環境デザイン学科 フラワーデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次 ・学期	授業時数
	必修	選択		
フラワーデザイン基礎演習	○		1年・前期	60
フラワーデザイン演習	○		1年・後期	30
フラワーデザイン演習Ⅱ	○		2年・前期	60
コーディネート基礎	○		1年・前期	60
コーディネートⅠ	○		1年・後期	30
コーディネートⅡ	○		2年・前期	60
グリーンコーディネート	○		1年・前期	60
フローラルアートⅠ	○		1年・後期	30
フローラルアートⅡ	○		2年・前期	60
ディスプレイ演習Ⅰ	○		1年・前期	60
ディスプレイ演習Ⅱ	○		1年・後期	30
スペースデザイン演習	○		2年・前期	60
いけばな基礎演習	○		1年・後期	60
いけばな演習	○		2年・前期	60
クリエイティブワークⅠ	○		1年・後期	30
クリエイティブワークⅡ	○		2年・前期	60
植物学	○		1年・前期	60
ブライダルフラワー	○		2年・前期	60
フラワービジネス	○		2年・前期	60
キャリアプランニング	○		1年・後期	30
DTP基礎演習	○		1年・前期	60
DTP演習	○		1年・後期	30
プレゼンテーションⅠ	○		2年・前期	30
プレゼンテーションⅡ	○		2年・後期	60
デザイン基礎Ⅱ	○		1年・後期	30
販売実務	○		1年・前期	30
造形演習	○		2年・前期	60
英語	○		1年・前期	30
合 計				1350

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 谷内恵 （非常勤講師）
実務経験： 1級フラワーデザイナーNFD本部講師。1級フラワー装飾技能士。

科目名：	フラワーデザイン基礎演習
------	---------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： (公社)日本フラワーデザイナー協会〔NFD〕のデザイン理論に基づいて、フラワーの技術と知識の基礎を学び、季節の花やグリーンをデザインする

■到達目標： 植物をよく観察し、形態や植生を考えたデザインが出来るテクニックと知識を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | フラワーデザインの基礎知識：フラワーデザインの構成理論 花の主張度、特徴、役割、水揚げ等 用具と資材 ワイヤリングやリボンワークなどの基礎テクニック |
| 第2回 | スワンアレンジメント：生花で白鳥を作る テーブルデコレーションやギフトに |
| 第3回 | トピアリーアレンジメント：アーティフィシャルフラワーを使ったトピアリー |
| 第4回 | 並行—装飾的：垂直な並行配置によって装飾感を表現する構成 |
| 第5回 | リースアレンジメント：リース状に構成するテーブルデコレーション |
| 第6回 | トライアングュラーアレンジメント：二等辺三角形に構成されたアレンジメント |
| 第7回 | 丸い花束：スパイラルに組み丸く束ねる花束 |
| 第8回 | モダン—装飾的ブーケ：ブーケホルダーを用いて円錐形に構成する花嫁の花束 |
| 第9回 | フラワーカーペット：SAPPOROフラワーカーペット（校外学習） |
| 第10回 | スプレイシェイプアレンジメント：花束を横に置いたようなアレンジメント |
| 第11回 | 共同形態：わずかな主張の植物を群生させることで表現する構成 |
| 第12回 | 器を作る：グラスチューブをデコパージュし、一輪挿しを作る |
| 第13回 | プティデザイン①：22.5cm四方以内でアレンジするデザインを考える。器、デザイン、花材を考えデッサンする |
| 第14回 | プティデザイン②：22.5cm四方以内でアレンジするデザインを考える。前回のデッサン画に基づいて制作 |
| 第15回 | カフスブーケ：花のふち周りを囲い装飾をしたブーケ |

■教科書： フラワーデザイナー資格検定試験テキスト

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：清水さくら（非常勤講師）
実務経験：生花店チーフデザイナー。フローリスト。ハナトリウム主宰。北海道デザイン協議会会員。ジャパンカップ1位受賞、アジアカップ日本代表など

科目名	コーディネーション基礎
-----	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：植物の特性をよく観察し、アートとして花材の基礎を学びデザインする

■到達目標：植物の持つ特性を深く観察し、理解を深めた上でデザインとテクニックの基礎を身につける。

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 春のデザイン：春の花で作るブーケ |
| 第2回 | 植物とフルーツ野菜：フルーツや野菜を使ってアレンジする |
| 第3回 | 母の日ギフト：BOXアレンジ |
| 第4回 | 複数の器：3～5個の器にデザインする |
| 第5回 | スワッグ 壁の花：ドライになる花でデザインする |
| 第6回 | 身につけるコサージュ：コサージュ、ブレスかアレンジする |
| 第7回 | 父の日ギフト：プレゼントと植物 |
| 第8回 | ブライダルデザイン：デッサンとプラン |
| 第9回 | ウェディングディスプレイ：飾花メインテーブル |
| 第10回 | ブライダルブーケ：ナチュラルブーケ |
| 第11回 | 夏のデザイン：トロピカルアレンジ |
| 第12回 | フューネラルデザイン：1対の花（葬儀花） |
| 第13回 | 美術館見学：美術館見学 |
| 第14回 | 植物1種類：コンテスト形式で半数ずつ制作する。 |
| 第15回 | 秋のコラージュ：実と葉のデザイン |

■教科書：自作資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：江尻 陽子（非常勤講師）
実務経験：生花店勤務、店内業務全般を担当

科目名：グリーンコーディネート

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：花材の処理など実践スキルを身につける。
テーマに合ったデザインの引き出しを増やす。様々な素材を使用し発想の幅を広げる。
- 到達目標：花材の処理の基本を身につけ、デザインの可能性を広げ、作品作りに生かす能力を養う

■授業計画：

- 第1回 オリエンテーション ワイヤリング①：年間の授業説明 生花の処理の基礎を学ぶ
- 第2回 ワイヤリング②：前回の続き。反復練習で身につける。
- 第3回 押し花アート：事前に生花の花びらを押し花処理してもらい、一枚絵を制作する。
- 第4回 寄せ植え①：チームを作り、各自テーマや使用する材料、植物の選定。デザイン画を描く
- 第5回 寄せ植え②：前回の続き。事前に準備できるものはする
- 第6回 寄せ植え③：実際にデザイン画を元に植物を植える。
- 第7回 ローズウィンドウ①：切り絵のようなステンドグラスを紙で表現する。デザインをおこす。
- 第8回 ローズウィンドウ②：前回の続き。デザインを元に色用紙を切る。
- 第9回 ローズウィンドウ③：前回の続き。完成。プレゼン、評論会。
- 第10回 モービル・ガーランド制作①：壁面や吊り下げる作品の制作。デザインを起こす。
- 第11回 モービル・ガーランド制作②：前回の続き。デザインを元に制作
- 第12回 モービル・ガーランド制作③：前回の続き。完成。時間があれば評論会。
- 第13回 花冠制作：花壇のお花を使って花冠を制作。
- 第14回 学校祭に向けて①：1、2年合同で学校祭に向けて販売商品とディスプレイ提案
- 第15回 学校祭に向けて②：前回の続き。事前に準備できるものは制作。

■教科書：アートフラワー、制作に必要な素材

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: フラワーデザイン専攻
担当教員: 柳瀬 勇佑 (非常勤講師)
実務経験: フライダル業務、装花業務、店内業務全般を経験後フローリストとしてデザイナー担当。

科目名 :	ディスプレイ演習Ⅰ
-------	------------------

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** テキストと実践の両面から、花材の水揚げの基本と、花材別の様々な水揚げ方法を学ぶ。花材の特性を学んだうえで、特性を生かしディスプレイ装飾の基本を学ぶ
■到達目標: ①テキスト「水揚げ&花のケア切り花の鮮度保持マニュアル 単行本」に掲載している水揚げ方法を一通り経験している。同テキストの「4 品目別水揚げ」の知識を習得し、確認テストに合格する。②フラワーディスプレイの考え方の基礎を養う

■授業計画:

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション 呼吸と光合成 実践…水揚げ実習、小作品制作1 |
| 第2回 | 維管束と水揚げ作業 実践…水揚げ実習、小作品制作2 |
| 第3回 | バクテリア対策 実践…水揚げ実習、小作品制作3 |
| 第4回 | 栄養補給剤 実践…水揚げ実習、小作品制作4 |
| 第5回 | エチレングスとSTS1 |
| 第6回 | エチレングスとSTS2 実践…水揚げ実習、小作品制作5 |
| 第7回 | 生産者が行う「前処理」 実践…水揚げ実習、小作品制作6 |
| 第8回 | 流通段階での鮮度保持 実践…水揚げ実習、小作品制作7 |
| 第9回 | テキスト内容を実践で確認する(品質保持剤使用実験、身の回りの物での実験) |
| 第10回 | 筆記による確認テスト、実践による確認テストを両方行う。 |
| 第11回 | ダリアの摘芯、追肥、園芸用竿の交換(長いものに)ダリア展で校内展示に使用できるように、ダリアを長時間、美しく咲かせるよう手入れをする |
| 第12回 | ダリアの花壇メンテナンス、追肥 |
| 第13回 | ダリア展のデザインおこし(校内展示のアレンジメント、百合が原公園展示のディスプレイ1年生担当箇所) |
| 第14回 | ダリア展作品の土台制作1(校内展示のアレンジメント、百合が原公園展示のディスプレイ1年生担当箇所) |
| 第15回 | ダリア展作品の土台制作2(校内展示のアレンジメント、百合が原公園展示のディスプレイ1年生担当箇所) |

■教科書: フラワーデザイナーのためのハンドブック増補改訂版
 水揚げ&花のケア切り花の鮮度保持マニュアル 単行本
 アレンジ花図鑑 花屋さんの花材がすべてわかる

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアート ディレクションからデザイン制作、DTP 作成等を担当。

科目名：	DTP基礎演習
------	----------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：●PCの基本操作、illustrator、Photoshopの基本操作を習得する。
●名刺を作成し入稿データを作成を目指す。
●将来的に、プレゼンテーションボードやチラシのデザインをできる技能の習得を目指す。

■到達目標：①Adbe illustructor/Photoshopの基礎操作を習得する。
②コンセプトを立て、文字、図や画像などの情報を的確にデザインし表現する。
③簡潔に分かりやすいイメージを作成する能力の向上

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | DTPとは、その効果と重要性。 |
| 第2回 | illustrator、Photoshopの違い。操作方法説明 |
| 第3回 | illustrator、Photoshop検定問題① |
| 第4回 | illustrator、Photoshop検定問題② |
| 第5回 | 自分のロゴマークを作る① |
| 第6回 | 自分のロゴマークを作る② |
| 第7回 | 自分のロゴマークを作る③ |
| 第8回 | 自分のロゴマークを作る④ |
| 第9回 | フライヤーのデザイン① |
| 第10回 | フライヤーのデザイン② |
| 第11回 | フライヤーのデザイン③ |
| 第12回 | フライヤーのデザイン④ |
| 第13回 | ポストカードのデザイン① |
| 第14回 | ポストカードのデザイン② |
| 第15回 | ポストカードのデザイン③ |

■教科書：プロジェクターの投影中心、世界一わかりやすいillustrator、&Photoshop

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 孫田 敏 (非常勤講師)
実務経験： 林業や造園緑化会社、建設コンサルタント 会社を経て起業、代表取締役。

科目名： 植物学

履修形態： 必修
授業形態： 講義＋演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 植物に関する諸知識を、より実践に結びつけるため、育つ環境との関わりや植物の根の成長に必要な土壌や菌との関わり、具体的に植物が育てられる過程、植物の形はどうやって決まるか、さらに植物の名前はどうか名付けられてきたか、植物と文化、作品の表現等を知る。
- 到達目標： 植物が「生き物」であることを理解するとともに、植物を多様な視点から見つめ、取り扱う上での基礎知識を身につける。

■授業計画：

- 第1回 植物とは何か？〔生物・植物に関する定義の議論〕
- 第2回 植物はなぜ枯れるか？〔鉢植え・戸外の植物の生育不良観察〕
- 第3回 植物の形〔葉・茎・花などの植物器官の観察/矮性ヒマワリ栽培準備〕
- 第4回 植物の細部を見つめる(1)〔季節の植物の花などの観察と記録〕
- 第5回 植物の細部を見つめる(2)〔季節の植物の花などの観察と記録〕
- 第6回 さつぼろの植物について知る〔北大植物園見学〕
- 第7回 植物の分類〔似たもの同士を探す〕〔矮性ヒマワリの観察〕
- 第8回 植物の構造と働き(1)…根と茎〔矮性ヒマワリの観察〕
- 第9回 公園と植物〔大通公園花フェスタ見学〕
- 第10回 植物の構造と働き(2)…葉と花〔矮性ヒマワリの観察〕
- 第11回 植物が育つ基盤を知る〔土壌標本の触診と根系の観察〕
- 第12回 植物の名前〔レポートの書き方と課題〕
- 第13回 ヒトは花とどうつきあってきたか〔人間の文化と植物について調べスケッチ〕
- 第14回 植物が育てられる過程を知る〔苗畑見学〕
- 第15回 植物の一生〔果実と種子の観察〕

■教科書： パワーポイント・プリント(自製)・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：宮崎昭人（非常勤講師）
実務経験：Just English Press Ltd. 代表取締役。翻訳業務（観光・ビジネス・科学・法務分野等）、海外とのやり取り代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名：	英語
------	----

履修形態：必修
授業形態：講義
履修学年：1 年次
開講学期：前期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。
- 到達目標：英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | はじめに：仕事のシーンで間違った英語を使ってしまう感覚を磨く |
| 第2回 | 身の回りの英語：会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味 |
| 第3回 | 英会話基礎：日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ |
| 第4回 | 品詞の理解：辞書の使い方 |
| 第5回 | 品詞別重要ポイント①：名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方 |
| 第6回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第7回 | 品詞別重要ポイント②：動詞（be動詞、一般動詞）、助動詞の使い方 |
| 第8回 | スペルミス防止：作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例 |
| 第9回 | 品詞別重要ポイント④：接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方 |
| 第10回 | 翻訳：翻訳の種類（直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する） |
| 第11回 | 翻訳：自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得 |
| 第12回 | 自己紹介 |
| 第13回 | 口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン |
| 第14回 | 日常で使用する英語：住所表記、入国カード、日本食の英語表現 |
| 第15回 | まとめ |

■教科書：プリント配布

■参考書：辞書があれば望ましい

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：谷内 恵（非常勤講師）
実務経験：1級フラワーデザイナーNFD本部講師。1級フラワー装飾技能士。

科目名：	フラワーデザイン演習
------	------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：（公社）日本フラワーデザイナー協会〔NFD〕のデザイン理論に基づいて、フラワーの技術と知識の基礎を学び、季節の花やイベントに合わせデザインする
- 到達目標：花に関連する行事を理解し、植物をよく観察して形態や植生を考えたデザインが出来る技術と知識を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 秋の花束：枝物を入れたシュトラウス(花束) |
| 第2回 | バードケージアレンジメント：鳥かご風デザイン |
| 第3回 | 植生的：植物の自然の植生をイメージして、生えているかのように理想化する構成 |
| 第4回 | ハロウィンアレンジメント：ファーガスなどを使用したハロウィンのデザイン |
| 第5回 | ラウンドブーケ：ワイヤーテクニックにより円形に構成する花嫁の花束 |
| 第6回 | 巻きバラと冬のリース：リボンで巻きバラを作り、毛糸やアーティフィシャルフラワーと合わせて制作① |
| 第7回 | 巻きバラと冬のリース：リボンで巻きバラを作り、毛糸やアーティフィシャルフラワーと合わせて制作② |
| 第8回 | 進級制作について：進級制作のアレンジデザインを考える① |
| 第9回 | 進級制作について：進級制作のアレンジデザインを考える② |
| 第10回 | 進級制作について：進級制作のアレンジデザインを考える③ |
| 第11回 | クリスマスデザイン①：プラスチックダンボールをデコパージュし、アレンジベースを制作 |
| 第12回 | クリスマスデザイン②：前回制作したベースに、アーティフィシャルフラワーをアレンジ |
| 第13回 | 正月飾り：アーティフィシャルフラワーで制作する正月飾り |
| 第14回 | 大型デザインの制作補助：卒業制作活け込みのアシスタント作業、見学① |
| 第15回 | 大型デザインの制作補助：卒業制作活け込みのアシスタント作業、見学② |

■教科書：フラワーデザイナー資格検定試験テキスト

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: フラワーデザイン専攻
担当教員: 清水さくら (非常勤講師)
実務経験: 生花店チーフデザイナー。フローリスト。ハナトリウム主宰。北海道デザイン協議会会員。ジャパンカップ1位受賞、アジアカップ日本代表など

科目名 :	コーディネートⅠ
-------	----------

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 1 年次
開講学期: 後期
授業時数: 30 時間
単 位: 1 単位

■科目概要: 自然素材から着想を得てオンリーワンの表現を目指す。
 アレンジメントの基礎復習から応用技術を学ぶ

■到達目標: 自然素材の特徴を理解し、それをデザインに生かす発想ができるようになる。

■授業計画:

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | ステージの花:ディスプレイ |
| 第2回 | グリーンディスプレイ:色々なグリーンでアレンジする |
| 第3回 | 秋のブーケ:秋色の実や花でアレンジ① |
| 第4回 | 秋のブーケ:秋色の実や花でアレンジ② |
| 第5回 | 空間ディスプレイ:校内をデザイン① |
| 第6回 | 空間ディスプレイ:校内をデザイン② |
| 第7回 | DVD 花屋:フランスのフローリスト |
| 第8回 | フラワーコンテスト:ディスプレイと花束① |
| 第9回 | フラワーコンテスト:ディスプレイと花束② |
| 第10回 | クリスマスリース:リース制作① |
| 第11回 | クリスマスリース:リース制作② |
| 第12回 | 卒制アシスト① |
| 第13回 | 卒制アシスト② |
| 第14回 | 正月飾り:お正月飾り① しめ飾り |
| 第15回 | 正月飾り:お正月飾り② |

■教科書: 自作資料

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 柏葉弥生 (非常勤講師)
実務経験： 華道家元池坊師範 准華督

科目名： いけばな基礎演習

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

- 科目概要： 日本の伝統文化として伝えられているいけばなの原点である池坊の起源・基礎・応用環境・時代の変化にも対応してきた池坊の四季草木の美しさ、色彩、自然との関りを実技にて表現
- 到達目標： いけばなの基礎を習得すると共に理解を深める、授業終了時まで免許を取得する（初等科）

■授業計画：

- 第1回 講義 伝統文化としてのいけばな：「伝統」とは・・・いけばな池坊の発祥を略年表を使って講義 いけばなの由来、日本風土といけばなの出発点
- 第2回 校外学習：いけばな展 いけばな各流派の作品を鑑賞
- 第3回 いけばなの原点：講義：現代のいけばなとフラワーアレンジ
- 第4回 実技：教材・道具についての説明、自由花の道具について ハサミ・剣山・器他
テキストABC：自由花の特質：原型的なフォルムと基本形態
- 第5回 自由花 実技：発想について作品制作にあたり、明確な発想とインスピレーションを持つ
- 第6回 校外学習：いけばな展 鑑賞
- 第7回 実技 自由花：植物の美と季節の草木。自由花構成に関わる用語の説明。点・線・面・マッス
- 第8回 実技 自由花：植物の裏表、左右、上中下段。生花(しょうか)に関わる用語説明
- 第9回 実技 自由花：各自の自由発想で自由花作品制作と作品説明
- 第10回 実技 自由花：各自の自由発想で自由花作品制作と作品説明
- 第11回 実技 自由花：各自の自由発想で自由花作品制作と作品説明
- 第12回 生花正風体(しょうかしょうふうたい)：葉蘭を使って生花(しょうか)について説明
種類、用語、伝統的日本家屋における日本間と床の間。飾る際の注意点：陰陽について
- 第13回 実技 生花正風体：生花正風体 一種生 本勝手
- 第14回 実技 生花正風体：生花正風体 一種生(リアトリス)
- 第15回 講義 まとめ：いけばなの講義を受けた感想をレポート作成

■教科書： IKENOBO ABC、いけばな略年表

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 江尻 陽子 (非常勤講師)
実務経験： 生花店勤務、店内業務全般を担当

科目名： **フローラルアートⅠ**

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

- 科目概要： 様々な素材を使用し、フラワーアレンジとフラワーデザインの引き出しを増やす。
- 到達目標： 身近なものからも着想を得てデザインの可能性を広げ、フラワーアレンジに生かせるようになる。

■授業計画：

- 第1回 箱を使って空間を生かしたデザイン①: 木材で箱を制作し、アートフラワーなどを使い作品を制作。
- 第2回 箱を使って空間を生かしたデザイン②: 前回の続き。作品制作。
- 第3回 箱を使って空間を生かしたデザイン③: 前回の続き。完成。プレゼンと評論会。
- 第4回 リース制作①: 外に落ちている枝や葉を集め、リースを制作。
- 第5回 リース制作②: 前回の続き。
- 第6回 リース制作③: 前回の続き。作品完成。
- 第7回 花束用の器、ブーケアシスト制作①: 花束用のブーケアシスト、器を制作。デザインをおこす。
- 第8回 花束用の器、ブーケアシスト制作②: 前回の続き。作品制作。
- 第9回 花束用の器、ブーケアシスト制作③: 前回の続き。作品完成。プレゼンと評論会
- 第10回 オータムジャーポット制作①: 瓶の中に秋らしいものを入れて1つの作品にする。
- 第11回 オータムジャーポット制作②
- 第12回 オータムジャーポット制作③: 前回の続き。作品完成。
- 第13回 押し花フォトフレーム制作①: 押し花にした花びらを使い、作品制作。デザインをおこ
- 第14回 押し花フォトフレーム制作②: 前回の続き
- 第15回 押し花フォトフレーム制作③: 前回の続き。完成

■教科書： アートフラワー、制作に必要な素材

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：柳瀬 勇佑（非常勤講師）
実務経験：ブライダル業務、装花業務、店内業務全般を経験後フローリストとしてデザイナー担当。

科目名：	ディスプレイ演習Ⅱ
------	------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：設定されたコンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。
- 到達目標：パースの基本を学ぶ。デザインおこしの経験を、進級制作に繋げる
簡単なパースを描ける。空間装飾の役割を理解し、設定された共通テーマやコンセプトにそってデザインを起案し、空間を生かす作品を制作できる。

■授業計画：

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、導入：パースの基本1 |
| 第2回 | パースの基本2 |
| 第3回 | パースの基本3 |
| 第4回 | 模型製作1 |
| 第5回 | 模型製作2 |
| 第6回 | 模型製作3 |
| 第7回 | フラワーカフェのプレゼンテーション |
| 第8回 | フラワーカフェ(1SC教室の一角に制作すると仮定)使用花材、他材料を選定。 |
| 第9回 | フラワーカフェ制作 |
| 第10回 | フラワーカフェ 振り返り |
| 第11回 | 卓上アレンジメントのデザインおこし1 |
| 第12回 | 卓上アレンジメントのデザインおこし2 |
| 第13回 | 進級制作のデザインおこし1 |
| 第14回 | 進級制作のデザインおこし2 |
| 第15回 | 進級制作のデザインおこし3 |

■教科書：	フラワーデザイナーのためのハンドブック 増補改訂版 アレンジ花図鑑 花屋さんの花材がすべてわかる
-------	---

■参考書：

■成績評価：	出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
--------	------------------------------------

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 中村 晃 (非常勤講師)
実務経験： 生花店店舗業務全般経験後、ゼネラルマネージャーとして勤務。札幌カップ
ゴールド賞、デザイナーズウィークアレンジコンテスト優勝など

科目名：	クリエイティブワークⅠ
------	-------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 1 年次
開講学期： 後期
授業時数： 30 時間
単 位： 1 単位

■科目概要： 花の植生の基本知識を身につけさせ、素材を生かすデザインを学ばせる

■到達目標： 花の植生の基本知識をもとに素材を生かすデザインを生み出す姿勢を身につける

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | ギフト:基本(アレンジ) |
| 第2回 | ギフト:基本(花束) |
| 第3回 | ギフト:開店(アレンジ) |
| 第4回 | ギフト:フューネラル(アレンジ) |
| 第5回 | ギフト:花束色々なデザイン |
| 第6回 | ギフト:花束色々なデザイン |
| 第7回 | 生け込み:投げ入れ |
| 第8回 | 生け込み:投げ入れ2 |
| 第9回 | ディスプレイ1:アートフラワー(オブジェ) |
| 第10回 | ディスプレイ2:アートフラワー(オブジェ) |
| 第11回 | レッスン:フリーデザイン(アレンジ) |
| 第12回 | レッスン:フリーデザイン(ディスプレイ) |
| 第13回 | レッスン:フリーデザイン(ブーケ) |
| 第14回 | コンテスト アキラカップ |
| 第15回 | コンテスト アキラカップ2 |

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	販売実務
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：●店舗内における効果的なPOPやギフトラッピングの基本。その役割など
●自分の理想の花屋をブランディングする

■到達目標：①店舗内における効果的なPOPを理解し、実際に作成する ②
ロゴマーク作成や店舗のブランディングの流れを知り、店舗理解を深める

■授業計画：

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 理想の花屋を考える。店舗内広告の効果や役割 |
| 第2回 | 自分の理想の花屋をブランディングする① |
| 第3回 | 自分の理想の花屋をブランディングする② |
| 第4回 | 自分の理想の花屋をブランディングする③ |
| 第5回 | 自分の理想の花屋をブランディングする④ |
| 第6回 | 自分の理想の花屋をブランディングする⑤ |
| 第7回 | 店内販促POP① |
| 第8回 | 店内販促POP② |
| 第9回 | 店内販促POP③ |
| 第10回 | 店内販促POP④ |
| 第11回 | ギフトデザイン① |
| 第12回 | ギフトデザイン② |
| 第13回 | ギフトデザイン③ |
| 第14回 | ギフトデザイン④ |
| 第15回 | ギフトデザイン⑤ |

■教科書：自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：小泉 笑美子（非常勤講師）
実務経験：結婚式場アシスタント 経験後フリーアナウンサーとして活動、その後(株)エデュースを設立、代表取締役

科目名：

キャリアプランニング

履修形態：必修
授業形態：講義＋演習
履修学年：1 年次
開講学期：後期
授業時数：30 時間
単 位：1 単位

- 科目概要：ワークシートで接遇の基本を学び、ペアワークやグループワークを取り入れ知識にとどめず行動に表し、気づきを見出す。
- 到達目標：コミュニケーション＆マナーを位につけて、社会の第一線で活躍できる能力を身につける

■授業計画：

- 第1回 人の心を動かす声と言葉で挨拶：ノンバーバルコミュニケーションの確認（表情・態度・立ち振る舞い・言葉遣い）
- 第2回 声を作る（発音・滑舌チェック）・映像で自己チェック
- 第3回 心技体を表現：・第一印象と初頭効果・接客用語で挨拶
- 第4回 お辞儀の大切さ・笑顔トレーニング
- 第5回 身だしなみ
- 第6回 ビジネスマナー：・お客様対応を考える
- 第7回 言葉遣いと敬語・来客対応（ご案内・席次～お見送りまで）
- 第8回 物の指し示しと物の授受
- 第9回 顧客満足とプロのサービス：・接客プロセスを学ぶ・サービスに必要な「S」
- 第10回 トラブル対応の基本・話し方と聞き方・傾聴
- 第11回 電話対応のマナー：・電話の受け方と掛け方の基本（取次から不在時まで）
- 第12回 電話対応ロールプレイング（録音とフィードバック）
- 第13回 企業が求める人材とは
- 第14回 コミュニケーション能力と葉（企業は何を、どこを見るのか）
- 第15回 面接時のポイント・面接ロールプレイング

■教科書：内容に沿ってワークシート使用

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	デザイン基礎Ⅱ
------	---------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：●illustrator、Photoshopの基本操作を復習し、応用技術を学ぶ ●花の画像を用いたデジタルコラージュ作品を制作する。 ●コンペ出展作品を制作する。
- 到達目標：①illustrator、Photoshopの操作に慣れ、応用できるようになる。 ②デジタル画としてのフラワーデザインの感覚を養う ③コンペへの作品制作によってコンセプトメイクを大切にする姿勢を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 基本操作の復習、デジタルコラージュの鑑賞 |
| 第2回 | 素材研究：ダンボールアート① |
| 第3回 | 素材研究：ダンボールアート② |
| 第4回 | 素材研究：ダンボールアート③ |
| 第5回 | 素材研究：ダンボールアート④ |
| 第6回 | 素材研究：ワイヤーアート① |
| 第7回 | 素材研究：ワイヤーアート② |
| 第8回 | 素材研究：ワイヤーアート③ |
| 第9回 | 素材研究：ワイヤーアート① |
| 第10回 | 花のデフォルメイラスト① |
| 第11回 | 花のデフォルメイラスト② |
| 第12回 | 花のデフォルメイラスト③ |
| 第13回 | ポストカードデザイン① |
| 第14回 | ポストカードデザイン② |
| 第15回 | ポストカードデザイン③ |

■教科書：自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	DTP演習
------	--------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：1年次
開講学期：後期
授業時数：30時間
単 位：1単位

■科目概要：文字の扱いとバランス、レイアウトが持つ意味を理解させ、意図を感じるものづくりの意識の定着を図る。魅力的なポートフォリオとは何か。

■到達目標：①伝えるべき情報の優先順位を的確にとらえ、自由な発想でデザインを作ることができる。②文字組など細部にまで気を使えるようになる③illustrator、Photoshop検定3級合格を目指す

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 魅力的なポートフォリオを考える |
| 第2回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード① |
| 第3回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード② |
| 第4回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード③ |
| 第5回 | 好きなフローリスト、アーティストの紹介ボード④ |
| 第6回 | ポートフォリオの作成① |
| 第7回 | ポートフォリオの作成② |
| 第8回 | ポートフォリオの作成③ |
| 第9回 | ポートフォリオの作成④ |
| 第10回 | illustrator、Photoshop検定問題① |
| 第11回 | illustrator、Photoshop検定問題② |
| 第12回 | illustrator、Photoshop検定問題③ |
| 第13回 | illustrator、Photoshop検定問題④ |
| 第14回 | illustrator、Photoshop検定問題⑤ |
| 第15回 | illustrator、Photoshop検定問題⑥ |

■教科書：プロジェクターの投影中心、世界一わかりやすいillustrator、&Photoshop

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：谷内 恵（非常勤講師）
実務経験：1級フラワーデザイナーNFD本部講師。1級フラワー装飾技能士。

科目名： **フラワーデザイン演習Ⅱ**

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：（公社）日本フラワーデザイナー協会〔NFD〕のデザイン理論に基づいて、基礎の上に十分な技術と知識を学び、季節の花やグリーンなどをデザインする

■到達目標：植物形態を理解し、植生やテクスチュアを考えたデザインが出来るテクニックと知識を身につける

■授業計画：

- 第1回 並行-植生的：垂直な並行配置によって植生（自然感）を表現する構成
- 第2回 バッグブーケ①：プラスチックダンボールをデコパージュし、ベースとなるハンドバッグ型を制作
- 第3回 バッグブーケ②：前回制作したバッグ型に、アーティフィシャルフラワーを使ったブーケ
- 第4回 ホリゾンタルアレンジメント：水平形に構成する360度展開のアレンジメント
- 第5回 構造的（テクスチュア）：植物の材質感の違いによって表面構造を表現する構成
- 第6回 メリアブーケ：ワイヤテクニックで作るローズメリアブーケ
- 第7回 水平の花束：水平に構成した土台を用いて、水平に束ねる花束
- 第8回 絵のような：植物素材によって絵を描くように表現する構成
- 第9回 ほぐれた装飾的花束：ゆるやかにほぐれた装飾的な花束
- 第10回 交差：植物素材の交差によって空間を表現する構成
- 第11回 ドームアレンジメント：半円球体に構成する360度展開のアレンジメント
- 第12回 キャスケードブーケ：ブーケホルダーを用いて小さな滝のような懸垂形にまとめたブーケ
- 第13回 自然的：植生の異なる植物素材のキャラクターをいかして自然な感じを表現する構成
- 第14回 非対称形のブーケ：ブーケホルダーを用いて非対称形に構成する花嫁の花束
- 第15回 枝物のデザイン：枝物を用いて構成するアレンジメント

■教科書：フラワーデザイナー資格検定試験テキスト

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：清水 さくら（非常勤講師）
実務経験：生花店チーフデザイナー。フローリスト。ハナトリウム主宰。北海道デザイン協議会会員。ジャパンカップ1位受賞、アジアカップ日本代表など

科目名	：	コーディネートⅡ
-----	---	----------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

- 科目概要：様々な自然素材から着想を得て、フラワーアレンジに生かす。コンテストやフラワーディスプレイに挑戦する
- 到達目標：自然素材から発想するデザイン力を培い、コンテストに挑戦する姿勢を養う

■授業計画：

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 春のデザイン：春らしく桜の枝でアレンジする |
| 第2回 | 植物と野菜：花と野菜の提案 |
| 第3回 | 母の日ギフト：BOXギフト 好きな色を選ぶ |
| 第4回 | スワッグ（壁の花）：ドライになる花材で花束を作る |
| 第5回 | 父の日ギフト：プレゼントと花束 |
| 第6回 | ブライダル：グループデザイン 空間ディスプレイ |
| 第7回 | ブライダルブーケ：ナチュラルブーケ |
| 第8回 | キャンドルアレンジ：テーブル飾り |
| 第9回 | リースブーケ：リング状にデザインしたブーケ |
| 第10回 | フラワーコンテスト：びっくり箱で花材をテーマに合わせてデザンする |
| 第11回 | 美術館見学 |
| 第12回 | 植物一種類：1種の花でデザインする |
| 第13回 | 器を植物で作る：造形デザイン |
| 第14回 | 秋のディスプレイ：校内アレンジをする |
| 第15回 | 卒制デザイン：卒制のデザインを考える |

■教科書：自作資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 環境デザイン学科
 対象専攻： フラワーデザイン専攻
 担当教員： 柏葉 弥生 (非常勤講師)
 実務経験： 華道家元池坊師範 准華督

科目名： いけばな演習

履修形態： 必修
 授業形態： 演習
 履修学年： 2 年次
 開講学期： 前期
 授業時数： 60 時間
 単 位： 2 単位

- 科目概要： 日本の伝統文化として伝えられているいけばなの原点である池坊の起源・基礎・応用。住環境・時代の変化にも対応してきた池坊の四季草木の美しさ、色彩、自然との関りを実技にて表現
- 到達目標： 授業終了時まで免許取得（中等科）
 インターネット花展への応募

■授業計画：

- 第1回 講義 伝統文化としてのいけばな：「伝統」とは・・・いけばな池坊の発祥を略年表を使って講義 いけばなの由来、日本風土といけばなの出発点 実技：自由花
- 第2回 校外学習：北海道いけばな百人展 いけばな各流派の作品を鑑賞
- 第3回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第4回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第5回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第6回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第7回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第8回 実技 自由花：池坊花展に向けて
- 第9回 講義 及び実技 自由花 インターネット花展へ向けて：季節を意識した花材と花器との構成 自由花の構成要素・用語の復習 線・点・面・マツス 池坊インターネット花展について
- 第10回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：線を主にした作品制作とまとめ、写真撮影 直線・曲線・折れ線
- 第11回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：点を主にした作品制作とまとめ、写真撮影
- 第12回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：面を主にした作品制作とまとめ、写真撮影
- 第13回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：各自の自由発想で自由花作品制作とまとめ、写真撮影 立体表現（空間）
- 第14回 実技 自由花 池坊インターネット花展へ向けて：各自の自由発想で自由花作品制作とまとめ、写真撮影 空間について（奥行）
- 第15回 実技 自由花「遊心」、各自の自由発想で自由花作品制作とまとめ。写真撮影

■教科書： いけばな略年表、テキスト「IKENOBO ABC」
 器・剣山・ハサミ・給水性スポンジ、ワイヤーなど

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：柳瀬 勇佑（非常勤講師）
実務経験：ブライダル業務、装花業務、店内業務全般を経験後フローリストとしてデザイナー担当。

科目名：	スペースデザイン演習
------	-------------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：コンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。パースの基本を学ぶ。

■到達目標：簡単なパースを描ける。空間装飾の役割を理解し、共通テーマやコンセプトにそってデザインを起案し、空間を生かす作品を制作できる。

■授業計画：

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション:空間装飾の役割、バリエーションの紹介
「街の気になる空間装飾」レポートシートを配布し説明、次回までの課題とする。 |
| 第2回 | レポート発表後、講評、意見交換、提出 |
| 第3回 | スポーツ大会の会場装飾1:2チーム(身につけるアイテムの制作チーム、会場装飾物の制作チーム)ごとにデザインを決める。 |
| 第4回 | スポーツ大会の会場装飾2:チームごとに、生花以外の材料から、使用材料を選定する。 |
| 第5回 | スポーツ大会の会場装飾3:チームごとに制作する。 |
| 第6回 | 共通テーマにそった壁面装飾のプランニング1:パースの基本を説明。教室前廊下の壁面装飾を考える。個人でデザイン画(パース)を描く。 |
| 第7回 | 共通テーマにそった壁面装飾のプランニング2:前回書いたデザイン画の講評、意見交換。 |
| 第8回 | 共通テーマにそった壁面装飾のプランニング3:全体の共通テーマとデザインを選定し、使用材料を決める。 |
| 第9回 | 共通テーマにそった壁面装飾の制作1:花材の選定とその他材料の準備 |
| 第10回 | 共通テーマにそった壁面装飾制作2:教室前廊下の壁面装飾 制作 |
| 第11回 | ダリア展制作1:ダリア展の概要、日程説明 共通テーマと分担(チーム)を決める |
| 第12回 | ダリア展制作2:チームごとに担当する場所の写真と位置図を見て、共通テーマにそって、ディスプレイのデザインを考える。 |
| 第13回 | ダリア展制作3:チームごとに担当する場所の使用花材、使用資材を選定する。各チームリーダーで協議し、会場全体のディスプレイを決定する。 |
| 第14回 | ダリア展制作4:ダリア展作品の土台制作1 |
| 第15回 | ダリア展制作5:ダリア展作品の土台制作2 |

■教科書：フラワーデザイナーのためのハンドブック増補改訂版
アレンジ花図鑑 花屋さんの花材がすべてわかる

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：中村 晃（非常勤講師）
実務経験：生花店店舗業務全般経験後、ゼネラルマネージャーとして勤務。札幌カップ
ゴールド賞、デザイナーズウィークアレンジコンテスト優勝など

科目名：	クリエイティブワークⅡ
------	-------------

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要：花の植生の基本知識を身につけさせ、素材を生かすデザインを学ばせる。常にトレンドのデザインを意識し、実践する。

■到達目標：花の植生の基本知識をもとに素材を生かすデザインを生み出す姿勢を身につける。トレンドのデザインを知り、常にアンテナを張る姿勢を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | ギフト：花束とBOXフラワー（花束アレンジ） |
| 第2回 | ギフト：スタイリッシュアレンジ（アレンジ） |
| 第3回 | ギフト：カーネーションを使ったデザイン（母の日） |
| 第4回 | ギフト：枝のアレンジ（アレンジ） |
| 第5回 | ギフト：バラのデザイン |
| 第6回 | いけばな：シャクヤクの立ち姿 |
| 第7回 | 花の仕事：自分で選ぶ花材1（アレンジ） |
| 第8回 | 花の仕事：ウェディングゲストテーブル（アレンジ） |
| 第9回 | 花の仕事：ウェディングブーケ（花束） |
| 第10回 | ギフト：花束ラッピング（花束） |
| 第11回 | ギフト：葉物ラッピング（花束） |
| 第12回 | 花の仕事：花色レッスン（アレンジ） |
| 第13回 | ギフト：シンプルデザイン（アレンジ） |
| 第14回 | 花の仕事：自分で選ぶ花材2（アレンジ） |
| 第15回 | 花の仕事：ディスプレイ投げ入れ（アレンジ） |

■教科書：自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: フラワーデザイン専攻
担当教員: 江尻 陽子 (非常勤講師)
実務経験: 生花店勤務、店内業務全般を担当

科目名 :	フローラルアートⅡ
-------	-----------

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: 2 年次
開講学期: 前期
授業時数: 60 時間
単 位: 2 単位

- 科目概要:** 身近にある様々な素材を使用し、フラワーアレンジメントに生かしデザインの引き出しを増やす。
- 到達目標:** 様々な素材から着想を得てデザインの可能性を広げ、フラワーアレンジメントに生かす能力を養う。

■授業計画:

- | | |
|------|---|
| 第1回 | コサージュ、アレンジ制作①:プリザーブドフラワーを使ってコサージュやアレンジメント制作。 |
| 第2回 | コサージュ、アレンジ制作②: 前回の続き。 |
| 第3回 | 寄せ植え①:各自テーマや使用する材料、植物の選定、デザインをおこす。 |
| 第4回 | 寄せ植え②: 前回の続き。事前に準備できるものはする。 |
| 第5回 | 寄せ植え③: 前回の続き。実際にデザイン画を元に植物を植える。 |
| 第6回 | フォトフレームを使ってデザイン①: 木材でフォトフレームを2～3個制作。 |
| 第7回 | 2～3個を繋げ、1つのデザインにする
フォトフレームを使ってデザイン②: 前回の続き。作品完成。 |
| 第8回 | コサージュ制作:花壇の花を使ってコサージュを制作。 |
| 第9回 | サマージャーポット①: 瓶の中に夏らしいものを入れて1つの作品にする。素材あつめ |
| 第10回 | サマージャーポット②: 前回の続き。作品完成。 |
| 第11回 | 造花のカーペットを使った作品作り①: 造花のカーペットを使ってアートフラワーなどを使用し、作品制作。 |
| 第12回 | 造花のカーペットを使った作品作り②: 前回の続き。作品完成。プレゼンと評論会 |
| 第13回 | 学校祭に向けて①: 1、2年合同で学校祭に向けて商品提案とディスプレイ提案 |
| 第14回 | 学校祭に向けて②: 前回の続き。事前に準備できるものは制作。 |
| 第15回 | 学校祭に向けて③: 前回の続き。 |

■教科書: アートフラワー、プリザーブドフラワー、制作に必要な素材

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 中嶋 ゆうき (非常勤講師)
実務経験： 生花小売・生花業、ブライダルフラワー業マネージャー

科目名：	ブライダルフラワー
------	-----------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2 年次
開講学期： 前期
授業時数： 60 時間
単 位： 2 単位

■科目概要： 結婚式における花の基本知識を身につけさせ、必要なデザインを学ぶ。流行りのデザインを知り、実践する。

■到達目標： 結婚式における花の基本知識をもとに必要な商品を生み出す姿勢を身につける。トレンドを意識しデザインする能力を養う。

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | ブライダルフラワーとは
今年のトレンド |
| 第2回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第3回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第4回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第5回 | 新郎新婦へ商品提案 イメージ資料作成 |
| 第6回 | 前回をもとに商品制作(生花)
終了後プレゼンテーション |
| 第7回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第8回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第9回 | トレンドアイテム制作 ドライ、造花使用 |
| 第10回 | 会場装飾について |
| 第11回 | 店舗業務における基本知識 |
| 第12回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク① |
| 第13回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク② |
| 第14回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク③ |
| 第15回 | ウェディングフラワーアレンジメントの提案グループワーク④ |

■教科書： 自作プリント・資料など

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：横山 仁（非常勤講師）
実務経験：生花店代表取締役。フラワー装飾技能士熟練技能者。

科目名： **フラワービジネス**

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2 年次
開講学期：前期
授業時数：60 時間
単 位：2 単位

■科目概要：生花業界の仕組み、あり方、生花の流通、フローリストとしての心構え、生花店の仕事など、全般的に学ぶ。

■到達目標：フローリストとして必要なフラワービジネスの知識を身につけている。

■授業計画：

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 生花業界について：生花業界について、関連組織について |
| 第2回 | 生産と流通：生産、流通、販売について花の扱い方、手入れ、分類、種類、性質について |
| 第3回 | 生産と流通：生産と流通、販売について |
| 第4回 | 生産と流通：生産と流通、販売について 花屋の分類 |
| 第5回 | 生産と流通：花屋の分類と仕事 |
| 第6回 | 人材としての心構え1：フローリストとしての考え方と心構え |
| 第7回 | 生花店の仕事について：生花店の仕事について 常識とは、接客について、電話対応について |
| 第8回 | 生花店の仕事について：生花店の仕事について 常識とは、接客について、電話対応について |
| 第9回 | 商品と作品の違い：商品と作品の違い、花の扱い方 |
| 第10回 | 商品と作品の違い：商品と作品の違い、花の扱い方 |
| 第11回 | フラワーデザインの知識・安全について：フラワーデザインの知識・安全についての確認1 |
| 第12回 | フラワーデザインの知識・安全について：フラワーデザインの知識・安全についての確認2 |
| 第13回 | スタンド装花の制作：葬儀スタンド制作 |
| 第14回 | 市場見学：市場見学、市場内容説明会 |
| 第15回 | 市場見学振り返り：市場見学のレポート作成 |

■教科書：自作プリント

■参考書：

■成績評価：出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：造形演習

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：60時間
単 位：2単位

■科目概要： ●コンペティションへ向けた作品制作によって創造性を高める。 ●ランドアート、アースアートの鑑賞

■到達目標： ①就職活動の際に使える作品集を制作する。
②コンペへの作品制作におけるコンセプトメイクを大切にする姿勢を養う。③
現代アートの作品に触れ、卒業制作のインスピレーションを高める。④
illustrator、Photoshop検定3級合格を目指す

■授業計画：

- 第1回 ランドアート、アースアートの鑑賞
- 第2回 ランドアート制作①
- 第3回 ランドアート制作②
- 第4回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー①
- 第5回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー②
- 第6回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー③ 一輪挿し
- 第7回 素材研究：ディップ液を使ったワイヤーフラワー④ 一輪挿し
- 第8回 デザインを意識した写真撮影
- 第9回 作品の画像編集、加工とは
- 第10回 コンペティションデザイン①
- 第11回 コンペティションデザイン②
- 第12回 コンペティションデザイン③
- 第13回 コンペティションデザイン④
- 第14回 illustrator、Photoshop検定問題①
- 第15回 illustrator、Photoshop検定問題②

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点

対象学科：環境デザイン学科
対象専攻：フラワーデザイン専攻
担当教員：山間 香綾（専任教員）
実務経験：店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：

プレゼンテーションⅠ

履修形態：必修
授業形態：演習
履修学年：2年次
開講学期：前期
授業時数：30時間
単 位：1単位

- 科目概要：
- デザインとは何か、コンセプトとは何か。
 - illustratorとPhotoshopの基本操作の指導と撮影によるデザイン制作の実践。
 - 文字の扱いとバランス、レイアウトが持つ意味を理解させ、意図を感じるものづくりの意識の定着。
 - 提出の際にはプレゼンを行い、考え方を相手にしっかりと伝わるよう訓練する。
- 到達目標：
- ①伝えるべき情報の優先順位を的確にとらえ、自由な発想でデザインを作ることが出来る。
 - ②文字組など細部にまで気を使えるようになる。現場で役立つ基本スキルを身につける。
 - ③プレゼンに慣れ、伝わりやすい話し方を考えられるようになる。

■授業計画：

- 第1回 DTPとは、その効果と重要性
- 第2回 分かりやすいプレゼンとは
- 第3回 魅力的なポートフォリオを考える
- 第4回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作①
- 第5回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作②
- 第6回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作③
- 第7回 Photoshopによる写真加工、illustratorによる作品集の制作④
- 第8回 より良いポートフォリオにするためには
- 第9回 プレゼンテーション練習
- 第10回 グループワーク：プレゼンテーション①
- 第11回 グループワーク：プレゼンテーション②
- 第12回 グループワーク：プレゼンテーション③
- 第13回 グループワーク：プレゼンテーション④
- 第14回 グループディスカッション①
- 第15回 グループディスカッション②

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

対象学科： 環境デザイン学科
対象専攻： フラワーデザイン専攻
担当教員： 山間 香綾 (専任教員)
実務経験： 店舗接客業、オーダーデザイン業務のアートディレクションからデザイン制作、DTP作成等を担当。

科目名：	プレゼンテーションⅡ
------	-------------------

履修形態： 必修
授業形態： 演習
履修学年： 2年次
開講学期： 後期
授業時数： 60時間
単 位： 2単位

■科目概要： ●illustrator、Photoshopを用いてプレゼンテーションボードの作成をする。
●PowerPointを用いて作品の効果的なプレゼンを考える

■到達目標： ①卒業制作を引き立て、より完成度を高める効果のあるボードを作成する。
②PowerPointによるプレゼンテーションを身につける

■授業計画：

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | プレゼンボードの役割とデザイン |
| 第2回 | 販売イベントのプレゼンテーション① |
| 第3回 | 販売イベントのプレゼンテーション② |
| 第4回 | 販売イベントのプレゼンテーション③ |
| 第5回 | 販売イベントのプレゼンテーション④ |
| 第6回 | ラフスケッチやデザインを効果的に使う方法 |
| 第7回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成① |
| 第8回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成② |
| 第9回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成③ |
| 第10回 | デザインコンセプトにあったプレゼンボードの作成④ |
| 第11回 | プレゼン用資料作成① |
| 第12回 | プレゼン用資料作成② |
| 第13回 | プレゼン用資料作成③ |
| 第14回 | 発表用原稿、資料作成 |
| 第15回 | プレゼン発表練習、講評 |

■教科書： 自作プリント・資料

■参考書：

■成績評価： 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目：

■履修上の留意点：

貸借対照表

令和 2年 3月31日現在

法人名：学校法人 美専学園

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	4,366,861,866	4,431,317,506	-64,455,640
有形固定資産	3,465,316,222	3,446,296,442	19,019,780
土地	1,608,819,451	1,608,819,451	0
建物	1,678,414,182	1,655,296,788	23,117,394
構築物	16,781,541	19,035,147	-2,253,606
教育研究用機器備品	97,186,312	99,997,751	-2,811,439
図書	64,114,736	63,147,305	967,431
特定資産	890,836,619	947,283,258	-56,446,639
退職給与引当特定資産	70,836,619	27,283,258	43,553,361
施設拡充引当特定資産	700,000,000	800,000,000	-100,000,000
設備関係維持特定資産	120,000,000	120,000,000	0
その他の固定資産	10,709,025	37,737,806	-27,028,781
電話加入権	699,025	699,025	0
有価証券	10,000,000	10,000,000	0
保険積立金	10,000	26,998,781	-26,988,781
保証金	0	10,000	-10,000
敷金	0	30,000	-30,000
流動資産	1,082,750,143	854,192,719	228,557,424
現金預金	1,031,184,978	840,225,599	190,959,379
未収入金	37,735,000	123,800	37,611,200
前払金	6,670,000	7,678,796	-1,008,796
仮払金	35,040	17,200	17,840
貯蔵品	7,125,125	6,147,324	977,801
資産の部合計	5,449,612,009	5,285,510,225	164,101,784
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	23,016,450	76,461,805	-53,445,355
退職給与引当金	23,016,450	76,461,805	-53,445,355
流動負債	618,036,904	346,326,369	271,710,535
未払金	299,354,280	41,518,736	257,835,544
前受金	316,638,500	302,810,000	13,828,500
預り金	2,044,124	1,997,633	46,491
負債の部合計	641,053,354	422,788,174	218,265,180
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	4,851,799,209	4,748,648,637	103,150,572
第1号基本金	4,790,799,209	4,687,648,637	103,150,572
第4号基本金	61,000,000	61,000,000	0
繰越収支差額	-43,240,554	114,073,414	-157,313,968
翌年度繰越収支差額	-43,240,554	114,073,414	-157,313,968
純資産の部合計	4,808,558,655	4,862,722,051	-54,163,396
負債及び純資産の部合計	5,449,612,009	5,285,510,225	164,101,784

 は運用資産
 は外部負債

事業活動収支計算書

平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月31日まで

法人名：学校法人 美専学園

(単位 円)

教 育 活 動 収 入	事 業 活 動 部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	835,539,000	835,539,000	0
		授業料	581,555,000	581,555,000	0
		入学金	65,140,000	65,140,000	0
		施設設備資金	123,242,000	123,242,000	0
		その他納付金	65,602,000	65,602,000	0
		手数料	9,409,000	9,411,100	-2100
		入学検定料	7,830,000	7,830,000	0
		試験料	1,282,000	1,282,000	0
		証明手数料	297,000	299,100	-2100
		寄付金	1,582,000	1,584,300	-2300
		一般寄付金	1,582,000	1,584,300	-2300
		経常費等補助金	54,497,000	54,499,504	-2,504
		地方公共団体補助金	54,497,000	54,499,504	-2,504
		付随事業収入	0	0	0
		雑収入	6,047,000	6,052,876	-5,876
		施設設備利用料	775,000	779,500	-4500
		その他の雑収入	5,272,000	5,273,376	-1,376
		教育活動収入計	907,074,000	907,086,780	-12,780
活 動 支 出	事 業 活 動 部	科目	予算	決算	差異
		人件費	614,525,730	614,517,677	8,053
		教員人件費	338,401,000	338,397,617	3,383
		職員人件費	51,850,000	51,845,805	4,195
		役員報酬	14,620,000	14,620,000	0
		退職給与引当金繰入額	52,446,745	52,446,745	0
		退職金	995,485	995,010	475
		役員退職金	156,212,500	156,212,500	0
		教育研究経費	247,322,000	247,274,218	47,782
		消耗品費	8,858,000	8,855,696	2,304
		光熱水費	28,214,000	28,212,550	1,450
		旅費交通費	3,101,000	3,099,018	1,982
		奨学費	11,199,000	11,198,300	700
		車両燃料費	251,000	248,808	2,192
		福利厚生費	24,000	24,000	0
		通信運搬費	3,787,000	3,783,853	3,147
		印刷製本費	4,464,000	4,461,468	2,532
		出版物費	1,485,000	1,481,747	3,253
		修繕費	22,561,000	22,558,657	2,343
		損害保険料	2,007,000	2,003,790	3,210
		賃借料	1,180,000	1,177,908	2,092
		諸会費	1,567,000	1,562,800	4,200
		渉外会議費	437,000	435,738	1,262
		報酬委託手数料	10,943,000	10,940,728	2,272
		教材費	24,320,000	24,317,729	2,271
		行事費	5,965,000	5,962,995	2,005
		減価償却額	86,657,000	86,654,368	2,632
		雑費	1,344,000	1,341,850	2,150
		保健衛生費	11,625,000	11,621,486	3,514
		研修研究費	138,000	138,000	0
		実習費	17,195,000	17,192,729	2,271

教 育 活 動 収 支	事 業 活 動 支 出 の 部	科目	予算	決算	差異
		管理経費	111,450,500	110,420,913	1,029,587
		消耗品費	694,000	690,441	3,559
		光熱水費	2,680,000	2,676,950	3,050
		旅費交通費	3,951,000	3,947,441	3,559
		車両燃料費	694,000	691,627	2,373
		福利厚生費	777,000	773,998	3,002
		通信運搬費費	2,992,000	2,989,876	2,124
		印刷製本費	912,000	908,500	3,500
		出版物費	17,000	15,580	1420
		修繕費	266,000	264,308	1,692
		損害保険料	415,000	411,075	3,925
		賃借料	2,304,000	2,301,832	2,168
		公租公課	3,000	2,500	500
		諸会費	130,500	130,200	300
		渉外会議費	154,000	153,408	592
		報酬委託手数料	3,959,000	3,956,009	2,991
		減価償却費	9,732,000	9,728,810	3,190
		雑費	361,000	357,228	3,772
		広報費	80,433,000	79,449,473	983,527
		保健衛生費	938,000	935,517	2,483
		研修研究費	38,000	36,140	1,860
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	973,298,230	972,212,808	1,085,422
		教育活動収支差額		-66,224,230	-65,126,028
教 育 活 動 外 収 支	収 入 業 の 活 動 部 動	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	11,151,000	11,151,179	-179
		その他の受取利息・配当金	11,151,000	11,151,179	-179
		教育活動外収入計	11,151,000	11,151,179	-179
	支 出 業 の 活 動 部 動	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	11,151,000	11,151,179	-179
経常収支差額		-55,073,230	-53,974,849	-1,098,381	
特 別 収 支	収 入 業 の 活 動 部 動	科目	予算	決算	差異
		その他の特別収入	44,000	44,278	-278
		現物寄付	44,000	44,278	-278
		特別収入計	44,000	44,278	-278
	支 出 業 の 活 動 部 動	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	234,000	232,825	1175
		備品処分差額	1,000	38	962
		図書処分差額	233,000	232,787	213
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	234,000	232,825	1175
		特別収支差額	-190,000	-188,547	-1453
	〔予備費〕		0	0	0
基本金組入前当年度収支差額		-55,263,230	-54,163,396	-1,099,834	
基本金組入額合計		-103,345,000	-103,150,572	-194,428	
当年度収支差額		-158,608,230	-157,313,968	-1,294,262	
前年度繰越収支差額		114,073,414	114,073,414	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		-44,534,816	-43,240,554	-1,294,262	
(参考)					
事業活動収入計		918,269,000	918,282,237	-13,237	
事業活動支出計		973,532,230	972,445,633	1,086,597	

事業活動収支計算書

平成30年 4月 1日から
平成31年 3月31日まで

法人名：学校法人 美専学園

(単位 円)

教 育 部	事 業 活 動 収 入 の 部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	826,519,000	826,519,000	0
		授業料	576,476,000	576,476,000	0
		入学金	64,410,000	64,410,000	0
		施設設備資金	117,930,000	117,930,000	0
		その他納付金	67,703,000	67,703,000	0
		手数料	10,223,000	10,222,800	200
		入学検定料	8,365,000	8,365,000	0
		試験料	1,540,000	1,540,000	0
		証明手数料	318,000	317,800	200
		寄付金	1,772,000	1,772,000	0
		一般寄付金	1,772,000	1,772,000	0
		経常費等補助金	16,629,000	16,619,732	9,268
		地方公共団体補助金	16,629,000	16,619,732	9,268
		付随事業収入	0	0	0
		雑収入	9,955,000	9,953,349	1,651
		施設設備利用料	711,000	711,000	0
		その他の雑収入	9,244,000	9,242,349	1,651
		教育活動収入計	865,098,000	865,086,881	11,119
活 動 支	事 業 活 動 支	科目	予算	決算	差異
		人件費	398,761,000	398,720,349	40,651
		教員人件費	334,574,000	334,564,392	9,608
		職員人件費	50,208,000	50,199,742	8,258
		役員報酬	10,805,000	10,805,000	0
		退職給与引当金繰入額	2,486,000	2,464,855	21,145
		退職金	688,000	686,360	1,640
		教育研究経費	251,000,000	250,944,850	55,150
		消耗品費	5,618,000	5,614,393	3,607
		光熱水費	30,725,000	30,722,977	2,023
		旅費交通費	3,866,000	3,863,905	2,095
		奨学費	16,107,000	16,106,200	800
		車両燃料費	393,000	390,310	2,690
		福利厚生費	21,000	21,000	0
		通信運搬費	3,596,000	3,593,944	2,056
		印刷製本費	4,306,000	4,303,539	2,461
		出版物費	1,219,000	1,216,234	2,766
		修繕費	2,701,000	2,698,885	2,115
		損害保険料	1,895,000	1,892,200	2,800
		賃借料	1,143,000	1,141,088	1,912
		公租公課	30,000	30,000	0
		諸会費	1,691,000	1,688,000	3,000
		渉外会議費	827,000	824,143	2,857
		報酬委託手数料	10,582,000	10,578,759	3,241
		教材費	31,648,000	31,642,741	5,259
		行事費	8,446,000	8,442,557	3,443
		減価償却額	96,188,000	96,185,248	2,752
		雑費	1,285,000	1,282,920	2,080
		保健衛生費	11,342,000	11,340,538	1,462
		研修研究費	206,000	204,500	1,500
		実習費	17,165,000	17,160,769	4,231
		管理経費	113,250,530	113,196,139	54,391

収 <
--

事業活動収支計算書

平成29年 4月 1日から
平成30年 3月31日まで

(単位：円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	867,491,000	867,491,000	0
		授業料	599,156,000	599,156,000	0
		入学金	72,790,000	72,790,000	0
		施設設備資金	121,070,000	121,070,000	0
		その他納付金	74,475,000	74,475,000	0
		手数料	9,457,000	9,457,900	△ 900
		入学検定料	7,945,000	7,945,000	0
		試験料	1,243,000	1,243,500	△ 500
		証明手数料	269,000	269,400	△ 400
		寄付金	2,815,000	2,815,163	△ 163
		一般寄付金	1,461,000	1,461,000	0
		現物寄付	1,354,000	1,354,163	△ 163
		経常費等補助金	17,060,000	17,060,157	△ 157
		国庫補助金	0	0	0
		地方公共団体補助金	17,060,000	17,060,157	△ 157
		付随事業収入	0	0	0
		雑収入	5,854,000	5,854,506	△ 506
		施設設備利用料収入	644,000	644,000	0
		その他の雑収入	5,210,000	5,210,506	△ 506
		教育活動収入計	902,677,000	902,678,726	△ 1,726
教育活動収支	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	409,234,000	409,205,975	28,025
		教員人件費	339,060,000	339,039,580	20,420
		職員人件費	51,856,000	51,849,815	6,185
		役員報酬	12,540,000	12,540,000	0
		退職金	1,298,000	1,297,520	480
		退職給与引当金繰入額	4,480,000	4,479,060	940
		教育研究経費	262,403,000	262,318,451	84,549
		消耗品費	4,242,000	4,239,889	2,111
		光熱水費	28,995,000	28,989,437	5,563
		旅費交通費	4,041,000	4,034,333	6,667
		奨学費	16,500,000	16,500,000	0
		車両燃料費	305,000	302,530	2,470
		福利厚生費	20,000	20,000	0
		通信運搬費	3,842,000	3,837,302	4,698
		印刷製本費	5,461,000	5,459,520	1,480
		出版物費	1,405,000	1,403,731	1,269
		修繕費	4,016,000	4,013,336	2,664
		損害保険料	1,977,000	1,973,860	3,140
		賃借料	1,453,000	1,450,228	2,772
		諸会費	1,616,000	1,613,400	2,600
		渉外・会議費	912,000	909,851	2,149
		報酬・手数料	9,727,000	9,724,703	2,297
		教材費	36,860,000	36,855,167	4,833
		行事費	8,736,000	8,734,568	1,432
		保健衛生費	11,202,000	11,199,048	2,952
		研修・研究費	505,000	504,877	123
		実習費	17,777,000	17,774,289	2,711
		雑費	1,081,000	1,076,440	4,560
		減価償却額	101,730,000	101,701,942	28,058
		管理経費	114,794,000	114,524,175	269,825
		消耗品費	1,830,000	1,826,197	3,803
		光熱水費	2,849,000	2,845,667	3,333
		旅費交通費	4,020,000	4,015,464	4,536
		車両燃料費	668,000	656,119	11,881
		福利厚生費	903,000	902,635	365
		通信運搬費	3,278,000	3,274,777	3,223

		印刷製本費	936,000	933,373	2,627	
		出版物費	11,000	10,610	390	
		修繕費	538,000	535,475	2,525	
		損害保険料	534,000	531,400	2,600	
		賃借料	2,040,000	2,037,202	2,798	
		公租・公課	5,000	3,360	1,640	
		諸会費	131,000	130,200	800	
		渉外・会議費	225,000	224,098	902	
		報酬・手数料	3,319,000	3,316,011	2,989	
		広報費	81,300,000	81,098,944	201,056	
		保健衛生費	898,000	895,448	2,552	
		研修・研究費	8,000	8,000	0	
		雑費	441,000	435,399	5,601	
		減価償却額	10,860,000	10,843,796	16,204	
		徴収不能額等	0	0	0	
		教育活動支出計	786,431,000	786,048,601	382,399	
		教育活動収支差額		116,246,000	116,630,125	△ 384,125
		教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算
受取利息・配当金	108,000			108,947	△ 947	
その他の受取利息・配当金	108,000			108,947	△ 947	
教育活動外収入計	108,000			108,947	△ 947	
事業活動支出の部	科 目		予 算	決 算	差 異	
	借入金等利息		0	0	0	
	教育活動外支出計		0	0	0	
教育活動外収支差額		108,000	108,947	△ 947		
経常収支差額		116,354,000	116,739,072	△ 385,072		
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	0	0	0	
		特別収入計	0	0	0	
		事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	資産処分差額		179,000	177,635	1,365	
	備品処分差額		1,000	16	984	
	図書処分差額		178,000	177,619	381	
	特別支出計		179,000	177,635	1,365	
	特別収支差額		△ 179,000	△ 177,635	△ 1,365	
〔予備費〕		(0)		0		
基本金組入前当年度収支差額		116,175,000	116,561,437	△ 386,437		
基本金組入額合計		△ 14,780,000	△ 14,774,964	△ 5,036		
当年度収支差額		101,395,000	101,786,473	△ 391,473		
前年度繰越収支差額		△ 71,667,508	△ 71,667,508	0		
基本金取崩額		0	0	0		
翌年度繰越収支差額		29,727,492	30,118,965	△ 391,473		
(参考)						
事業活動収入計		902,785,000	902,787,673	△ 2,673		
事業活動支出計		786,610,000	786,226,236	383,764		

注記 予備費の使用は、次のとおりである。
なし